

令和8年度第1回狛江市市民福祉推進委員会 アジェンダ

◇開催日時・場所

令和8年6月5日（金）午後6時30分から7時30分まで
ハイブリッド形式で開催（会場：防災センター4階会議室）

◇参加者

構成員：狛江市市民福祉推進委員会委員
事務局：福祉政策課福祉政策係

◇目的

- ・ 新任委員の紹介をする。
- ・ 市民福祉推進委員会の会議録の記録方法等について審議する。
- ・ 各小委員会へ付議する内容の修正について報告する。
- ・ 狛江市第1次地域共生社会推進基本計画 実施計画（以下「実施計画」という。）及び狛江市第1次再犯防止推進計画 取組状況確認表（以下「確認表」という。）の評価結果を報告し、市民福祉推進委員会における評価項目について審議する。
- ・ 市民意識調査報告書（案）～クロス集計結果～について報告する。
- ・ 狛江市地域共生社会推進基本計画の見直し範囲について審議する。

◇議題内容・進行予定

議題	項目	ポイント・成果	手法・資料	割当時間
1	新任委員の紹介について	市民福祉推進委員会 新任委員を紹介する。	【資料1】 P. 3	5分
2	審議 会議録の記録方法等について	会議録の記録方法等について審議する。	【資料2-1】 P. 4～8 【資料2-2】 P. 9	5分
3	報告 各小委員会への付議について	令和8年度に各小委員会へ付議する内容の修正について報告する。	【資料3】 P. 10～13	5分
4	審議 実施計画及び確認表の進捗状況の地域共生社会推進会議における評価結果に対する評価について	実施計画及び確認表の進捗状況の地域共生社会推進会議における評価結果を報告し、委員会での評価について審議する。	【資料4-1】 P. 14～38 【資料4-2】 P. 39～40 【資料4-3】 P. 41～43 【資料5】 P. 44～71	20分

5	報告 市民意識調査報告書（案） ～クロス集計結果～について	市民意識調査報告書（案）～クロス集計結果～について報告する。	【資料6】 P. 72～177	10分
6	審議 狛江市地域共生社会推進基本計画の見直し範囲について	狛江市地域共生社会推進基本計画の見直し範囲について審議する。	【資料7】 P. 178～180	10分
7	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・任期の更新について ・次回の会議日程について 	【資料8】 P. 181 【資料9】 P. 182～183	5分

◇資料一覧

【アジェンダ】 令和8年度第1回狛江市市民福祉推進委員会

【資料1】 市民福祉推進委員会委員名簿 P. 3

【資料2-1】 規則等 P. 4～8

【資料2-2】 会議録確認の時期・方法等について P. 9

【資料3】 地域共生社会推進基本計画の調査及び審議について（付議） P. 10～13

【資料4-1】 地域共生社会推進基本計画実施計画（担当課評価シート） P. 14～38

【資料4-2】 地域共生社会推進基本計画実施計画（委員会等評価シート） P. 39～40

【資料4-3】 進捗状況評価報告書（案） P. 41～43

【資料5】 第1次再犯防止推進計画取組状況確認表（地域共生社会推進会議評価結果報告書）
P. 44～71

【資料6】 福祉に関する調査 集計結果報告書（案） P. 72～177

【資料7】 地域共生社会推進基本計画の見直しに関する資料 P. 178～180

【資料8】 市民福祉推進委員会委員の任期満了に伴う時期委員の募集及び推薦等について
P. 181

【資料9】 令和8年度市民福祉推進委員会全体工程表 P. 182～183

狛江市市民福祉推進委員会 委員名簿(令和8年8月17日まで)

資料 1

役職	選出区分	氏名	所属	小委員会
	公 募 市 民 委 員	白川 正和	公募委員	—
		北澤 智子	公募委員	—
		宮本 ゆかり	公募委員	—
		細谷 明美	公募委員	—
		蒲池 美緒	公募委員	—
	地域福祉施設、団体関係者	梶川 朋	comarch代表	障がい
	高齢福祉施設、団体等関係者	竹中 石根	狛江市社会福祉協議会事務局長	○権利擁護
		南谷 吉輝	居宅介護支援事業所ケアサポートモア	○高齢
	障がい福祉施設、団体等関係者	東 貴宏	狛江市地域自立支援協議会委員 (よるべ地域生活支援センターリヒト)	○障がい
	医 療 関 係 者	吉川 哲矢	狛江市医師会推薦(すまる在宅クリニック院長)	◎医療と介護
		大橋 晃太	狛江市医師会(トータス往診クリニック)	医療と介護
	保 健 関 係 者	中村 美奈子	多摩府中保健所地域保健推進担当課長	—
◎	学識経験者(地域福祉)	宮城 孝	法政大学現代福祉学部教授	—
○	学識経験者(児童福祉)	加藤 雅江	杏林大学保健学部健康福祉学科教授 狛江市子ども・若者・子育て会議会長	—
	学識経験者(高齢者福祉)	中村 美安子	神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部社会福祉学 科教授	◎高齢
	学識経験者(障がい福祉)	眞保 智子	法政大学現代福祉学部教授	◎障がい
	特 別 委 員 (法律関係者・権利擁護)	大森 顕	かたくり法律事務所	◎権利擁護
	特 別 委 員 (民生委員・児童委員代表者)	谷田部 茂	狛江市民生委員児童委員協議会会長	高齢
	教育長を代理する者	波瀬 公一	教育部長	—
	市 職 員	鈴木 弘貴	子ども家庭部長	—
		宗像 秀樹	福祉保健部長	—

初任者発令日	令和5年8月18日	委員長:◎
任期満了日	令和8年8月17日	副委員長:○

事務局(福祉政策課)

福祉政策課課長 古内 洋一	電話 03-3430-1111 内線2231
福祉政策課福祉政策係係長 鈴木 知子 福祉政策課福祉政策係 長島 まどか	メールアドレス fukuseikkr@city.komae.lg.jp fukuseikkr02@city.komae.lg.jp

○狛江市福祉基本条例（抄）

令和2年3月31日条例第8号

（計画の策定）

第5条 市は、第3条に規定する基本理念を実現するため、市民の生活の視点から市民福祉に関する基本的かつ総合的な福祉計画（以下「福祉総合計画」という。）を策定するものとする。

2 福祉総合計画は、次の各号に掲げる事項について定めるものとする。

- （1） 地域における社会福祉（以下「地域福祉」という。）の推進に関する事項
- （2） 高齢者福祉の推進に関する事項
- （3） 障がい者福祉の推進に関する事項
- （4） 児童福祉の推進に関する事項
- （5） 健康の増進の推進に関する事項

3 市は、前項第1号に規定する事項として次に掲げる事項を一体的に定める計画（以下「地域福祉計画」という。）を策定するものとする。

- （1） 地域における高齢者の福祉、障がい者の福祉、児童の福祉その他の福祉に関し、共通して取り組むべき規則で定める事項
- （2） 地域における福祉サービスの適切な利用の推進に関する規則で定める事項
- （3） 地域福祉を目的とする事業の健全な発達に関する規則で定める事項
- （4） 地域福祉に関する活動への市民の参加の促進に関する規則で定める事項
- （5） 地域生活課題の解決に資する支援が包括的に提供される体制の整備に関する事項

4 市は、福祉総合計画を策定し、又は変更しようとするときは、あらかじめ、市民、社会福祉を目的とする事業を営業者及び社会福祉に関する活動を行う者（以下「市民等」という。）の意見を反映させるよう努めるとともに、その内容を公表するものとする。

5 市は、定期的に、その策定した福祉総合計画について、調査、分析及び評価を行うとともに、必要があると認めるときは、当該福祉総合計画を変更するものとする。

6 前項に規定する調査、分析及び評価は、第32条に規定する市民福祉推進委員会において行うものとする。

(市民福祉推進委員会)

第32条 市長の附属機関として、市民福祉推進委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、次の各号に掲げる事項について調査審議し、必要な意見を具申する。

(1) 地域共生社会の実現の推進に関わる基本的な事項に関すること。

(2) 第5条に規定する福祉総合計画の策定及び改定に関すること（同条第2項第4号及び第5号に掲げる事項を除く。

）。

(3) 市民福祉の推進及びその調整に係る重要事項に関すること。

(4) 第5条第6項に規定する調査、分析及び評価に関すること。

(5) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要と認める事項

3 委員会は、規則で定めるところにより、小委員会を置くことができる。

4 前3項に定めるもののほか、委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

○狛江市福祉基本条例施行規則（抄）

平成6年9月6日規則第30号

(委員長及び副委員長)

第23条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によってこれを定める。

2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代行する。

(委員会の招集)

第24条 委員会は、委員長が招集する。

(委員会の会議)

第25条 委員会は、委員総数の半数以上の委員が出席しなければ、会議を開くことができない。

2 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

3 委員会は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

4 委員会は、個人情報を保護する等のため、必要があると認めるときは、その議事を非公開とすることができる。

(委員の守秘義務)

第26条 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(小委員会)

第27条 委員会は、条例第32条第3項の規定による小委員会を置き、次条により付議された事項を調査審議する。

2 小委員会は、委員をもって構成する。

3 前項に規定にかかわらず、小委員会委員長が必要と認めるときは、福祉サービスを利用する当事者、第30条に規定する部会員、付議事項に関する関係者等及び学識経験者等の有識者を小委員会委員に加えることができる。

4 前項に規定する小委員会の委員は、小委員会委員長の推薦に基づき市長が委嘱又は任命する。

(小委員会への付議)

第28条 委員長は、その内容に応じ条例第32条第2項各号に掲げる事項についての調査審議を前条第1項に規定する小委員会に付議することができる。

2 前項の規定により付議を受けた小委員会は、当該付議に係る事項について調査審議し、その結果を委員会に報告するものとする。

(準用)

第29条 前2条に定めるもののほか、小委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、第22条から第26条までの規定を準用する。

○狛江市の市民参加と市民協働の推進に関する基本条例（抄）

平成15年3月31日条例第1号

（審議会等の委員）

第9条 市の実施機関が条例等に基づき設置する各種の審議会，委員会並びに協議会等（以下「審議会等」という。）の委員の任命又は委嘱については，委員の年齢構成及び性別の偏り並びに委員の任期数及び他の審議会等との兼職状況等に配慮するとともに，市民委員のうち全部又は一部を公募等により選考するものとする。ただし，法令により市民参加が困難な審議会等については，この限りでない。

2 市の実施機関は，審議会等の開催にあたっては，構成員の氏名，選任の区分，肩書等を公表するものとする。なお，構成員に公募市民委員がない場合はその理由を公表するものとする。

（会議の公開）

第10条 審議会等の会議は，原則として公開するものとする。ただし，法令又は条例等により非公開とされているもののほか，審議事項が個人情報などに関する事項で，審議会等で非公開と決定した場合は，この限りでない。この場合においては，その理由を公表するものとする。

（会議録の作成と公表）

第12条 市の実施機関は，審議会等の会議が開催されたときは，会議録を作成し公表するものとする。ただし，審議会等で非公開と決定した場合は，この限りでない。

○狛江市審議会等の会議録の作成に関する要領（抄）

平成12年4月25日市長決裁

（会議録の作成等）

第2条 審議会等の会議を開催したときは，次条以降に定めるところにより会議録を作成し，処理するものとする。

（会議録の記載事項）

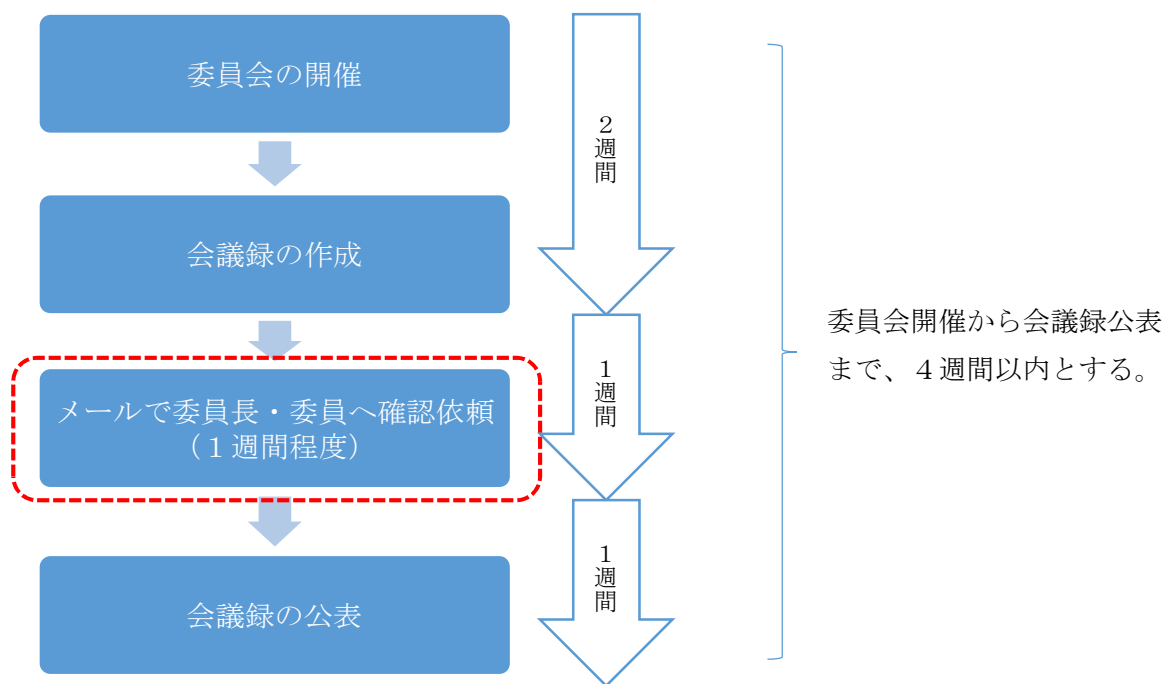
第3条 会議録には，次の各号に掲げる事項を記載するものとする。

- (1) 会議の名称
- (2) 開催日時及び開催場所
- (3) 出席者及び欠席者の氏名（事務局職員等を含む。）
- (4) 会議に付した案件
- (5) 提出資料
- (6) 会議の内容
- (7) その他当該会議において必要と認めた事項

(会議内容の記録方法等)

第4条 前条第6号に規定する会議の内容は、詳細又は要点若しくは結論のみを記録するものとし、審議会等の長が当該会議の性格等を考慮し、当該会議の冒頭で諮り、そのいずれかについて決定するものとする。

会議録確認の時期・方法等について



【根拠規程】

狛江市附属機関等の設置及び運営に関する規則（抄）

（会議録の作成と公表）

第15条 審議会等の会議録の作成については、市長が別に定めるところによる。

2 会議録の公表は、原則として審議会等終了後4週間以内に市ホームページに掲載することにより行うものとする。

3 審議会等以外の附属機関等については、前2項の規定を準用する。

令和8年4月1日

狛江市市民福祉推進委員会
高齢小委員会委員長 中村 美安子 様

狛江市市民福祉推進委員会
委員長 宮城 孝

狛江市地域共生社会推進基本計画の調査及び審議について（付議）

狛江市福祉基本条例施行規則（平成6年規則第30号）第28条第1項の規定に基づき、
狛江市福祉基本条例（令和2年条例第8号）第32条第2項第2号及び第4号に規定する
事項として、下記について貴小委員会に調査及び審議を求めます。

記

高齢者福祉の推進に関する以下の事項について

- ・ 狛江市高齢者保健福祉計画の中間見直しに関する調査及び審議
- ・ 市の施策に係る事業の実施結果、課題及び改善点を踏まえた自己評価報告に対する評価

なお、介護保険推進市民協議会と調整し行うものとする。

令和 8 年 4 月 1 日

狛江市市民福祉推進委員会
医療と介護の連携推進小委員会委員長 吉川 哲矢 様

狛江市市民福祉推進委員会
委員長 宮城 孝

狛江市地域共生社会推進基本計画の調査及び審議について（付議）

狛江市福祉基本条例施行規則（平成 6 年規則第 30 号）第 28 条第 1 項の規定に基づき、
狛江市福祉基本条例（令和 2 年条例第 8 号）第 32 条第 2 項第 2 号に規定する事項とし
て、下記について貴小委員会に調査及び審議を求めます。

記

高齢者福祉の推進に関する以下の事項について

- ・ 狛江市高齢者保健福祉計画の中間見直しに関する調査及び審議

なお、介護保険推進市民協議会と調整し行うものとする。

令和 8 年 4 月 1 日

狛江市市民福祉推進委員会
障がい小委員会委員長 眞保 智子 様

狛江市市民福祉推進委員会
委員長 宮城 孝

狛江市地域共生社会推進基本計画の調査及び審議について（付議）

狛江市福祉基本条例施行規則（平成 6 年規則第 30 号）第 28 条第 1 項の規定に基づき、
狛江市福祉基本条例（令和 2 年条例第 8 号）第 32 条第 2 項第 2 号及び第 4 号に規定する
事項として、下記について貴小委員会に調査及び審議を求めます。

記

障がい者福祉の推進に関する以下の事項について

- ・ 狛江市障がい者計画の中間見直し並びに第 8 期障がい福祉計画・第 4 期障がい児福祉計画の策定に関する調査及び審議
- ・ 市の施策に係る事業の実施結果、課題及び改善点を踏まえた自己評価報告に対する評価

令和 8 年 4 月 1 日

狛江市市民福祉推進委員会
権利擁護小委員会委員長 大森 顕 様

狛江市市民福祉推進委員会
委員長 宮城 孝

狛江市地域共生社会推進基本計画の調査及び審議について（付議）

狛江市福祉基本条例施行規則（平成 6 年規則第 30 号）第 28 条第 1 項の規定に基づき、
狛江市福祉基本条例（令和 2 年条例第 8 号）第 32 条第 2 項第 4 号に規定する事項とし
て、下記について貴小委員会に調査及び審議を求めます。

記

その他地域共生社会の推進に関する以下の事項について

- ・ 市の施策に係る事業の実施結果、課題及び改善点を踏まえた自己評価報告に対す
る評価

年度	令和7(2025)
基本目標	一人ひとりの状況に合わせた切れ目のない相談支援体制の構築

施策No.	1-1	施策	社会的に孤立し、孤独を感じている方、複雑化・複合化した課題や制度の狭間の課題を抱えた方、その世帯等を早期に相談支援につなぐ仕組みづくりを推進します。
-------	-----	----	--

取組No.	1-1-1	重点取組	福祉のつなぐシート登録システムの民間事業者等への拡大の推進								
担当課	福祉政策課		大施策	包括的な支援に関すること	構成計画	地	●	後	高	障	
区分	拡充										
①事業概要											
福祉のつなぐシート登録システムを活用してつなぎの重層化を図ることにより、一人ひとりの状況に合わせた切れ目のない相談支援体制を構築します。切れ目のない相談支援体制を構築するため、福祉のつなぐシート登録システムの利用者を庁内窓口のみならず、庁外の民間事業者にまで広く拡大します。											
②施策に関する具体的な事業や取組											
事業(取組)内容		成果(活動)指標		R7	R8	R9					
福祉のつなぐシート登録システムの活用民間事業者等の拡大 担当課：福祉政策課		市内登録事業者数(累積)	③目標(値)	25事業者以上	30事業者以上	35事業者以上					
			④実績(値)	69事業者							
			⑤進捗状況評価	A：進捗している							
「評価」の理由		学童保育所支援員会議や郵便局長会議等、数多くの関係者が集まる会議体を通じて「福祉のつなぐシート」について説明をし、児童福祉施設や金融機関等へ導入いただけたことから、目標値を44事業者上回る福祉のつなぐシート登録システムの活用民間事業者等(以下、「市内登録事業者」という。)を確保できた(69事業者(前年度比+41事業者)のうち、新規は41事業者(前年度比+24事業者))。また、9つの「つなぎ」のうち活用民間事業者等から5件の「つなぎ」を実現できたため。									
課題等		活用民間事業者等を増やすことができたが、つながった案件が少なかった。									
令和8年度以降の取組や方針		幅広い市内登録事業者に活用いただけるよう、使用感に対するヒアリングを行い、より利活用しやすいシステム構築を検討する。									

取組No.	1-1-2	重点取組	相談支援包括化推進員を中心とした相談支援包括化推進体制の構築						
担当課	福祉政策課・福祉相談課	大施策	包括的な支援に関すること	構成計画	地	●	後	高	障
区分	継続								
①事業概要									
<p>多機関協働事業につながった複雑化・複合化した課題や制度の狭間の課題を抱えた方、その世帯について、相談支援包括化推進員とともに重層的支援会議等により支援につなげます。（福祉政策課）</p> <p>各分野の支援機関と協働し、複雑化・複合化した課題を抱えた方、その世帯への支援を進めるため、調整役である相談支援包括化推進員の在り方を検討します。（福祉相談課）</p>									
②施策に関する具体的な事業や取組									
事業（取組）内容	成果(活動)指標		R 7	R 8	R 9				
重層的支援会議等の開催 担当課：福祉政策課	会議の開催	③目標(値)	6回以上	6回以上	6回以上				
		④実績(値)	2回						
		⑤進捗状況評価	C：あまり進捗していない						
持続可能な相談支援包括化推進員の在り方を検討 担当課：福祉相談課	相談支援包括化推進員の人数	③目標(値)	5人以上	5人以上	5人以上				
		④実績(値)	5人						
		⑤進捗状況評価	A：進捗している B：現状維持						
事業（取組）内容全体の進捗状況評価									
「評価」の理由	<p>支援会議としては、2回（前年度比△6回）の開催となった。2回の支援会議では、多摩府中保健所や在宅療養支援診療所、その他幅広い分野の支援機関と連携し、対象者及びその世帯に支援を行った。市職員2名及び社会福祉協議会のCSW3名が、目標値である5人の相談支援包括化推進員を担い、支援会議の開催等それぞれの役割に応じた支援を行った。特に支援会議の開催を通じ、相談支援包括化推進員を持続可能なものとするための課題を整理したため。</p> <p>相談支援包括化推進員は、各分野の支援機関の調整役として、支援会議等では、中立的な立場で、参加者の相互理解や合意形成を促進し、課題解決へ導くことが求められる。そのため、市で一定期間、相談支援業務等に従事した経験のある係長職が担うことが望ましいという意見で整理をし、市の職員2名を相談支援包括化推進員としたため。</p>								
課題等	重層的支援会議等の開催調整のシステム化が必要である。相談支援包括化推進員については、持続可能な在り方という点で、業務内容の精査や、業務分担の方法等についての必要な検討がなされていない。								
令和8年度以降の取組や方針	重層的支援会議等の定期開催に向けて、開催調整の定例化を図る。引き続き、重層的支援会議等の重要性について、幅広く支援関係者に伝え、複雑化・複合化した課題がある方や世帯に、より適切な支援を行う。相談支援包括化推進員については、課題点について検討を行うとともに、重層的支援会議等の開催を通じ、持続可能な在り方を構築する。								

取組No.	1-1-3	重点取組	情報共有を効果的に進めるための新たな相談記録方式の検討						
担当課	福祉政策課・福祉相談課	大施策	包括的な支援に関すること	構成計画	地	●	後	高	障
区分	新規								
①事業概要									
統一的な記録方式を導入することにより、記録方式の標準化・共通化を行い、市及び各支援機関による支援の円滑化を推進します。（福祉政策課・福祉相談課）									
②施策に関する具体的な事業や取組									
事業（取組）内容	成果(活動)指標		R 7	R 8	R 9				
統一的な記録方式の導入及び導入先の拡大 担当課：福祉政策課・福祉相談課	記録方式の導入	③目標(値)	記録方式の導入	記録方式の導入先の拡大	記録方式の導入先の拡大				
		④実績(値)	記録方式の導入						
		⑤進捗状況評価	A：進捗している						
「評価」の理由	F-SOAIP（生活支援記録法）の研修を、庁内向けに2回（計4日）実施し、知識の定着と市で導入するにあたっての課題解消に努め、これらを踏まえたマニュアルを作成し、F-SOAIPを導入したため。								
課題等	F-SOAIPによる記録スキルを持った職員が限られているため、更なる普及啓発に向けた施策が必要である。								
令和8年度以降の取組や方針	令和8年度の上期に庁内向けの研修を実施し、職員の記録スキルの向上を図り、下期には各支援機関向けに研修を実施し、記録方式の導入先の拡大に努める。								

施策No.	1-2	施策	社会的に孤立し、孤独を感じている方、複雑化・複合化した課題や制度の狭間の課題を抱えた方、その世帯等へのアウトリーチ等による伴走型支援の充実・強化を図ります。
-------	-----	----	--

取組No.	1-2-1	重点取組	アセスメントや支援のためのアウトリーチの充実						
担当課	福祉政策課	大施策	包括的な支援に関すること	構成計画	地	●	後	高	障
区分	拡充								

①事業概要

コミュニティソーシャルワーカー（以下「CSW」という。）が伴走型支援が可能な社会資源の発掘及び連携により、社会的に孤立し、孤独を感じている方、複雑化・複合化した課題、制度の狭間の課題を抱えた方、また、その世帯等に対するアウトリーチ等の充実を図ります。

②施策に関する具体的な事業や取組

事業（取組）内容	成果(活動)指標		R 7	R 8	R 9
CSWによる社会資源の発掘及び連携を踏まえた取組の実施 担当課：福祉政策課	実施回数	③目標(値)	出張相談会等を1回以上開催	出張相談会等を1回以上開催	出張相談会等を1回以上開催
		④実績(値)	3回		
		⑤進捗状況評価	A：進捗している		
「評価」の理由	多摩川住宅が主催する多摩川住宅団地祭において、「なんでも相談会」を1回実施した。また、駅前において、CSWによる出張型相談会「あおぞら相談会inほこみち」を2回開催し、アウトリーチ機能の強化を図ったため。				
課題等	「なんでも相談会」といった包括的なアウトリーチの実施に加え、具体的な相談内容にテーマを絞った相談会の実施により、特定のテーマに関心をもった相談者と出会う機会をつくる等の工夫が必要である。				
令和8年度以降の取組や方針	「テーマ型の相談会」と「なんでも相談会」を併行して実施することで、多様かつ幅広い課題の把握に努める。				

取組No.	1-2-2	重点取組	ピアサポーターを活かした支援の検討						
担当課	福祉政策課	大施策	包括的な支援に関すること	構成計画	地	●	後	高	障
区分	新規								
①事業概要									
CSWがピアサポーターやピアサポート団体と連携し、社会的に孤立し、孤独を感じている方、複雑化・複合化した課題や制度の狭間の課題を抱えた方、また、その世帯等に対する効果的な伴走支援を行います。									
②施策に関する具体的な事業や取組									
事業（取組）内容	成果(活動)指標		R 7	R 8	R 9				
ピアサポーターを活かした支援 担当課：福祉政策課	支援の検討	③目標(値)	支援の試行実施	支援の実施	支援の拡大				
		④実績(値)	11回						
		⑤進捗状況評価	A：進捗している						
「評価」の理由	市外のピアサポート団体が開催している当事者会への視察を行い、ひきこもり等の生きづらさを抱えた当事者のための語らいの場（ストレートロード）を立ち上げ、5月以降、毎月開催したため。								
課題等	居場所の運営に主体的に関わる当事者が少ないため、担い手を増やしていく必要がある。また、ストレートロードが同一場所での開催に限定されていることから、距離的な理由により参加が困難な層の存在も想定される。								
令和8年度以降の取組や方針	市内全域で開催することで、支援を必要としている方が参加しやすい環境を整える。								

年度	令和7(2025)
基本目標	「つながり」を実感できる地域づくり

施策No.	2-1	施策	住民主体による地域生活課題の解決力の強化を図ります。
-------	-----	----	----------------------------

取組No.	2-1-1	重点取組	福祉のまちづくり協議委員会による地域アセスメントの実施						
担当課	福祉政策課	大施策	包括的な支援に関すること	構成計画	地	●	後	高	障
区分	継続								

①事業概要

福祉のまちづくり協議委員会にて地域生活課題の検討及び分析を行い、その結果を福祉のまちづくり委員会へ提供することで、福祉のまちづくり委員会の円滑な運営や地域生活課題の解決力の強化を図ります。

②施策に関する具体的な事業や取組

事業(取組)内容	成果(活動)指標	R7	R8	R9	
福祉のまちづくり協議委員会の開催 担当課：福祉政策課	開催回数	③目標(値)	2回以上	2回以上	2回以上
		④実績(値)	2回		
		⑤進捗状況評価	A：進捗している		

「評価」の理由
令和7年度より、新たに高齢、障がい、子育て分野の支援に関わる専門職3名および各福祉のまちづくり委員会の代表3名を委員として選出し、協議を実施した。協議において、専門職委員から各分野における地域生活課題の提示を受け、それらを整理・分析のうえ、福祉のまちづくり委員会へ共有するための課題抽出を行った。抽出した課題について一覧表として取りまとめ、福祉のまちづくり委員会に提供することで、円滑な委員会運営及び地域課題解決に向けた連携支援を実施したため。

課題等
役割や連携のあり方について、引き続き検討していくことが望まれる。今後も福祉のまちづくり委員会が主体的に課題に取り組んでいけるように、双方の役割を踏まえた適切な情報共有、主体性を尊重した委員会運営を行う必要がある。

令和8年度以降の取組や方針
引き続き、年2回の福祉のまちづくり協議委員会を継続して開催し、福祉のまちづくり委員会の活動の契機となる地域課題の整理・共有により、主体的な取組みにつながるよう支援をしていく。

取組No.	2-1-2	重点取組	福祉のまちづくり委員会による地域課題の共有、課題解決に向けた取組の推進						
担当課	福祉政策課	大施策	包括的な支援に関すること	構成計画	地	●	後	高	障
区分	継続								
①事業概要									
福祉のまちづくり委員が当該年度に取組む活動に応じた福祉に関する知識や地域資源に関する情報を習得することにより、課題解決に向けた取組を推進します。									
②施策に関する具体的な事業や取組									
事業（取組）内容	成果(活動)指標		R 7	R 8	R 9				
福祉のまちづくり委員向け研修の実施 担当課：福祉政策課	実施回数	③目標(値)	1回以上	1回以上	1回以上				
		④実績(値)	3回						
		⑤進捗状況評価	A：進捗している						
「評価」の理由	勉強会を3回（前年度比+1回）開催した。高齢分野に関する理解を深めるために地域内の地域包括支援センターでの勉強会や、障がい分野への理解を深めるための地域内の障がい事業所での勉強会、市（社会教育課）・町会とともに「水害の歴史と町会の取組み」についての研修会を行ったため。								
課題等	研修で得た知見を踏まえ、地域課題の明確化を図るとともに、その解決に向けた具体的な行動へとつなげていくことが求められる。								
令和8年度以降の取組や方針	福祉のまちづくり協議委員会から共有された地域課題を踏まえ、各地域の福祉のまちづくり委員会が地域の実情に応じた課題を選定し、その解決に向けた取組みを推進する。								

施策No.	2-2	施策	地域住民、地域関係団体、専門職等の共助を高める避難行動要支援者支援体制の充実を図ります。
-------	-----	----	--

取組No.	2-2-1	重点取組	福祉・医療関係者との連携による、作成の優先度が高い避難行動要支援者の個別避難計画の策定・改定の推進								
担当課	福祉政策課	大施策	包括的な支援に関すること	構成計画	地	●	後	高	●	障	●
区分	拡充										

①事業概要

災害発生時に避難行動要支援者が安全に避難できるよう、福祉関係者等と連携して個別避難計画の作成を支援します。

②施策に関する具体的な事業や取組

事業（取組）内容	成果(活動)指標	R 7	R 8	R 9	
福祉関係者等との連携 担当課：福祉政策課	連携先の拡大	③目標(値)	相談支援事業所等	福祉事業者等	福祉事業者等
		④実績(値)	居宅介護支援事業所及び 相談支援事業所		
		⑤進捗状況評価	A：進捗している		
「評価」の理由	市内外の居宅介護支援事業所に加え、新たに市内の相談支援事業所と個別避難計画作成支援業務委託の契約を締結し、個別避難計画の作成を推進することができたため。				
課題等	避難行動要支援者支援システムを用いた個別避難計画の作成にあたり説明会の開催やマニュアルの作成を行ったが、操作や手続きの混乱が見られた。				
令和8年度以降の取組や方針	個別避難計画の作成にあたり、委託事業以外に行っている民生委員・児童委員による高齢者実態調査や勧奨通知などの実施スケジュールの共有を図り、混乱の解消に努める。				

取組No.	2-2-2	重点取組	公開型及び統合型地理情報システム（以下「統合型GIS」という。）を活用した個別避難計画の策定・改定の推進												
担当課	福祉政策課		大施策	包括的な支援に関すること			構成計画	地	●	後		高	●	障	●
区分	拡充														
①事業概要															
統合型GISを活用した避難行動要支援者支援システムを用いて、平常時における個別避難計画の作成を効率化することで、個別避難計画の作成及び更新を支援します。															
②施策に関する具体的な事業や取組															
事業（取組）内容		成果(活動)指標		R 7			R 8			R 9					
統合型GISを活用した個別避難計画の作成及び更新 担当課：福祉政策課		作成者の 拡大及び更 新	③目標(値)	障害者手帳取得者等			既計画作成者等			既計画作成者等					
			④実績(値)	障害者手帳取得者等											
			⑤進捗状況評価	A：進捗している											
「評価」の理由		個別避難計画の作成更新支援について、引き続き、要介護3以上の対象者は居宅介護支援事業所（175件）に、新たに各種障がい手帳の2級・2度以上の対象者は相談支援事業所（122件）へ委託し、統合型GISによる避難行動要支援者支援システムを活用した作成更新支援を実施したため。													
課題等		避難行動要支援者支援システムによる作成更新支援が進んだが、まだ操作に不慣れな事業所が多い状況であることから、引き続き丁寧な操作説明により、個別避難計画の作成及び更新を支援する必要がある。													
令和8年度以降の取組や方針		避難行動要支援者支援システムの使用方法などについて引き続き丁寧な説明・周知を行い、個別避難計画の作成更新を推進する。													

取組No.	2-2-3	重点取組	統合型GISを活用した避難行動要支援者名簿・個別避難計画の避難支援等関係者への情報共有、安否確認・避難支援体制構築の推進								
担当課	福祉政策課	大施策	包括的な支援に関すること	構成計画	地	●	後	高	●	障	●
区分	拡充										
①事業概要											
統合型GISを活用した避難行動要支援者支援システムを用いて、支援組織とともに避難支援体制を整備し、災害時における避難行動要支援者支援の迅速化につなげるため、個別避難計画の作成及び更新を進めます。											
②施策に関する具体的な事業や取組											
事業（取組）内容	成果(活動)指標		R 7	R 8	R 9						
支援組織との避難支援体制の整備 担当課：福祉政策課	避難支援体制の整備	③目標(値)	安否確認訓練の実施	安否確認訓練の実施	安否確認訓練の実施						
		④実績(値)	安否確認訓練の実施								
		⑤進捗状況評価	A：進捗している								
「評価」の理由	避難行動要支援者支援システムを使った安否確認について、総合水防訓練では避難所担当職員が実施し、総合防災訓練では民生委員・児童委員による実施に加え、医療と介護の多職種連携研修会においては、居宅介護支援事業所や医師会等とともに実施したため。										
課題等	支援組織との協定を締結し、災害時の避難支援体制を整備する必要がある。										
令和8年度以降の取組や方針	支援組織との協定締結を行い、災害時の避難支援体制の強化に努める。										

施策No.	2-3	施策	地域のニーズを適切に把握し、地域のニーズに応じた支え合いの地域づくりを推進します。
-------	-----	----	---

取組No.	2-3-1	重点取組	集合住宅の建て替えに伴う福祉的支援及び建て替え後の地域づくりの支援							
担当課	福祉政策課・福祉相談課		大施策	包括的な支援に関すること	構成計画	地	●	後	高	障
区分	新規									

①事業概要

集合住宅の建て替えに伴い発生する課題について、支援関係団体と情報を共有し支援につなげます。また、CSWが社会資源と連携し、地域づくりの支援を行います。（福祉政策課）
こまほっとシルバー相談室において、都営狹江団地や多摩川住宅の建て替えに伴う生活の困りごと等の相談を受け、適切な支援機関等へつなぐとともに、必要に応じて見守り活動を行います。（福祉相談課）

②施策に関する具体的な事業や取組

事業（取組）内容	成果(活動)指標		R 7	R 8	R 9
情報共有と支援 担当課：福祉政策課	会議の開催	③目標(値)	1回以上	1回以上	1回以上
		④実績(値)	2回		
		⑤進捗状況評価	A：進捗している		
地域づくりの支援 担当課：福祉政策課	支援方法の検討	③目標(値)	支援の実施	支援の実施	支援の実施
		④実績(値)	支援の実施		
		⑤進捗状況評価	A：進捗している		
建て替えに伴う相談から福祉的ニーズを把握し、適切な支援機関等へつなぐ 担当課：福祉相談課	つなぐニーズのある件数とつなぐことができた件数の割合	③目標(値)	相談支援及び記録の共有	相談支援及び記録の共有	相談支援及び記録の共有
		④実績(値)	実態の把握		
		⑤進捗状況評価	A：進捗している		
個別の福祉的ニーズから、地域課題を把握 担当課：福祉相談課	地域課題及びその解決策の明確化	③目標(値)	個別事例の把握	地域課題の把握 解決策の検討	地域課題の把握 解決策の検討
		④実績(値)	実態の把握		
		⑤進捗状況評価	A：進捗している		
事業（取組）内容全体の進捗状況評価			A：進捗している		

「評価」の理由
市、CSW、こまほっとシルバー相談室、こまえ正吉苑及び東京都住宅政策本部西部住宅建設事務所とで、集合住宅の建て替えに伴う住民の状況や課題について、情報共有を行い、支援体制の強化を図った。地域づくり支援の一環として、団地の思い出を語らう集いの場づくりを、CSWが関係機関と連携して実施したため。
また、こまほっとシルバー相談室の相談支援状況を定期的に確認し、実態把握に努めた。建て替えにより転居予定の住民に対し、様々な事務手続きのサポートに加え、必要な介護保険サービスや転居先の地域の社会資源に関する情報提供、各支援機関へのつなぎ等の対応を行ったため。

課題等
第2期建て替えのスケジュール等が明確になっていないことから、情報不足が住民の不安要素のひとつとなっている。また、第1期の建て替えに伴う転居により地域の活動者が減少し、集いの場の運営に影響が生じる可能性がある。
個別の相談には対応できている一方で、事例の積み重ねが少ないため、地域課題の検討にまでは至っていない。

令和8年度以降の取組や方針
引き続き、建て替えに関する正確な情報の把握に努め、支援関係機関との情報共有・協議を継続する。また、支援機関と連携し、地域住民の不安軽減のための交流や相談の場づくりを継続して実施する。個別の福祉的ニーズの把握を継続し、地域課題を検討する。

取組No.	2-3-2	重点取組	(仮称) 地域福祉サポーター等CSWとともに活動する新たな支え合いのシステム構築の支援						
担当課	福祉政策課	大施策	包括的な支援に関すること	構成計画	地	●	後	高	障
区分	新規								
①事業概要									
(仮称) 地域福祉サポーター等の育成や活用に向け、社協が実施する、(仮称) 地域福祉サポーター等とCSWとの連携による新たな支え合いシステムの構築を支援します。									
②施策に関する具体的な事業や取組									
事業(取組)内容	成果(活動)指標		R 7	R 8	R 9				
(仮称) 地域福祉サポーターの育成・活用 担当課：福祉政策課	育成・活用	③目標(値)	調査・研究	試行実施	実施				
		④実績(値)	調査・研究						
		⑤進捗状況評価	B：現状維持						
「評価」の理由	(仮称) 地域福祉サポーター導入のため、先進地域(他自治体社協)への視察を3回行ったものの、次年度の試行実施には、さらなる調査検討が必要になったため。								
課題等	先進地域への視察で学んだことを活かしつつ、狛江市の現状にあった地域活動の担い手の育成のあり方を検討していくことが必要である。								
令和8年度以降の取組や方針	地域活動に参加し地域課題の解決に取り組む担い手の育成として、視察先の事例等を分析しつつ、福祉カレッジの修了生の地域での活躍も含めて、狛江市に合った効果的な人材育成の取組みを検討・企画していく。								

取組No.	2-3-3	重点取組	多様な居場所の設置・活動の支援							
担当課	福祉政策課・子ども若者政策課	大施策	包括的な支援に関すること	構成計画	地	●	後	高	障	
区分	継続									
①事業概要										
<p>地域での支え合いが必要な方への福祉サービスの普及及び拡大を図るため、地域福祉推進事業補助金により多様な居場所の設置・活動を支援します。（福祉政策課）</p> <p>子ども・若者の居場所事業を実施することにより世代や立場を超えて、身近で様々な価値観に触れることができる機会を創出します。（子ども若者政策課）</p>										
②施策に関する具体的な事業や取組										
事業（取組）内容	成果（活動）指標		R 7	R 8	R 9					
地域福祉推進事業補助金による団体への支援 担当課：福祉政策課	利用団体数	③目標（値）	1 団体以上	1 団体以上	1 団体以上					
		④実績（値）	1 団体							
		⑤進捗状況評価	B：現状維持							
子ども・若者の居場所事業の実施 担当課：子ども若者政策課	年間利用者数	③目標（値）	4,100人	4,100人	4,100人					
		④実績（値）	4,133人							
		⑤進捗状況評価	A：進捗している							
（新）子どもの居場所づくり支援事業補助金の実施 担当課：子ども若者政策課	利用団体数	③目標（値）	4 団体以上	4 団体以上	4 団体以上					
		④実績（値）	7 団体							
		⑤進捗状況評価	A：進捗している							
事業（取組）内容全体の進捗状況評価			A：進捗している							
「評価」の理由	<p>地域福祉推進事業補助金により、昨年度に引き続き、オルタナティブスクールへの支援を行った。子ども・若者の居場所事業では、4,133人（前年度比+13人）の利用者数となり、地域での子ども・若者の居場所の確保の一助となったほか、子どもの居場所づくり支援事業補助金を創設し、これまでの子ども食堂団体のほか、地域の居場所や学習支援を行っている団体についても支援を広げることができた。また、実績値についても目標値を上回る結果となり、居場所の確保を図ることができたため。</p>									
課題等	<p>地域福祉推進事業補助金による幅広い支援の実施に向け周知が必要である。子どもの居場所づくり支援事業補助金については、地域における居場所の更なる確保につなげるため、団体の利用を促進していく必要がある。</p>									
令和8年度以降の取組や方針	<p>引き続き、補助対象事業者の運営の支援及び周知を実施する。また、子ども・若者の居場所の確保のほか、学習支援、子育て世帯への相談事業を実施し、子ども・若者が地域で安心して暮らすことができるための支援を行っていく。</p>									

取組No.	2-3-4	重点取組	多様な居場所間の連携ネットワークの構築支援						
担当課	福祉政策課	大施策	包括的な支援に関すること	構成計画	地	●	後	高	障
区分	継続								
①事業概要									
居場所等の活動をより活性化するため、市外の居場所事業者等も含めたネットワークを構築し、市内関係団体間との連携を支援します。									
②施策に関する具体的な事業や取組									
事業（取組）内容	成果(活動)指標		R 7	R 8	R 9				
視察や見学、会議等の開催 担当課：福祉政策課	開催回数	③目標(値)	1回以上	1回以上	1回以上				
		④実績(値)	2回						
		⑤進捗状況評価	A：進捗している						
「評価」の理由	市内の多世代交流に取り組む団体等が情報交換会（ひとつやねっと）を定期的に2回（前年度同数）開催した。ひとつやねっとにおいて調布・狛江市の居場所のパンフレットを作成し、ネットワークの構築を強化することができたため。								
課題等	居場所等の活動に興味がある方を積極的に情報交換会につなげる。								
令和8年度以降の取組や方針	引き続き、情報交換会（ひとつやねっと）に定期的に出席し連携を強化する。								

取組No.	2-3-5	重点取組	近隣の学校等へのアウトリーチによるボランティアのマッチング支援及び体験ボランティア等の実施の検討						
担当課	福祉政策課	大施策	包括的な支援に関すること	構成計画	地	●	後	高	障
区分	新規								
①事業概要									
近隣の学校等へのアウトリーチにより、多世代・多機能型交流拠点「ふらっとなんぶ」等で活動する団体等と学生とのマッチングを支援し、団体等との連携強化、地域の課題解決力の向上を目指すとともに、地域のニーズに応じた支え合いの地域づくりを推進します。									
②施策に関する具体的な事業や取組									
事業（取組）内容	成果(活動)指標		R 7	R 8	R 9				
マッチング等支援の実施 担当課：福祉政策課	マッチング回数	③目標(値)	3回以上	3回以上	3回以上				
		④実績(値)	3回						
		⑤進捗状況評価	A：進捗している						
「評価」の理由	ふらっとなんぶにおいて、初めて夏の体験ボランティアの受け入れを行い、近隣の高等学校の生徒や大学生にボランティアとして参加してもらうことができた。また、近隣の看護専門学校の実習受け入れも初めて行い、多くの学生に地域づくりの大切さを学んでもらうことができたため。マッチングは3回（前年度比+1回）								
課題等	学生は授業等があるため、ふらっとなんぶで活動できる時間が限られる。引き続き近隣の学校の学生等に参加してもらう機会を作る必要がある。								
令和8年度以降の取組や方針	夏の体験ボランティアによる学生の受け入れを行うとともに、近隣大学と連携してイベント等に参加してもらう機会を創出する。								

施策No.	3-2	施策	社会的に孤立し、孤独を感じている市民のニーズを把握し、地域社会への参加に向けたつながりづくりを推進します。
-------	-----	----	---

取組No.	3-2-1	重点取組	伴走型支援、アウトリーチ支援及び重層的支援会議等を通じて把握したニーズに応じた新たな参加支援事業の推進						
担当課	福祉政策課	大施策	包括的な支援に関すること	構成計画	地	●	後	高	障
区分	拡充								

①事業概要

伴走型支援、アウトリーチ支援及び重層的支援会議等を通じたニーズの把握結果から、社会的に孤立し、孤独を感じている方、複雑化・複合化した課題や制度の狭間の課題を抱えた方、また、その世帯等に対し、社会とのつながりを作るための支援を実施します。

②施策に関する具体的な事業や取組

事業(取組)内容	成果(活動)指標		R7	R8	R9
CSW等による参加支援事業の推進 担当課：福祉政策課	ケースに応じたつながりの回数	③目標(値)	適宜	適宜	適宜
		④実績(値)	4回		
		⑤進捗状況評価	B：現状維持		
「評価」の理由	ひきこもり当事者や孤独・孤立状態にある方に対し、多世代・多機能型交流拠点等を通じて、作品の展示、ボランティア活動、当事者会への参加等の機会を提供し、個々のニーズに応じた社会参加や社会とのつながりづくりを支援したため。つながりの回数4回（前年度比同数）				
課題等	支援の接点となる場にアクセスできない方が一定数存在している。そのため、支援につながる場の充実に加え、場に直接アクセスがなくなると社会とつながりを持てる仕組みの構築が求められる。				
令和8年度以降の取組や方針	地域の様々な団体・機関と連携して、多様な社会参加の場を提供する機会を作っていく。				

年度	令和7(2025)
基本目標	総合的で切れ目のない生活支援システムづくり

施策No.	4-1	施策	身寄りのない市民等への支援体制の整備を推進します。
-------	-----	----	---------------------------

取組No.	4-1-1	重点取組	居住支援協議会による相談支援機能の強化						
担当課	福祉政策課・まちづくり事業課	大施策	包括的な支援に関すること	構成計画	地	●	後	高	障
区分	拡充								

①事業概要

身寄りのない市民等を含む住宅確保要配慮者に対して、住宅供給の促進を目的としている狛江市居住支援協議会が「住まい探しの相談窓口」事業を実施します。（福祉政策課・まちづくり事業課）

②施策に関する具体的な事業や取組

事業（取組）内容	成果(活動)指標		R 7	R 8	R 9
住宅確保要配慮者に対して、委託している居住支援団体が協力関係にある地元不動産仲介事業者が有する民間賃貸住宅の物件情報とのマッチングの実施 担当課：福祉政策課・まちづくり事業課	前年度に受け付けた相談者の解決率	③目標(値)	55%	60%	65%
		④実績(値)	54%		
		⑤進捗状況評価	A：進捗している		

「評価」の理由
住宅確保要配慮者からの相談予約は、相談可能枠36件中、24件の相談を受け付け、毎月平均2枠分の予約が埋まった。相談員の相談及び協力不動産店の連携により、13件解決することができた。また、居住支援協議会に新たに居住支援法人が加入したため、よりマッチングに資する体制を整えることができたため。

課題等
解決件数を増やし、住宅確保要配慮者への支援を十分なものとする。相談者の当制度に対する認識齟齬を減らす必要がある。

令和8年度以降の取組や方針
予約受付の際に相談者へのヒアリング力を強化し、公営住宅を希望していないか、家賃支払い能力があるか等の聞き取りや事業の適切な説明を行い、相談者の当制度に対する認識齟齬の軽減を図る。

施策No.	4-2	施策	ケアラーを支援する体制整備を推進します。
-------	-----	----	----------------------

取組No.	4-2-1	重点取組	ケアラーに関する情報提供、相談支援窓口の周知								
担当課	子ども家庭課	大施策	包括的な支援に関すること	構成計画	地	●	後	高	●	障	●
区分	新規										

①事業概要

ヤングケアラーに関する情報を発信することで自身がケアラーである自覚を持つ機会を創出するとともに、ケアラーの認知度を高め、本人や周囲の大人が困りごとを相談できる窓口を周知し、ヤングケアラーの早期発見・把握につなげます。

②施策に関する具体的な事業や取組

事業(取組)内容	成果(活動)指標		R7	R8	R9
相談窓口の情報発信 担当課：子ども家庭課	実施状況	③目標(値)	ヤングケアラー相談窓口の周知	ヤングケアラー相談窓口の周知	ヤングケアラー相談窓口の周知
		④実績(値)	ヤングケアラー実態調査の実施		
		⑤進捗状況評価	A：進捗している		

「評価」の理由 市内小学校5・6年生、市内中学校、高校生世代を対象にヤングケアラー実態調査を実施し、ヤングケアラーの周知・啓発を行うとともに、相談希望のある子どもとの面接を実施し適切な支援につなげたため。

課題等 「ヤングケアラー」という言葉の認知が小学生・中学生で低いこと、自己認識が難しいために潜在的に困難を抱える子どもが把握されにくいこと、また、相談経験が少なく支援にたどりつけていないこと。

令和8年度以降の取組や方針 小学生・中学生に向けた理解の促進を図るとともに、広く市民に対しても周知啓発をしていくほか、身近な相談窓口の周知や相談しやすい環境を整えていく。実態調査を今後も実施し、支援が必要と思われる子どもや家庭の早期発見に努める。

取組No.	4-2-2	重点取組	重層的支援体制整備事業を活用したケアラー支援体制の整備								
担当課	福祉政策課	大施策	包括的な支援に関すること	構成計画	地	●	後	高	●	障	●
区分	新規										
①事業概要											
<p>様々な事情や課題を抱えたケアラーの早期発見・早期支援を行うため、重層的支援体制整備事業（福祉のつなぐシート登録システム）を活用し、つなぎの重層化を図ることにより、一人ひとりの状況に合わせた切れ目のない相談支援体制を構築します。</p> <p>切れ目のない相談支援体制を構築するため、福祉のつなぐシート登録システムの活用を庁内窓口のみならず、民間事業者にまで広く拡大します。</p>											
②施策に関する具体的な事業や取組											
事業（取組）内容	成果(活動)指標		R 7	R 8	R 9						
(再掲) 福祉のつなぐシート登録システムの活用民間事業者等の拡大 担当課：福祉政策課	市内登録事業者数(累積)	③目標(値)	25事業者以上	30事業者以上	35事業者以上						
		④実績(値)	69事業者								
		⑤進捗状況評価	A：進捗している								
「評価」の理由	学童保育所支援員会議や郵便局長会議等、数多くの関係者が集まる会議体を通じて「福祉のつなぐシート」について説明をし、児童福祉施設や金融機関等へ導入いただけたことから、目標値を44事業者上回る福祉のつなぐシート登録システムの活用民間事業者等（以下、「市内登録事業者」という。）を確保できた（69事業者（前年度比+41事業者）のうち、新規は41事業者（前年度比+24事業者））。また、9つの「つなぎ」のうち活用民間事業者等から5件の「つなぎ」を実現できたため。										
課題等	活用民間事業者等を増やすことができたが、つながった案件が少なかった。										
令和8年度以降の取組や方針	幅広い市内登録事業者に活用いただけるよう、使用感に対するヒアリングを行い、より利活用しやすいシステム構築を検討する。										

取組No.	4-2-3	重点取組	ケアラーのニーズを踏まえた当事者同士の集いの場の確保								
担当課	福祉政策課	大施策	包括的な支援に関すること	構成計画	地	●	後	高	●	障	●
区分	新規										
①事業概要											
孤立感や、孤独感を感じている方、複雑化・複合化した課題や制度の狭間の課題を抱えたケアラーの方々のニーズに合わせた当事者同士の集いの場を適宜確保し、対象者を集いの場につなぎます。											
②施策に関する具体的な事業や取組											
事業（取組）内容	成果(活動)指標		R 7	R 8	R 9						
集いの場の確保または対象者を集いの場につなぐ 担当課：福祉政策課	場の確保 または つなぎの実施	③目標(値)	適宜	適宜	適宜						
		④実績(値)	3回								
		⑤進捗状況評価	A：進捗している								
「評価」の理由	ひきこもり家族会主催による講演会を通じ、市内のひきこもりに関わるケアラーの交流機会を創出した。併せて、グリーフサポートの観点から、ケアラーを当事者同士の集いの場へつなぐ支援を行ったため。場の確保またはつなぎの実施3回（前年度比同数）										
課題等	参加者の減少や高齢化により、家族会単体で講演会の実施や周知活動を継続していく体制が弱まっている。										
令和8年度以降の取組や方針	市内にある各ひきこもり家族会と協働し、家族会の認知度向上と参加者増加のための後方支援を行う。										

施策No.	4-3	施策	住宅確保要配慮者の状況に応じた住まいの確保に向けた支援体制を推進します。
-------	-----	----	--------------------------------------

取組No.	4-3-1	重点取組	(再掲) 居住支援協議会による相談支援機能の強化									
担当課	福祉政策課・まちづくり事業課	大施策	包括的な支援に関すること	構成計画	地	●	後		高	●	障	●
区分	拡充											

①事業概要

身寄りのない市民等を含む住宅確保要配慮者に対して、住宅供給の促進を目的としている狛江市居住支援協議会が「住まい探しの相談窓口」事業を実施します。(福祉政策課・まちづくり事業課)

②施策に関する具体的な事業や取組

事業(取組)内容	成果(活動)指標		R 7	R 8	R 9
(再掲) 住宅確保要配慮者に対して、委託している居住支援団体が協力関係にある地元不動産仲介事業者が有する民間賃貸住宅の物件情報とのマッチングの実施 担当課：福祉政策課・まちづくり事業課	前年度に受け付けた相談者の解決率	③目標(値)	55%	60%	65%
		④実績(値)	54%		
		⑤進捗状況評価	A：進捗している		

「評価」の理由
住宅確保要配慮者からの相談予約は、相談可能枠36件中、24件の相談を受け付け、毎月平均2枠分の予約が埋まった。相談員の相談及び協力不動産店の連携により、13件解決することができた。また、居住支援協議会に新たに居住支援法人が加入したため、よりマッチングに資する体制を整えることができたため。

課題等
解決件数を増やし、住宅確保要配慮者への支援を十分なものとする。相談者の当制度に対する認識齟齬を減らす必要がある。

令和8年度以降の取組や方針
予約受付の際に相談者へのヒアリング力を強化し、公営住宅を希望していないか、家賃支払い能力があるか等の聞き取りや事業の適切な説明を行い、相談者の当制度に対する認識齟齬の軽減を図る。

施策No.	4-4	施策	多様な福祉人材の確保・育成に向けた支援体制を充実させます			
-------	-----	----	------------------------------	--	--	--

取組No.	4-4-1	重点取組	受講生のニーズに合わせた福祉カレッジのプログラムの再編					
担当課	福祉政策課	大施策	包括的な支援に関すること	構成計画	地 ●	後	高 ●	障 ●
区分	拡充							

①事業概要

多様なニーズに合致した福祉カレッジのプログラムを導入し、多様な福祉人材の確保・育成を目指します。

②施策に関する具体的な事業や取組

事業（取組）内容	成果(活動)指標		R 7	R 8	R 9
多様なプログラムの導入 担当課：福祉政策課	満足度	③目標(値)	80%以上	80%以上	80%以上
		④実績(値)	100%		
		⑤進捗状況評価	A：進捗している		
「評価」の理由	基礎講座においては定員15名に対して11名が修了した。ステップアップ講座においては定員10名に対して4名が修了した。両講座ともに修了生が、新たな地域活動を始めている。講座修了後の受講者アンケートでは、100%（前年度比+8ポイント）の満足度を得られたため。				
課題等	ステップアップ講座において、急な欠席等により修了要件を満たせず、修了に至らない受講生が発生した。受講生のニーズに応じた内容や運営方法の見直しを行い、参加しやすい講座づくりが求められる。				
令和8年度以降の取組や方針	ステップアップ講座では、テーマを「障がい」から「高齢」へと変更し、新たな地域人材の創出につなげるとともに、終了要件の見直し等、参加しやすい講座づくりを進める。				

年度	令和7(2025)
基本目標	多機関で協働して支援に当たる体制の構築

施策No.	5-1	施策	重層的支援体制整備事業を円滑に実施できるよう、会議体の改廃、設置の検討を推進します。
-------	-----	----	--

取組No.	5-1-1	重点取組	複雑化・複合化した課題の重層的支援会議等による協議及び協議結果に基づく支援の推進							
担当課	福祉政策課・福祉相談課		大施策	包括的な支援に関すること	構成計画	地	●	後	高	障
区分	継続									

①事業概要

重層的支援会議等により、複雑化・複合化した課題のある人や世帯に合った支援プランを作成し各支援機関が共同して支援を行っていきます。(福祉政策課)
各分野の支援機関と協働し、複雑化・複合化した課題のある世帯への支援を進めるため、調整役である相談支援包括化推進員の在り方を検討します。(福祉相談課)

②施策に関する具体的な事業や取組

事業(取組)内容	成果(活動)指標		R7	R8	R9
(再掲)重層的支援会議等の開催 担当課:福祉政策課・福祉相談課	会議の開催	③目標(値)	6回以上	6回以上	6回以上
		④実績(値)	2回		
		⑤進捗状況評価	C:あまり進捗していない		
(再掲)持続可能な相談支援包括化推進員の在り方を検討 担当課:福祉相談課	相談支援包括化推進員の人数	③目標(値)	5人以上	5人以上	5人以上
		④実績(値)	5人		
		⑤進捗状況評価	A:進捗している		
事業(取組)内容全体の進捗状況評価			B:現状維持		

「評価」の理由
支援会議としては、2回(前年度比△6回)の開催となった。2回の支援会議では、多摩府中保健所や在宅療養支援診療所、その他幅広い分野の支援機関と連携し、対象者及びその世帯に支援を行った。市職員2名及び社会福祉協議会のCSW3名が、目標値である5人の相談支援包括化推進員を担い、支援会議の開催等それぞれの役割に応じた支援を行った。特に支援会議の開催を通じ、相談支援包括化推進員を持続可能なものとするための課題を整理したため。
相談支援包括化推進員は、各分野の支援機関の調整役として、支援会議等では、中立的な立場で、参加者の相互理解や合意形成を促進し、課題解決へ導くことが求められる。そのため、市で一定期間、相談支援業務等に従事した経験のある係長職が担うことが望ましいという意見で整理をし、市の職員2名を相談支援包括化推進員としたため。

課題等
重層的支援会議等の開催調整のシステム化が必要である。相談支援包括化推進員については、持続可能な在り方という点で、業務内容の精査や、業務分担の方法等についての必要な検討がなされていない。

令和8年度以降の取組や方針
重層的支援会議等の定期開催に向けて、開催調整の定例化を図る。引き続き、重層的支援会議等の重要性について、幅広く支援関係者に伝え、複雑化・複合化した課題がある方や世帯に、より適切な支援を行う。相談支援包括化推進員については、課題点について検討を行うとともに、重層的支援会議等の開催を通じ、持続可能な在り方を構築する。

取組No.	5-1-2	重点取組	市民福祉推進委員会の在り方の検討							
担当課	福祉政策課	大施策	包括的な支援に関すること	構成計画	地	●	後	高	障	
区分	新規									
①事業概要										
地域共生社会推進基本計画を踏まえた新たな市民福祉推進委員会の在り方を検討します。										
②施策に関する具体的な事業や取組										
事業（取組）内容	成果(活動)指標		R 7	R 8	R 9					
在り方の検討 担当課：福祉政策課	—	③目標(値)	在り方の検討	地域共生社会推進基本計画 中間見直しへの反映	—					
		④実績(値)	検討							
		⑤進捗状況評価	C：あまり進捗していない							
「評価」の理由	介護保険事業計画の進捗管理については、高齢小委員会の専門外のため、狛江市福祉基本条例施行規則第25条第3項の規定に基づく関係者への意見聴取として、介護保険推進市民協議会会長を招致した。									
課題等	地域共生社会推進基本計画において、介護保険事業計画の進捗管理を介護保険推進市民協議会が担う記載がない。									
令和8年度以降の取組や方針	第10期介護保険事業計画の策定に併せた地域共生社会推進基本計画改定の際に、介護保険事業計画の進捗管理を、介護保険推進市民協議会が担うことを盛り込む。									

取組No.	5-1-3	重点取組	政策課題ごとの会議体の整理・再編の検討							
担当課	福祉政策課	大施策	包括的な支援に関すること	構成計画	地	●	後	高	障	
区分	新規									
①事業概要										
社会変化によって生じる課題により新たに生まれる課題に対する会議体の設置要望に対して会議体を整理します。										
②施策に関する具体的な事業や取組										
事業（取組）内容	成果(活動)指標		R 7	R 8	R 9					
会議体の整理 担当課：福祉政策課	整理の実施	③目標(値)	精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム部会の設置	精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム部会の運営	精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム部会の運営					
		④実績(値)	設置調整							
		⑤進捗状況評価	A：進捗している							
「評価」の理由	精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム推進部会の設置に向け、関係支援機関と協議を行い、令和8年度の運営のための予算の確保及び例規を整備したため。									
課題等	精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム推進部会で効果的な協議を行えるよう、引き続き関係支援機関と調整を行う必要がある。									
令和8年度以降の取組や方針	市民福祉推進委員会障がい小委員会において、精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム推進部会構成員の選出を行い、部会において、精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた協議を推進する。									

資料4-2 狛江市第1次地域共生社会推進基本計画実施計画（狛江市市民福祉推進委員会による進捗状況評価）

年度		令和7(2025)						
(A) 基本目標	(B) 施策	(C) 重点取組及び事業（取組）内容			(D) -1 主な重点取組に対する狛江市地域共生社会推進会議における評価	(D) -2 主な重点取組に対する狛江市地域共生社会推進会議における意見	(D) -3 主な重点取組に対する狛江市地域共生社会推進会議からの意見について担当課からの回答	(E) 狛江市地域共生社会推進会議における評価に対する市民福祉推進委員会等からの評価及び次年度に向けた意見
目的	手段 目的	重点取組	事業（取組）内容	担当課による進捗状況評価（当初）				
1 一人ひとりの状況に合わせた適切な支援体制の構築を目的とした相対支援体制	1-1 社会的に孤立し、孤独を感じている方、複雑化・多様化した課題や制度の狭間の課題を抱えた方、その世帯等を早期に相談支援につなぐ仕組みづくりを推進します。	1-1-1	福祉のつながりネットワーク登録システムの民間事業者等への拡大の推進	福祉のつながりネットワーク登録システムの活用民間事業者等の拡大	A：進捗している	②	A：進捗している	③
		1-1-2	相談支援包括化推進員を中心とした相談支援包括化推進体制の構築	重層的支援会議等の開催 持続可能な相談支援包括化推進員の在り方を検討	B：現状維持			
		1-1-3	情報共有を効果的に進めるための新たな相談記録方式の検討	統一した記録方式の導入及び導入先の拡大	A：進捗している			
	1-2 社会的に孤立し、孤独を感じている方、複雑化・多様化した課題や制度の狭間の課題を抱えた方、その世帯等へのアウトリーチ等による併発型支援の充実・強化を図ります。	1-2-1	アセスメントや支援のためのアウトリーチの充実	CSWによる社会資源の発掘及び連携を踏まえた取組の実施	A：進捗している			
		1-2-2	ピアサポーターを活かした支援の検討	ピアサポーターを活かした支援	A：進捗している			
		2-1-1	福祉のまちづくり協議委員会による地域アセスメントの実施	福祉のまちづくり協議委員会の開催	A：進捗している			
2 「つながり」を推進する地域共生社会の構築を目的とした相対支援体制の構築を目的とした相対支援体制	2-1 住民主体による地域生活課題の解決力の強化を図ります。	2-1-2	福祉のまちづくり委員会による地域課題の共有、課題解決に向けた取組の推進	福祉のまちづくり委員向け研修の実施	A：進捗している			
		2-2-1	福祉・医療関係者との連携による、作成の優先度が高い避難行動要支援者の個別避難計画の策定、改定の推進	福祉関係者等との連携	A：進捗している			
	2-2 地域住民、地域関係団体、専門職等の協力を高める避難行動要支援者支援体制の充実を図ります。	2-2-2	公開型及び統合型地理情報システム（以下「統合型GIS」という。）を活用した個別避難計画の策定、改定の推進	統合型GISを活用した個別避難計画の作成及び更新	A：進捗している			
		2-2-3	統合型GISを活用した避難行動要支援者名簿・個別避難計画の進捗支援等関係者への情報共有、安否確認、避難支援体制構築の推進	支援組織との避難支援体制の整備	A：進捗している			
		2-3-1	集合住宅の建て替えに伴う福祉的支援及び建て替え後の地域づくりの支援	情報共有と支援 地域づくりの支援 建て替えに伴う相談から福祉的ニーズを把握し、適切な支援機関等へつなぐ 個別の福祉的ニーズから、地域課題を把握	A：進捗している			
	2-3 地域のニーズを適切に把握し、地域のニーズに応じた支え合いの地域づくりを推進します。	2-3-2	（仮称）地域福祉サポーター等CSWとともに活動する新たな支え合いのシステム構築の支援	（仮称）地域福祉サポーターの育成・活用	B：現状維持			
		2-3-3	多様な居場所の設置・活動の支援	地域福祉推進事業補助金による団体への支援 子ども・若者の居場所事業の実施	A：進捗している			
		2-3-4	多様な居場所間の連携ネットワークの構築支援	視察や見学、会議等の開催	A：進捗している			
		2-3-5	近隣の学校等へのアウトリーチによるボランティアのマッチング支援及び体験ボランティア等の実施の検討	マッチング等支援の実施	A：進捗している			
		3-2-1	併発型支援、アウトリーチ支援及び重層的支援会議等を通じて把握したニーズに応じた新たな参加支援事業の推進	CSW等による参加支援事業の推進	A：進捗している			
3 シを社 ツを会 リを参 りての参 加	3-2 社会的に孤立し、孤独を感じている市民のニーズを把握し、地域社会への参加に向けたつながりづくりを推進します。	3-2-1	併発型支援、アウトリーチ支援及び重層的支援会議等を通じて把握したニーズに応じた新たな参加支援事業の推進	CSW等による参加支援事業の推進	A：進捗している	①目標値：「2回」に対し実績値：「2回」のため、B評価が妥当ではないか。	①（福祉政策課）目標（値）に設定している2回以上は実施しており、令和6年度は1回だったところ、令和7年度は新たに高齢、障がい、子育て分野の支援に関わる専門職3名および各福祉のまちづくり委員会の代表3名を委員として選出し、協議委員会を2回開催し協議することができたため、「A：進捗している」と評価した。	1. (D) - 1 各取組No. の「進捗結果」において評価を行ったものを元に(C)を作成。担当課の評価「①」について評価の見直しが必要と地域共生社会推進会議で意見があったものを、担当課において再度評価の見直しの有無について検討を行ったうえで【市の実施計画の評価】「②」とした。 2. (D) - 2 評価の見直しが必要と地域共生社会推進会議で意見が出された取組No. について、「②」の見直しの有無に関わらず意見の内容を記載。また、その他の意見等についても記載した。 3. (D) - 3 (D) - 2で出された意見に対する担当課からの回答を記載。委員会・小委員会では資料4-1及び(D)欄を参照のうえ、評価が適正かどうかのご判断を(E)欄「③」に選択いただくとともに、必要に応じて資料4-3に各取組No. ごとに意見をいただくものとなります。
3-2-2	（仮称）地域福祉サポーター等CSWとともに活動する新たな支え合いのシステム構築の支援	（仮称）地域福祉サポーターの育成・活用	B：現状維持	①目標値：「3回以上」に対し実績値：「3回」のため、B評価が妥当ではないか。	①（福祉政策課）令和8年度の事業展開を見込めないため、「B：現状維持」と評価した。			
3-2-3	多様な居場所の設置・活動の支援	地域福祉推進事業補助金による団体への支援 子ども・若者の居場所事業の実施	A：進捗している	①目標値：「3回以上」に対し実績値：「3回」のため、B評価が妥当ではないか。	①（福祉政策課）令和7年度から目標（値）の回数を増やし、令和6年度2回だったところ3回実施することができ、また夏のボランティアの受け入れ等新たな取組みを行うこともできたため、「A：進捗している」と評価した。			
3-2-4	多様な居場所間の連携ネットワークの構築支援	視察や見学、会議等の開催	A：進捗している	①目標値：「3回以上」に対し実績値：「3回」のため、B評価が妥当ではないか。	①（福祉政策課）令和8年度は1回だったところ3回実施することができ、また夏のボランティアの受け入れ等新たな取組みを行うこともできたため、「A：進捗している」と評価した。			
3-2-5	近隣の学校等へのアウトリーチによるボランティアのマッチング支援及び体験ボランティア等の実施の検討	マッチング等支援の実施	A：進捗している	①目標値：「3回以上」に対し実績値：「3回」のため、B評価が妥当ではないか。	①（福祉政策課）令和8年度は1回だったところ3回実施することができ、また夏のボランティアの受け入れ等新たな取組みを行うこともできたため、「A：進捗している」と評価した。			
3-2-1	併発型支援、アウトリーチ支援及び重層的支援会議等を通じて把握したニーズに応じた新たな参加支援事業の推進	CSW等による参加支援事業の推進	A：進捗している	①目標値：「適宜」に対し実績値：「4回」で前年度比同数のため、B評価が妥当ではないか。	①（福祉政策課）【進捗状況評価】を「B：現状維持」に修正			

(A) 基本目標	(B) 施策	(C) 重点取組及び事業（取組）内容			(D) -1 主な重点取組に対する船江市地域共生社会推進会議における評価	(D) -2 主な重点取組に対する船江市地域共生社会推進会議における意見	(D) -3 主な重点取組に対する船江市地域共生社会推進会議からの意見について担当課からの回答	(E) 船江市地域共生社会推進会議における評価に対する市民福祉推進委員会等からの評価及び次年度に向けた意見
目的	手段	手段						
目的	目的	重点取組	事業（取組）内容	担当課による進捗状況評価（当初）				
4	総合的で切れ目のない生活支援システムづくり	4-1-1	居住支援協議会による相談支援機能の強化	住宅確保要配慮者に対して、委託している居住支援団体が協力関係にある地元不動産仲介事業者が有する民間賃貸住宅の物件情報とのマッチングの実施	A：進捗している	①目標値：「55%」に対し実績値：「54%」のため、B評価が妥当ではないか。	①（福祉政策課）目標（値）に対し80%以上は達成し、令和6年度の50%から解決率が伸びており、また、居住支援協議会に新たに居住支援法人が加入しよりマッチングに資する体制を整えることができたため、「A：進捗している」と評価した。	
		4-2-1	ケアラーに関する情報提供、相談支援窓口の周知	相談窓口の情報発信	A：進捗している			
		4-2-2	重層的支援体制整備事業を活用したケアラー支援体制の整備	(再掲) 福祉のつなぐシート登録システムの活用民間事業者等の拡大	A：進捗している			
		4-2-3	ケアラーのニーズを踏まえた当事者同士の集いの場の確保	(再掲) 福祉のつなぐシート登録システムの活用民間事業者等の拡大	A：進捗している	①目標値：「適宜」に対し実績値：「3回」で前年度比同数のため、B評価が妥当ではないか。	①（福祉政策課）前年度比同数ではあるが、つなぎの実施だけでなく、市内のひきこもりに関わるケアラーの交流機会を創出し集いの場の確保も行うことができたため、「A：進捗している」と評価した。	
5	多機関で協働して支援に当たる体制の構築	4-3-1	(再掲) 居住支援協議会による相談支援機能の強化	(再掲) 住宅確保要配慮者に対して、委託している居住支援団体が協力関係にある地元不動産仲介事業者が有する民間賃貸住宅の物件情報とのマッチングの実施	A：進捗している	①目標値：「55%」に対し実績値：「54%」のため、B評価が妥当ではないか。	①（福祉政策課）目標（値）に対し80%以上は達成し、令和6年度の50%から解決率が伸びており、また、居住支援協議会に新たに居住支援法人が加入しよりマッチングに資する体制を整えることができたため、「A：進捗している」と評価した。	
		4-4-1	受講生のニーズに合わせた福祉カレッジのプログラムの再編	多様なプログラムの導入	A：進捗している			
		5-1-1	複雑化・複合化した課題の重層的支援会議等による協議及び協議結果に基づく支援の推進	(再掲) 重層的支援会議等の開催	B：現状維持			
5-1-2	市民福祉推進委員会の在り方の検討	(再掲) 持続可能な相談支援包括化推進員の在り方を検討	C：あまり進捗していない					
5-1-3	政策課題ごとの会議体の整理・再編の検討	会議体の整理	A：進捗している					

狛江市第1次地域共生社会推進基本計画実施計画に関する
市民福祉推進委員会、高齢小委員会、障がい小委員会及び権利擁護小委員会による
進捗状況評価
令和7年度 報告書（案）

令和8年〇月

2 評価について

(1) 評価方法

狛江市地域共生社会推進基本計画 実施計画では、狛江市地域共生社会推進基本計画（以下「基本計画」）の事業のうち重点施策の関連事業を評価しています。

この関連事業の進捗結果を各事業の担当課がとりまとめ、地域共生社会推進会議にて、【市の実施計画の評価】として評価を行いました。

その後、当評価を市民福祉推進委員会等において評価をし、出された意見をまとめました。

(2) 評価の視点

実施計画の年次目標に記載されている各項目における令和7年度の実施状況を確認したうえで、事業全体を俯瞰した観点から総合的な評価を行いました。評価の結果は、以下のとおりとなります。

評価	評価基準	評価結果（件数）
A	進捗している。（目標（値）に対し80%以上達成）	○
B	現状維持（目標（値）に対し50%以上80%未満達成）	○
C	あまり進捗していない。（目標（値）に対し50%未満達成）	○
D	全く進捗していない。	○

(3) 総評

A評価が○件、B評価が○件、C評価が○件、D評価が○件として、地域共生社会の実現に資する取組が進められました。

(4) 委員会等における実施計画の評価結果に対する評価及び意見等

市民福祉推進委員会等において、市が行った実施計画の評価結果を各(ア)のとおり評価しました。なお、②③と評価したものについての意見等は各(イ)のとおりです。

ア 市民福祉推進委員会

(ア) 市の実施計画の評価結果の評価

①推進会議の評価のとおりとする。	●-●-●
②推進会議の評価のとおりとする。 (意見についてはア(イ)のとおり。)	●-●-●
③推進会議の評価と異なる評価とする。(意見についてはア(イ)のとおり。)	●-●-●

(イ) 市の実施計画の評価結果に対する意見等

No.	取組No.	狛江市地域共生社会推進会議における評価に対する 委員会等からの意見
1	1-3-1	△△

③として、各委員等により出された意見を当項目に記載します。

資料5 狛江市第1次再犯防止推進計画取組状況確認表（狛江市地域共生社会推進会議評価結果報告書）

基本目標1	一人ひとりの状況に合わせた切れ目のない相談支援体制の構築			黄色セル：辰野教授によるご意見・評価が入力済みです。
1-1	在所者及び出所者等への市、民間支援団体等の各種相談窓口の分かりやすい周知を推進します。			担当課
重点取組	1-1-1	効果的な媒体による分かりやすい各種相談窓口の周知の推進		福祉政策課
	1-1-2	相談窓口の機能役割の明確化		
		R7	R8	R9
1-1-1	効果的な媒体による分かりやすい各種相談窓口の周知の推進			福祉政策課
事業概要	市のホームページや再犯防止推進計画周知用チラシを作成することにより、在所者及び出所者等へ市等の相談窓口を分かりやすく伝えます。			
取組	多様な周知方法の設定及び相談窓口の周知先の拡大			
取組目標	周知先の開拓及び配架	周知先の開拓及び配架	周知先の開拓及び配架	
取組状況評価	A 進捗している			
取組状況	相談窓口や更生保護団体等を記載した再犯防止推進チラシの新たな配架先として、各地域センター、西河原公民館、ひだまりセンター及びふらっとなんぶへ拡大し、周知を図った。			
地域共生社会推進会議評価	A 進捗している			
委員会等評価	A 進捗している			

1-1-2	相談窓口の機能役割の明確化			福祉政策課
事業概要	在所者、出所者等及び再犯防止関係団体（以下「再犯防止関係団体等」という。）が相談時にすぐにつながれるよう、相談窓口の明確化を図るとともに、関係者へ周知を図ります。			
取組	相談窓口を明確化するとともに、相談窓口を再犯防止関係団体等へ周知			
取組目標	再犯防止関係団体等への周知	再犯防止関係団体等への周知	再犯防止関係団体等への周知	
取組状況評価	A 進捗している			
取組状況	再犯防止関係団体及び社会を明るくする運動狛江市推進委員会委員に再犯防止推進計画周知用チラシを配布した。			
地域共生社会推進会議評価	A 進捗している			
委員会等評価	A 進捗している			

1-2	出所者等及びその家族の社会的孤立を予防・解消する相談支援体制の構築を推進します。			担当課
重点取組	1-2-1	在所中又は勾留中からの支援関係者等の情報共有、支援準備等の連携体制の構築		福祉政策課
	1-2-2	市職員、市内福祉関係者への再犯防止に係る研修等による相談支援機能の強化		
		R 7	R 8	R 9
1-2-1	在所中又は勾留中からの支援関係者等の情報共有、支援準備等の連携体制の構築			福祉政策課
事業概要	狛江市へ帰住希望の方に対する生活環境調整（注1）に対応できる連携体制の構築を図ります。 （注1）更生保護法第82条の規定により保護観察所の長が行う入所者等の矯正施設退所後の住居、就業先その他生活環境の調整をいう。			
取組	狛江市へ帰住希望の方に対する生活環境調整に対応できる連携体制の構築			
取組目標	連携体制の強化	連携体制の強化	連携体制の強化	
取組状況評価	A 進捗している			
取組状況	10月14日に東京都の再犯防止事業受託事業者による研修会を実施し、市職員、社会福祉協議会職員及び市内ケアマネジャーの合計20名の関係者が参加することにより、関係者等の連携体制を強化した。			
地域共生社会推進会議評価	A 進捗している			
委員会等評価	A 進捗している			

1-2-2	市職員、市内福祉関係者への再犯防止に係る研修等による相談支援機能の強化			福祉政策課
事業概要	東京都主催の再犯防止に関する市区町村向け研修会等を活用し、市職員等へ研修の受講により相談支援機能を強化します。			
取組	市職員等の再犯防止に関する研修会への参加			
取組目標	適宜	適宜	適宜	
取組状況評価	A 進捗している			
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・10月14日に東京都の再犯防止事業受託事業者による研修会を実施し、市職員、社会福祉協議会職員及び市内ケアマネジャーの合計20名の関係者が参加した。 ・国や都が主催する再犯防止に関する研修会に参加した。 ・再犯防止担当以外にも参加を募り、職員が再犯防止に関する理解を深める機会となった。 			
地域共生社会推進会議評価	A 進捗している			
委員会等評価	A 進捗している			
基本目標1に対する地域共生社会推進会議意見				
—	基本目標1に対する意見はありません。			
基本目標1に対する委員会等意見				
	本領域に特化した取組というよりも多方面の活動と共通する事柄が多い。その意味では備えが徐々に進んでいる状況は評価できる。			

基本目標2	「つながり」を実感できる地域づくり		
2-1	市民への更生保護団体及び「再犯防止啓発月間」、「社会を明るくする運動」等再犯防止に関する取組の周知を推進します。		担当課
重点取組	2-1-1	更生保護団体の周知の推進	
	2-1-2	「再犯防止啓発月間」、「社会を明るくする運動」等を通じた再犯防止に関する取組の周知・啓発活動の実施	
	R 7	R 8	R 9
2-1-1	更生保護団体の周知の推進		福祉政策課
事業概要	保護司会等を含む更生保護団体について、ホームページの適宜更新やチラシの作成及び配架により市民の認知度向上に努めます。		
取組	市民の更生保護団体の認知度向上		
取組目標	・更生保護団体等の周知ホームページの充実 ・（再掲）周知先の開拓及び配架	・更生保護団体等の周知ホームページの充実 ・（再掲）周知先の開拓及び配架	・更生保護団体等の周知ホームページの充実 ・（再掲）周知先の開拓及び配架
取組状況評価	B 現状維持		
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・市のホームページに作成した更生保護のページにおいて、再犯防止推進チラシを掲載するとともに、社会を明るくする運動に関する内容を適宜更新した。 ・相談窓口や更生保護団体等を記載した再犯防止推進チラシの新たな配架先として、各地域センター、西河原公民館、ひだまりセンター及びふらっとなんぶへ拡大し、周知を図った。 		
地域共生社会推進会議評価	B 現状維持		
委員会等評価	B 現状維持		

2-1-2	「再犯防止啓発月間」、「社会を明るくする運動」等を通じた再犯防止に関する取組の周知・啓発活動の実施			福祉政策課
事業概要	犯罪及び非行防止や更生に対して市民一人ひとりが理解を深め、犯罪が起こらないまちづくりを進めるため、関連機関と連携して「社会を明るくする運動」を実施するとともに、SNS等を活用した周知・啓発を図ります。			
取組	「社会を明るくする運動」で狛江駅頭広報活動及び推進大会・コンサートを実施し、これらのイベントをSNS等を使った事業の周知			
取組目標	イベントの実施及びSNS等を使った事業の周知	イベントの実施及びSNS等を使った事業の周知	イベントの実施及びSNS等を使った事業の周知	
取組状況評価	A 進捗している			
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ “社会を明るくする運動” のイベントとして、駅頭広報活動、推進大会とコンサートを実施した。 ・ 市内小中学校へのチラシ配布、デジタルサイネージを活用した広報及び市ホームページの更新を行った。また、新たにX・facebookに掲載し事業の周知を図った。 			
地域共生社会推進会議評価	A 進捗している			
委員会等評価	A 進捗している			

2-2	市民への出所者等・非行をした少年の理解を推進します。			担当課
重点取組	2-2-1	市民と愛光女子学園の在院者との交流機会創出の支援		福祉政策課
	2-2-2	市民への出所者等の特性の理解の推進に向けた矯正施設、保護観察所、検察庁、地域生活定着支援センター等の職員と協力したアウトリーチ等による周知活動の推進		
	2-2-3	市民に対する愛光女子学園による周知活動への協力		
2-2-1	市民と愛光女子学園の在院者との交流機会創出の支援			福祉政策課
事業概要	愛光女子学園との包括協定に基づき、市民と愛光女子学園の在院者との交流を実施します。			
取組	市民と在院者との交流事業の実施			
取組目標	実施	実施	実施	
取組状況評価	A 進捗している			
取組状況	愛光女子学園の在院者がこまえ正吉苑式番館で開催されたさくらカフェに参加し、美寿美農園における職場体験を行った他、こまえ正吉苑へ在院者が作成したアクリルたわしの寄贈を行う等、様々な交流が図られた。			
地域共生社会推進会議評価	A 進捗している			
委員会等評価	A 進捗している			
2-2-2	市民への出所者等の特性の理解の推進に向けた矯正施設、保護観察所、検察庁、地域生活定着支援センター等の職員と協力したアウトリーチ等による周知活動の推進			福祉政策課
事業概要	市民の更生支援に対する理解を深めるため、更生支援に関する広報や啓発の機会を設けます。			
取組	アウトリーチ等による更生支援に関する周知活動の推進			
取組目標	周知活動の推進	周知活動の推進	周知活動の推進	
取組状況評価	A 進捗している			
取組状況	民生委員児童委員定例会時に、保護司活動の紹介等を実施し、更生保護活動への理解と周知を図った。			
地域共生社会推進会議評価	A 進捗している			
委員会等評価	A 進捗している			

2-2-3 市民に対する愛光女子学園による周知活動への協力		福祉政策課	
事業概要	愛光女子学園との包括協定に基づいて実施する周知活動を支援します。		
取組	愛光女子学園が実施する周知活動の支援		
取組目標	周知活動の支援	周知活動の支援	周知活動の支援
取組状況評価	A 進捗している		
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・市民まつりにおいて、愛光女子学園の広報ブースの設置を行った。 ・愛光女子学園が上和泉地域センターまつりにスムーズに参加できるよう所管課にて調整を行った。 		
地域共生社会推進会議評価	A 進捗している		
委員会等評価	A 進捗している		
基本目標2に対する地域共生社会推進会議意見			
—	基本目標2に対する意見はありません。		
基本目標2に対する委員会等意見			
	愛光女子学園との継続的な連携は、他自治体の参考となる取組であり、評価できる。		

基本目標3	社会参加を進めるシステムづくり		
3-1	出所者等の就労支援体制の構築を推進します。		担当課
重点取組	3-1-1	市内事業者向けに、協力雇用主や受刑者等採用相談窓口コレワーク（矯正就労支援情報センター）の周知の支援	福祉政策課
	3-1-2	市内に帰住予定の在所者の支援関係者等と連携した就労支援の推進	福祉相談課
	3-1-3	ハローワークと連携した出所者等のニーズに合った就労情報の提供支援の推進	
	R7	R8	R9
3-1-1	市内事業者向けに、協力雇用主や受刑者等採用相談窓口コレワーク（矯正就労支援情報センター）の周知の支援		福祉政策課
事業概要	法務省が作成している協力雇用主に関するパンフレット等を活用し、協力雇用主等の制度に関する周知を支援します。		
取組	協力雇用主制度等に関する周知の実施		
取組目標	チラシの配架・ホームページの更新	チラシの配架・ホームページの更新	チラシの配架・ホームページの更新
取組状況評価	B 現状維持		
取組状況	法務省と厚生労働省が作成している協力雇用主のパンフレットを窓口継続して配架した。		
地域共生社会推進会議評価	B 現状維持		
委員会等評価	B 現状維持		

3-1-2	市内に帰住予定の在所者の支援関係者等と連携した就労支援の推進			福祉相談課
事業概要	在所者の支援関係者と就労支援員が連携し、在所者の状況に応じた就労支援を行います。			
取組	在所者の状況に応じた就労支援の推進			
取組目標	在所者の状況に応じた就労支援の推進	在所者の状況に応じた就労支援の推進	在所者の状況に応じた就労支援の推進	
取組状況評価	B 現状維持			
取組状況	市内に帰住予定の在所者や支援関係者等からの出所後の相談・問合せ事案はなかったため、支援実績はないが、事案があった際には関連機関と密に連携を図り、地域に根ざした生活を実現できるよう支援する。			
地域共生社会推進会議評価	B 現状維持			
委員会等評価	B 現状維持			
3-1-3	ハローワークと連携した出所者等のニーズに合った就労情報の提供支援の推進			福祉相談課
事業概要	本人の利用申込に基づき、ハローワークへ支援要請を行います。ハローワークの巡回相談を市の窓口で実施します。			
取組	ハローワークへの支援要請の実施及びハローワークの巡回相談の実施			
取組目標	支援要請及び巡回相談の実施	支援要請及び巡回相談の実施	支援要請及び巡回相談の実施	
取組状況評価	A 進捗している			
取組状況	出所者等から支援要請がなかったため支援実績はなかったが、生活保護受給者や生活困窮者自立支援制度により支援が必要な方に対して、日常的にハローワークと連携をしながら支援を行っている。市からハローワークに対して支援要請をし、巡回相談を市窓口で実施していることから、事案があった際には有効に活用する。			
地域共生社会推進会議評価	A 進捗している			
委員会等評価	A 進捗している			

3-2	出所者等が地域社会の一員として関われる環境整備を推進します。			担当課
重点取組	3-2-1	出所者等が地域住民と緩やかにつながる地域での居場所づくりの推進や地域での活動に向けた環境の構築の推進		福祉政策課
3-2-1	出所者等が地域住民と緩やかにつながる地域での居場所づくりの推進や地域での活動に向けた環境の構築の推進			福祉政策課
事業概要	地域の誰もが気軽に集うことができる居場所を提供することで、孤独・孤立を防ぎます。			
取組	居場所の周知やイベントの開催による孤独・孤立対策の実施			
取組目標	・居場所の周知・交流イベントの開催	・居場所の周知・交流イベントの開催	・居場所の周知・交流イベントの開催	
取組状況評価	A 進捗している			
取組状況	<p>・多世代多機能型交流拠点である「ふらっとなんぶ」について、市内掲示板、駅構内ラック、近隣住民へのチラシ配付等により、周知を実施した。</p> <p>・「ふらっとなんぶ」では、誰でも参加できる環境を整え、全ての方を対象に広く交流の場を設けている。</p> <p>・「ふらっとなんぶ」では、「ふらフェス春っ!」を開催するとともに、5月より生きづらさを抱えた方の当事者会（ストレートロード）を月1回開催した（全11回）。</p>			
地域共生社会推進会議評価	A 進捗している			
委員会等評価	A 進捗している			

3-3	出所者等の修学支援の体制の構築を推進します。			担当課
重点取組	3-3-1	義務教育を修了していない出所者等の修学支援		福祉政策課 学校教育課
	3-3-2	関係機関との連携による修学支援		福祉政策課 学校教育課
	R 7		R 8	R 9
3-3-1	義務教育を修了していない出所者等の修学支援			福祉政策課 学校教育課
事業概要	教育機関のみならず、保護司や福祉関係機関等（以下「教育機関等」という。）が連携して包括的にサポートします。			
取組	修学支援体制の構築			
事業概要	少年院出院者等からの問い合わせに対し、修学支援関係情報を提供します。			
取組	修学支援体制の構築			
取組目標	教育機関等の修学支援に関する仕組みづくり	教育機関等による修学支援	教育機関等による修学支援	
取組状況評価	B 現状維持			
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の4つの学校運営協議会において、3つの協議会には保護司の参加の機会があり、1つの協議会においても保護司の参加の機会を確保できるよう担当課同士で調整した。 ・市教育委員会ホームページにて、夜間中学に関する問い合わせ先の周知をしている。 ・出所者からの修学の相談・問合せ事案はなかったため、支援実績はない。 			
地域共生社会推進会議評価	B 現状維持			
委員会等評価	B 現状維持			

3-3-2	関係機関との連携による修学支援		福祉政策課 学校教育課
事業概要	(再掲) 教育機関等が連携して包括的にサポートします。		
取組	(再掲) 修学支援体制の構築		
事業概要	公立中学校夜間学級の取組や問い合わせ方法を市民へ周知します。		
取組	夜間中学の取組や問い合わせ先の周知協力		
取組目標	(再掲) 教育機関等の修学支援に関する仕組みづくり	(再掲) 教育機関等による修学支援	(再掲) 教育機関等による修学支援
取組状況評価	B 現状維持		
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の4つの学校運営協議会において、3つの協議会には保護司の参加の機会があり、1つの協議会においても保護司の参加の機会を確保できるよう担当課同士で調整した。 ・市教育委員会ホームページにて、夜間中学に関する問い合わせ先の周知をしている。 		
地域共生社会推進会議評価	B 現状維持		
委員会等評価	B 現状維持		

3-4	児童生徒の非行の未然防止、早期対応のための取組を推進します。			担当課
重点取組	3-4-1	児童生徒の非行や問題行動の未然防止及び早期対応の推進		指導室
	3-4-2	児童生徒に対する非行防止に係る啓発活動の推進		指導室
	R 7		R 8	R 9
3-4-1	児童生徒の非行や問題行動の未然防止及び早期対応の推進			指導室
事業概要	各学校の生活指導主任、担当校長、警察、SSW、適応指導教室主任による生活指導主任会を開催し、児童・生徒の健全育成に係る情報交換、協議、研修等を実施します。			
取組	生活指導主任会出席者や民生児童委員及びPTAを加え、青少年健全育成連絡会の開催			
取組目標	生活指導主任会の開催		生活指導主任会の開催	生活指導主任会の開催
取組状況評価	A 進捗している			
取組状況	各学校の生活指導主任、担当校長、警察、SSW、ゆうゆう教室（教育支援センター）主任による生活指導主任会を開催し、児童・生徒の健全育成に係る情報交換、協議、研修等を実施した。（年11回実施 ※年2回の青少年健全育成連絡会を兼ねる）			
地域共生社会推進会議評価	A 進捗している			
委員会等評価	A 進捗している			

3-4-2	児童生徒に対する非行防止に係る啓発活動の推進			指導室
事業概要	生活指導主任会出席者に加え、民生児童委員、PTAを加え、青少年健全育成連絡会によって、児童・生徒の健全育成に係る講演や協議等を実施します。			
取組	生活指導主任会出席者や民生児童委員及びPTAを加え、青少年健全育成連絡会の開催			
取組目標	青少年健全育成連絡会の開催	青少年健全育成連絡会の開催	青少年健全育成連絡会の開催	
取組状況評価	A 進捗している			
取組状況	生活指導主任会出席者に加え、民生児童委員、PTAを加え、青少年健全育成連絡会によって、児童・生徒の健全育成に係る講演や協議等を実施した。 (年2回実施)			
地域共生社会推進会議評価	A 進捗している			
委員会等評価	A 進捗している			
基本目標3に対する地域共生社会推進会議意見				
—	基本目標3に対する意見はありません。			
基本目標3に対する委員会等意見				
	常に活動が発生するわけではない取組についての進捗評価は難しいが、準備や連携の強化が進んでいる状況は評価できる。			

基本目標4	総合的で切れ目のない生活支援システムづくり		
4-1	住居の確保が困難な出所者等の状況に応じた住居の確保に向けた支援体制の構築を推進します。		担当課
重点取組	4-1-1	保護司の自宅以外の活動場所の確保、国の保護司活動のデジタル化を踏まえた保護司活動の環境整備の推進	福祉政策課
	4-1-2	保護司活動の支障となる要因の軽減の検討	
	4-1-3	幅広い世代から多様な保護司候補者の確保の推進	
	R7	R8	R9
4-1-1	保護司の自宅以外の活動場所の確保、国の保護司活動のデジタル化を踏まえた保護司活動の環境整備の推進		福祉政策課
事業概要	保護司の自宅以外の面接場所を確保するとともに、研修の際には、デジタル化を踏まえた協力を行います。		
取組	多様な面接場所の確保等の環境整備		
取組目標	民間施設の試行活用	民間施設の活用	民間施設の活用
取組状況評価	A 進捗している		
取組状況	新たな面接場所として市内の民間施設であるサテライトオフィスの使い方をまとめ、保護司に周知し、実際に2度の面接で使用した。		
地域共生社会推進会議評価	A 進捗している		
委員会等評価			

4-1-2	保護司活動の支障となる要因の軽減の検討			福祉政策課
事業概要	保護司活動の支障となる、認知度不足解消に向けホームページの適宜更新やチラシの作成及び配架により市民の認知度向上に努めます。			
取組	保護司会活動の認知度向上			
取組目標	・（再掲）更生保護団体等のホームページの充実 ・（再掲）チラシの作成	・（再掲）更生保護団体等のホームページの充実 ・（再掲）チラシの作成	・（再掲）更生保護団体等のホームページの充実 ・（再掲）チラシの作成	
取組状況評価	B 現状維持			
取組状況	<p>・市のホームページに作成した更生保護のページにおいて、再犯防止推進チラシを掲載するとともに、社会を明るくする運動に関する内容を適宜更新した。</p> <p>・相談窓口や更生保護団体等を記載した再犯防止推進チラシの新たな配架先として、各地域センター、西河原公民館、ひだまりセンター及びふらっとなんふへ拡大し、周知を図った。</p>			
地域共生社会推進会議評価	B 現状維持			
委員会等評価	B 現状維持			
4-1-3	幅広い世代から多様な保護司候補者の確保の推進			福祉政策課
事業概要	保護司候補者の推薦に関する手続きを支援します。			
取組	円滑な推薦手続きの実施			
取組目標	推薦手続きの支援	推薦手続きの支援	推薦手続きの支援	
取組状況評価	A 進捗している			
取組状況	新たな保護司候補者への推薦があったが、事前準備により、円滑な推薦手続きの支援を実施することができた。			
地域共生社会推進会議評価	A 進捗している			
委員会等評価	A 進捗している			

4-2	住居の確保が困難な出所者等の状況に応じた住居の確保に向けた支援体制の構築を推進します。			担当課
重点取組	4-2-1	一時的な宿泊場所の紹介の推進		福祉相談課
	4-2-2	居住支援協議会による相談支援機能の強化		福祉政策課 まちづくり事業課
	4-2-3	出所者等への見守り等の支援体制の強化		福祉政策課
4-2-1	一時的な宿泊場所の紹介の推進			福祉相談課
事業概要	生活資金が足りず住宅の確保が困難な出所者等に対して、一時的な宿泊場所の紹介を行います。			
取組	必要に応じた一時的な宿泊場所の紹介			
取組目標	一時的な宿泊場所の紹介	一時的な宿泊場所の紹介	一時的な宿泊場所の紹介	
取組状況評価	B 現状維持			
取組状況	出所者等から支援要請がなかったため支援実績はなかったが、出所後において住宅費等が不足し、住宅の確保が困難な場合には、生活保護受給を踏まえ、一時的な宿泊場所の紹介を行い、生活基盤の再建に向けた支援を行っている。			
地域共生社会推進会議評価	B 現状維持			
委員会等評価	B 現状維持			

4-2-2 居住支援協議会による相談支援機能の強化		福祉政策課 まちづくり事業課	
事業概要	相談者である出所者等を含む住宅確保要配慮者に対して、委託している居住支援団体が協力関係にある地元不動産仲介事業者が有する民間賃貸住宅の物件情報とのマッチングを行います。		
取組	住まい探しの相談窓口の実施		
	相談者の解決率（前年度に受付した相談の解決率）		
取組目標	住まい探しの相談窓口の実施及び伴走支援	住まい探しの相談窓口の実施及び伴走支援	住まい探しの相談窓口の実施及び伴走支援
取組状況評価	B 現状維持		
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月第1火曜日に「住まい探しの相談窓口」を実施した。住宅を借りる際の困りごととして、「出所者等であること」を挙げた方はいなかった。なお、相談者の解決率は実施計画の目標として掲げた55%に対し、54%（前年度比+4ポイント）の達成となった。 ・居住支援協議会に新たに居住支援法人が加入したため、よりマッチングに資する体制を整えた。 		
地域共生社会推進会議評価	B 現状維持		
委員会等評価	B 現状維持		
4-2-3 出所者等への見守り等の支援体制の強化		福祉政策課	
事業概要	出所者等であることから地域の中で孤独・孤立するなど生きづらさを抱えている人に気づき、必要な支援に結び付けられるよう、見守り体制の強化を図ります。		
取組	出所者等への必要な支援につなげるための見守り体制の充実		
取組目標	見守り等の支援体制の強化	見守り等の支援体制の強化	見守り等の支援体制の強化
取組状況評価	B 現状維持		
取組状況	出所者等かどうかは、本人の申し出がない限り把握できないので、出所者等に限らず広く門戸を開いた。ひきこもりや孤独・孤立対策の支援を実施するためのアウトリーチ支援として、ひきこもり当事者や、孤独孤立状態にある方等に対し、就労支援機関へのつなぎや、多世代多機能型交流拠点等への参加支援を行い、社会との接点づくりを図った。		
地域共生社会推進会議評価	B 現状維持		
委員会等評価	B 現状維持		

4-3	出所者等の出所の際、保健医療・福祉サービスを円滑に利用できる支援体制の構築を推進します。			担当課
重点取組	4-3-1	支援関係者等と連携した保健医療・福祉サービスの提供に向けた事前準備の推進及び伴走型支援の推進		福祉政策課
	4-3-2	出所者等の支援関係者等によるケース会議等への参加の推進		福祉政策課
	R 7		R 8	R 9
4-3-1	支援関係者等と連携した保健医療・福祉サービスの提供に向けた事前準備の推進及び伴走型支援の推進			福祉政策課
事業概要	<p>福祉的な支援が必要な人に対して適切なサービスを提供できるよう、生活環境調整及び特別調整（注1）（以下「生活環境調整等」という。）による保健医療・福祉サービスの事前準備を行います。</p> <p>（注1）生活環境調整のうち、高齢（おおむね65歳以上）であり、又は障がいをもつ入所者等であって、かつ、適当な帰住予定地が確保されていない者を対象として、特別の手続きに基づき、帰住予定地の確保その他必要な生活環境の整備を行うものをいう。</p>			
取組	一人ひとりの状況に適した支援を行うための生活環境調整等及び伴走型支援の実施			
取組目標	生活環境調整等及び伴走型支援体制の整備	生活環境調整等及び伴走型支援体制の整備	生活環境調整等及び伴走型支援体制の整備	
取組状況評価	B 現状維持			
取組状況	<p>困りごとを把握した場合には、円滑に支援につながるよう、相談窓口の整理をし、チラシを作成・配布したほか、新たにデジタルサイネージにて掲載できるように対応した。</p>			
地域共生社会推進会議評価	B 現状維持			
委員会等評価	B 現状維持			

4-3-2	出所者等の支援関係者等によるケース会議等への参加の推進		福祉政策課
事業概要	福祉的な支援が必要な人に対して適切なサービスを提供できるよう、生活環境調整等におけるケース会議等に参加します。		
取組	支援関係者等が必要に応じてケース会議等へ参加		
取組目標	適宜	適宜	適宜
取組状況評価	B 現状維持		
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・10月14日に東京都の再犯防止事業受託事業者による研修会を実施し、市職員、社会福祉協議会職員及び市内ケアマネジャーの合計20名の関係者が参加することにより、関係者等の連携体制を強化した。 ・上記研修において、福祉的な支援が必要な人が適切なサービスを受けることができず、再犯に至ってしまった事例に関する講義を受けた。 		
地域共生社会推進会議評価	B 現状維持		
委員会等評価	A 進捗している		

4-4	依存症等の出所者等が出所の際、本人の状況に応じて適切な更生保護団体、医療機関につなぐ支援体制の構築を推進します。		担当課
重点取組	4-4-1	依存症等の出所者等のニーズの把握、ニーズを踏まえた支援体制の構築の推進	福祉政策課
	R7		R8
			R9
4-4-1	依存症等の出所者等のニーズの把握、ニーズを踏まえた支援体制の構築の推進		福祉政策課
事業概要	依存症問題を抱える当事者や家族等に対して適切なサービスを提供できるよう、生活環境調整等におけるケース会議等に参加します。		
取組	関係者が必要に応じてケース会議等への参加		
取組目標	ケース会議等への参加	ケース会議等への参加	ケース会議等への参加
取組状況評価	B 現状維持		
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議に参加を求められる案件はなかったが、市職員及び市内事業者合同参加による研修を実施し、顔と顔の見える関係の構築を図った。 ・上記研修において、福祉的な支援が必要な人が適切なサービスを受けることができず、犯罪を犯すに至ってしまった事例を題材に演習を行った。 		
地域共生社会推進会議評価	B 現状維持		
委員会等評価	B 現状維持		

4-5-1	出所者等の家族への支援に向けた体制の構築を推進します。			担当課
重点取組	4-5-1	家族のニーズを踏まえた相談支援機関の情報提供、依存症、障がい等に関する知識習得・理解促進の機会創出の推進		福祉政策課
	R7		R8	R9
4-5-1	家族のニーズを踏まえた相談支援機関の情報提供、依存症、障がい等に関する知識習得・理解促進の機会創出の推進			福祉政策課
事業概要	市職員や市内支援関係者等が、依存症問題を抱える当事者や家族等の相談に応じることができるよう依存症、障がい等に関する知識習得や理解促進に努めます。			
取組	依存症、障がい等に関する知識習得のための研修への参加			
取組目標	適宜	適宜	適宜	
取組状況評価	B 現状維持			
取組状況	東京都が主催する「発達障害の特性と支援」をテーマにした研修に参加した。			
地域共生社会推進会議評価	B 現状維持			
委員会等評価	B 現状維持			
基本目標4に対する地域共生社会推進会議意見				
—	基本目標4に対する意見はありません。			
基本目標4に対する委員会等意見				
4-1-1	今後も保護司宅以外の多様な面接場所の確保が進むことが望ましい。			
4-3-2	記載内容からすると、取組の目標に達しており、進捗していると評価できる。			

基本目標5	多機関で協働して支援に当たる体制の構築		
5-1	再犯防止を推進するための市職員、市内支援関係者等の人的体制の整備を推進します。		担当課
重点取組	5-1-1	刑事司法機関等と連携した市職員、学校関係者、市内支援関係者等向け研修の実施	福祉政策課 指導室
	5-1-2	近隣矯正施設見学会等の推進	福祉政策課
	R7	R8	R9
5-1-1	刑事司法機関等と連携した市職員、学校関係者、市内支援関係者等向け研修の実施		福祉政策課 指導室
事業概要	愛光女子学園との包括協定に基づいて実施する活動を支援します。 愛光女子学園と指導室及び学校が連携を図り、研修会、情報交換会、授業見学等による交流を推進します。		
取組	①愛光女子学園と連携した研修・広報活動の実施、②愛光女子学園と市内小中学校との交流		
取組目標	研修・広報活動及び交流の検討	研修・広報活動及び交流の実施	研修・広報活動及び交流の実施
取組状況評価	A 進捗している		
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・市民まつりにおいて、愛光女子学園の広報ブースの設置を行った。 ・愛光女子学園の職員による特別授業について、狛江第三小学校、緑野小学校で薬物乱用防止教室、狛江第一中学校、狛江第二中学校で職業講話、狛江第四中学校でアサーショントレーニングを実施した。 また、教育委員会事務局による愛光女子学園の研究授業、運動会の参観及び卒業式の参列等、当該施設の理解と関わりを深めた。		
地域共生社会推進会議評価	A 進捗している		
委員会等評価	A 進捗している		

5-1-2	近隣矯正施設見学会等の推進			福祉政策課
事業概要	愛光女子学園との包括協定に基づいて実施する活動を支援します。			
取組	愛光女子学園への見学会等の実施			
取組目標	実施	実施	実施	
取組状況評価	A 進捗している			
取組状況	7月18日に狛江市民生・児童委員が愛光女子学園見学会を実施し、14名が参加し、12月5日に市職員による見学会を実施し、11名が参加した。			
地域共生社会推進会議評価	A 進捗している			
委員会等評価	A 進捗している			

5-2	在所者の出所に向けて矯正施設、刑事司法機関等との連携体制の構築を推進します。			担当課
重点取組	5-2-1	出所者等の支援関係者等によるケース会議等への参加の推進		福祉政策課
	5-2-2	市職員、市内支援関係者等による連携の推進		福祉政策課
5-2-1	出所者等の支援関係者等によるケース会議等への参加の推進			福祉政策課
事業概要	(再掲) 福祉的な支援が必要な人に対して適切なサービスを提供できるよう、生活環境調整等におけるケース会議等に参加します。			
取組	(再掲) 関係者が必要に応じてケース会議等への参加			
取組目標	(再掲) ケース会議等への参加	(再掲) ケース会議等への参加	(再掲) ケース会議等への参加	
取組状況評価	A 進捗している			
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議に参加を求められる案件はなかったが、市職員及び市内事業者合同参加による研修を実施し、顔と顔の見える関係の構築を図った。 ・上記研修において、福祉的な支援が必要な人が適切なサービスを受けることができず、犯罪を犯すに至ってしまった事例を題材に演習を行った。 			
地域共生社会推進会議評価	A 進捗している			
委員会等評価	A 進捗している			
5-2-2	市職員、市内支援関係者等による連携の推進			福祉政策課
事業概要	重層的支援体制整備事業の取組を推進し、包括的相談支援事業による相談の受け止め、多機関協働事業による支援の実施等を行います。			
取組	市職員、市内支援関係者等による相談支援体制の強化			
取組目標	連携体制の強化	連携体制の強化	連携体制の強化	
取組状況評価	A 進捗している			
取組状況	10月14日に東京都の再犯防止事業受託事業者による研修会を実施し、市職員、社会福祉協議会職員及び市内ケアマネジャーの合計20名の関係者が参加することにより、関係者等の連携体制を強化した。			
地域共生社会推進会議評価	A 進捗している			
委員会等評価	A 進捗している			

5-3	出所者等の出所の前後に多機関で協働した支援を推進します。			担当課
重点取組	5-3-1	関係機関とケースに応じた柔軟な居住確保に向けた連携を強化できる仕組みづくりの推進		福祉政策課 まちづくり事業課
	5-3-2	重層的支援体制整備事業の支援会議等を活用した市職員、市内支援関係者等間の連携強化の推進		福祉政策課
	R 7		R 8	R 9
5-3-1	関係機関とケースに応じた柔軟な居住確保に向けた連携を強化できる仕組みづくりの推進			福祉政策課 まちづくり事業課
事業概要	(再掲) 相談者である出所者等を含む住宅確保要配慮者に対して、委託している居住支援団体が協力関係にある地元不動産仲介事業者が有する民間賃貸住宅の物件情報とのマッチングを行います。			
取組	(再掲) 住まい探しの相談窓口の実施・(再掲) 相談者の解決率(前年度に受付した相談の解決率)			
取組目標	(再掲) 住まい探しの相談窓口の実施及び伴走支援	(再掲) 住まい探しの相談窓口の実施及び伴走支援	(再掲) 住まい探しの相談窓口の実施及び伴走支援	(再掲) 住まい探しの相談窓口の実施及び伴走支援
取組状況評価	B 現状維持			
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月第1火曜日に「住まい探しの相談窓口」を実施した。住宅を借りる際の困りごととして、「出所者等であること」を挙げた方はいなかった。なお、相談者の解決率は実施計画の目標として掲げた55%に対し、54%(前年度比+4ポイント)の達成となった。 ・居住支援協議会に新たに居住支援法人が加入したため、よりマッチングに資する体制を整えた。 			
地域共生社会推進会議評価	B 現状維持			
委員会等評価	B 現状維持			

5-3-2	重層的支援体制整備事業の支援会議等を活用した市職員、市内支援関係者等間の連携強化の推進			福祉政策課
事業概要	複雑化・複合化した事例について、市職員、市内支援関係者等間で重層的支援会議等を開催し、支援を行います。			
取組	複雑化・複合化した課題に対応した重層的支援会議等の開催			
取組目標	適宜	適宜	適宜	
取組状況評価	B 現状維持			
取組状況	支援が必要な方に対し、支援会議を2回開催したが、出所者等であることが課題となっているケースは発生しなかった。			
地域共生社会推進会議評価	B 現状維持			
委員会等評価	B 現状維持			
基本目標5に対する地域共生社会推進会議意見				
—	基本目標5に対する意見はありません。			
基本目標5に対する委員会等意見				
	研修等を通じて知識を深めるとともに直接的な交流を進めることは、事案が発生した際の対応を円滑に進めるために重要であることから、各種取組を継続していることは評価できる。			

狛江市の福祉に関する調査
集計結果報告書

(案)

令和8年〇月

狛江市

目次

第1章 調査の目的と構成

1 調査の目的.....	3
2 調査の概要.....	3
3 報告書を読むにあたっての留意点.....	4

第2章 市民一般調査

調査結果概要.....	7
調査結果.....	10
1 本人の基本情報.....	10
2 社会とのつながり・社会的孤立について.....	27
3 外出（ひきこもり）の状況について.....	65
4 避難行動要支援者支援について.....	69
5 単身高齢者等支援について.....	78
6 重層的支援体制整備について.....	83
7 手話について.....	86
8 地域の支え合いについて.....	88
まとめ.....	102



第1章 調査の目的と構成

1 調査の目的

本調査は、「狛江市第1次地域共生社会推進基本計画」（令和6年度～令和11年度）等の中間見直しの検討や福祉に関する市の計画である「狛江市第8期障がい福祉計画・第4期障がい児福祉計画」（令和9年度～令和11年度）、「狛江市高齢者保健福祉計画・第10期介護保険事業計画」（令和9年度～令和11年度）の策定を進めるにあたり、生活状況やサービスの利用状況等をうかがい、サービスの不足や課題の把握と今後の施策の検討と高齢者福祉施策を推進していくための基礎資料とするため実施したものです。

2 調査の概要

郵送法及びWEBによる5種類のアンケート調査を実施しました。

市民一般調査	
調査対象者	令和7年11月1日時点で満16歳以上の市民 72,255人
調査方法	WEBによる調査
調査期間	令和7年12月1日（月）から令和8年1月5日（月）まで
回収数（回収率）	1,557票（2.2%）
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	
調査対象者	65歳以上の市民の方の中から無作為に抽出した 900人
調査方法	郵送による調査
調査期間	令和7年12月1日（月）から12月22日（月）まで
回収数（回収率）	646票（71.8%）
在宅介護実態調査	
調査対象者	要介護認定を受けている方（ただし、医療機関・施設等へ入所されている方を除く）のうち、介護保険要介護認定更新申請等に伴う認定を、令和6年10月から令和7年10月までの間に受けた方 600人
調査方法	郵送による調査
調査期間	令和7年12月1日（月）から12月22日（月）まで
回収数（回収率）	410票（68.3%）

障がいのある方・難病のある方（18歳以上）調査

調査対象者

障害者総合支援法に基づくサービスを利用している方、難病や自立支援の医療助成を受けている方などの中から無作為に抽出した 700人

調査方法

郵送による調査

調査期間

令和7年12月1日（月）から12月22日（月）まで

回収数（回収率）

338票（48.3%）

周囲の理解と支援の必要な方・障がいのある方等（18歳未満）調査

調査対象者

児童福祉法に基づくサービスを利用している方、医療助成を受けている方などの中から無作為抽出した 300人

調査方法

郵送による調査

調査期間


令和7年12月1日（月）から12月22日（月）まで

回収数（回収率）

142票（47.3%）

3 報告書を読むにあたっての留意点

- 「調査結果」の図表は、原則として回答者の構成比（百分率）で表現しています。
- 「n」は、「Number of case」の略で、構成比算出の母数を示しています。
- 百分率による集計では、回答者数（該当設問においては該当者数）を100%として算出し、本文及び図表の数字に関しては、すべて小数第2位以下を四捨五入し、小数第1位までを表記します。このため、すべての割合の合計が100%にならないことがあります。また、複数回答（2つ以上選ぶ問）の設問では、すべての割合の合計が100%を超えることがあります。
- 図表中の「0.0」は四捨五入の結果又は、回答者が皆無であることを表します。
- クロス集計の結果、項目の順位が全体集計と変わることがあります。
- 図表の記載にあたり調査票の設問文、グラフ及び文章中の選択肢を一部簡略化している場合があります。
- クロス集計グラフでは、見やすさを優先し「0.0%」や1%未満の数値表示を省略しているものがあります。



第2章 市民一般調査

■本人の基本情報について

- 回答者は女性が約6割、男性が約4割で、年齢層は50～70歳代が中心で、特に60歳代が最多で前回調査より高齢層の割合が増加。【問1 問2】
- 持ち家率が高く、一戸建てが約半数。居住歴は「30年以上」が4割超。【問4 問11】
- 既婚者（配偶者あり）は約7割だが、前回調査より減少。同居者は「配偶者」「子ども」が中心で、ひとり暮らし世帯は約2割で前回調査より増加。【問5 問6】
- 学歴は大学卒が半数を占め、就業状況は「正規雇用」が最多だが、「仕事をしていない」層も約4分の1。【問9 問10】
- 世帯年収は比較的幅広いが、中間～高所得層も一定数存在し、高齢層ほど低所得傾向、若中年層ほど高所得傾向がみられる。【問12】
- コミュニケーションに使用する情報通信機器は携帯電話・スマートフォンが99%。【問13】

■社会とのつながり・社会的孤立について

- 別居家族や友人とは直接の会話、電話は「月1回未満」が多い一方、SNSや電子メールは「週4～5回以上」が最多。【問14】
- 同居家族との直接の会話は、「週4～5回以上」が7割超。SNSや電子メールでも「週4～5回以上」が約4割で最多。【問15】
- 「重要な事柄の相談」や「感情の共有」では7～8割が頼れる人がいる一方、「介護」「お金の援助」「保証人」などでは「頼れる人がいない」層も一定数存在する。また、すべての事柄で頼れる相手は「家族・親族」が最多【問16】
- 行政やNPOなどの支援を受けていない人が約9割で、その理由の大半は「支援が必要ないため」。一方、支援を受けている人は、行政機関からの「相談支援」「経済支援」が中心。【問17 問17-1 問17-2 問17-3】
- 孤独感を「感じない」と「あまり感じない」の合計は約75%。ただし約2割は孤独感を感じている。特にひとり暮らし、未婚、社会的孤立該当者、所得の低い層で孤独感が高い傾向。また、孤立死を「身近な問題」と感じる人は過半数。特に若年層、ひとり暮らし世帯、未婚の層で孤独死への不安感が高い傾向。【問20 問21】
- 会やグループへの参加状況は、参加町会・自治会、ボランティア、地域サロンなどは「参加する予定はない」が多数の一方、趣味活動や同じ学校出身のグループは「1年以上前から参加」が約3割。年齢が高くなるほど地域活動の参加率が高い傾向。【問19】

■外出（ひきこもり）の状況について

- 約13%が「身近にひきこもり状態の人がいる」【問22】
- 対象は家族・親族が多数で、年齢は20歳未満から50代まで。【問23 問24】
- 交流の状況は「家族以外との交流がない」が最多。【問26】
- 半数は、「決まった目的のときだけ外出」し、その状況が5年以上継続しているケースが半数以上。【問26 問27】
- その状態になった要因は多い順に「疾病や障がい（精神的なもの）」、「不登校（中学校）」、「学校や職場でのいじめや疎外感」、「不登校（小学校）」だが、約2割は「きっかけがわからない」。【問28】

■避難行動要支援者支援について

- 災害時の情報収集ツールは「スマートフォン・携帯電話」が約9割、「テレビ」が約8割。
【問29】
- 約7割が災害発生の際に安否確認や避難支援してくれる人がおり、その支援者は主に同居・近居親族。ただし、ひとり暮らし、未婚、社会的孤立該当者の層では支援者が「いない」が多数。【問30 問30-1】
- 防災ラジオは「無償なら希望」が最多だが、約3割「希望しない」。【問31】
- 避難のきっかけは多い順に、「市職員、消防職員・団員、町内会役員等による避難広報呼びかけ」、「近所の人から避難を開始したことを確認したとき」、「直接、誰かに避難を呼びかけられたとき」【問32】
- 災害時には地域のためにできる協力は多い順に、「安否確認」、「安全な場所への避難の手助け」、「災害状況や避難情報の伝達」【問33】
- 協力できない人のその理由は多い順に、「近所付き合いがあまりない」、「家族にもお年寄りや乳幼児等がいるので、近所まで手が回らない」、「避難行動要支援者がどこにいるかわからない」【問33-1】
- 避難行動要支援者の対策として行政への期待することは、「地域での協力体制づくり」が最多【問34】

■単身高齢者等支援について

- 万一の時に頼れるのは、「別居の家族・親族」、「同居の家族・親族」が約6割【問35】
- 頼れる人がいない場合にあれば安心な支援は、約5～6割は「病院への通院の付き添いや、入退院時の手伝いをしてくれるサービス」、「生活費等の金銭管理や日常のちょっとした困りごとの手伝いや見守りをしてくれるサービス」、「施設に入所するなど住むことに関するサービスについて相談できる窓口」で、月に3,000円までの自己負担なら利用したい人が3割超だが、所得の低い層では「費用がかかるなら利用しない」が多数。【問36 問37】
- あんしん未来事業（単身高齢者等支援事業）の認知度は6.1%【問38】

■重層的支援体制整備について

- 重層的支援体制整備事業の推進に向けて特に力を入れるべき取り組みは多い順に、「だれもが必要とした時に、社会とのつながりを持つことができるようにするための支援」、「属性や世代を問わず、相談や悩みを断らずに受け止める体制」、「複雑化・複合化した課題に対応するための支援機関をつなぐ仕組み」、「これまで支援が届いていなかった人に、必要な支援を届けるための体制」【問39】
- 社会福祉サービスを充実させるには「福祉に関する課題については、行政も住民も協力し合い、ともに取り組む」が約6割【問40】

■手話について

- 手話の認知度は95%と非常に高く、「手話は言語」である認識も9割超。【問41 問42】
- 手話を「ぜひ覚えてみたい」、「機会があれば学びたい」が約7割。【問43】

■地域の支え合いについて

- 住民同士の自主的なささえあい、たすけあいの関係が「必要」と思う人が約7割。【問45】
- 近所づきあいは「会えばあいさつする程度」が約4割、「助け合うまではいかないが、親しく話をしている人がいる」が約2割、「つきあいはほとんどない」は約1割で緩やかな関係性が中心となっている。【問44】
- 地域住民の有志の活動に企画・運営（お世話役）としての参加意向は、半数は「わからない」、「参加したい」は約3割。【問46】
- 地域活動・ボランティア活動等の意向は、「機会があれば、取り組んでもよい」が約4割。【問47】

調査結果

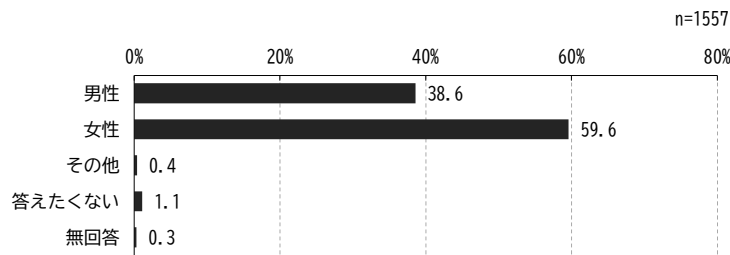
1 本人の基本情報

問1 あなたの性別をお答えください。

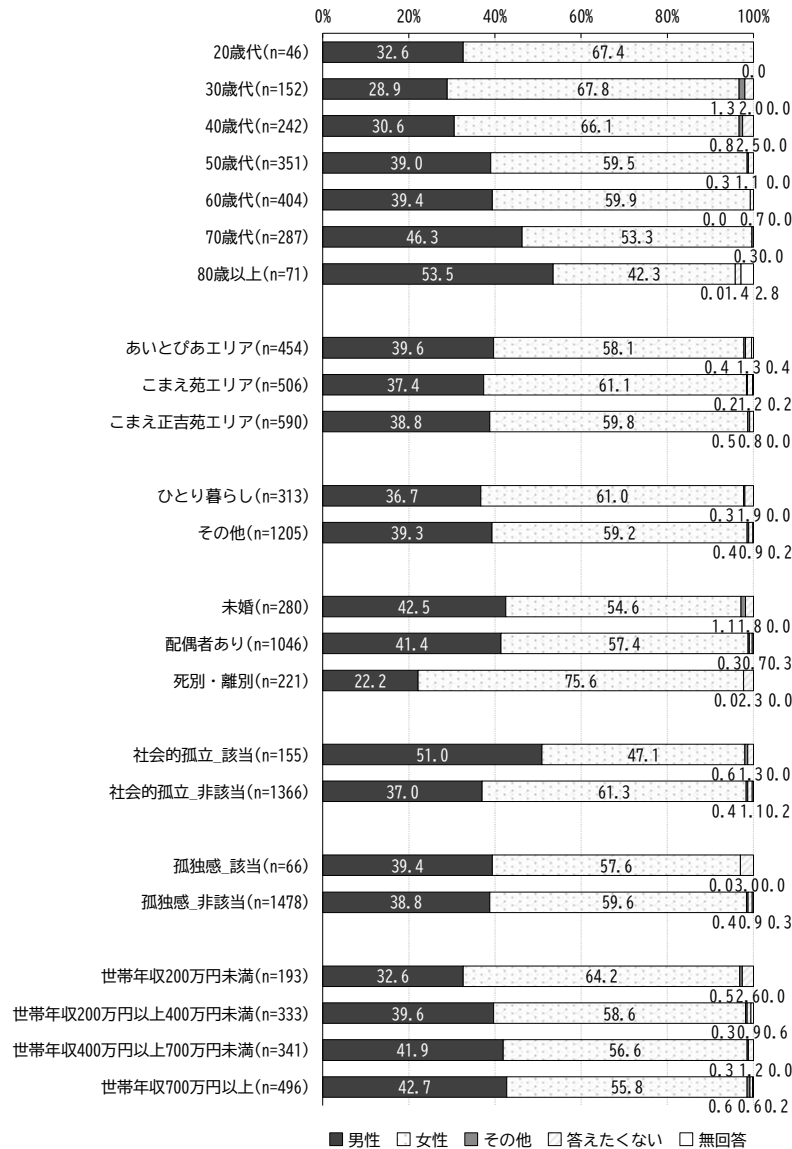
「女性」が59.6%と最も多く、次いで「男性」が38.6%、「答えたくない」が1.1%、「その他」が0.4%となっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「男性」の割合が高くなる傾向がみられます。また、婚姻状況別では、死別・離別で「女性」の割合が高く、社会的孤立別では、該当で「男性」の割合が高くなっています。

世帯年収別では、世帯年収が高くなるほど「男性」の割合が高くなっています。



<年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>



問2 令和7年11月1日現在のあなたの年齢をお答えください。

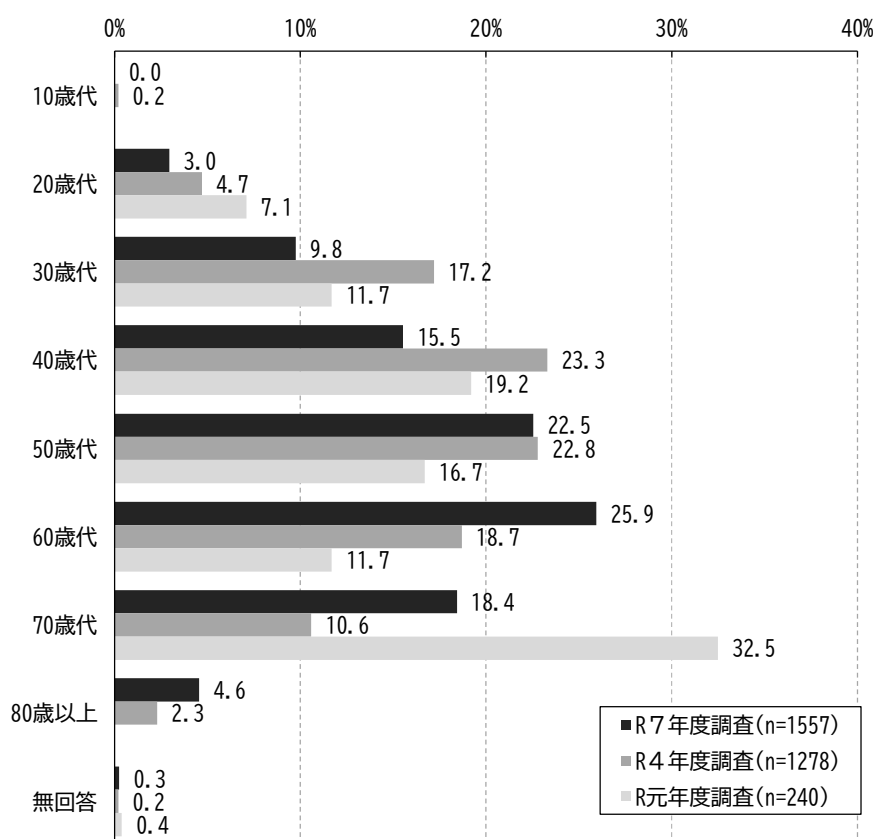
「60歳代」が25.9%と最も多く、次いで「50歳代」が22.5%、「70歳代」が18.4%、「40歳代」が15.5%、「30歳代」が9.8%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「30歳代」が7.4ポイント、「40歳代」が7.8ポイント少なく、「60歳代」が7.2ポイント、「70歳代」が7.8ポイント多くなっています。

クロス集計の結果をみると、居住エリア別では、あいとぴあエリアで「20歳代」「30歳代」の割合が高く、こまえ正吉苑エリアで「60歳代」「70歳代」の割合が高くなっています。

婚姻状況別では、未婚で「20歳代」「30歳代」の割合が高く、死別・離別では「60歳代」から「80歳代」の割合が高くなっています。

世帯年収別では、400万円以上で「30歳代」から「50歳代」の割合が高く、400万円未満で「60歳代」から「80歳代」の割合が高くなっています。



※令和元年は「70歳以上」

<性別・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>



問3 あなたがお住まいの地域はどちらですか。

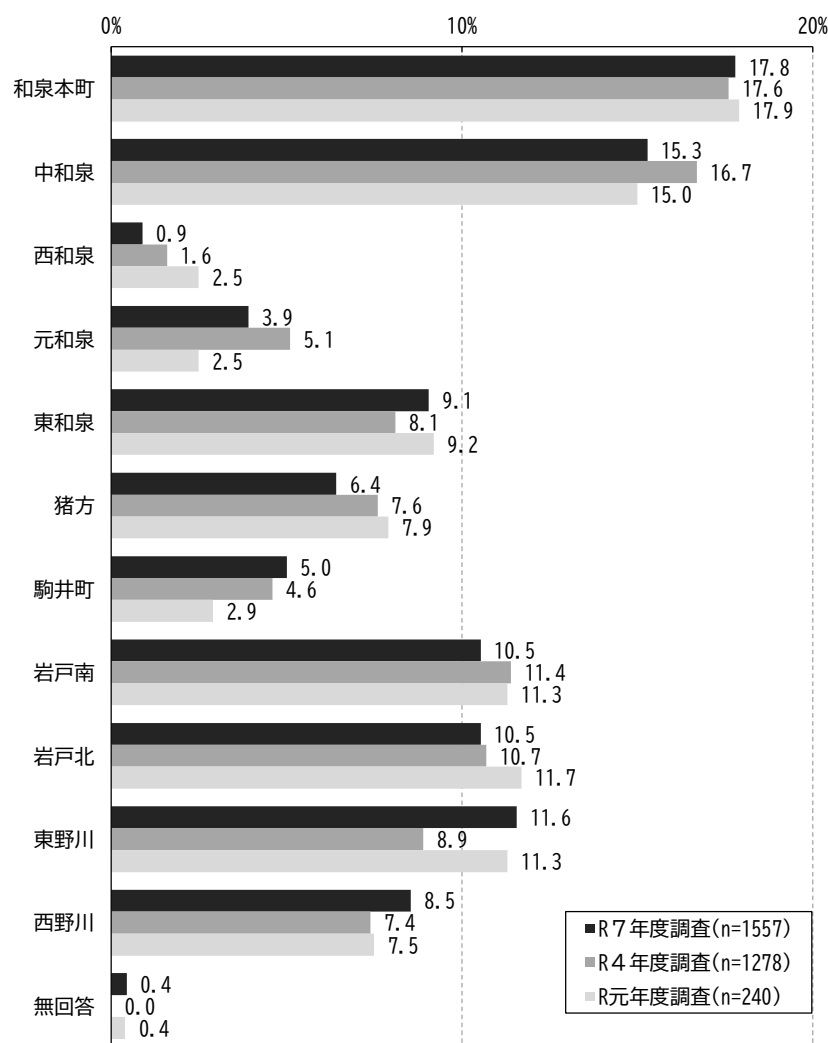
「和泉本町」が17.8%と最も多く、次いで「中和泉」が15.3%、「東野川」が11.6%、「岩戸南」及び「岩戸北」が10.5%となっています。

居住エリア別では、「こまえ正吉苑エリア」が37.9%、「こまえ苑エリア」が32.5%、「あいとぴあエリア」が29.2%となっています。

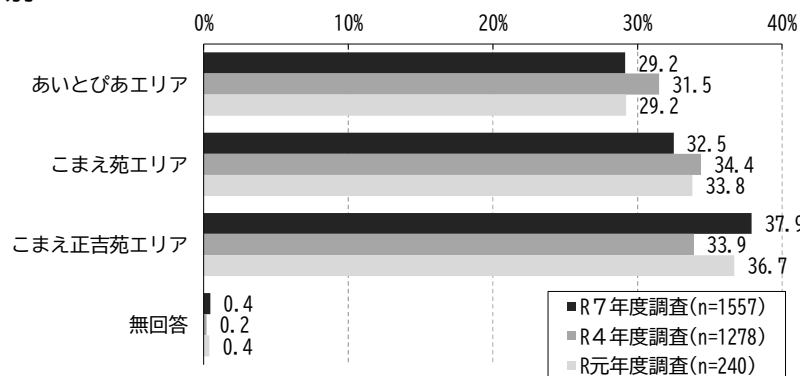
居住エリア別結果を前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「こまえ正吉苑エリア」は4.0ポイント多くなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、20歳代、30歳代は「あいとぴあエリア」の割合が高く、70歳代、80歳代は「こまえ正吉苑エリア」の割合が高くなっています。

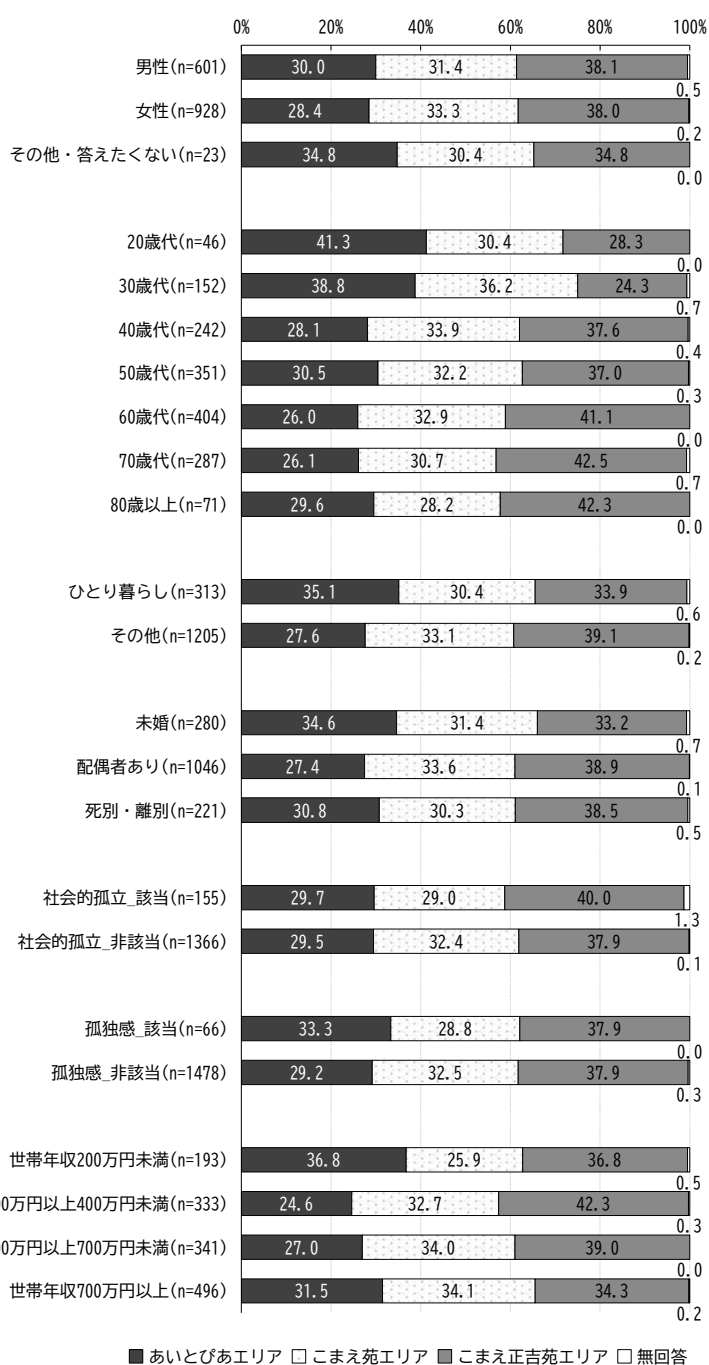
家族構成別では、ひとり暮らしは「あいとぴあエリア」の割合が高く、その他は「こまえ正吉苑エリア」の割合が高くなっています。



<居住エリア別>



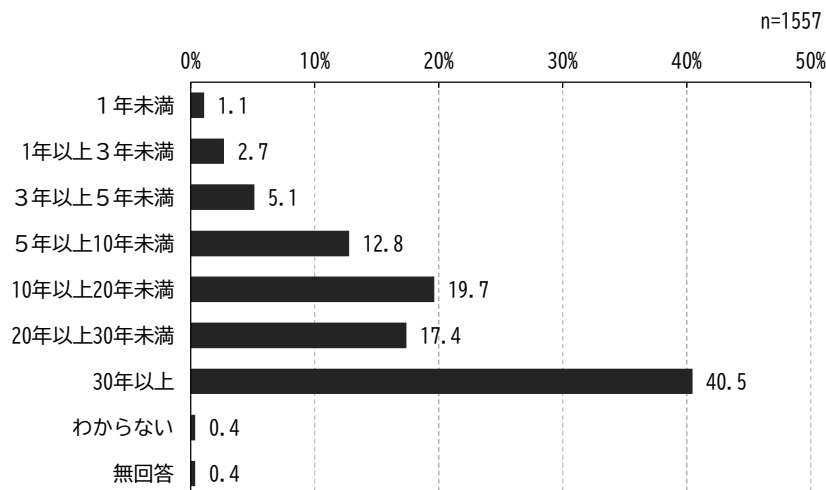
<性別・年齢・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>



問4 あなたは狛江市に住み始めて何年目ですか。

「30年以上」が40.5%と最も多く、次いで「10年以上20年未満」が19.7%、「20年以上30年未満」が17.4%、「5年以上10年未満」が12.8%、「3年以上5年未満」が5.1%となっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「30年以上」の割合が高く、世帯年収別では、世帯年収が高くなるほど「10年以上30年未満」の割合が高く「30年以上」の割合が低くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

	1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上30年未満	30年以上	わからない	無回答
男性(n=601)	0.8	2.5	3.5	11.6	20.6	17.5	42.9	0.3	0.2
女性(n=928)	1.3	2.8	6.0	13.4	19.1	17.7	39.0	0.4	0.3
その他・答えたくない(n=23)	0.0	4.3	8.7	21.7	17.4	8.7	39.1	0.0	0.0
20歳代(n=46)	10.9	26.1	21.7	13.0	6.5	21.7	0.0	0.0	0.0
30歳代(n=152)	3.3	9.2	17.8	31.6	20.4	3.3	13.8	0.0	0.7
40歳代(n=242)	0.8	2.9	8.7	24.4	39.7	8.7	14.0	0.8	0.0
50歳代(n=351)	0.3	1.7	2.8	8.0	22.2	33.3	31.3	0.3	0.0
60歳代(n=404)	1.0	0.2	1.7	8.7	13.4	18.3	55.9	0.7	0.0
70歳代(n=287)	0.0	0.7	1.0	7.3	12.5	13.6	64.5	0.0	0.3
80歳以上(n=71)	0.0	0.0	2.8	2.8	8.5	7.0	76.1	0.0	2.8
あいとびあエリア(n=454)	1.5	3.1	5.9	14.8	20.0	16.3	37.9	0.4	0.0
こまえ苑エリア(n=506)	1.2	2.2	5.9	13.2	17.4	18.4	40.7	0.6	0.4
こまえ正吉苑エリア(n=590)	0.7	2.9	3.9	10.8	21.5	17.5	42.4	0.2	0.2
ひとり暮らし(n=313)	2.2	2.9	6.4	20.1	20.4	10.2	36.7	0.3	0.6
その他(n=1205)	0.7	2.7	4.6	11.0	19.6	19.6	41.2	0.4	0.1
未婚(n=280)	1.8	2.9	6.1	18.2	17.9	13.6	38.9	0.7	0.0
配偶者あり(n=1046)	0.9	2.9	5.1	11.6	21.1	19.5	38.5	0.4	0.1
死別・離別(n=221)	1.4	1.8	4.5	11.3	15.4	12.7	52.0	0.0	0.9
社会的孤立 該当(n=155)	1.9	1.3	3.9	18.7	24.5	14.2	34.8	0.0	0.6
社会的孤立 非該当(n=1366)	1.0	2.9	5.3	12.1	19.3	17.9	40.8	0.4	0.1
孤独感 該当(n=66)	1.5	6.1	10.6	12.1	15.2	13.6	37.9	1.5	1.5
孤独感 非該当(n=1478)	1.0	2.6	4.9	12.9	19.8	17.7	40.7	0.3	0.2
世帯年収200万円未満(n=193)	2.1	1.6	4.1	13.0	18.7	14.0	45.6	1.0	0.0
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	0.3	1.5	5.1	10.5	14.4	12.6	54.7	0.6	0.3
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	1.5	2.1	5.3	14.7	15.8	17.3	43.1	0.0	0.3
世帯年収700万円以上(n=496)	0.8	4.2	6.0	14.3	25.8	22.0	26.4	0.2	0.2

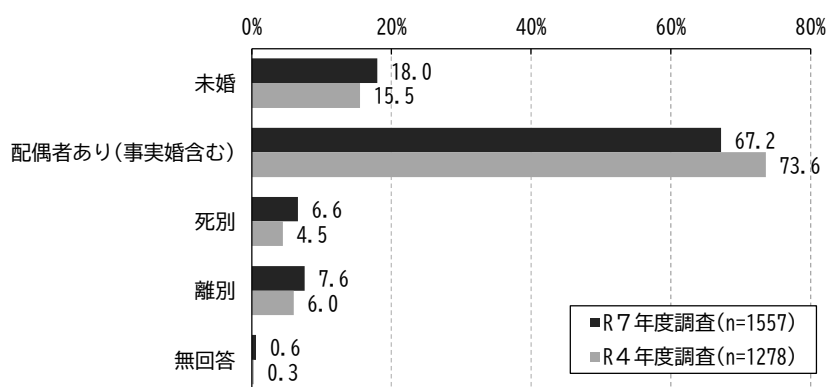
問5 あなたの現在の婚姻状況をお答えください。

「配偶者あり（事実婚含む）」が67.2%と最も多く、次いで「未婚」が18.0%、「離別」が7.6%、「死別」が6.6%となっています。

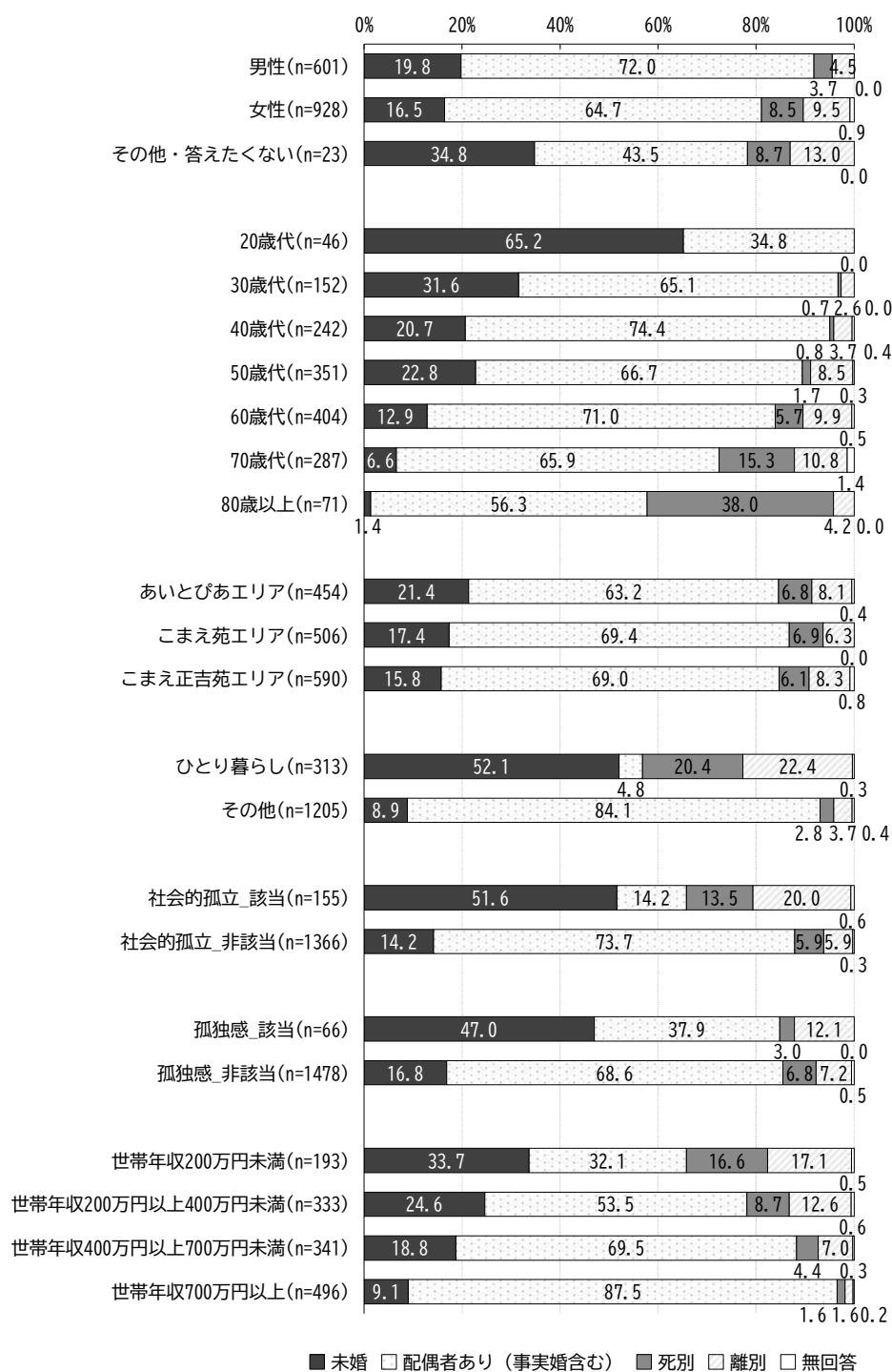
前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「配偶者あり（事実婚含む）」は6.4ポイント低くなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「未婚」の割合が低くなっています。また、家族構成のひとり暮らし、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当で「未婚」の割合が高くなっています。

世帯年収別では、世帯年収が高くなるほど「配偶者あり（事実婚含む）」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>



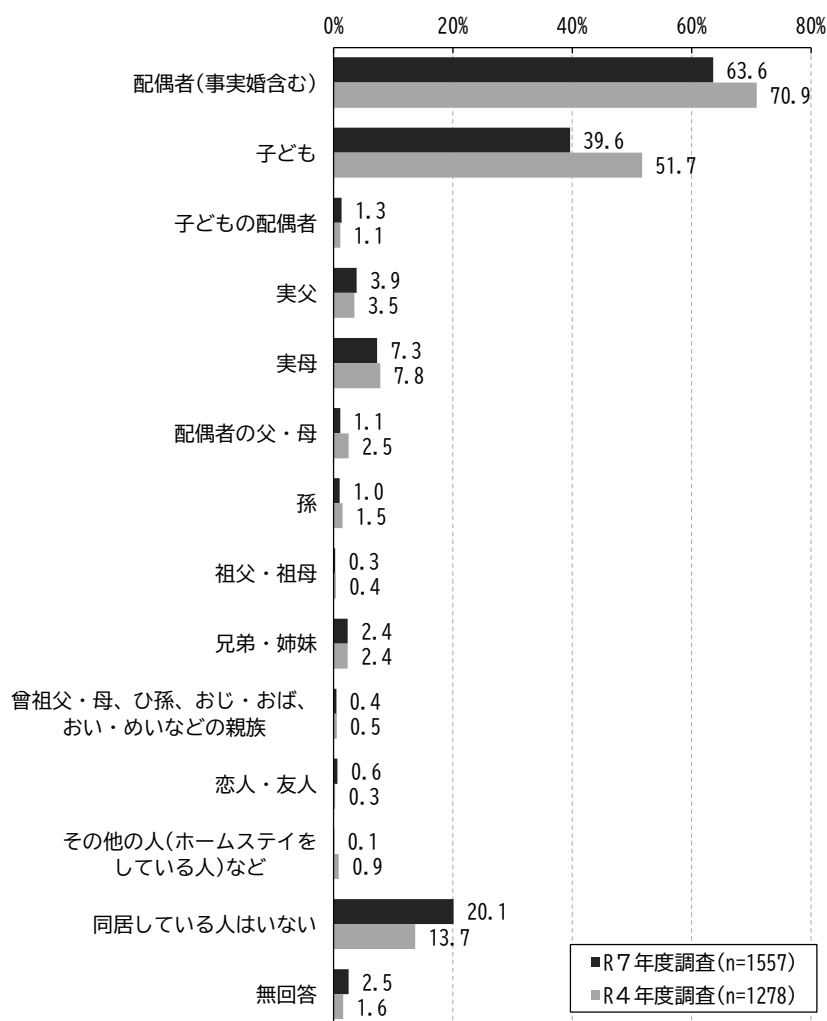
問6 現在あなたと同居している人はどなたですか。(複数回答)

「配偶者(事実婚含む)」が63.6%と最も多く、次いで「子ども」が39.6%、「同居している人はいない」が20.1%、「実母」が7.3%、「実父」が3.9%となっています。

前回調査(令和4年度調査)と比較すると、「配偶者(事実婚含む)」が7.3ポイント、「子ども」が12.1ポイント少なく、「同居している人はいない」が12.1ポイント多くなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、20歳代、80歳代で「同居している人はいない」の割合が高くなっています。また、社会的孤立別の該当で「同居している人はいない」の割合が高くなっています。

世帯年収別では、世帯年収が高くなるほど「同居している人はいない」の割合が低くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

	配偶者（事実婚含む）	子ども	子どもの配偶者	実父	実母	配偶者の父・母	孫
男性(n=601)	69.6	37.8	1.3	3.3	6.2	0.5	1.0
女性(n=928)	60.5	41.1	1.4	4.2	7.9	1.5	1.1
その他・答えたくない(n=23)	39.1	39.1	0.0	4.3	17.4	0.0	0.0
20歳代(n=46)	34.8	13.0	0.0	21.7	28.3	0.0	0.0
30歳代(n=152)	63.8	54.6	0.7	7.9	10.5	2.0	0.0
40歳代(n=242)	72.3	64.5	0.8	4.1	6.6	1.2	0.0
50歳代(n=351)	63.2	48.7	0.6	6.6	11.7	2.0	0.3
60歳代(n=404)	66.3	31.4	1.7	1.2	5.9	0.7	1.0
70歳代(n=287)	61.3	22.6	2.1	0.0	1.4	0.3	2.8
80歳以上(n=71)	49.3	12.7	4.2	0.0	0.0	0.0	4.2
あいとびあエリア(n=454)	59.3	37.4	2.0	4.2	6.8	1.8	2.0
こまえ苑エリア(n=506)	65.6	39.5	0.8	4.5	9.1	0.8	0.6
こまえ正吉苑エリア(n=590)	65.8	41.9	1.4	3.1	6.3	0.8	0.7
未婚(n=280)	0.0	2.5	0.0	16.4	28.9	0.4	0.0
配偶者あり(n=1046)	94.3	51.9	1.4	0.7	1.6	1.5	1.0
死別・離別(n=221)	0.5	29.0	2.7	3.2	7.2	0.0	2.7
社会的孤立 該当(n=155)	9.7	7.7	1.3	0.6	1.3	0.6	0.0
社会的孤立 非該当(n=1366)	70.5	44.0	1.4	4.3	8.2	1.2	1.2
孤独感 該当(n=66)	33.3	24.2	0.0	4.5	15.2	1.5	0.0
孤独感 非該当(n=1478)	65.3	40.5	1.4	3.9	7.0	1.1	1.1
世帯年収200万円未満(n=193)	28.0	20.2	1.6	3.1	9.3	1.0	1.0
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	49.5	21.9	0.6	2.1	6.3	0.0	1.2
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	64.8	36.4	0.9	5.6	9.1	1.5	0.9
世帯年収700万円以上(n=496)	86.1	58.3	1.0	3.0	5.2	1.4	0.2

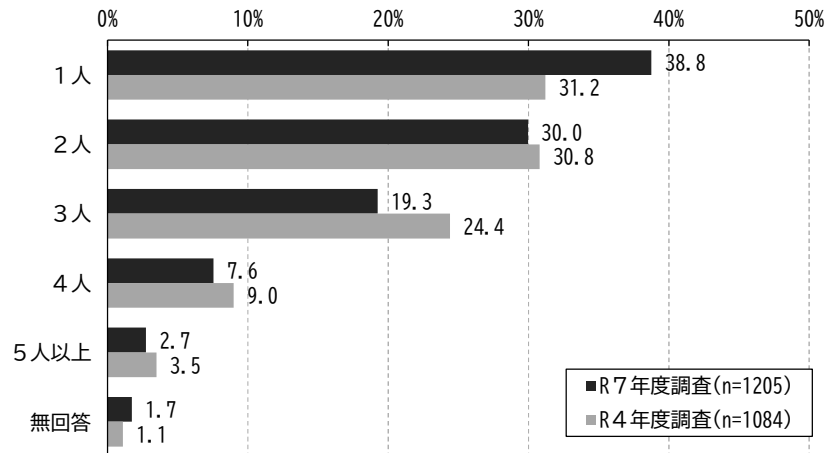
	祖父・祖母	兄弟・姉妹	曾祖父・母、ひ孫、おじ・おば、おい・めいなどの親族	恋人・友人	その他の人（ホームステイをしている人）など	同居している人はいない	無回答
男性(n=601)	0.2	3.0	0.2	0.5	0.3	19.1	2.0
女性(n=928)	0.3	1.8	0.5	0.8	0.0	20.6	2.6
その他・答えたくない(n=23)	0.0	8.7	4.3	0.0	0.0	30.4	0.0
20歳代(n=46)	6.5	6.5	0.0	0.0	0.0	32.6	2.2
30歳代(n=152)	0.7	3.9	1.3	1.3	0.0	19.7	1.3
40歳代(n=242)	0.0	2.1	0.0	1.2	0.0	13.6	1.2
50歳代(n=351)	0.0	4.0	0.9	0.3	0.0	14.5	0.9
60歳代(n=404)	0.0	0.7	0.2	0.5	0.0	20.5	3.0
70歳代(n=287)	0.0	2.1	0.3	0.7	0.3	25.1	4.2
80歳以上(n=71)	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	40.8	4.2
あいとびあエリア(n=454)	0.2	2.9	0.4	0.4	0.0	24.2	2.4
こまえ苑エリア(n=506)	0.4	2.6	0.6	0.4	0.2	18.8	2.4
こまえ正吉苑エリア(n=590)	0.2	1.9	0.3	0.8	0.2	18.0	2.2
未婚(n=280)	1.4	9.3	1.1	2.9	0.0	58.2	3.6
配偶者あり(n=1046)	0.0	0.6	0.3	0.0	0.2	1.4	1.6
死別・離別(n=221)	0.0	2.3	0.5	0.5	0.0	60.6	3.6
社会的孤立 該当(n=155)	0.0	1.3	0.6	0.0	0.0	84.5	1.3
社会的孤立 非該当(n=1366)	0.3	2.4	0.4	0.7	0.1	13.1	1.4
孤独感 該当(n=66)	0.0	3.0	1.5	0.0	1.5	37.9	4.5
孤独感 非該当(n=1478)	0.3	2.4	0.4	0.7	0.1	19.4	2.0
世帯年収200万円未満(n=193)	0.5	1.6	2.6	2.6	0.0	44.0	4.7
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	0.3	2.4	0.0	0.6	0.3	33.0	3.0
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	0.0	3.2	0.3	0.9	0.0	16.4	2.9
世帯年収700万円以上(n=496)	0.2	1.4	0.2	0.0	0.0	7.5	0.2

【問6で「1」～「12」（同居している人がある）と回答した方】

問7 あなたと同居している人は合計で何人ですか。あなた以外の人数をお答えください。

「1人」が38.8%と最も多く、次いで「2人」が30.0%、「3人」が19.3%、「4人」が7.6%、「5人以上」が2.7%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「1人」が7.6ポイント多く、「3人」が5.1ポイント少なくなっています。

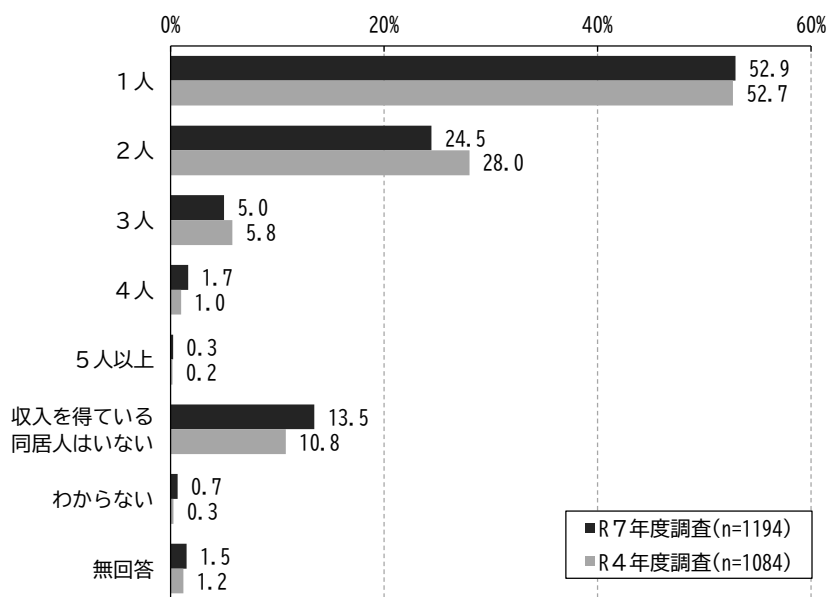


【問6で「1」～「10」（同居している親族がいる）と回答した方】

問8 あなたと同居している人のうち、収入を得ている人は合計で何人ですか。あなた以外の人数をお答えください。

「1人」が52.9%と最も多く、次いで「2人」が24.5%、「収入を得ている同居人はいない」が13.5%、「3人」が5.0%、「4人」が1.7%となっています。

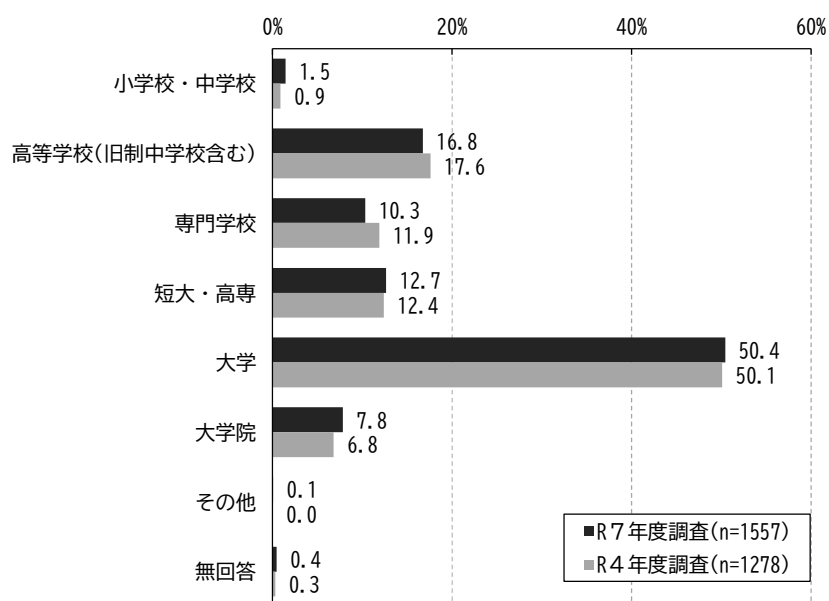
前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「2人」が3.5ポイント少なく、「収入を得ている同居人はいない」が2.7ポイント少なくなっています。



問9 あなたが最後に卒業した学校又は現在、在学している学校をお答えください。

「大学」が50.4%と最も多く、次いで「高等学校（旧制中学校含む）」が16.8%、「短大・高専」が12.7%、「専門学校」が10.3%、「大学院」が7.8%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。



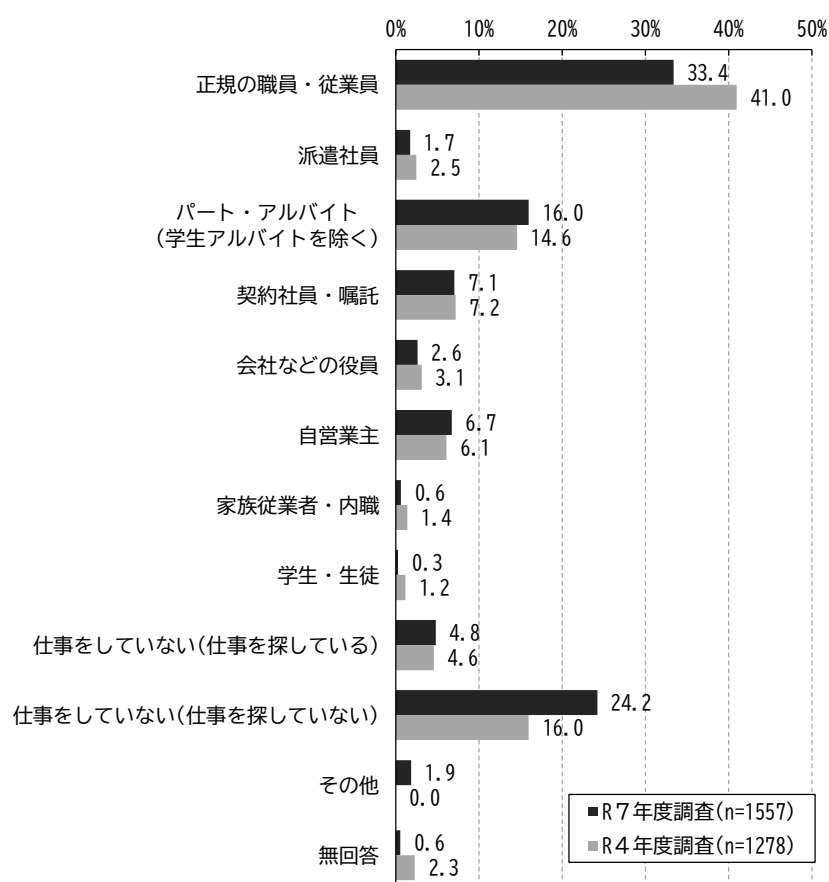
問10 あなたの現在の仕事をお答えください。

「正規の職員・従業員」が33.4%と最も多く、次いで「仕事をしていない(仕事を探していない)」が24.2%、「パート・アルバイト(学生アルバイトを除く)」が16.0%、「契約社員・嘱託」が7.1%、「自営業主」が6.7%となっています。

前回調査(令和4年度調査)と比較すると、「正規の職員・従業員」が7.6ポイント少なく、「仕事をしていない(仕事を探していない)」が8.2ポイント多くなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「正規の職員・従業員」の割合が低く、「仕事をしていない(仕事を探していない)」の割合が高くなっています。また、60歳代までは年齢が上がるにつれ「パート・アルバイト(学生アルバイトを除く)」の割合が高くなっています。

世帯年収別では、世帯年収が高くなるほど「正規の職員・従業員」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>

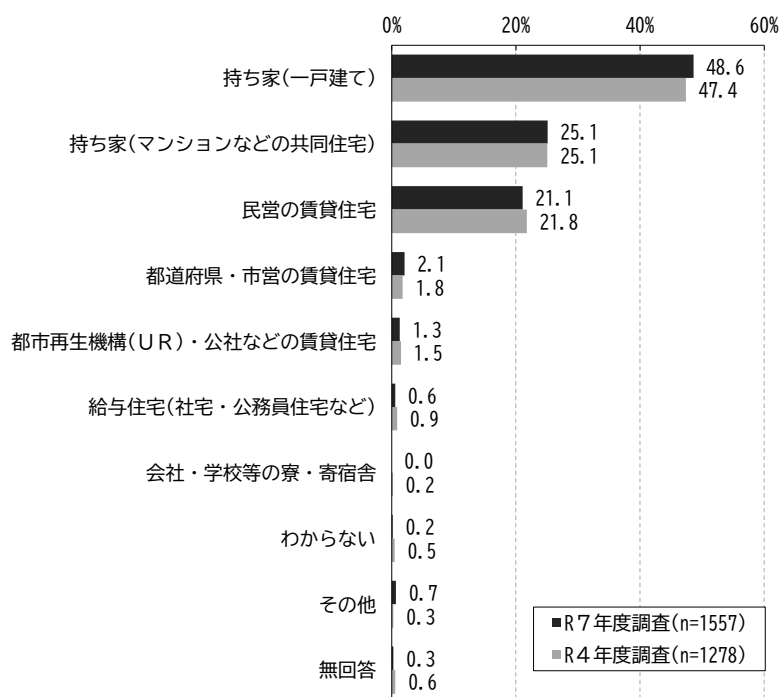
	正規の職 員・従業員	派遣社員	パート・ア ルバイト (学生アル バイトを除 く)	契約社員・ 嘱託	会社などの 役員	自営業主
男性(n=601)	40.1	0.8	6.7	7.2	4.3	9.5
女性(n=928)	29.1	2.3	22.4	7.1	1.5	4.6
その他・答えたくない(n=23)	39.1	4.3	0.0	4.3	4.3	21.7
20歳代(n=46)	78.3	0.0	2.2	0.0	0.0	2.2
30歳代(n=152)	74.3	0.7	10.5	4.6	0.7	3.3
40歳代(n=242)	56.2	3.3	15.7	3.7	0.8	7.0
50歳代(n=351)	49.9	2.6	17.9	6.8	3.1	6.6
60歳代(n=404)	14.6	1.7	23.0	13.1	4.5	7.7
70歳代(n=287)	0.3	0.7	12.9	5.9	3.1	8.7
80歳以上(n=71)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2
あいとびあエリア(n=454)	33.0	1.3	16.1	9.3	3.1	7.3
こまえ苑エリア(n=506)	34.4	2.0	17.8	6.5	2.4	7.3
こまえ正吉苑エリア(n=590)	32.9	1.9	14.6	5.9	2.5	5.8
ひとり暮らし(n=313)	31.3	1.0	12.8	6.7	1.6	7.3
その他(n=1205)	34.5	1.9	16.9	7.4	3.0	6.5
未婚(n=280)	48.9	1.8	10.7	7.5	1.1	7.1
配偶者あり(n=1046)	33.2	2.0	17.6	6.9	3.2	6.5
死別・離別(n=221)	15.8	0.5	15.8	7.2	2.3	7.7
社会的孤立 該当(n=155)	29.7	1.9	18.1	4.5	1.9	9.0
社会的孤立 非該当(n=1366)	34.2	1.7	15.5	7.4	2.8	6.5
孤独感 該当(n=66)	34.8	1.5	15.2	7.6	0.0	3.0
孤独感 非該当(n=1478)	33.4	1.7	16.0	7.1	2.8	6.8
世帯年収200万円未満(n=193)	3.6	1.0	24.4	3.6	1.0	9.3
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	17.7	1.8	15.0	11.1	0.6	7.8
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	39.9	2.1	14.7	10.0	2.6	5.9
世帯年収700万円以上(n=496)	56.9	1.8	11.7	4.6	4.8	6.5
	家族従業 者・内職	学生・生徒	仕事をし ていない(仕 事を探して いる)	仕事をし ていない(仕 事を探して いない)	その他	無回答
男性(n=601)	0.0	0.7	4.7	24.3	1.3	0.5
女性(n=928)	1.0	0.1	5.0	24.5	2.0	0.4
その他・答えたくない(n=23)	4.3	0.0	4.3	13.0	4.3	0.0
20歳代(n=46)	0.0	8.7	6.5	2.2	0.0	0.0
30歳代(n=152)	0.0	0.0	0.7	4.6	0.7	0.0
40歳代(n=242)	1.2	0.0	2.5	8.7	0.4	0.4
50歳代(n=351)	1.1	0.3	4.3	6.6	0.6	0.3
60歳代(n=404)	0.5	0.0	7.4	25.2	1.7	0.5
70歳代(n=287)	0.3	0.0	6.6	55.4	4.9	1.0
80歳以上(n=71)	0.0	0.0	1.4	88.7	5.6	0.0
あいとびあエリア(n=454)	0.9	0.7	6.6	19.2	2.2	0.4
こまえ苑エリア(n=506)	0.4	0.0	3.6	23.7	1.6	0.4
こまえ正吉苑エリア(n=590)	0.7	0.3	4.6	28.6	1.9	0.3
ひとり暮らし(n=313)	0.0	0.6	4.8	31.9	1.9	0.0
その他(n=1205)	0.8	0.2	4.6	21.8	1.7	0.5
未婚(n=280)	0.0	1.4	6.8	13.6	1.1	0.0
配偶者あり(n=1046)	0.8	0.1	3.8	23.6	1.9	0.5
死別・離別(n=221)	0.9	0.0	5.9	40.7	2.7	0.5
社会的孤立 該当(n=155)	0.0	0.0	7.1	27.1	0.6	0.0
社会的孤立 非該当(n=1366)	0.7	0.4	4.5	23.9	2.0	0.4
孤独感 該当(n=66)	1.5	1.5	9.1	22.7	3.0	0.0
孤独感 非該当(n=1478)	0.6	0.3	4.6	24.4	1.8	0.5
世帯年収200万円未満(n=193)	0.5	1.6	13.5	37.8	3.6	0.0
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	0.0	0.0	5.4	37.8	2.7	0.0
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	0.3	0.3	3.2	19.6	1.2	0.3
世帯年収700万円以上(n=496)	1.0	0.0	1.2	9.9	1.0	0.6

問 11 あなたのお住まいは、次のどれですか。

「持ち家（一戸建て）」が48.6%と最も多く、次いで「持ち家（マンションなどの共同住宅）」が25.1%、「民営の賃貸住宅」が21.1%、「都道府県・市営の賃貸住宅」が2.1%、「都市再生機構（UR）・公社などの賃貸住宅」が1.3%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「持ち家」の割合が高くなっています。また、家族構成のひとり暮らし、婚姻状況別の未婚、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当では「民営の賃貸住宅」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

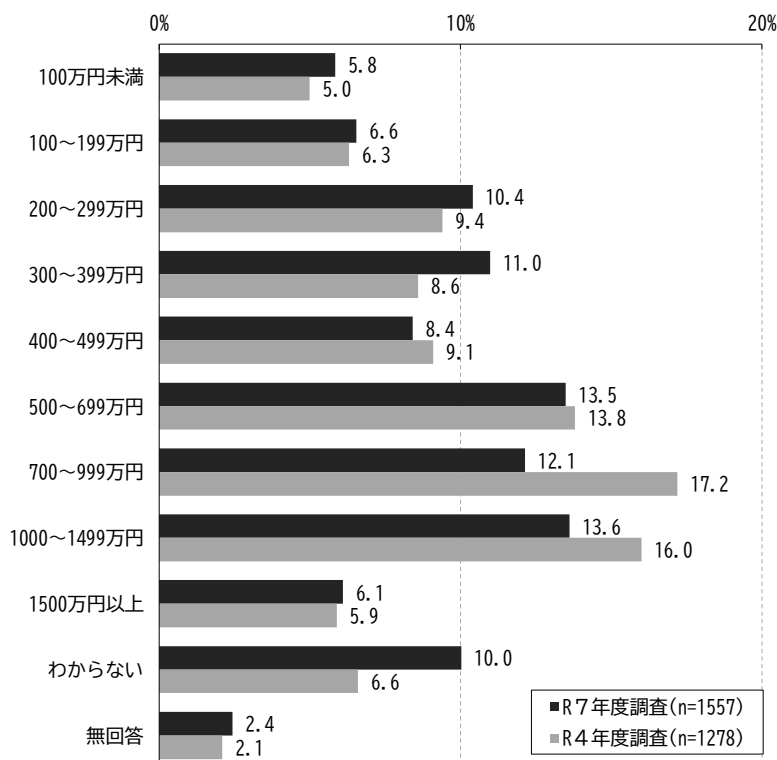
	持ち家（一戸建て）	持ち家（マンションなどの共同住宅）	民営の賃貸住宅	都道府県・市営の賃貸住宅	都市再生機構（UR）・公社などの賃貸住宅	給与住宅（社宅・公務員住宅など）	会社・学校等の寮・寄宿舎	わからない	その他	無回答
男性(n=601)	51.6	23.5	19.8	2.7	1.5	0.3	0.0	0.0	0.5	0.2
女性(n=928)	46.8	26.5	21.7	1.7	1.3	0.8	0.0	0.2	0.9	0.2
その他・答えたくない(n=23)	52.2	17.4	26.1	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0
20歳代(n=46)	21.7	10.9	65.2	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代(n=152)	39.5	15.1	40.1	0.7	0.0	2.0	0.0	1.3	0.7	0.7
40歳代(n=242)	42.6	20.2	33.9	0.8	0.4	0.8	0.0	0.4	0.8	0.0
50歳代(n=351)	48.7	27.6	18.2	2.3	0.9	0.6	0.0	0.0	1.7	0.0
60歳代(n=404)	51.5	30.0	14.1	1.7	2.2	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0
70歳代(n=287)	57.5	27.5	9.4	3.5	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
80歳以上(n=71)	54.9	23.9	9.9	5.6	4.2	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0
あいとびあエリア(n=454)	48.0	18.3	28.9	0.7	2.4	1.1	0.0	0.2	0.4	0.0
こまえ苑エリア(n=506)	53.2	26.1	19.0	0.4	0.0	0.6	0.0	0.2	0.4	0.2
こまえ正吉苑エリア(n=590)	45.4	29.8	16.8	4.6	1.7	0.2	0.0	0.2	1.2	0.2
ひとり暮らし(n=313)	24.9	20.8	44.1	5.4	2.9	0.3	0.0	0.0	1.6	0.0
その他(n=1205)	55.3	25.9	15.2	1.2	1.0	0.7	0.0	0.2	0.5	0.1
未婚(n=280)	27.9	18.9	42.9	3.9	2.5	0.4	0.0	1.1	2.1	0.4
配偶者あり(n=1046)	56.1	27.0	14.6	0.5	0.8	0.8	0.0	0.0	0.3	0.0
死別・離別(n=221)	39.8	24.9	24.0	7.2	2.7	0.0	0.0	0.0	0.9	0.5
社会的孤立 該当(n=155)	24.5	23.9	38.1	6.5	4.5	0.6	0.0	0.6	1.3	0.0
社会的孤立 非該当(n=1366)	51.4	25.3	19.3	1.5	1.0	0.6	0.0	0.1	0.7	0.1
孤独感 該当(n=66)	27.3	18.2	42.4	1.5	3.0	1.5	0.0	0.0	4.5	1.5
孤独感 非該当(n=1478)	49.8	25.5	20.0	2.1	1.3	0.5	0.0	0.2	0.5	0.1
世帯年収200万円未満(n=193)	31.1	26.4	28.0	6.2	4.1	0.0	0.0	0.5	2.6	1.0
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	42.3	24.3	26.4	4.5	1.8	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	49.6	24.0	23.2	0.9	1.2	0.3	0.0	0.3	0.6	0.0
世帯年収700万円以上(n=496)	55.0	28.0	14.5	0.0	0.4	1.6	0.0	0.0	0.4	0.0

問12 あなたの世帯の2024（令和6）年における年間収入（税・社会保険料込み）をお答えください。

「1000～1499万円」が13.6%と最も多く、次いで「500～699万円」が13.5%、「700～999万円」が12.1%、「300～399万円」が11.0%、「200～299万円」が10.4%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「700～999万円」が5.1ポイント、「1000～1499万円」が2.4ポイント少なくなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ世帯年数も高くなる傾向がみられます。また、家族構成のひとり暮らし、婚姻状況別の未婚、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当では299万円以下の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感別クロス集計>

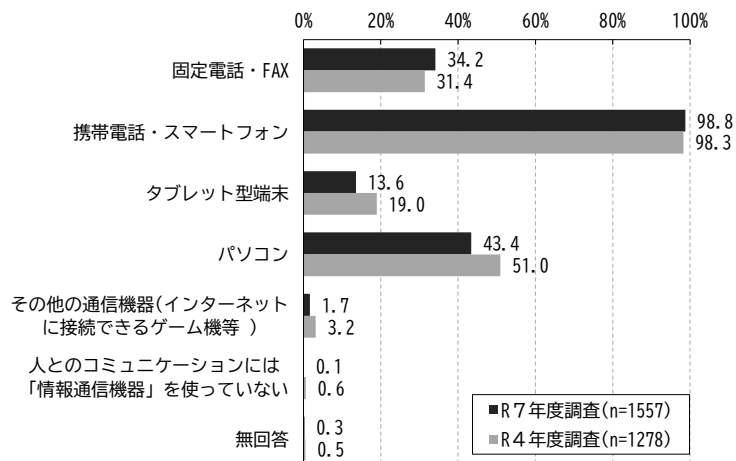
	100万円未満	100～199万円	200～299万円	300～399万円	400～499万円	500～699万円	700～999万円	1000～1499万円	1500万円以上	わからない	無回答
男性(n=601)	5.8	4.7	12.0	10.0	9.2	14.6	13.3	14.0	8.0	6.5	2.0
女性(n=928)	5.6	7.8	9.6	11.4	8.0	12.8	11.6	13.3	5.0	12.4	2.6
その他・答えたくない(n=23)	17.4	8.7	4.3	13.0	8.7	13.0	4.3	17.4	4.3	8.7	0.0
20歳代(n=46)	8.7	6.5	4.3	8.7	17.4	13.0	15.2	13.0	2.2	10.9	0.0
30歳代(n=152)	5.9	0.7	6.6	8.6	10.5	16.4	14.5	23.7	3.3	8.6	1.3
40歳代(n=242)	6.2	1.7	4.5	5.0	5.8	14.0	19.4	19.8	11.6	11.2	0.8
50歳代(n=351)	4.6	6.0	5.4	6.0	5.4	13.7	13.7	22.8	10.5	10.8	1.1
60歳代(n=404)	7.4	4.2	10.9	15.6	9.7	14.6	12.4	7.7	4.7	10.4	2.5
70歳代(n=287)	4.2	15.0	21.3	15.0	8.7	11.8	4.9	3.1	1.7	8.4	5.9
80歳以上(n=71)	7.0	16.9	21.1	21.1	14.1	5.6	1.4	1.4	0.0	9.9	1.4
あいとびあエリア(n=454)	7.5	8.1	9.0	9.0	8.6	11.7	12.6	15.6	6.2	9.3	2.4
こまえ苑エリア(n=506)	6.3	3.6	9.5	12.1	8.9	14.0	12.6	14.0	6.7	9.9	2.4
こまえ正吉苑エリア(n=590)	4.1	8.0	12.4	11.5	8.0	14.6	11.4	11.9	5.6	10.8	1.9
ひとり暮らし(n=313)	12.8	14.4	21.7	13.4	9.9	8.0	8.0	3.5	0.3	5.4	2.6
その他(n=1205)	4.0	4.2	7.3	10.4	7.9	14.9	13.5	16.7	7.8	11.3	2.0
未婚(n=280)	15.4	7.9	17.9	11.4	11.1	11.8	10.7	4.6	0.7	7.9	0.7
配偶者あり(n=1046)	2.7	3.3	6.9	10.1	8.1	14.5	14.2	18.5	8.7	10.8	2.1
死別・離別(n=221)	8.6	20.8	17.2	14.9	6.3	11.3	4.5	1.8	0.9	8.6	5.0
社会的孤立 該当(n=155)	16.8	12.9	19.4	11.6	9.0	9.0	7.7	5.8	0.0	5.8	1.9
社会的孤立 非該当(n=1366)	4.5	5.9	9.2	10.8	8.4	14.1	12.8	14.7	6.9	10.5	2.2
孤独感 該当(n=66)	18.2	7.6	21.2	12.1	7.6	15.2	4.5	0.0	1.5	12.1	0.0
孤独感 非該当(n=1478)	5.3	6.5	9.8	10.9	8.5	13.5	12.6	14.2	6.4	10.0	2.4

問13 あなたがコミュニケーション（連絡）をとる際にお使いの情報通信機器をお答えください。（複数回答）

「携帯電話・スマートフォン」が98.8%と最も多く、次いで「パソコン」が43.4%、「固定電話・FAX」が34.2%、「タブレット型端末」が13.6%、「その他の通信機器（インターネットに接続できるゲーム機等）」が1.7%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「パソコン」が7.6ポイント、「タブレット型端末」が5.4ポイント少なくなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「固定電話・FAX」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

	固定電話・FAX	携帯電話・スマートフォン	タブレット型端末	パソコン	その他の通信機器(インターネットに接続できるゲーム機等)	人とのコミュニケーションには「情報通信機器」を使っていない	無回答
男性(n=601)	34.9	98.7	16.3	56.6	1.7	0.2	0.2
女性(n=928)	33.8	99.1	11.4	34.9	1.7	0.1	0.2
その他・答えたくない(n=23)	30.4	91.3	30.4	47.8	0.0	0.0	0.0
20歳代(n=46)	8.7	100.0	8.7	52.2	4.3	0.0	0.0
30歳代(n=152)	3.9	99.3	15.1	35.5	2.6	0.7	0.0
40歳代(n=242)	12.0	99.6	16.1	39.3	5.0	0.0	0.0
50歳代(n=351)	31.6	99.1	13.1	41.0	0.3	0.0	0.3
60歳代(n=404)	43.6	98.8	15.3	45.0	1.2	0.2	0.0
70歳代(n=287)	55.4	97.6	11.8	48.4	0.3	0.0	0.7
80歳以上(n=71)	64.8	98.6	5.6	52.1	1.4	0.0	0.0
あいとびあエリア(n=454)	31.7	99.3	13.0	43.0	0.9	0.0	0.2
こまえ苑エリア(n=506)	33.4	99.0	15.0	42.7	2.4	0.2	0.0
こまえ正吉苑エリア(n=590)	36.9	98.5	12.9	44.4	1.7	0.2	0.2
ひとり暮らし(n=313)	27.2	97.8	10.9	39.0	1.0	0.6	0.0
その他(n=1205)	35.9	99.4	14.4	45.0	1.8	0.0	0.2
未婚(n=280)	23.6	98.2	13.6	42.5	1.1	0.4	0.0
配偶者あり(n=1046)	36.1	99.2	15.3	46.4	1.9	0.0	0.1
死別・離別(n=221)	38.5	98.2	6.3	31.2	1.4	0.5	0.5
社会的孤立 該当(n=155)	23.9	96.1	7.7	43.2	0.0	1.3	0.0
社会的孤立 非該当(n=1366)	35.4	99.3	14.4	43.8	1.9	0.0	0.1
孤独感 該当(n=66)	19.7	97.0	7.6	27.3	0.0	1.5	0.0
孤独感 非該当(n=1478)	34.8	99.0	14.0	44.2	1.8	0.1	0.1
世帯年収200万円未満(n=193)	32.1	97.4	10.4	31.6	1.0	0.5	0.5
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	39.0	99.1	10.8	39.9	1.5	0.3	0.0
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	35.2	99.4	11.1	48.1	1.5	0.0	0.0
世帯年収700万円以上(n=496)	30.0	99.4	19.8	51.2	2.0	0.0	0.2

2 社会とのつながり・社会的孤立について

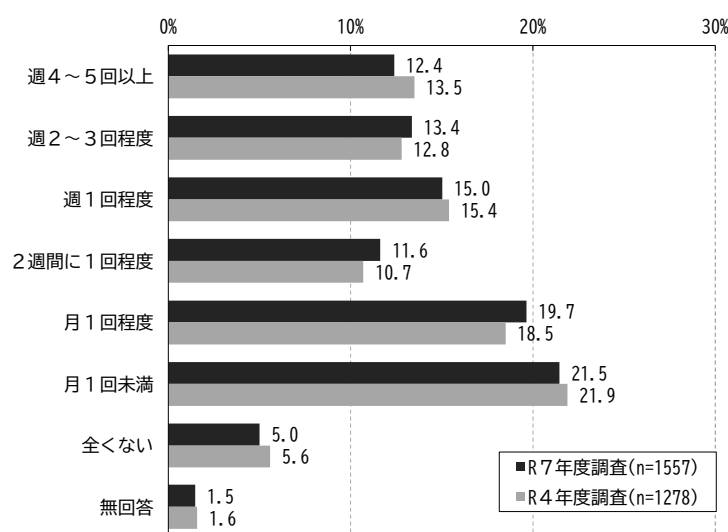
問 14 あなたと同居していない家族や友人たちとのコミュニケーション頻度について、①～④ごとにそれぞれお答えください。

①直接会って話す

「月1回未満」が21.5%と最も多く、次いで「月1回程度」が19.7%、「週1回程度」が15.0%、「週2～3回程度」が13.4%、「週4～5回以上」が12.4%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。

クロス集計の結果をみると、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当で「全くない」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別 クロス集計>

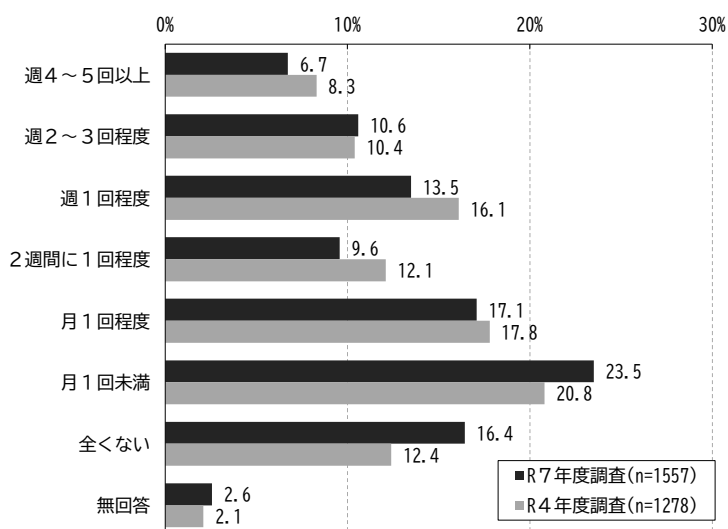
	週4～5回以上	週2～3回程度	週1回程度	2週間に1回程度	月1回程度	月1回未満	全くない	無回答
男性(n=601)	9.0	11.8	16.0	11.1	18.8	25.0	6.7	1.7
女性(n=928)	14.5	14.4	14.9	12.0	19.9	19.0	4.0	1.3
その他・答えたくない(n=23)	17.4	4.3	0.0	13.0	30.4	30.4	4.3	0.0
20歳代(n=46)	19.6	17.4	17.4	8.7	19.6	13.0	4.3	0.0
30歳代(n=152)	10.5	10.5	13.2	16.4	21.7	19.1	8.6	0.0
40歳代(n=242)	12.8	11.2	11.6	9.1	20.7	29.8	4.1	0.8
50歳代(n=351)	11.7	8.0	16.0	10.8	21.7	24.8	5.7	1.4
60歳代(n=404)	12.6	12.4	16.1	12.4	21.0	19.1	4.7	1.7
70歳代(n=287)	12.2	19.5	15.3	11.5	15.3	19.5	4.5	2.1
80歳以上(n=71)	14.1	32.4	18.3	12.7	11.3	7.0	1.4	2.8
あいとびあエリア(n=454)	14.1	13.7	14.8	12.1	17.4	21.4	5.9	0.7
こまえ苑エリア(n=506)	10.5	13.4	14.0	12.1	21.7	22.7	4.2	1.4
こまえ正吉苑エリア(n=590)	12.9	13.2	16.3	11.0	19.3	20.5	5.1	1.7
ひとり暮らし(n=313)	13.4	15.0	13.4	11.2	17.9	21.4	7.0	0.6
その他(n=1205)	12.3	12.9	15.3	11.9	20.3	21.3	4.5	1.5
未婚(n=280)	9.6	12.1	13.6	7.9	20.0	26.8	8.6	1.4
配偶者あり(n=1046)	13.0	13.2	15.5	12.0	20.2	21.4	3.3	1.3
死別・離別(n=221)	13.6	15.8	14.5	14.5	16.3	15.4	8.6	1.4
社会的孤立 該当(n=155)	0.0	0.0	9.7	12.9	23.9	36.1	17.4	0.0
社会的孤立 非該当(n=1366)	14.1	15.2	15.9	11.6	19.0	19.4	3.7	1.2
孤独感 該当(n=66)	6.1	10.6	15.2	9.1	18.2	22.7	18.2	0.0
孤独感 非該当(n=1478)	12.7	13.5	15.1	11.6	19.8	21.6	4.3	1.3
世帯年収200万円未満(n=193)	12.4	15.5	16.1	9.8	15.0	18.7	10.9	1.6
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	9.6	15.3	14.7	13.8	16.8	23.1	5.1	1.5
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	12.0	13.2	13.5	13.2	18.8	24.0	3.8	1.5
世帯年収700万円以上(n=496)	14.5	11.7	14.3	10.1	22.6	22.2	3.8	0.8

②電話（ビデオ通話を含む）

「月1回未満」が23.5%と最も多く、次いで「月1回程度」が17.1%、「全くない」が16.4%、「週1回程度」が13.5%、「週2～3回程度」が10.6%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「月1回未満」が2.7ポイント、「全くない」が4.0ポイント多くなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「週1回以上」の頻度が増える傾向がみられます。また、婚姻状況別の未婚、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当で「全くない」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

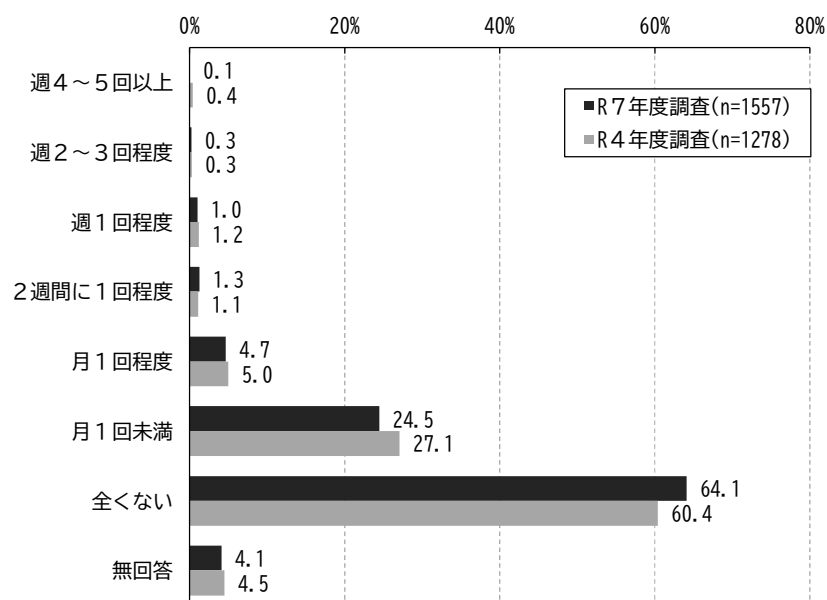
	週4～5回以上	週2～3回程度	週1回程度	2週間に1回程度	月1回程度	月1回未満	全くない	無回答
男性(n=601)	4.5	9.0	12.6	9.5	17.1	25.3	19.8	2.2
女性(n=928)	8.1	11.6	14.0	9.7	17.1	22.6	14.0	2.8
その他・答えたくない(n=23)	8.7	13.0	17.4	4.3	8.7	17.4	30.4	0.0
20歳代(n=46)	2.2	13.0	15.2	6.5	23.9	15.2	21.7	2.2
30歳代(n=152)	3.3	8.6	8.6	10.5	17.8	23.0	27.6	0.7
40歳代(n=242)	5.0	7.4	9.9	12.8	14.5	33.9	16.1	0.4
50歳代(n=351)	5.1	8.8	12.0	8.5	17.1	28.2	18.2	2.0
60歳代(n=404)	8.4	6.9	13.6	7.9	20.5	20.5	17.8	4.2
70歳代(n=287)	9.1	15.0	18.1	11.1	14.6	18.8	9.8	3.5
80歳以上(n=71)	12.7	36.6	23.9	7.0	8.5	7.0	1.4	2.8
あいとびエリア(n=454)	5.9	12.8	11.5	10.1	16.7	26.0	15.9	1.1
こまえ苑エリア(n=506)	7.5	8.7	15.4	8.7	18.0	24.5	14.0	3.2
こまえ正吉苑エリア(n=590)	6.8	10.7	13.6	10.0	16.3	20.7	19.2	2.9
ひとり暮らし(n=313)	10.5	12.1	16.3	4.8	16.0	20.8	17.3	2.2
その他(n=1205)	5.6	10.0	12.9	11.0	17.7	23.9	16.7	2.3
未婚(n=280)	6.8	10.4	8.2	4.3	16.4	27.1	24.6	2.1
配偶者あり(n=1046)	6.2	10.8	13.5	10.9	18.0	23.2	15.0	2.4
死別・離別(n=221)	9.5	10.4	19.5	10.0	14.0	20.8	12.7	3.2
社会的孤立 該当(n=155)	0.0	0.0	11.0	5.8	18.1	34.2	29.7	1.3
社会的孤立 非該当(n=1366)	7.7	12.1	14.0	10.2	17.3	21.5	15.2	2.1
孤独感 該当(n=66)	6.1	13.6	12.1	4.5	13.6	24.2	25.8	0.0
孤独感 非該当(n=1478)	6.8	10.5	13.7	9.8	17.3	23.5	16.0	2.4
世帯年収200万円未満(n=193)	9.8	14.5	15.0	5.7	10.4	25.9	16.1	2.6
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	5.7	11.1	14.4	7.2	18.0	21.3	18.9	3.3
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	6.7	12.6	11.7	9.1	18.2	23.5	15.5	2.6
世帯年収700万円以上(n=496)	5.0	8.1	13.3	11.5	20.4	25.0	15.7	1.0

③郵便や FAX

「全くない」が64.1%と最も多く、次いで「月1回未満」が24.5%、「月1回程度」が4.7%、「2週間に1回程度」が1.3%、「週1回程度」が1.0%となっています。

前回調査(令和4年度調査)と比較すると、「全くない」が3.7ポイント少なくなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、80歳代で「週1回程度」、「月1回程度」の割合が高く、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当で「全くない」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

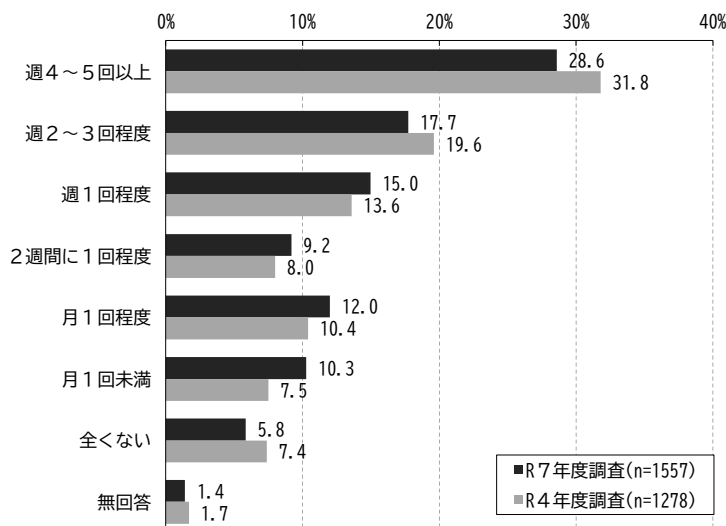
	週4~5回以上	週2~3回程度	週1回程度	2週間に1回程度	月1回程度	月1回未満	全くない	無回答
男性(n=601)	0.2	0.3	0.7	1.3	4.3	23.0	67.2	3.0
女性(n=928)	0.0	0.2	1.2	1.3	5.0	25.8	62.0	4.6
その他・答えたくない(n=23)	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	17.4	69.6	8.7
20歳代(n=46)	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	26.1	67.4	4.3
30歳代(n=152)	0.0	0.0	0.0	1.3	2.6	19.7	75.7	0.7
40歳代(n=242)	0.0	0.0	0.0	0.8	3.7	28.9	65.7	0.8
50歳代(n=351)	0.3	0.3	0.3	0.3	4.0	20.5	71.8	2.6
60歳代(n=404)	0.0	0.0	1.0	1.7	4.0	26.2	60.6	6.4
70歳代(n=287)	0.0	0.7	2.1	1.7	7.0	26.1	56.4	5.9
80歳以上(n=71)	0.0	1.4	7.0	4.2	12.7	21.1	45.1	8.5
あいとびあエリア(n=454)	0.0	0.4	1.1	2.4	5.5	25.8	61.9	2.9
こまえ苑エリア(n=506)	0.0	0.0	1.0	0.4	4.5	24.7	65.2	4.2
こまえ正吉苑エリア(n=590)	0.2	0.3	1.0	1.2	4.2	23.6	64.7	4.7
ひとり暮らし(n=313)	0.0	0.6	1.0	2.9	4.5	20.1	67.4	3.5
その他(n=1205)	0.1	0.2	0.9	0.8	4.7	25.6	63.7	4.0
未婚(n=280)	0.0	0.4	0.4	1.8	3.9	20.7	70.4	2.5
配偶者あり(n=1046)	0.1	0.1	1.1	1.0	4.9	25.8	63.0	4.1
死別・離別(n=221)	0.0	0.9	1.8	2.3	5.0	22.2	62.9	5.0
社会的孤立 該当(n=155)	0.0	0.0	0.0	0.6	1.9	16.8	78.1	2.6
社会的孤立 非該当(n=1366)	0.1	0.3	1.2	1.4	5.1	25.6	62.7	3.7
孤独感 該当(n=66)	0.0	0.0	0.0	1.5	3.0	15.2	78.8	1.5
孤独感 非該当(n=1478)	0.1	0.3	1.1	1.3	4.7	25.0	63.6	4.0
世帯年収200万円未満(n=193)	0.0	0.5	2.6	2.6	4.7	21.8	63.7	4.1
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	0.0	0.3	0.9	1.8	7.2	24.0	60.7	5.1
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	0.0	0.3	1.2	0.9	5.3	22.3	66.6	3.5
世帯年収700万円以上(n=496)	0.2	0.0	0.6	0.8	3.0	26.0	67.1	2.2

④SNS や電子メールなど

「週4～5回以上」が28.6%と最も多く、次いで「週2～3回程度」が17.7%、「週1回程度」が15.0%、「月1回程度」が12.0%、「月1回未満」が10.3%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「週4～5回以上」が3.2ポイント少なくなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、20歳代で「週4～5回以上」の割合が高く、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当で「全くない」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

	週4～5回以上	週2～3回程度	週1回程度	2週間に1回程度	月1回程度	月1回未満	全くない	無回答
男性(n=601)	20.6	14.6	16.5	10.1	15.0	14.5	7.5	1.2
女性(n=928)	33.8	20.2	14.0	8.2	10.1	7.5	4.7	1.4
その他・答えたくない(n=23)	26.1	4.3	17.4	17.4	8.7	13.0	8.7	4.3
20歳代(n=46)	45.7	26.1	6.5	4.3	8.7	6.5	2.2	0.0
30歳代(n=152)	31.6	21.7	15.1	11.8	8.6	7.9	3.3	0.0
40歳代(n=242)	29.3	13.6	13.2	12.0	12.4	12.0	6.6	0.8
50歳代(n=351)	26.2	17.7	14.2	6.8	16.0	12.8	5.4	0.9
60歳代(n=404)	28.0	17.8	16.6	9.4	11.9	9.9	5.4	1.0
70歳代(n=287)	28.9	15.7	16.4	8.7	10.1	10.1	7.7	2.4
80歳以上(n=71)	23.9	26.8	15.5	8.5	8.5	2.8	7.0	7.0
あいとびあエリア(n=454)	30.0	17.4	16.3	11.2	7.9	11.2	4.8	1.1
こまえ苑エリア(n=506)	27.5	18.4	13.8	7.7	14.0	10.9	5.7	2.0
こまえ正吉苑エリア(n=590)	28.8	17.5	14.9	8.8	13.6	8.8	6.8	0.8
ひとり暮らし(n=313)	30.0	16.9	16.6	5.4	11.8	9.9	7.7	1.6
その他(n=1205)	28.5	17.8	14.9	10.0	12.2	10.2	5.3	1.1
未婚(n=280)	27.1	17.9	11.1	6.8	15.0	14.3	7.5	0.4
配偶者あり(n=1046)	30.0	17.5	15.4	9.9	11.5	9.5	5.1	1.1
死別・離別(n=221)	24.4	18.6	18.6	8.6	10.4	9.0	7.7	2.7
社会的孤立 該当(n=155)	0.0	0.0	27.7	11.0	24.5	23.2	12.9	0.6
社会的孤立 非該当(n=1366)	32.6	20.2	13.7	8.6	10.5	8.5	5.0	1.0
孤独感 該当(n=66)	18.2	12.1	16.7	6.1	13.6	18.2	15.2	0.0
孤独感 非該当(n=1478)	29.2	18.0	15.0	9.3	12.0	9.9	5.3	1.2
世帯年収200万円未満(n=193)	25.9	14.0	16.1	5.2	11.9	15.0	10.9	1.0
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	29.7	16.8	15.6	10.2	12.0	9.0	5.1	1.5
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	29.6	17.0	14.1	9.1	11.4	11.4	6.2	1.2
世帯年収700万円以上(n=496)	29.6	19.2	15.1	10.9	12.3	8.9	3.8	0.2

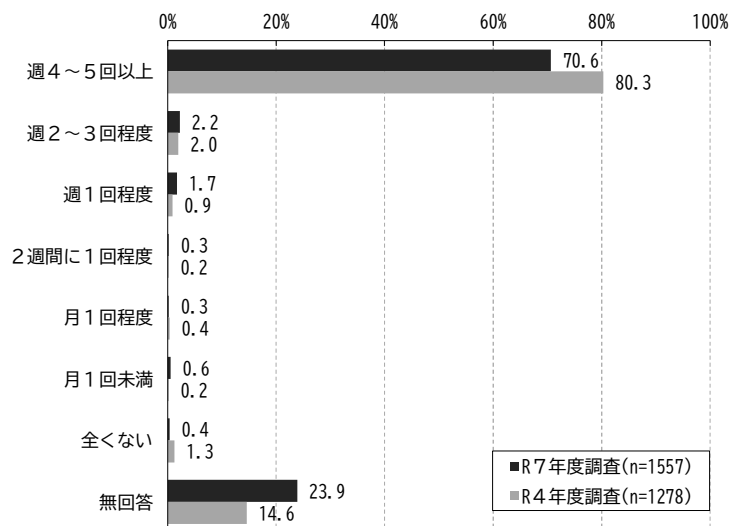
問 15 あなたと同居している人とのコミュニケーション頻度について、①～③ごとにそれぞれお答えください。

①直接会って話す

「週4～5回以上」が70.6%と最も多く、次いで「週2～3回程度」が2.2%、「週1回程度」が1.7%、「月1回未満」が0.6%、「全くない」が0.4%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「週4～5回以上」が9.7ポイント少なくなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別の80歳代、婚姻状況別の未婚、死別・離別、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当で「週4～5回以上」の割合が低くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

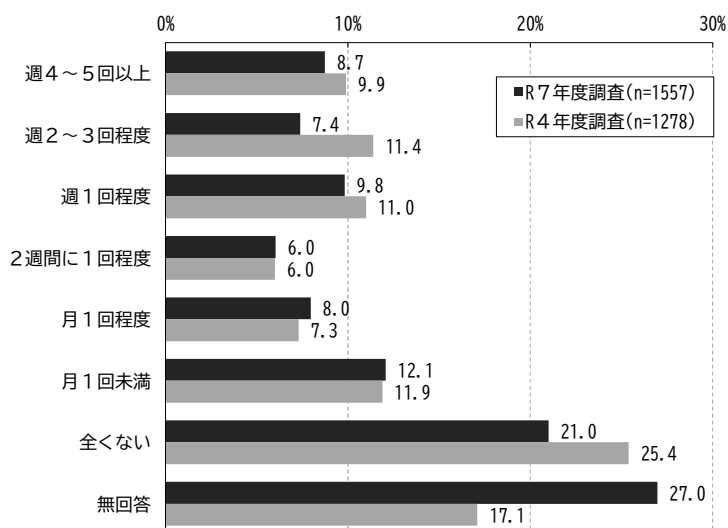
	週4～5回以上	週2～3回程度	週1回程度	2週間に1回程度	月1回程度	月1回未満	全くない	無回答
男性(n=601)	69.4	2.8	2.8	0.0	0.5	0.7	0.5	23.3
女性(n=928)	72.0	1.8	1.0	0.4	0.1	0.5	0.2	23.9
その他・答えたくない(n=23)	56.5	4.3	4.3	0.0	0.0	0.0	4.3	30.4
20歳代(n=46)	60.9	0.0	2.2	2.2	0.0	0.0	0.0	34.8
30歳代(n=152)	74.3	1.3	1.3	0.0	0.0	1.3	0.0	21.7
40歳代(n=242)	79.8	1.7	1.2	0.0	0.4	0.8	1.2	14.9
50歳代(n=351)	75.8	4.3	2.3	0.0	0.0	0.3	0.9	16.5
60歳代(n=404)	70.0	1.5	2.0	0.5	0.5	0.5	0.0	25.0
70歳代(n=287)	64.8	2.1	1.4	0.3	0.0	0.3	0.0	31.0
80歳以上(n=71)	42.3	2.8	1.4	0.0	1.4	1.4	0.0	50.7
あいとびあエリア(n=454)	67.4	2.6	2.0	0.4	0.0	0.4	0.0	27.1
こまえ苑エリア(n=506)	70.8	1.6	2.4	0.2	0.6	0.6	0.6	23.3
こまえ正吉苑エリア(n=590)	73.7	2.4	1.0	0.2	0.2	0.7	0.5	21.4
未婚(n=280)	31.8	2.1	2.5	0.4	0.0	0.4	0.7	62.1
配偶者あり(n=1046)	89.8	2.4	1.5	0.2	0.4	0.6	0.4	4.8
死別・離別(n=221)	30.8	1.8	1.8	0.5	0.0	0.9	0.0	64.3
社会的孤立 該当(n=155)	0.0	0.0	5.8	0.0	2.6	4.5	1.3	85.8
社会的孤立 非該当(n=1366)	80.5	2.6	1.3	0.3	0.0	0.1	0.2	14.9
孤独感 該当(n=66)	47.0	3.0	3.0	0.0	1.5	0.0	0.0	45.5
孤独感 非該当(n=1478)	72.2	2.2	1.7	0.3	0.2	0.5	0.3	22.5
世帯年収200万円未満(n=193)	45.1	1.0	3.1	0.0	0.5	1.0	0.0	49.2
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	55.9	2.7	1.5	0.0	0.6	0.6	0.6	38.1
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	72.4	2.9	2.1	0.9	0.3	0.9	0.3	20.2
世帯年収700万円以上(n=496)	87.5	2.2	1.2	0.0	0.0	0.2	0.2	8.7

②電話（ビデオ通話を含む）

「全くない」が21.0%と最も多く、次いで「月1回未満」が12.1%、「週1回程度」が9.8%、「週4～5回以上」が8.7%、「月1回程度」が8.0%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「全くない」が4.4ポイント、「週2～3回程度」が4.0ポイント少なくなっています。

クロス集計の結果をみると、婚姻状況別の配偶者あり、社会的孤立別の非該当で「全くない」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

	週4～5回以上	週2～3回程度	週1回程度	2週間に1回程度	月1回程度	月1回未満	全くない	無回答
男性(n=601)	8.8	6.3	9.7	5.8	8.5	12.5	21.1	27.3
女性(n=928)	8.7	8.3	9.9	6.4	7.4	11.9	20.9	26.5
その他・答えたくない(n=23)	8.7	0.0	13.0	0.0	13.0	8.7	26.1	30.4
20歳代(n=46)	15.2	8.7	8.7	8.7	8.7	4.3	10.9	34.8
30歳代(n=152)	8.6	10.5	14.5	10.5	7.9	9.9	16.4	21.7
40歳代(n=242)	10.3	12.4	12.4	4.5	9.5	16.1	19.4	15.3
50歳代(n=351)	7.7	7.4	9.4	6.3	10.8	12.3	26.2	19.9
60歳代(n=404)	7.4	6.4	9.7	4.7	6.2	14.1	22.5	29.0
70歳代(n=287)	10.8	3.1	7.0	5.2	6.6	10.1	20.6	36.6
80歳以上(n=71)	4.2	5.6	7.0	9.9	2.8	4.2	11.3	54.9
あいとぴあエリア(n=454)	7.0	6.2	9.0	7.5	7.0	12.1	20.3	30.8
こまえ苑エリア(n=506)	9.5	7.7	10.1	4.9	8.5	12.8	20.2	26.3
こまえ正吉苑エリア(n=590)	9.5	8.1	10.2	5.9	8.3	11.4	22.5	24.1
未婚(n=280)	5.4	1.4	3.2	2.5	3.9	5.7	15.0	62.9
配偶者あり(n=1046)	10.8	9.8	13.0	8.0	10.1	15.0	24.6	8.6
死別・離別(n=221)	3.2	3.6	3.6	1.4	3.2	5.9	11.8	67.4
社会的孤立 該当(n=155)	0.0	0.0	1.3	0.0	2.6	4.5	5.2	86.5
社会的孤立 非該当(n=1366)	10.0	8.4	11.1	6.9	8.8	13.1	23.2	18.6
孤独感 該当(n=66)	7.6	3.0	7.6	4.5	4.5	4.5	21.2	47.0
孤独感 非該当(n=1478)	8.9	7.6	10.0	6.2	8.0	12.5	21.1	25.7
世帯年収200万円未満(n=193)	9.8	4.1	5.2	4.1	2.1	7.3	16.1	51.3
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	6.3	4.8	6.6	3.3	8.4	10.8	19.2	40.5
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	10.9	5.9	9.4	6.7	6.5	11.7	23.2	25.8
世帯年収700万円以上(n=496)	9.9	12.1	14.1	7.7	10.7	14.3	21.0	10.3

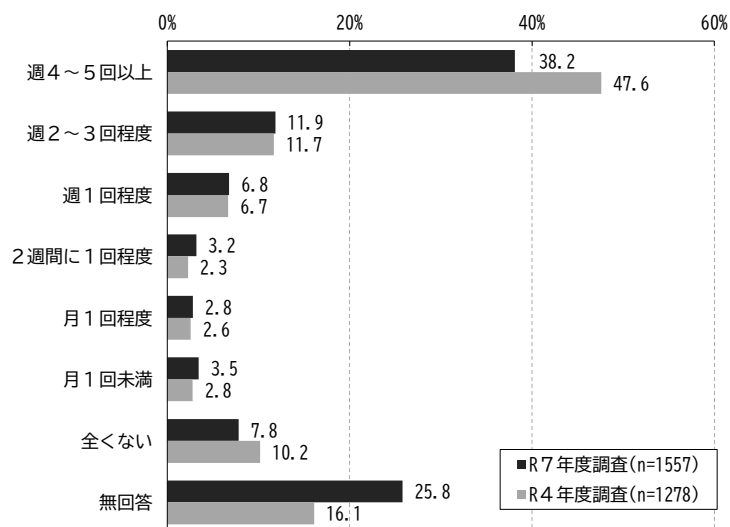
③SNS や電子メールなど

「週4～5回以上」が38.2%と最も多く、次いで「週2～3回程度」が11.9%、「全くない」が7.8%、「週1回程度」が6.8%、「月1回未満」が3.5%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「週4～5回以上」が9.4ポイント少なくなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、若い層で「週4～5回以上」の割合が高くなっています。また、婚姻状況別の配偶者あり、社会的孤立別の非該当、孤独感別の非該当で「週4～5回以上」の割合が高くなっています。

世帯年収別では、世帯年収が高くなるほど「週4～5回以上」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

	週4～5回以上	週2～3回程度	週1回程度	2週間に1回程度	月1回程度	月1回未満	全くない	無回答
男性(n=601)	37.3	11.0	7.7	3.8	4.2	3.5	7.0	25.6
女性(n=928)	39.2	12.5	6.3	2.8	1.8	3.4	8.3	25.6
その他・答えたくない(n=23)	26.1	8.7	4.3	4.3	8.7	4.3	13.0	30.4
20歳代(n=46)	50.0	2.2	2.2	0.0	0.0	4.3	4.3	37.0
30歳代(n=152)	53.9	9.9	3.3	1.3	2.0	2.0	5.9	21.7
40歳代(n=242)	58.3	11.6	3.3	2.9	1.2	2.1	5.0	15.7
50歳代(n=351)	45.6	14.2	7.7	4.0	2.6	2.6	6.0	17.4
60歳代(n=404)	31.2	12.6	9.7	2.5	4.0	3.2	10.1	26.7
70歳代(n=287)	18.8	12.5	7.3	4.2	3.5	6.6	11.5	35.5
80歳以上(n=71)	11.3	4.2	7.0	7.0	4.2	4.2	5.6	56.3
あいどぴあエリア(n=454)	36.6	10.1	5.7	4.8	2.2	3.1	7.9	29.5
こまえ苑エリア(n=506)	37.2	13.2	7.3	2.0	3.4	3.6	7.7	25.7
こまえ正吉苑エリア(n=590)	40.5	12.2	7.3	3.1	2.9	3.6	8.0	22.5
未婚(n=280)	12.9	4.3	3.2	1.8	2.1	4.3	8.9	62.5
配偶者あり(n=1046)	50.6	15.1	8.2	3.8	3.5	3.6	8.0	7.1
死別・離別(n=221)	12.2	6.3	5.0	2.3	0.5	1.8	5.0	67.0
社会的孤立 該当(n=155)	0.0	0.0	3.2	1.3	3.2	4.5	1.9	85.8
社会的孤立 非該当(n=1366)	43.5	13.5	7.4	3.5	2.9	3.4	8.5	17.3
孤独感 該当(n=66)	19.7	7.6	9.1	4.5	1.5	1.5	9.1	47.0
孤独感 非該当(n=1478)	39.2	12.2	6.8	3.2	2.9	3.6	7.6	24.5
世帯年収200万円未満(n=193)	17.1	7.8	4.7	2.1	2.1	4.1	10.9	51.3
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	18.6	9.3	9.6	2.4	4.2	4.5	11.1	40.2
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	38.1	11.4	6.2	3.8	3.5	5.0	8.2	23.8
世帯年収700万円以上(n=496)	60.3	15.1	6.0	2.2	1.8	1.6	3.8	9.1

問16 あなたは次に挙げる①～⑩の事柄で頼れる人はいますか。また、「1.いる」と答えた方にお聞きします。それはだれですか。

①子どもの世話や看病

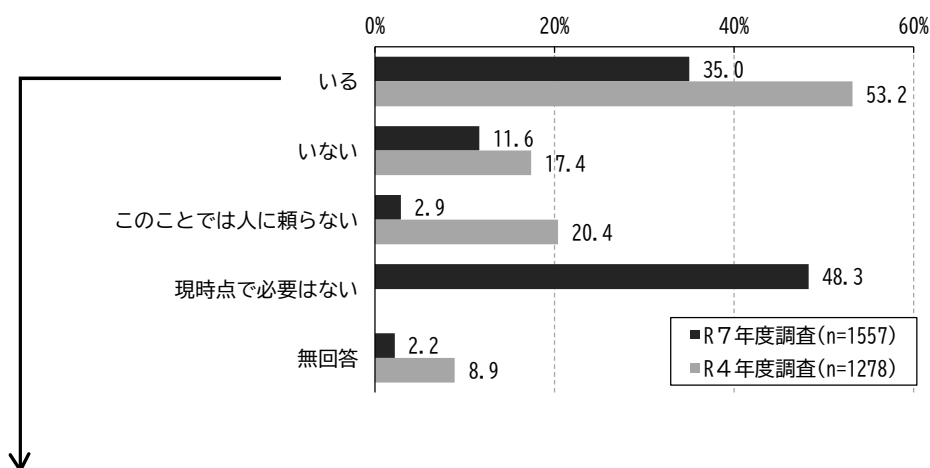
「現時点で必要はない」が48.3%と最も多く、次いで「いる」が35.0%、「いない」が11.6%、「このことでは人に頼らない」が2.9%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「いる」が18.2ポイント、「このことでは人に頼らない」が17.5ポイント少なくなっていますが、新たに設けた項目「現時点では必要はない」によるものと考えられます。

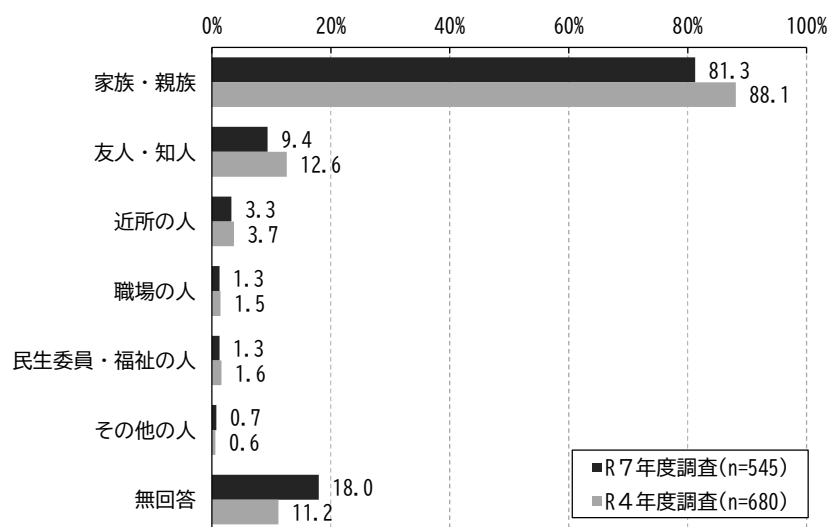
また、いると回答した人の頼れる人は、「家族・親族」が81.3%と最も多く、次いで「友人・知人」が9.4%、「近所の人」が3.3%、「職場の人」及び「民生委員・福祉の人」が1.3%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「家族・親族」が6.8ポイント少なくなっています。

頼れる人の有無



頼れる人



② (子ども以外の) 介護や看病

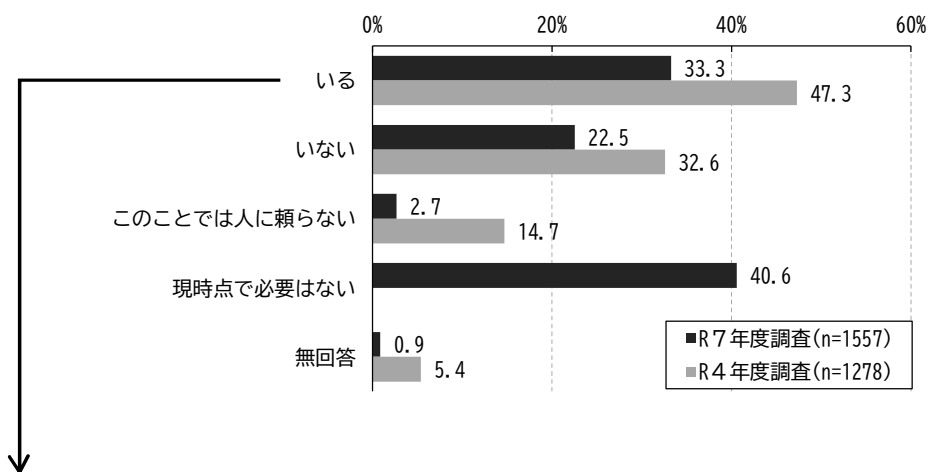
「現時点で必要はない」が40.6%と最も多く、次いで「いる」が33.3%、「いない」が22.5%、「このことでは人に頼らない」が2.7%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「いる」が14.0ポイント、「このことでは人に頼らない」が12.0ポイント少なくなっていますが、新たに設けた項目「現時点では必要はない」によるものと考えられます。

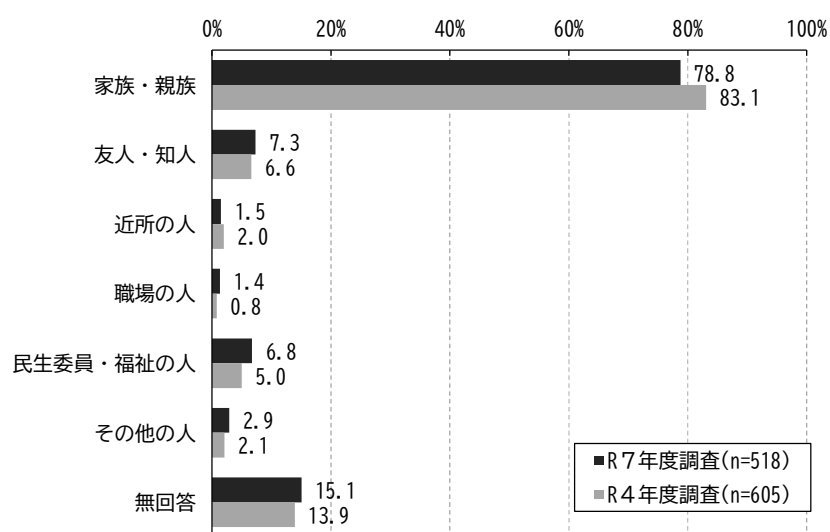
また、いと回答した人の頼れる人は、「家族・親族」が78.8%と最も多く、次いで「友人・知人」が7.3%、「民生委員・福祉の人」が6.8%、「その他の人」が2.9%、「近所の人」が1.5%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「家族・親族」が4.3ポイント少なくなっています。

頼れる人の有無



頼れる人



③重要な事柄の相談

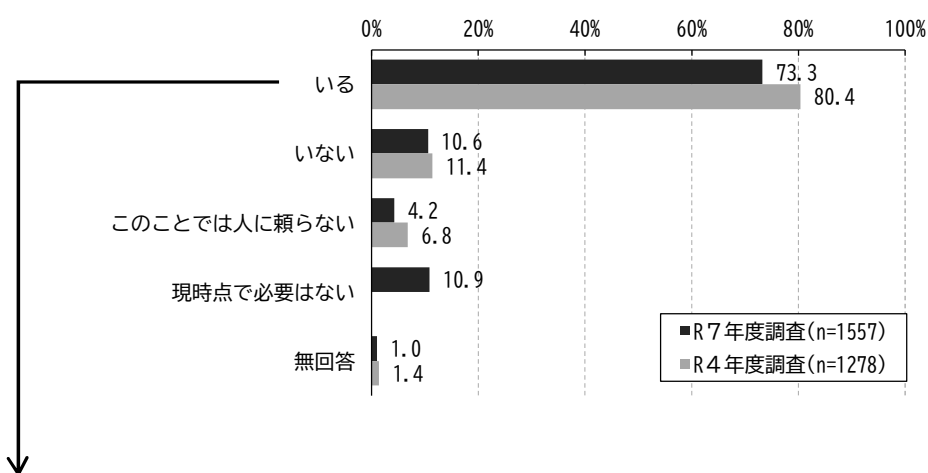
「いる」が73.3%と最も多く、次いで「現時点で必要はない」が10.9%、「いない」が10.6%、「このことでは人に頼らない」が4.2%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「いる」が7.1ポイント、「このことでは人に頼らない」が2.6ポイント少なくなっています。

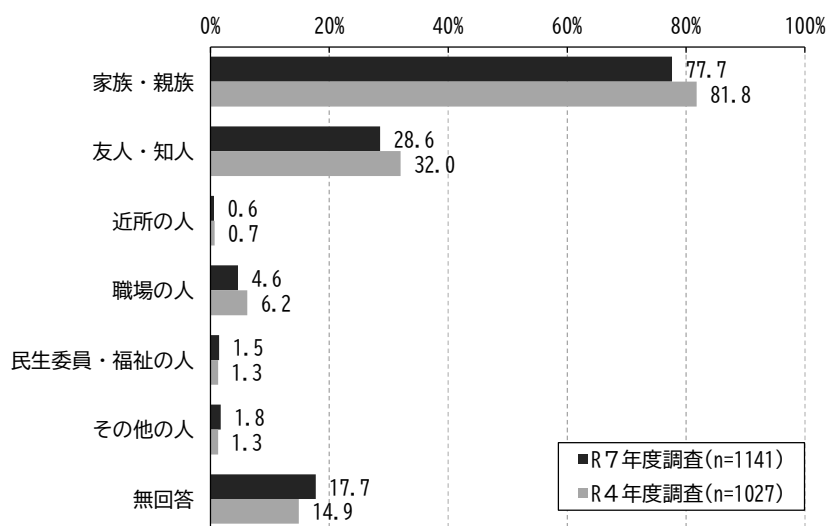
また、いると回答した人の頼れる人は、「家族・親族」が77.7%と最も多く、次いで「友人・知人」が28.6%、「職場の人」が4.6%、「その他の人」が1.8%、「民生委員・福祉の人」が1.5%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「家族・親族」が4.1ポイント少なくなっています。

頼れる人の有無



頼れる人



④愚痴を聞いてくれること

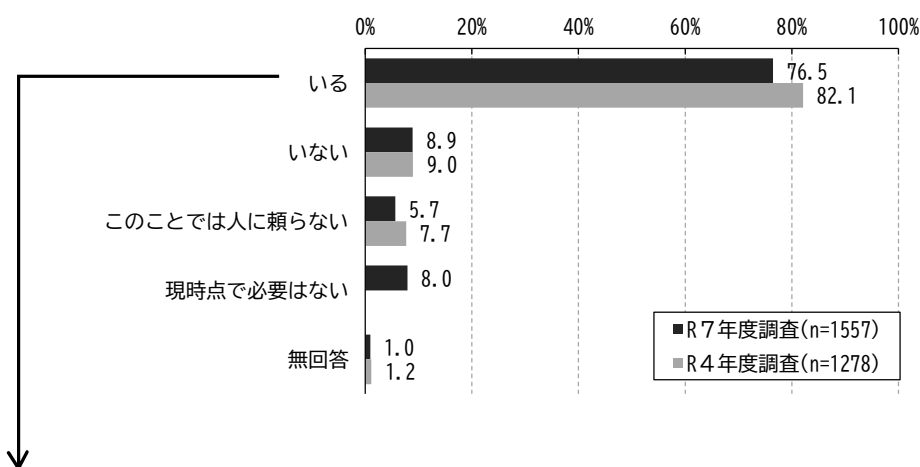
「いる」が76.5%と最も多く、次いで「いない」が8.9%、「現時点で必要はない」が8.0%、「このことでは人に頼らない」が5.7%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「いる」が5.6ポイント少なくなっています。

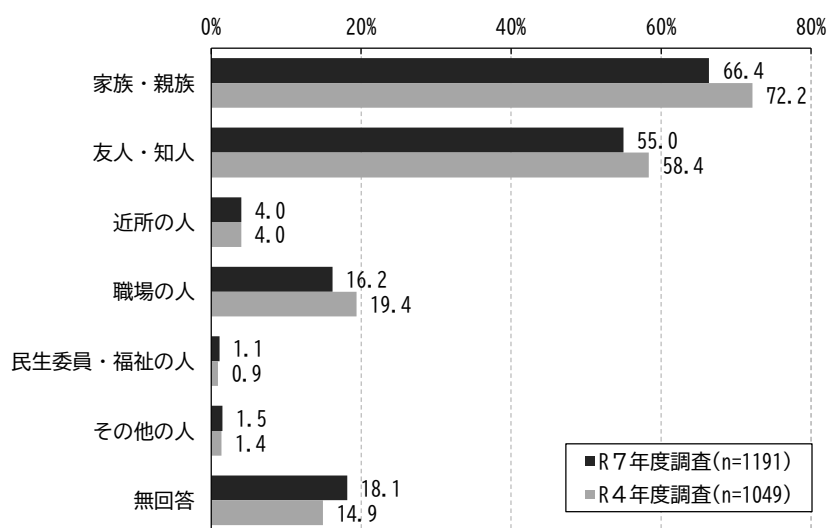
また、いると回答した人の頼れる人は、「家族・親族」が66.4%と最も多く、次いで「友人・知人」が55.0%、「職場の人」が16.2%、「近所の人」が4.0%、「その他の人」が1.5%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「家族・親族」が5.8ポイント、「友人・知人」が3.4ポイント、「職場の人」が3.2ポイント少なくなっています。

頼れる人の有無



頼れる人



⑤喜びや悲しみを分かち合うこと

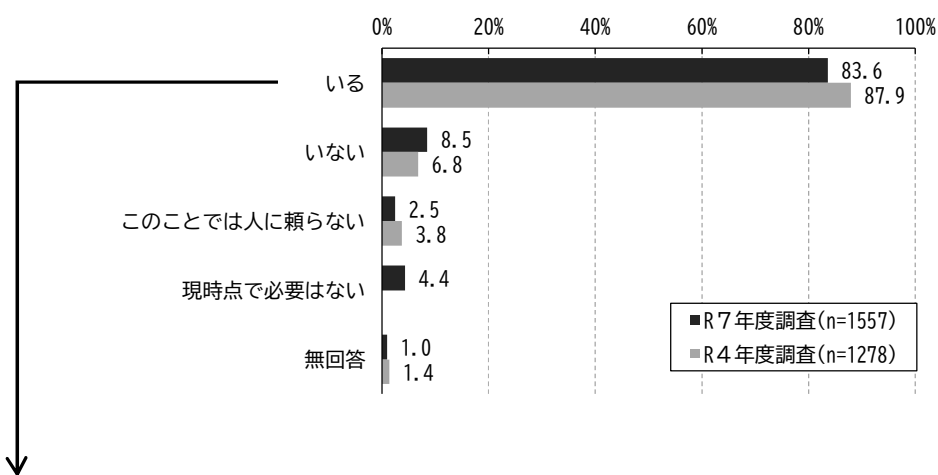
「いる」が83.6%と最も多く、次いで「いない」が8.5%、「現時点で必要はない」が4.4%、「このことでは人に頼らない」が2.5%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「いる」が4.3ポイント少なくなっています。

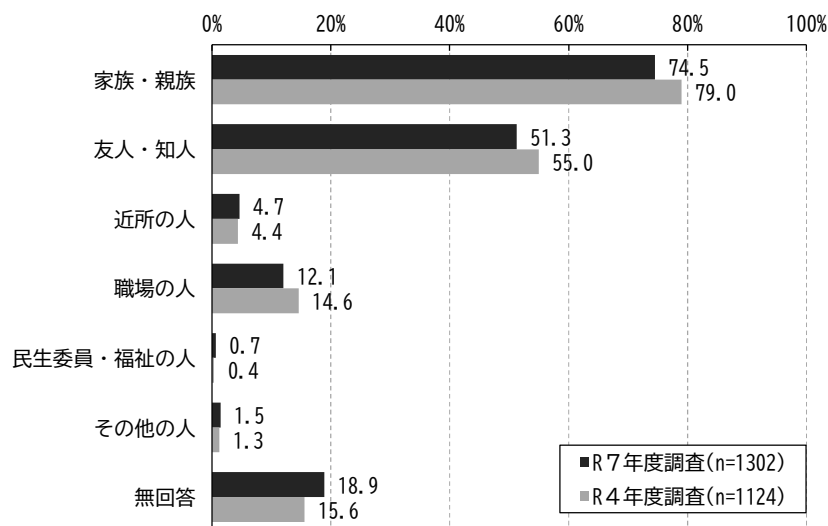
また、いると回答した人の頼れる人は、「家族・親族」が74.5%と最も多く、次いで「友人・知人」が51.3%、「職場の人」が12.1%、「近所の人」が4.7%、「その他の人」が1.5%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「家族・親族」が4.5ポイント、「友人・知人」が3.7ポイント少なくなっています。

頼れる人の有無



頼れる人



⑥いざというときのお金の援助

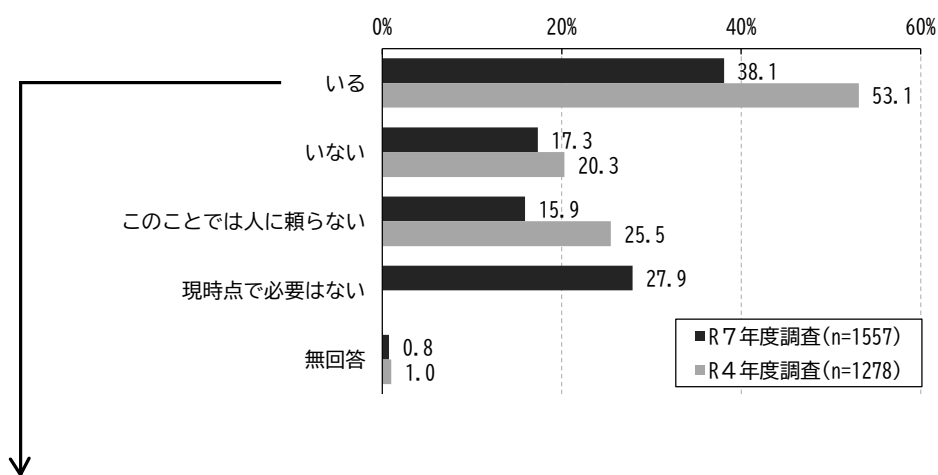
「いる」が38.1%と最も多く、次いで「現時点では必要はない」が27.9%、「いない」が17.3%、「このことでは人に頼らない」が15.9%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「いる」が15.0ポイント、「このことでは人に頼らない」が9.6ポイント少なくなっていますが、新たに設けた項目「現時点では必要はない」によるものと考えられます。

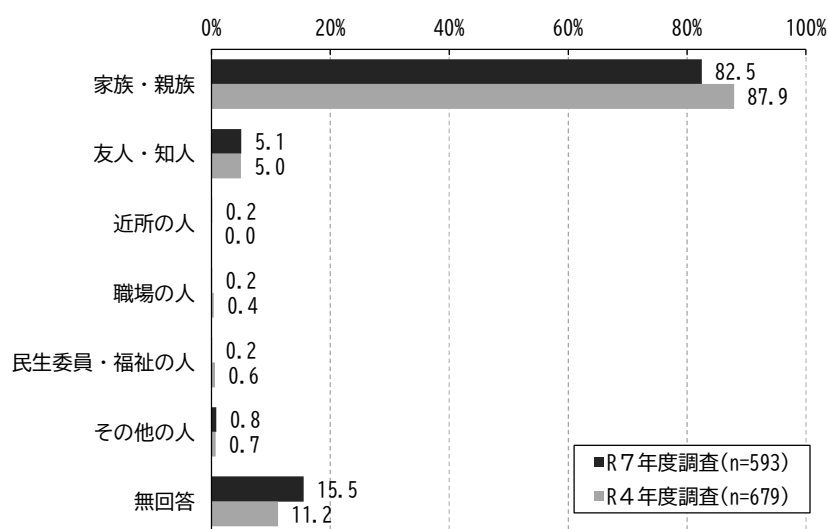
また、いと回答した人の頼れる人は、「家族・親族」が82.5%と最も多く、次いで「友人・知人」が5.1%、「その他の人」が0.8%、「近所の人」、「職場の人」、「民生委員・福祉の人」が同率で0.2%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「家族・親族」が5.4ポイント少なくなっています。

頼れる人の有無



頼れる人



⑦日ごろのちょっとしたことの手助け

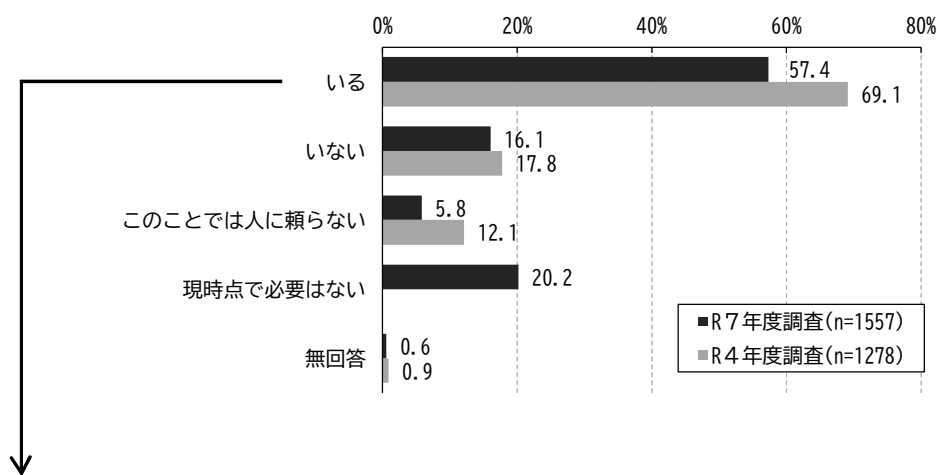
「いる」が57.4%と最も多く、次いで「現時点では必要はない」が20.2%、「いない」が16.1%、「このことでは人に頼らない」が5.8%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「いる」が11.7ポイント、「このことでは人に頼らない」が6.3ポイント少なくなっていますが、新たに設けた項目「現時点では必要はない」によるものと考えられます。

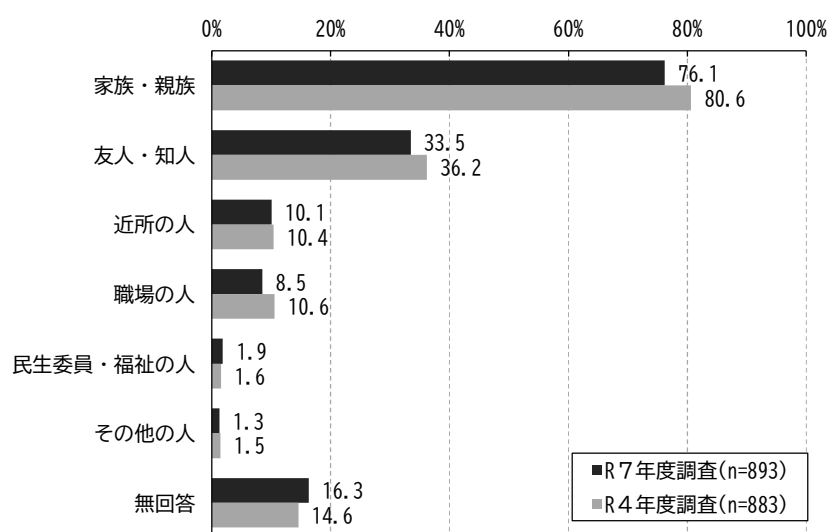
また、いと回答した人の頼れる人は、「家族・親族」が76.1%と最も多く、次いで「友人・知人」が33.5%、「近所の人」が10.1%、「職場の人」が8.5%、「民生委員・福祉の人」が1.9%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「家族・親族」が4.5ポイント少なくなっています。

頼れる人の有無



頼れる人



⑧家を借りるときの保証人を頼むこと

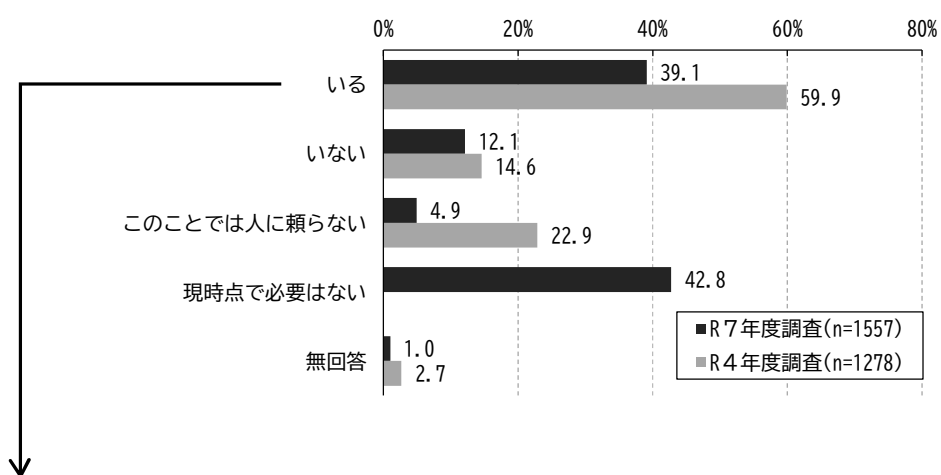
「現時点で必要はない」が42.8%と最も多く、次いで「いる」が39.1%、「いない」が12.1%、「このことでは人に頼らない」が4.9%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「いる」が20.8ポイント、「このことでは人に頼らない」が18.0ポイント少なくなっていますが、新たに設けた項目「現時点では必要はない」によるものと考えられます。

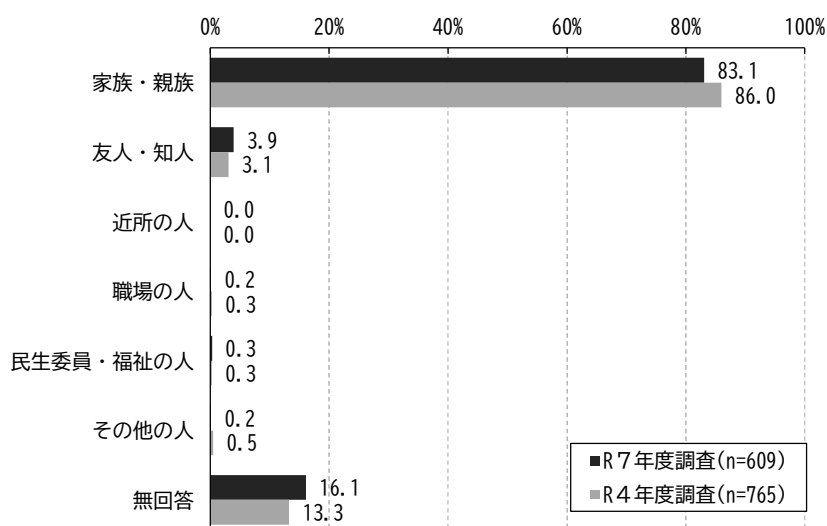
また、いると回答した人の頼れる人は、「家族・親族」が83.1%と最も多く、次いで「友人・知人」が3.9%、「民生委員・福祉の人」が0.3%、「職場の人」及び「その他の人」が0.2%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、頼れる人の傾向に大きな差はみられません。

頼れる人の有無



頼れる人



◎福祉施設や病院等に入所・入院する際に身元保証人を頼むこと

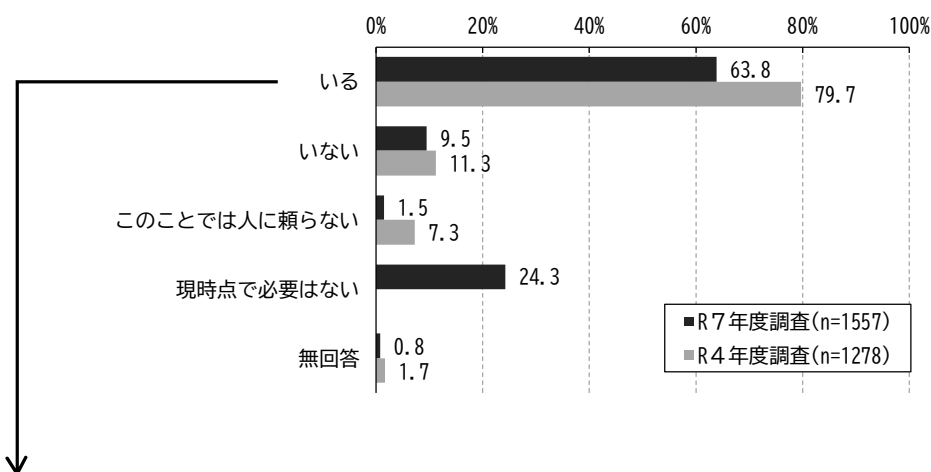
「いる」が63.8%と最も多く、次いで「現時点では必要はない」が24.3%、「いない」が9.5%、「このことでは人に頼らない」が1.5%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「いる」が15.9ポイント、「このことでは人に頼らない」が5.8ポイント少なくなっていますが、新たに設けた項目「現時点では必要はない」によるものと考えられます。

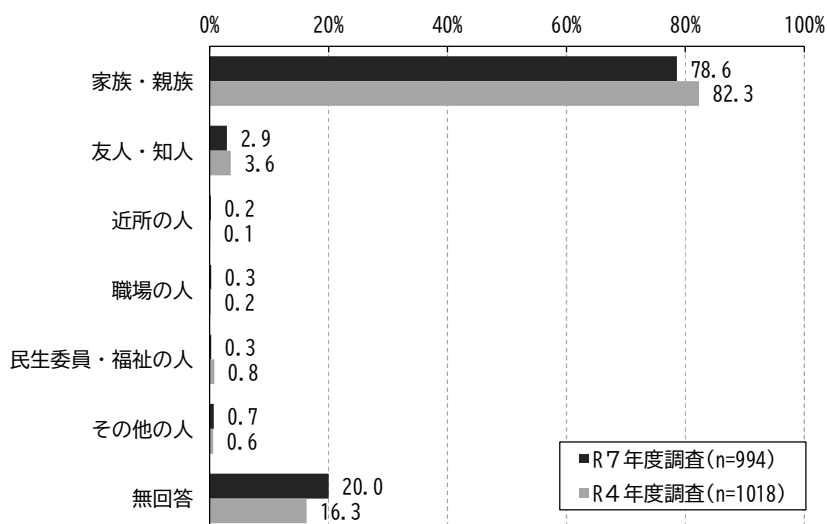
また、いると回答した人の頼れる人は、「家族・親族」が78.6%と最も多く、次いで「友人・知人」が2.9%、「その他の人」が0.7%、「職場の人」及び「民生委員・福祉の人」が0.3%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「家族・親族」が3.7ポイント少なくなっています。

頼れる人の有無



頼れる人



⑩成年後見人等を頼むこと

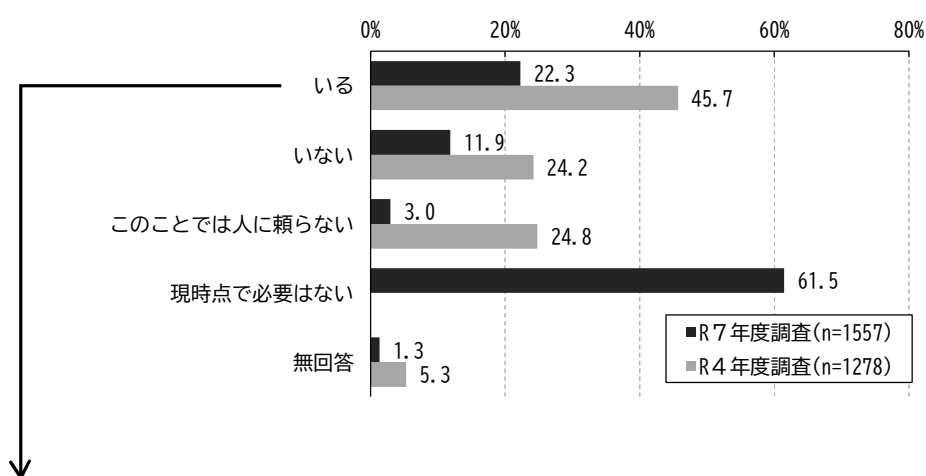
「現時点では必要はない」が61.5%と最も多く、次いで「いる」が22.3%、「いない」が11.9%、「このことでは人に頼らない」が3.0%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「いる」が23.4ポイント、「このことでは人に頼らない」が21.8ポイント少なくなっていますが、新たに設けた項目「現時点では必要はない」によるものと考えられます。

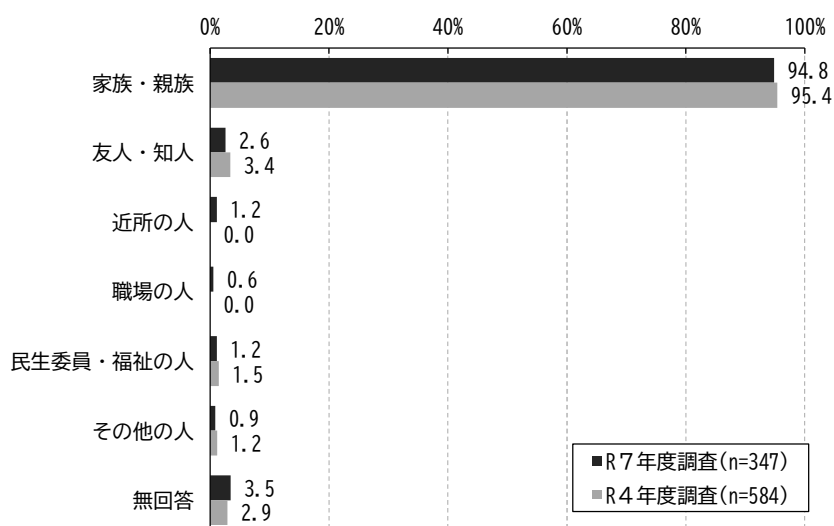
また、いると回答した人の頼れる人は、「家族・親族」が94.8%と最も多く、次いで「友人・知人」が2.6%、「近所の人」及び「民生委員・福祉の人」が1.2%、「その他の人」が0.9%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、頼れる人の傾向に大きな差はみられません。

頼れる人の有無



頼れる人

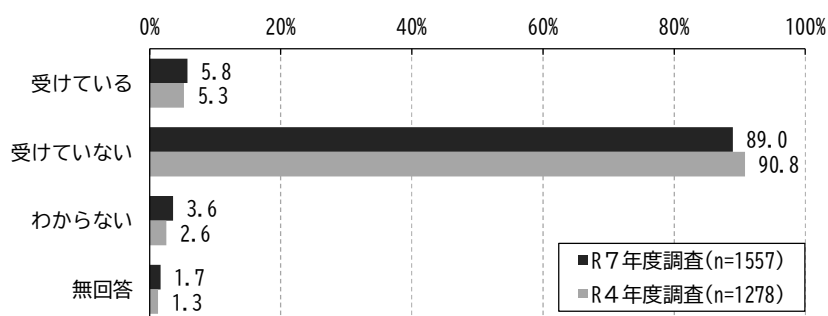


問 17 あなたは現在、行政機関や NPO 等の民間団体から、困りごとに対する支援（対価を支払うものを除く。）を受けていますか。

「受けていない」が 89.0%と最も多く、次いで「受けている」が 5.8%、「わからない」が 3.6%となっています。

前回調査（令和 4 年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。

クロス集計の結果をみると、婚姻状況別の未婚、孤独感別の該当、世帯年収別の世帯年収 200 万円未満で「受けている」の割合がやや高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

	受けている	受けていない	わからない	無回答
男性 (n=601)	4.7	91.2	3.2	1.0
女性 (n=928)	6.5	88.0	3.7	1.8
その他・答えたくない (n=23)	4.3	73.9	13.0	8.7
20歳代 (n=46)	0.0	87.0	8.7	4.3
30歳代 (n=152)	8.6	85.5	3.9	2.0
40歳代 (n=242)	8.3	85.5	5.0	1.2
50歳代 (n=351)	7.7	86.9	4.6	0.9
60歳代 (n=404)	4.2	91.8	2.2	1.7
70歳代 (n=287)	2.4	94.1	2.1	1.4
80歳以上 (n=71)	8.5	84.5	2.8	4.2
あいとびあエリア (n=454)	5.5	88.1	5.7	0.7
こまえ苑エリア (n=506)	4.9	89.1	3.4	2.6
こまえ正吉苑エリア (n=590)	6.8	89.7	2.2	1.4
ひとり暮らし (n=313)	8.6	86.6	3.8	1.0
その他 (n=1205)	5.1	89.9	3.5	1.6
未婚 (n=280)	10.7	81.4	7.1	0.7
配偶者あり (n=1046)	4.3	91.2	2.8	1.7
死別・離別 (n=221)	6.8	88.2	3.2	1.8
社会的孤立 該当 (n=155)	9.0	83.9	5.2	1.9
社会的孤立 非該当 (n=1366)	5.3	90.0	3.4	1.2
孤独感 該当 (n=66)	24.2	57.6	18.2	0.0
孤独感 非該当 (n=1478)	5.0	90.9	2.9	1.2
世帯年収200万円未満 (n=193)	13.0	77.7	7.3	2.1
世帯年収200万円以上400万円未満 (n=333)	7.2	87.4	3.3	2.1
世帯年収400万円以上700万円未満 (n=341)	4.4	92.7	1.8	1.2
世帯年収700万円以上 (n=496)	2.6	94.0	2.4	1.0

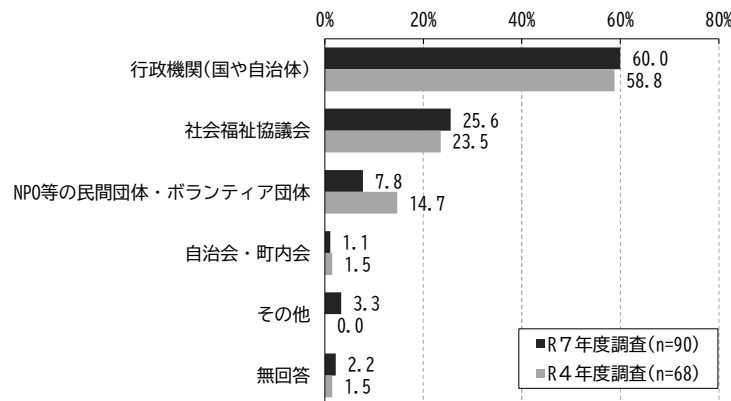
【問 17 で「1. 受けている」と回答した方】

問 17-1 あなたはどこから支援を受けていますか。

「行政機関（国や自治体）」が 60.0%と最も多く、次いで「社会福祉協議会」が 25.6%、「NPO 等の民間団体・ボランティア団体」が 7.8%、「その他」が 3.3%、「自治会・町内会」が 1.1%となっています。

前回調査（令和 4 年度調査）と比較すると、「NPO 等の民間団体・ボランティア団体」が 6.9 ポイント少なくなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別の 70 歳代で「社会福祉協議会」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

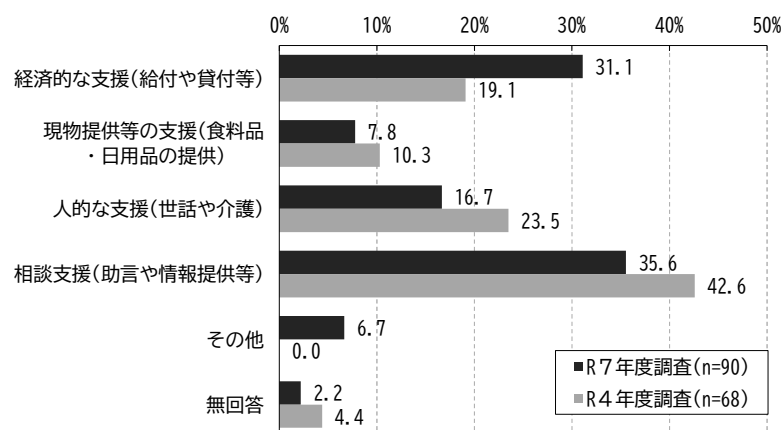
	行政機関 (国や自治 体)	社会福祉協 議会	NPO等の民 間団体・ボ ランティア 団体	自治会・町 内会	その他	無回答
男性(n=28)	60.7	35.7	0.0	0.0	0.0	3.6
女性(n=60)	60.0	20.0	11.7	1.7	5.0	1.7
その他・答えたくない(n=1)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代(n=13)	61.5	15.4	15.4	7.7	0.0	0.0
40歳代(n=20)	65.0	15.0	15.0	0.0	5.0	0.0
50歳代(n=27)	70.4	22.2	3.7	0.0	3.7	0.0
60歳代(n=17)	58.8	29.4	5.9	0.0	0.0	5.9
70歳代(n=7)	14.3	71.4	0.0	0.0	14.3	0.0
80歳以上(n=6)	50.0	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7
あいとびあエリア(n=25)	60.0	32.0	8.0	0.0	0.0	0.0
こまえ苑エリア(n=25)	52.0	20.0	20.0	4.0	4.0	0.0
こまえ正吉苑エリア(n=40)	65.0	25.0	0.0	0.0	5.0	5.0
ひとり暮らし(n=27)	77.8	18.5	0.0	0.0	0.0	3.7
その他(n=61)	54.1	27.9	11.5	1.6	4.9	0.0
未婚(n=30)	76.7	20.0	0.0	0.0	0.0	3.3
配偶者あり(n=45)	51.1	31.1	8.9	2.2	4.4	2.2
死別・離別(n=15)	53.3	20.0	20.0	0.0	6.7	0.0
社会的孤立 該当(n=14)	92.9	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1
社会的孤立 非該当(n=73)	53.4	30.1	9.6	1.4	4.1	1.4
孤独感 該当(n=16)	62.5	25.0	6.3	0.0	6.3	0.0
孤独感 非該当(n=74)	59.5	25.7	8.1	1.4	2.7	2.7
世帯年収200万円未満(n=25)	76.0	20.0	4.0	0.0	0.0	0.0
世帯年収200万円以上400万円未満(n=24)	41.7	45.8	4.2	0.0	4.2	4.2
世帯年収400万円以上700万円未満(n=15)	60.0	13.3	20.0	0.0	0.0	6.7
世帯年収700万円以上(n=13)	53.8	23.1	15.4	0.0	7.7	0.0

問 17-2 あなたはどのような支援を受けていますか。

「相談支援（助言や情報提供等）」が 35.6%と最も多く、次いで「経済的な支援（給付や貸付等）」が 31.1%、「人的な支援（世話や介護）」が 16.7%、「現物提供等の支援（食料品・日用品の提供）」が 7.8%、「その他」が 6.7%となっています。

前回調査（令和 4 年度調査）と比較すると、「経済的な支援（給付や貸付等）」が 12.0 ポイント多くなっているほかは、少なくなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では 30 歳代で「経済的な支援（給付や貸付等）」、80 歳代で「人的な支援（世話や介護）」の割合が高くなっています。また、家族構成別のひとり暮らし、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当で「経済的な支援（給付や貸付等）」の割合が高くなっています。世帯年収別では世帯年収 200 万円未満で「経済的な支援（給付や貸付等）」、世帯年収 700 万円以上で「人的な支援（世話や介護）」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

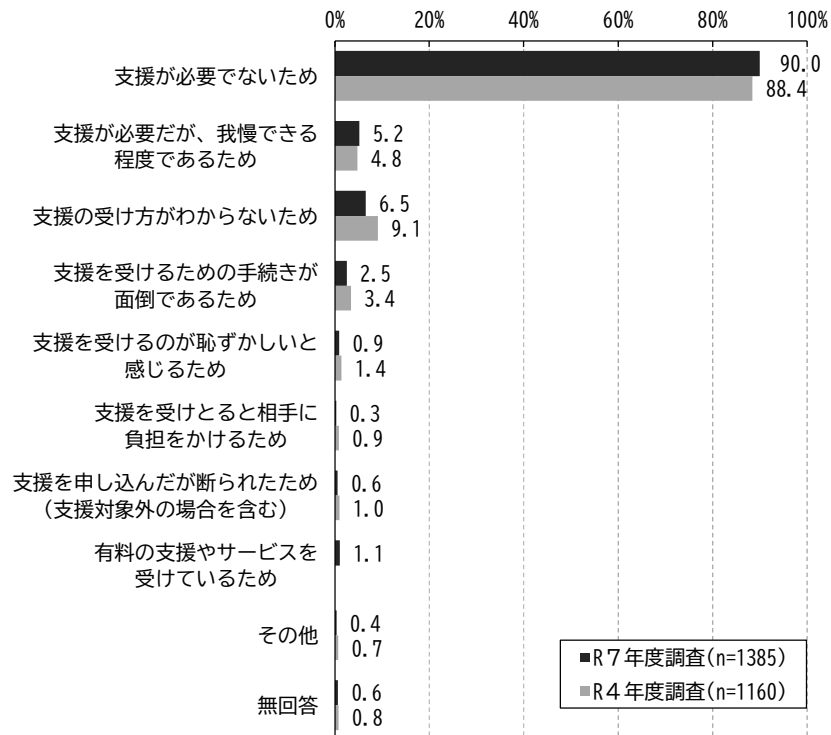
	経済的な支援(給付や貸付等)	現物提供等の支援(食料品・日用品の提供)	人的な支援(世話や介護)	相談支援(助言や情報提供等)	その他	無回答
男性(n=28)	39.3	0.0	10.7	42.9	3.6	3.6
女性(n=60)	28.3	11.7	16.7	33.3	8.3	1.7
その他・答えたくない(n=1)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
20歳代(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代(n=13)	53.8	7.7	15.4	23.1	0.0	0.0
40歳代(n=20)	25.0	20.0	15.0	30.0	10.0	0.0
50歳代(n=27)	37.0	3.7	7.4	44.4	7.4	0.0
60歳代(n=17)	23.5	5.9	17.6	41.2	5.9	5.9
70歳代(n=7)	28.6	0.0	28.6	28.6	14.3	0.0
80歳以上(n=6)	0.0	0.0	50.0	33.3	0.0	16.7
あいとびあエリア(n=25)	36.0	8.0	12.0	28.0	16.0	0.0
こまえ苑エリア(n=25)	32.0	8.0	16.0	40.0	4.0	0.0
こまえ正言苑エリア(n=40)	27.5	7.5	20.0	37.5	2.5	5.0
ひとり暮らし(n=27)	40.7	0.0	14.8	29.6	11.1	3.7
その他(n=61)	27.9	11.5	16.4	39.3	4.9	0.0
未婚(n=30)	40.0	0.0	6.7	43.3	6.7	3.3
配偶者あり(n=45)	28.9	4.4	22.2	35.6	6.7	2.2
死別・離別(n=15)	20.0	33.3	20.0	20.0	6.7	0.0
社会的孤立 該当(n=14)	50.0	0.0	7.1	28.6	7.1	7.1
社会的孤立 非該当(n=73)	27.4	9.6	17.8	37.0	6.8	1.4
孤独感 該当(n=16)	37.5	12.5	12.5	31.3	6.3	0.0
孤独感 非該当(n=74)	29.7	6.8	17.6	36.5	6.8	2.7
世帯年収200万円未満(n=25)	48.0	4.0	12.0	28.0	8.0	0.0
世帯年収200万円以上400万円未満(n=24)	25.0	16.7	8.3	41.7	4.2	4.2
世帯年収400万円以上700万円未満(n=15)	26.7	13.3	13.3	33.3	6.7	6.7
世帯年収700万円以上(n=13)	7.7	0.0	46.2	38.5	7.7	0.0

【問 17 で「2 受けていない」と回答した方】

問 17-3 その理由をお答えください。(複数回答)

「支援が必要でないため」が 90.0% と最も多く、次いで「支援の受け方がわからないため」が 6.5%、「支援が必要だが、我慢できる程度であるため」が 5.2%、「支援を受けるための手続きが面倒であるため」が 2.5%、「有料の支援やサービスを受けているため」が 1.1% となっています。

前回調査（令和 4 年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。



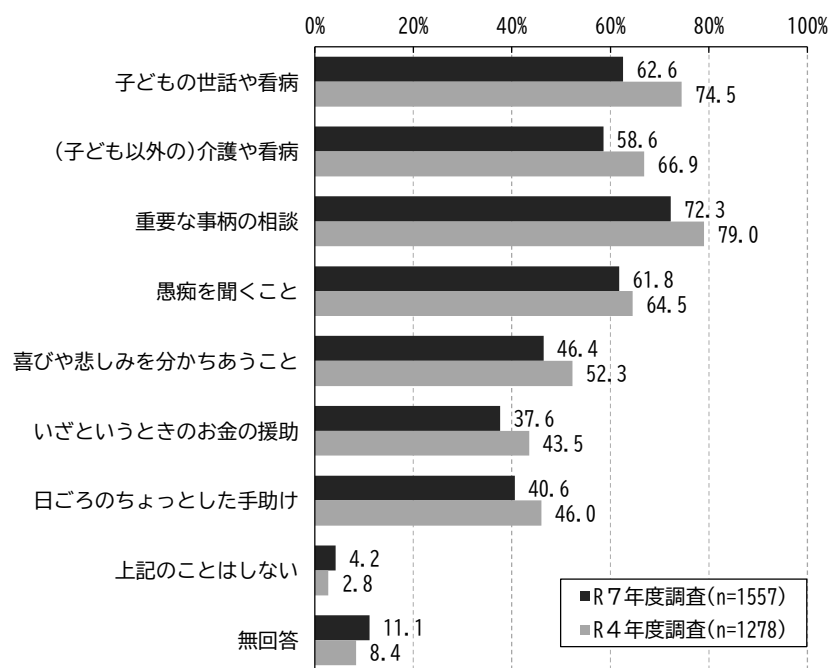
問18 ①～④の人が、次に挙げる1から7の事柄について助けを必要としているときに、それらの事柄をしますか。

①家族・親族（複数回答）

「重要な事柄の相談」が72.3%と最も多く、次いで「子どもの世話や看病」が62.6%、「愚痴を聞くこと」が61.8%、「(子ども以外の)介護や看病」が58.6%、「喜びや悲しみを分かちあうこと」が46.4%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「子どもの世話や看病」が11.9ポイント、「(子ども以外の)介護や看病」が8.3ポイント少なくなっており、その他すべての項目で少なくなっています。クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ、すべての項目で割合が低くなっています。また、家族構成のその他、婚姻状況別の配偶者あり、社会的孤立別の非該当、孤独感別の非該当ですべての項目の回答割合が高くなっています。

世帯年収別では、世帯年収が高くなるほどすべての項目の回答割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>

	子どもの世 話や看病	(子ども以 外の) 介護 や看病	重要な事柄 の相談	愚痴を聞く こと	喜びや悲し みを分かち あうこと	いざとい うときのお金 の援助	日ごろの ちょっとした 手助け	上記のこと はしない	無回答
男性(n=601)	59.2	53.7	69.4	55.4	40.1	32.9	35.9	6.5	12.3
女性(n=928)	64.9	62.3	74.4	66.2	50.8	40.8	43.5	2.8	10.2
その他・答えたくない(n=23)	60.9	43.5	69.6	60.9	43.5	34.8	47.8	4.3	13.0
20歳代(n=46)	65.2	71.7	82.6	78.3	67.4	58.7	60.9	4.3	13.0
30歳代(n=152)	75.7	69.7	82.2	73.0	57.2	46.1	51.3	3.3	7.2
40歳代(n=242)	74.4	70.2	82.2	71.9	54.1	45.9	45.5	3.3	5.0
50歳代(n=351)	63.8	67.8	74.1	67.0	47.0	40.2	44.7	5.1	7.7
60歳代(n=404)	59.7	59.4	70.3	62.4	44.3	35.9	38.9	5.0	11.6
70歳代(n=287)	53.3	38.3	64.8	45.6	38.0	27.5	30.0	3.8	17.4
80歳以上(n=71)	42.3	19.7	45.1	31.0	28.2	16.9	21.1	2.8	25.4
あいとびあエリア(n=454)	62.1	59.5	72.5	62.1	49.8	42.3	45.4	4.6	10.6
こまえ苑エリア(n=506)	63.6	59.9	71.3	61.1	43.5	35.0	37.9	4.3	11.7
こまえ正吉苑エリア(n=590)	62.7	57.3	73.6	62.7	46.8	36.6	39.3	3.9	10.3
ひとり暮らし(n=313)	38.0	39.6	61.0	47.6	39.0	32.6	31.0	8.6	19.5
その他(n=1205)	70.1	64.5	75.9	66.3	49.3	39.7	43.9	3.1	8.3
未婚(n=280)	35.4	53.6	68.9	52.5	41.1	33.2	35.0	7.9	15.0
配偶者あり(n=1046)	72.9	64.2	77.0	67.4	49.6	40.2	43.6	3.0	8.0
死別・離別(n=221)	48.4	38.9	55.7	48.0	38.9	31.7	33.9	5.9	20.4
社会的孤立 該当(n=155)	32.3	33.5	49.0	38.1	25.8	22.6	22.6	12.9	23.2
社会的孤立 非該当(n=1366)	66.8	62.0	75.5	65.0	49.4	39.7	43.0	3.4	9.2
孤独感 該当(n=66)	27.3	43.9	56.1	40.9	31.8	24.2	25.8	12.1	21.2
孤独感 非該当(n=1478)	64.6	59.7	73.5	63.2	47.4	38.5	41.5	3.9	9.9
世帯年収200万円未満(n=193)	42.5	39.9	57.5	45.6	35.2	26.4	26.9	7.8	20.2
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	51.4	44.1	62.8	50.2	39.3	28.5	33.9	5.7	13.8
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	66.6	64.8	75.4	65.4	49.3	39.6	43.1	4.4	8.5
世帯年収700万円以上(n=496)	74.0	71.2	82.1	74.0	53.0	47.4	47.8	2.8	5.6

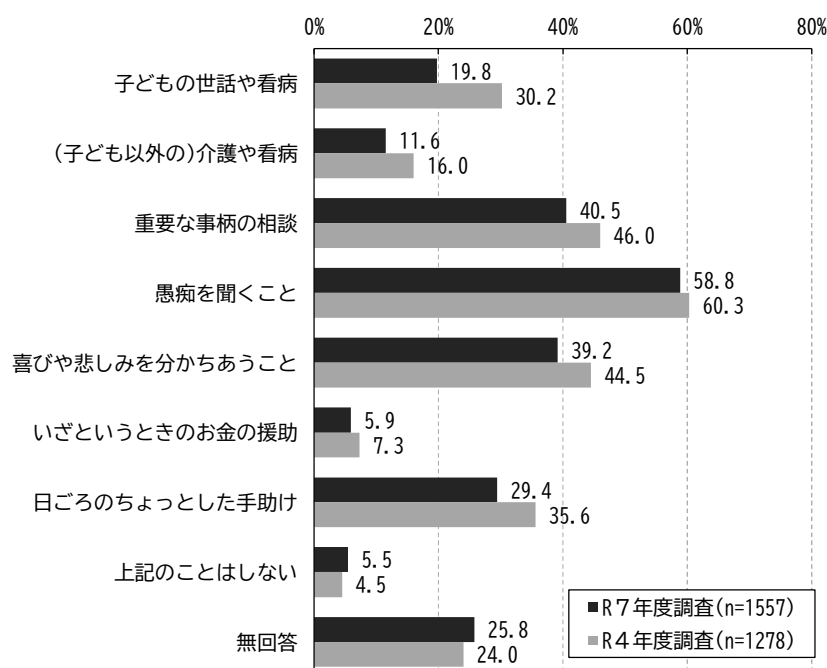
②友人・知人（複数回答）

「愚痴を聞くこと」が58.8%と最も多く、次いで「重要な事柄の相談」が40.5%、「喜びや悲しみを分かちあうこと」が39.2%、「日ごろのちょっとした手助け」が29.4%、「子どもの世話や看病」が19.8%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「子どもの世話や看病」が10.4ポイント、「日ごろのちょっとした手助け」が6.2ポイント少なくなっており、その他すべての項目で少なくなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ、すべての項目で割合が低くなる傾向がみられます。また、社会的孤立別の非該当、孤独感別の非該当ですべての項目の回答割合が高くなっています。

世帯年収別では、世帯年収が高くなるほどすべての項目の回答割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>

	子どもの世 話や看病	(子ども以 外の)介護 や看病	重要な事柄 の相談	愚痴を聞く こと	喜びや悲し みを分かち あうこと	いざとい うときのお 金の援助	日ごろの ちょっとした 手助け	上記のこと はしない	無回答
男性(n=601)	14.5	9.3	37.9	47.6	30.3	6.2	23.5	10.1	30.9
女性(n=928)	23.4	13.0	42.2	66.3	45.3	5.7	33.2	2.5	22.3
その他・答えたくない(n=23)	17.4	13.0	43.5	60.9	34.8	8.7	34.8	4.3	26.1
20歳代(n=46)	26.1	13.0	67.4	80.4	60.9	17.4	47.8	0.0	17.4
30歳代(n=152)	40.8	17.8	60.5	74.3	55.9	9.2	42.8	3.3	13.8
40歳代(n=242)	36.4	15.3	45.9	71.1	50.0	8.3	36.0	4.1	13.6
50歳代(n=351)	20.2	13.7	46.4	67.0	42.7	6.0	33.9	6.0	19.4
60歳代(n=404)	12.6	9.7	37.6	57.2	35.9	4.7	26.2	6.7	25.5
70歳代(n=287)	7.3	7.3	25.4	39.7	25.8	3.1	17.4	5.9	41.8
80歳以上(n=71)	4.2	2.8	12.7	18.3	9.9	1.4	11.3	7.0	64.8
あいとびあエリア(n=454)	24.2	14.1	43.6	60.6	41.9	6.6	33.0	5.9	24.0
こまえ苑エリア(n=506)	17.4	9.9	39.9	58.1	37.7	5.7	25.5	4.7	27.9
こまえ正吉苑エリア(n=590)	18.6	11.2	39.2	58.8	38.8	5.6	30.2	5.6	24.7
ひとり暮らし(n=313)	11.2	11.8	39.3	54.0	37.4	7.3	28.4	7.0	29.1
その他(n=1205)	22.2	11.5	41.3	60.9	40.5	5.6	30.0	5.0	24.4
未婚(n=280)	18.2	15.7	46.8	58.9	40.7	10.4	32.1	7.1	21.4
配偶者あり(n=1046)	22.4	11.3	40.8	60.9	40.2	5.6	30.1	5.1	24.6
死別・離別(n=221)	10.0	8.1	31.7	49.3	32.1	1.8	22.6	5.4	36.2
社会的孤立 該当(n=155)	7.7	9.7	26.5	40.6	25.8	3.9	20.0	11.6	35.5
社会的孤立 非該当(n=1366)	21.4	11.9	42.3	61.6	41.3	6.2	30.7	4.9	23.9
孤独感 該当(n=66)	13.6	6.1	27.3	39.4	30.3	1.5	19.7	18.2	30.3
孤独感 非該当(n=1478)	20.2	11.9	41.5	60.2	39.9	6.2	30.1	4.9	24.9
世帯年収200万円未満(n=193)	11.4	8.8	31.6	46.1	28.0	3.1	21.8	4.7	36.8
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	11.7	10.8	33.3	48.3	34.2	4.8	23.7	6.9	31.2
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	20.2	12.0	39.9	58.4	38.1	7.3	27.9	6.2	25.5
世帯年収700万円以上(n=496)	28.8	14.7	52.8	72.2	46.8	7.5	36.1	5.0	15.1

③近所の人（複数回答）

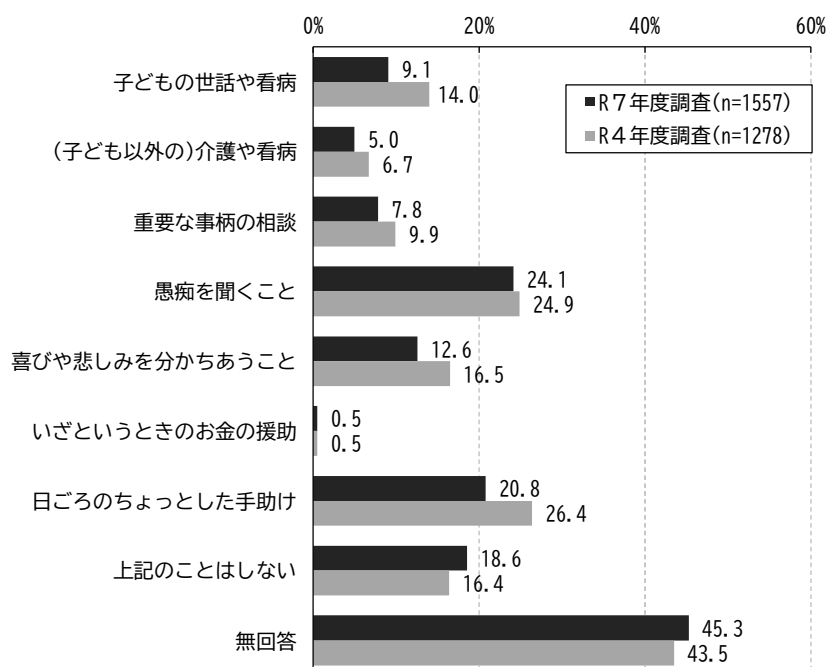
「愚痴を聞くこと」が24.1%と最も多く、次いで「日ごろのちょっとした手助け」が20.8%、「上記のことはしない」が18.6%、「喜びや悲しみを分かちあうこと」が12.6%、「子どもの世話や看病」が9.1%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「日ごろのちょっとした手助け」が5.6ポイント、「子どもの世話や看病」が4.9ポイント少なくなっており、その他ほとんどの項目で少なくなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、40歳代で「愚痴を聞くこと」の割合が高く、また、年齢が上がるにつれ、「上記のことはしない」の割合が低くなっています。

世帯構成別のその他、社会的孤立別の非該当、孤独感別の非該当で「愚痴を聞くこと」の割合が高くなっています。

世帯年収別では、世帯年収が高くなるほど「愚痴を聞くこと」「日ごろのちょっとした手助け」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>

	子どもの世 話や看病	(子ども以 外の) 介護 や看病	重要な事柄 の相談	愚痴を聞く こと	喜びや悲し みを分かち あうこと	いざという ときのお金 の援助	日ごろの ちょっとした 手助け	上記のこと はしない	無回答
男性(n=601)	7.3	4.7	8.8	17.5	7.8	0.8	16.6	22.0	47.4
女性(n=928)	10.5	5.4	7.4	28.9	15.9	0.3	23.7	15.9	43.9
その他・答えたくない(n=23)	0.0	0.0	0.0	8.7	4.3	0.0	13.0	39.1	43.5
20歳代(n=46)	4.3	4.3	6.5	17.4	15.2	0.0	26.1	28.3	34.8
30歳代(n=152)	14.5	3.9	7.9	26.3	16.4	0.0	23.0	27.6	33.6
40歳代(n=242)	17.4	7.4	12.8	32.6	20.2	0.4	24.8	21.5	32.6
50歳代(n=351)	10.8	6.8	8.8	27.9	13.4	0.9	25.1	20.2	37.9
60歳代(n=404)	6.2	3.7	6.9	22.0	10.6	0.7	19.8	18.8	47.8
70歳代(n=287)	3.5	4.5	5.9	19.5	8.4	0.3	15.3	10.5	59.9
80歳以上(n=71)	2.8	0.0	0.0	7.0	1.4	0.0	5.6	7.0	83.1
あいとびあエリア(n=454)	12.1	5.5	8.4	26.4	15.2	0.2	23.3	20.5	41.0
こまえ苑エリア(n=506)	7.3	5.1	9.3	23.1	11.7	1.0	17.8	17.8	48.2
こまえ正吉苑エリア(n=590)	8.3	4.6	6.3	23.6	11.5	0.3	21.5	17.8	45.8
ひとり暮らし(n=313)	3.5	3.5	5.4	16.0	8.9	0.0	15.0	21.7	50.8
その他(n=1205)	10.7	5.5	8.5	26.6	13.8	0.7	22.7	18.0	43.2
未婚(n=280)	4.6	5.7	6.4	15.7	9.6	0.0	16.4	25.7	43.2
配偶者あり(n=1046)	11.3	5.3	8.7	27.2	13.9	0.7	22.7	17.5	43.6
死別・離別(n=221)	4.5	3.2	5.9	21.3	10.4	0.5	17.2	14.5	55.7
社会的孤立 該当(n=155)	5.2	4.5	7.1	12.3	6.5	0.0	12.9	20.6	51.6
社会的孤立 非該当(n=1366)	9.5	5.1	7.9	25.5	13.5	0.6	21.9	18.6	44.2
孤独感 該当(n=66)	6.1	3.0	7.6	7.6	4.5	0.0	9.1	33.3	45.5
孤独感 非該当(n=1478)	9.3	5.1	7.9	25.1	13.1	0.5	21.5	18.1	44.8
世帯年収200万円未満(n=193)	5.7	3.6	8.3	16.1	8.8	0.0	13.5	14.0	57.5
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	4.2	4.8	3.9	16.2	6.3	0.3	13.8	20.7	52.9
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	6.7	5.3	7.6	22.9	11.7	0.6	19.4	20.5	44.0
世帯年収700万円以上(n=496)	15.7	6.5	11.7	33.5	18.5	0.8	27.0	19.8	33.7

④職場の人（複数回答）

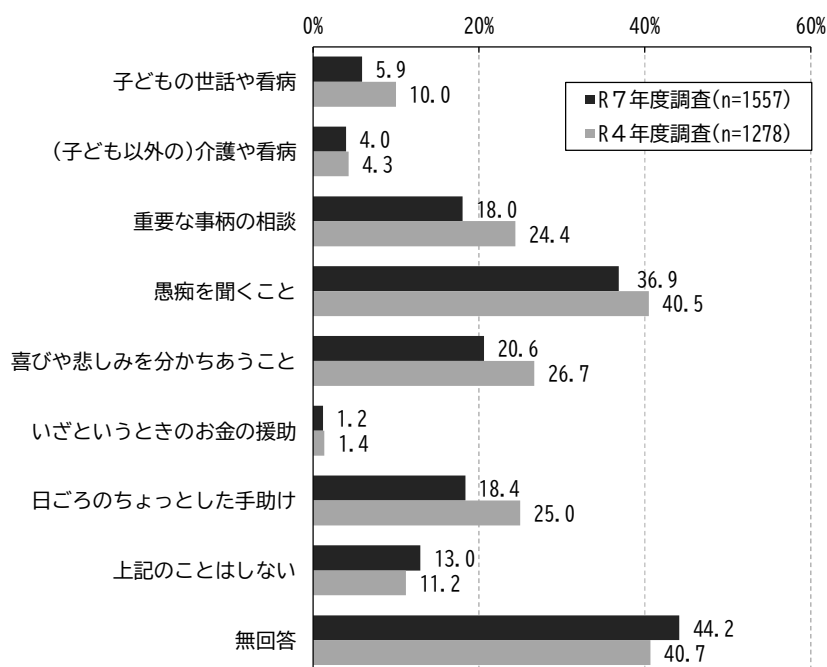
「愚痴を聞くこと」が36.9%と最も多く、次いで「喜びや悲しみを分かちあうこと」が20.6%、「日ごろのちょっとした手助け」が18.4%、「重要な事柄の相談」が18.0%、「上記のことはしない」が13.0%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「日ごろのちょっとした手助け」が6.6ポイント、「重要な事柄の相談」が6.4ポイント少なくなっており、その他すべての項目で少なくなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ、「愚痴を聞くこと」の割合が低くなっています。

世帯構成別のその他、社会的孤立別の非該当、孤独感別の非該当で「愚痴を聞くこと」の割合が高くなっています。

世帯年収別では、世帯年収が高くなるほど「いざというときのお金の援助」以外の項目で割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>

	子どもの世 話や看病	(子ども以 外の)介護 や看病	重要な事柄 の相談	愚痴を聞く こと	喜びや悲し みを分かち あうこと	いざとい うときのお 金の援助	日ごろの ちょっとした 手助け	上記のこと はしない	無回答
男性(n=601)	5.2	4.8	18.6	31.3	14.8	1.7	15.8	17.3	44.3
女性(n=928)	6.6	3.6	17.7	40.7	24.7	0.9	19.9	10.0	44.1
その他・答えたくない(n=23)	0.0	0.0	21.7	30.4	13.0	4.3	26.1	17.4	43.5
20歳代(n=46)	4.3	2.2	30.4	63.0	39.1	0.0	39.1	2.2	28.3
30歳代(n=152)	11.2	5.9	32.2	55.3	34.9	2.6	32.2	11.2	25.7
40歳代(n=242)	12.0	7.0	25.6	53.7	31.0	2.1	25.6	10.7	25.6
50歳代(n=351)	7.7	5.4	25.9	50.4	27.1	1.7	26.8	11.7	30.5
60歳代(n=404)	3.5	3.2	13.4	31.7	16.6	0.7	12.4	16.8	47.0
70歳代(n=287)	1.0	1.0	3.8	8.7	4.5	0.3	4.5	15.0	72.8
80歳以上(n=71)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0	93.0
あいとびあエリア(n=454)	7.0	4.8	19.2	38.5	22.9	1.1	21.1	12.1	43.0
こまえ苑エリア(n=506)	5.5	4.3	19.0	37.7	20.8	2.0	17.8	10.9	44.3
こまえ正吉苑エリア(n=590)	5.4	3.1	16.6	35.3	19.0	0.7	16.9	15.3	44.7
ひとり暮らし(n=313)	2.2	1.6	14.1	28.1	16.6	1.0	14.4	16.9	48.6
その他(n=1205)	7.0	4.6	19.4	39.9	22.2	1.3	19.8	12.1	42.2
未婚(n=280)	5.4	5.7	21.4	39.6	22.5	1.8	22.9	14.3	35.7
配偶者あり(n=1046)	7.0	4.0	19.0	39.6	21.9	1.1	19.0	12.6	42.6
死別・離別(n=221)	1.8	1.8	9.5	20.8	12.2	0.9	10.0	13.1	61.5
社会的孤立 該当(n=155)	1.9	3.2	12.3	23.2	10.3	0.0	12.3	18.7	51.0
社会的孤立 非該当(n=1366)	6.4	4.1	18.9	38.7	22.2	1.4	19.3	12.5	42.9
孤独感 該当(n=66)	3.0	1.5	13.6	25.8	15.2	1.5	16.7	16.7	51.5
孤独感 非該当(n=1478)	6.1	4.1	18.4	37.7	21.0	1.2	18.6	12.9	43.4
世帯年収200万円未満(n=193)	3.1	1.0	7.3	15.0	8.8	0.0	9.3	10.9	67.9
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	2.4	2.4	11.1	24.3	14.1	1.2	11.1	15.9	54.1
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	5.6	5.3	15.0	38.1	22.9	1.8	18.5	12.6	42.5
世帯年収700万円以上(n=496)	9.9	5.8	30.6	55.4	29.8	1.6	27.0	11.7	26.2

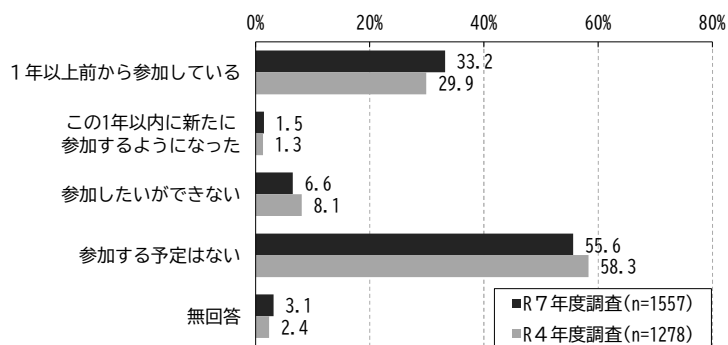
問 19 あなたは次に挙げる①～⑧の会やグループに参加していますか。

①町会・自治会

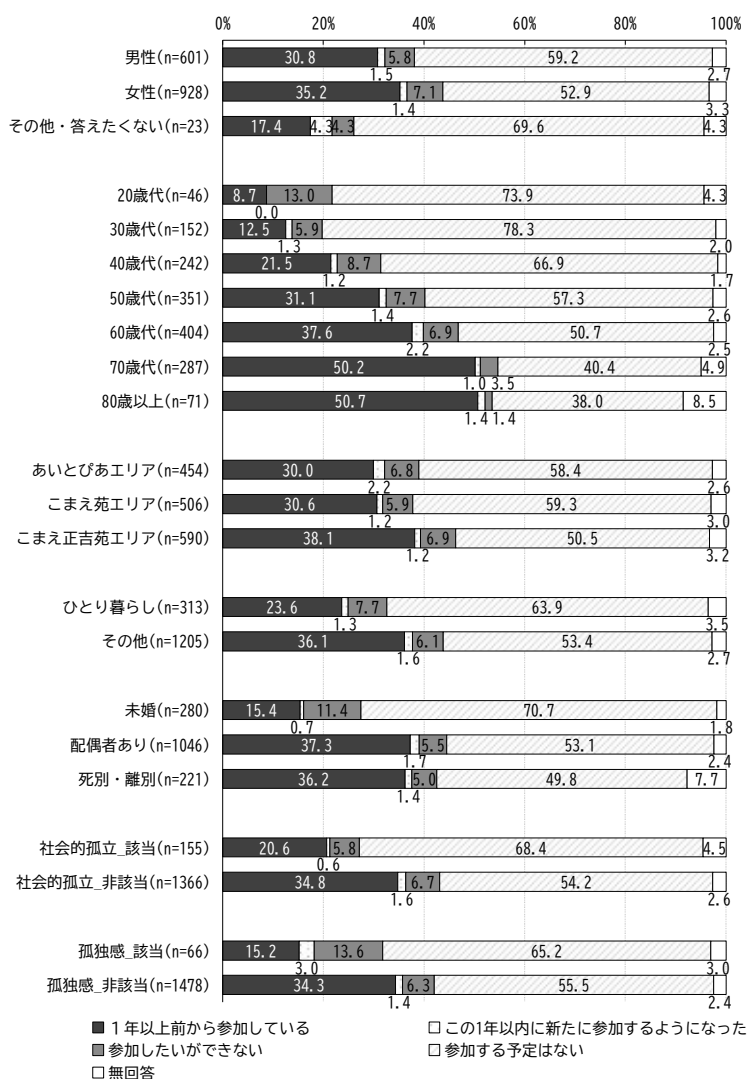
「参加する予定はない」が55.6%と最も多く、次いで「1年以上前から参加している」が33.2%、「参加したいができない」が6.6%、「この1年以内に新たに参加するようになった」が1.5%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「1年以上前から参加している」の割合が高くなっています。また、家族構成別のひとり暮らし、婚姻状況別の未婚、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当で「参加する予定はない」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・クロス集計>

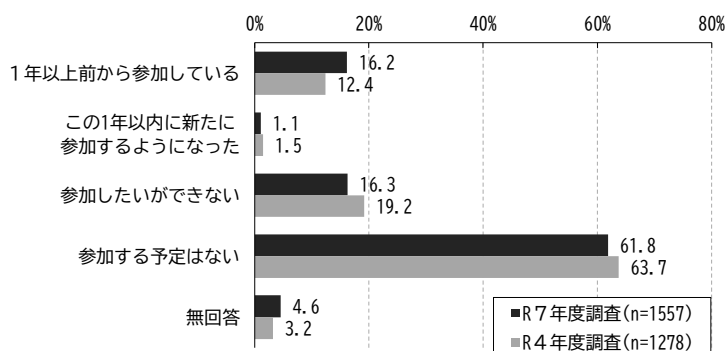


②ボランティアやNPO

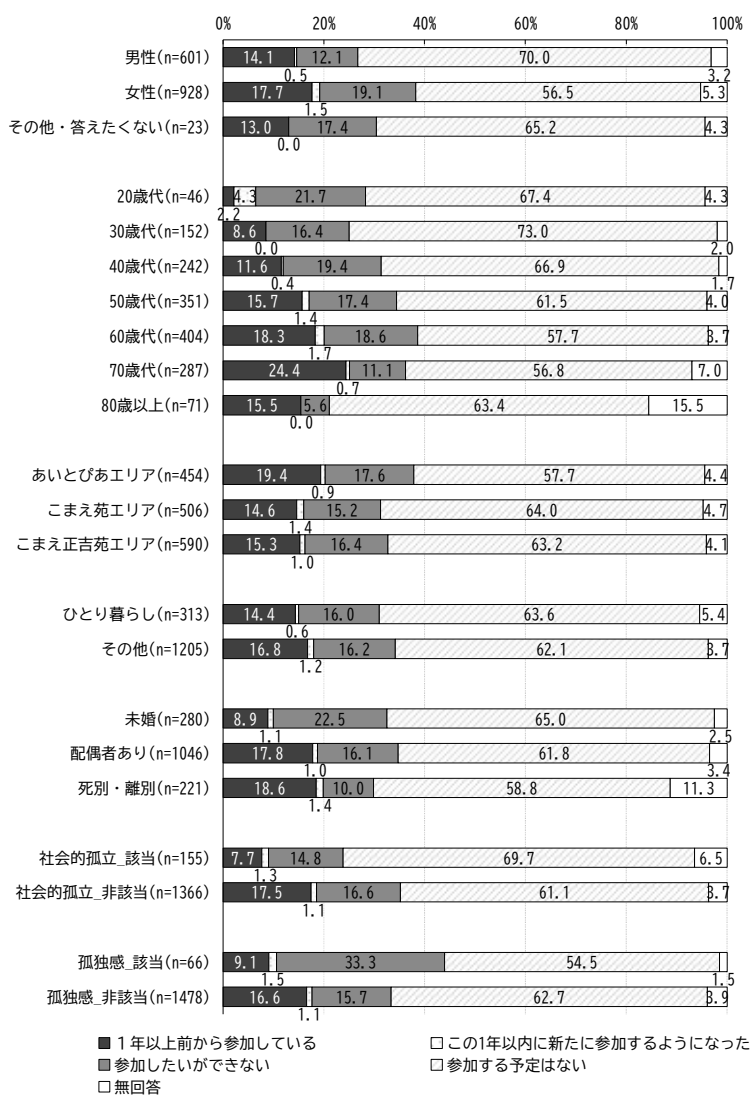
「参加する予定はない」が61.8%と最も多く、次いで「参加したいができない」が16.3%、「1年以上前から参加している」が16.2%、「この1年以内に新たに参加するようになった」が1.1%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「1年以上前から参加している」の割合が高くなる傾向がみられます。また、婚姻状況別の未婚、孤独感別の該当で「参加したいができない」の割合が高くなっています。



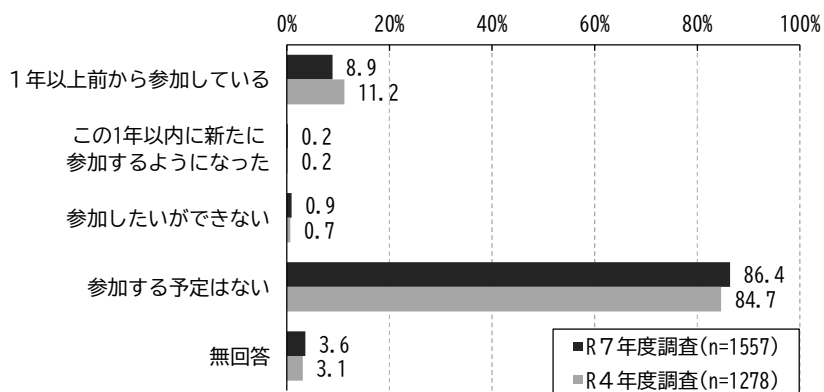
<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・クロス集計>



③宗教団体（檀家や氏子を含む）

「参加する予定はない」が86.4%と最も多く、次いで「1年以上前から参加している」が8.9%、「参加したいができない」が0.9%、「この1年以内に新たに参加するようになった」が0.2%となっています。

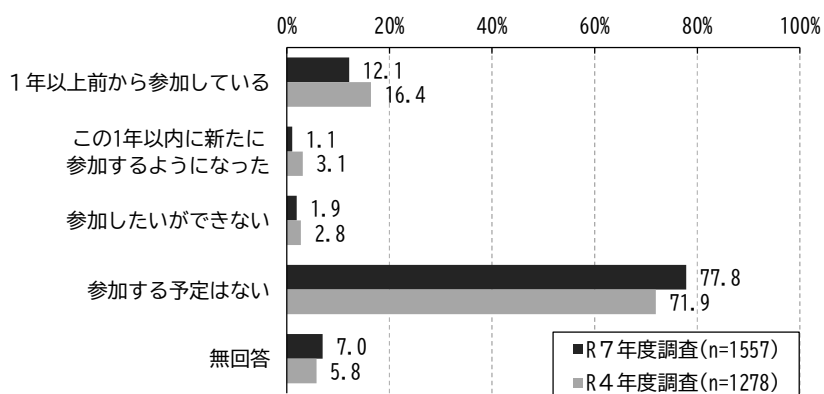
前回調査（令和4年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。



④PTAや保護者会

「参加する予定はない」が77.8%と最も多く、次いで「1年以上前から参加している」が12.1%、「参加したいができない」が1.9%、「この1年以内に新たに参加するようになった」が1.1%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「1年以上前から参加している」が4.3ポイント少なく、「参加する予定はない」が5.9ポイント多くなっています。

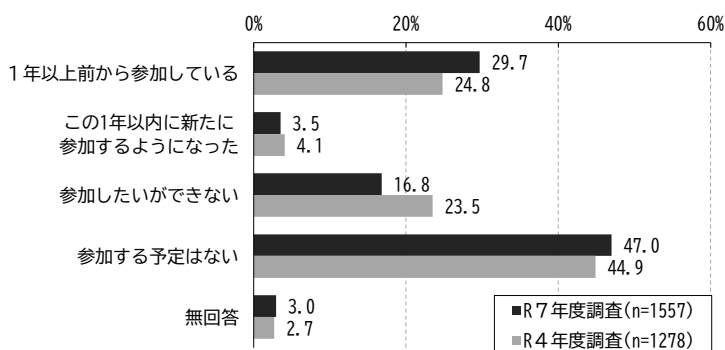


⑤趣味の会やスポーツクラブ

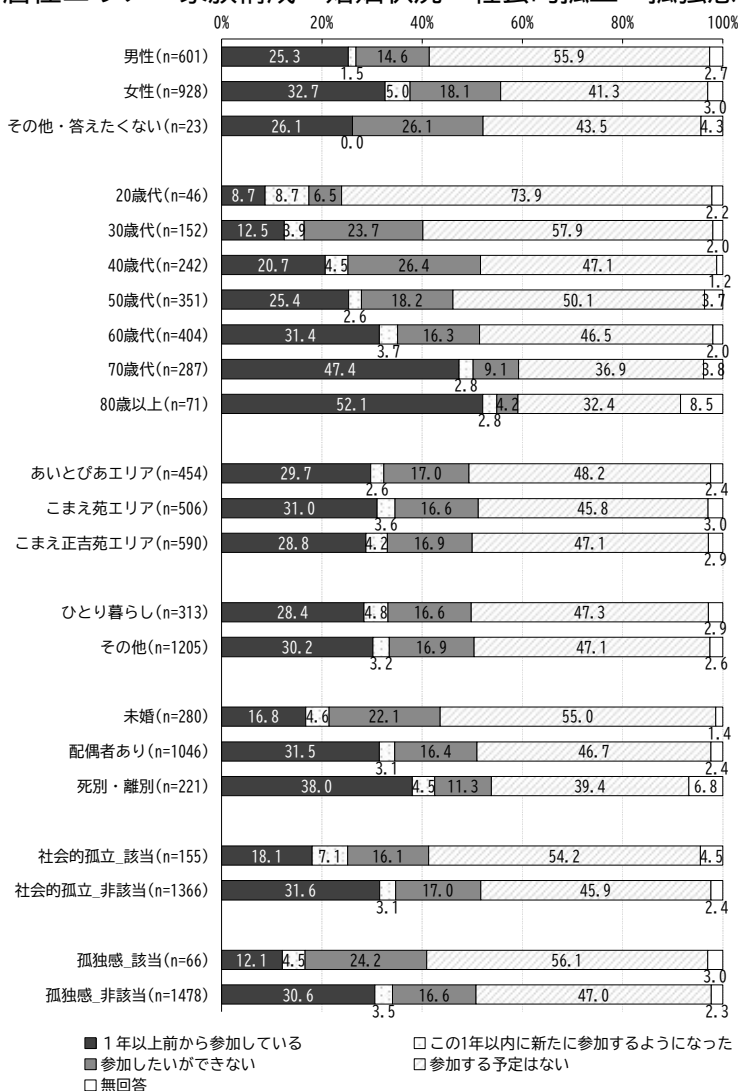
「参加する予定はない」が47.0%と最も多く、次いで「1年以上前から参加している」が29.7%、「参加したいができない」が16.8%、「この1年以内に新たに参加するようになった」が3.5%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「参加したいができない」が6.7ポイント少なく、「1年以上前から参加している」が4.9ポイント多くなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「1年以上前から参加している」の割合が高くなっています。また、婚姻状況別の未婚、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当で「参加する予定はない」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・クロス集計>

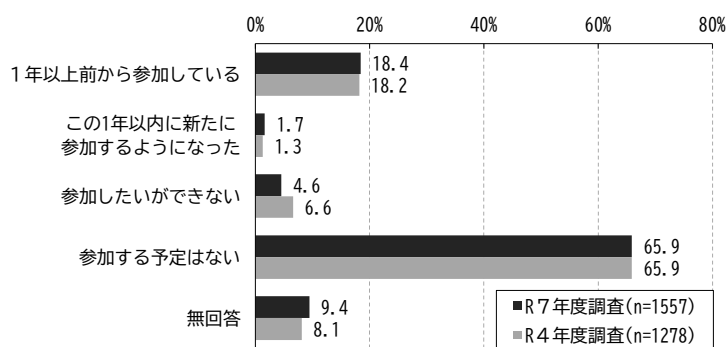


⑥職場内の会やグループ

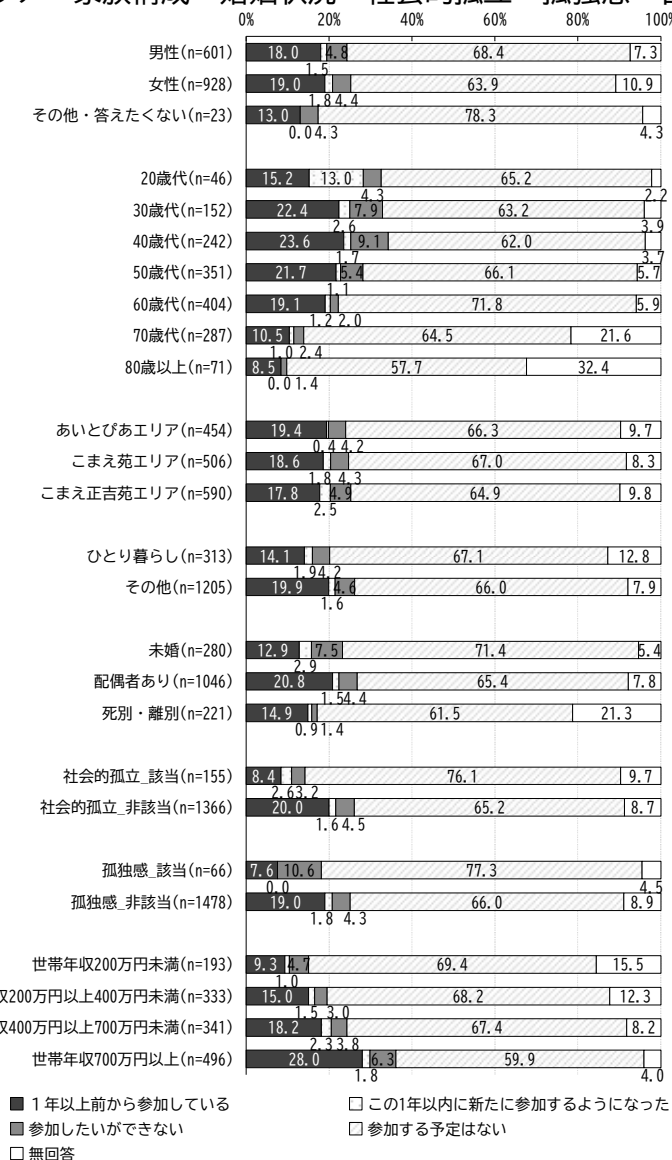
「参加する予定はない」が65.9%と最も多く、次いで「1年以上前から参加している」が18.4%、「参加したいができない」が4.6%、「この1年以内に新たに参加するようになった」が1.7%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「1年以上前から参加している」の割合が低くなる傾向がみられます。また、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当で「参加する予定はない」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

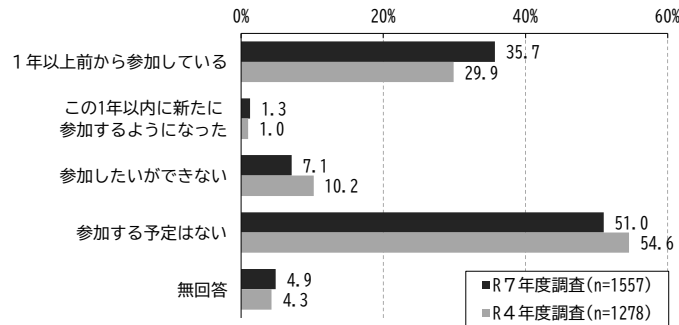


⑦同じ学校出身者の会やグループ

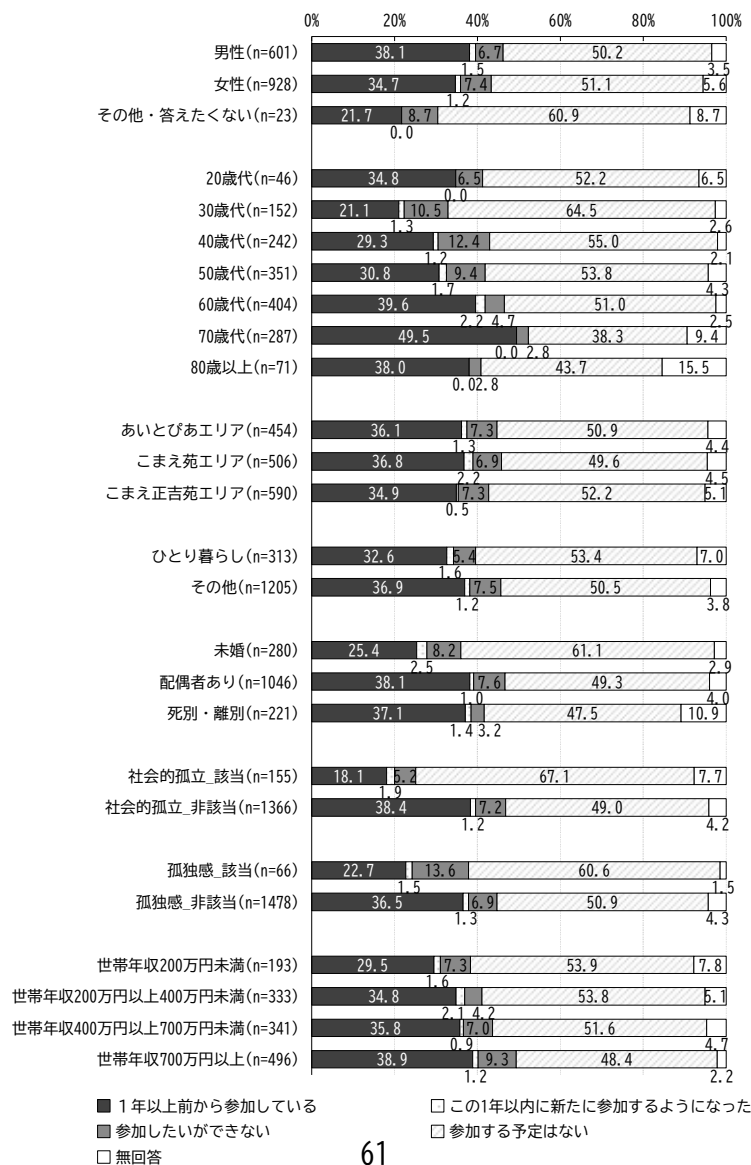
「参加する予定はない」が51.0%と最も多く、次いで「1年以上前から参加している」が35.7%、「参加したいができない」が7.1%、「この1年以内に新たに参加するようになった」が1.3%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「参加したいができない」が6.7ポイント少なく、「1年以上前から参加している」が5.8ポイント多くなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「1年以上前から参加している」の割合が高くなる傾向がみられます。また、婚姻状況別の未婚、社会的孤立別の該当で「参加する予定はない」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

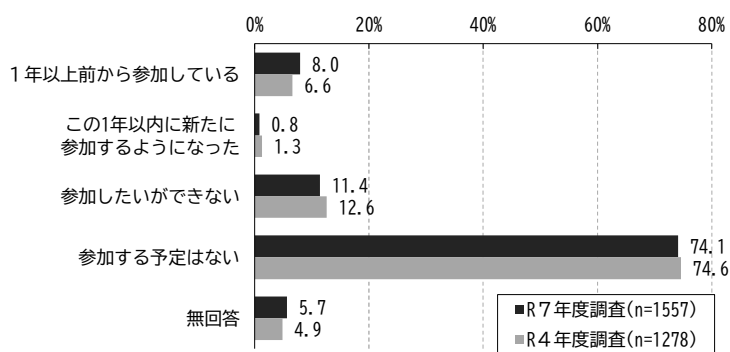


⑧地域のサロンや居場所

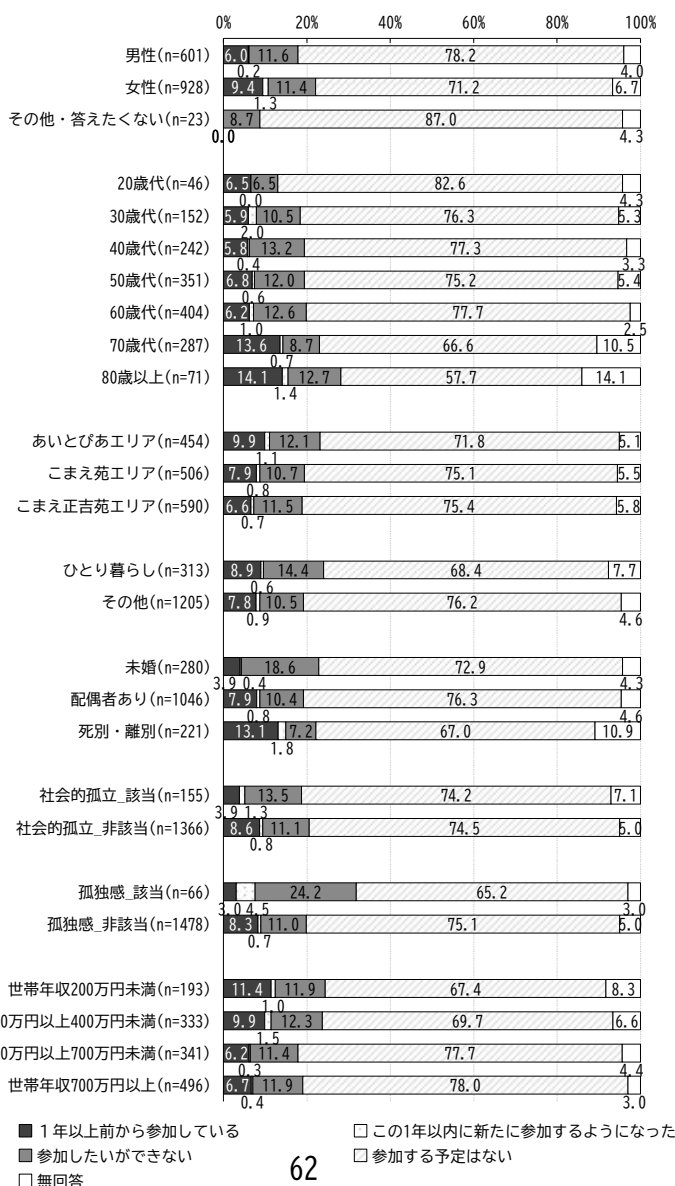
「参加する予定はない」が74.1%と最も多く、次いで「参加したいができない」が11.4%、「1年以上前から参加している」が8.0%、「この1年以内に新たに参加するようになった」が0.8%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。

クロス集計の結果をみると、割合は小さいですが、年齢別では、年齢が上がるにつれ「1年以上前から参加している」の割合が高くなる傾向がみられます。また、婚姻状況別の未婚、孤独感別の該当で「参加したいができない」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別 クロス集計>

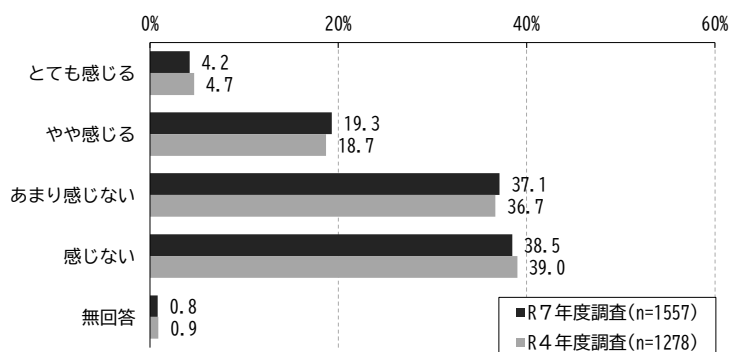


問 20 さみしい気持ち（孤独感）を日ごろ、感じますか。

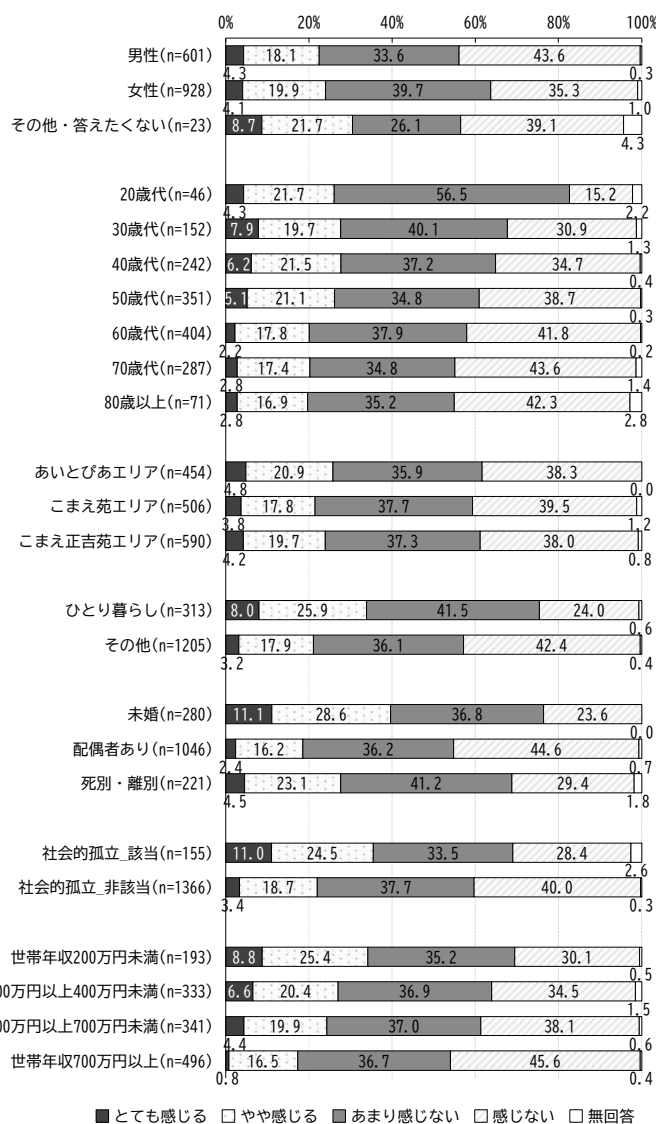
「感じない」が38.5%と最も多く、次いで「あまり感じない」が37.1%、「やや感じる」が19.3%、「とても感じる」が4.2%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、50歳代以下の年齢層で、「感じる」（「とても感じる」と「やや感じる」の合計）のやや割合が高く、また、家族構成別のひとり暮らし、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当、世帯年収別の世帯年収200万円未満で「感じる」（「とても感じる」と「やや感じる」の合計）の割合が高くなっています。



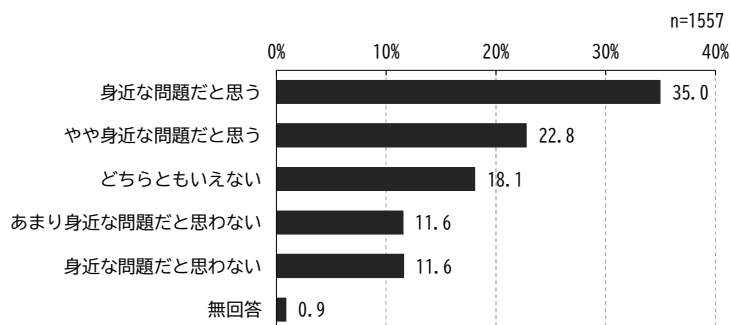
<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・世帯年収別クロス集計>



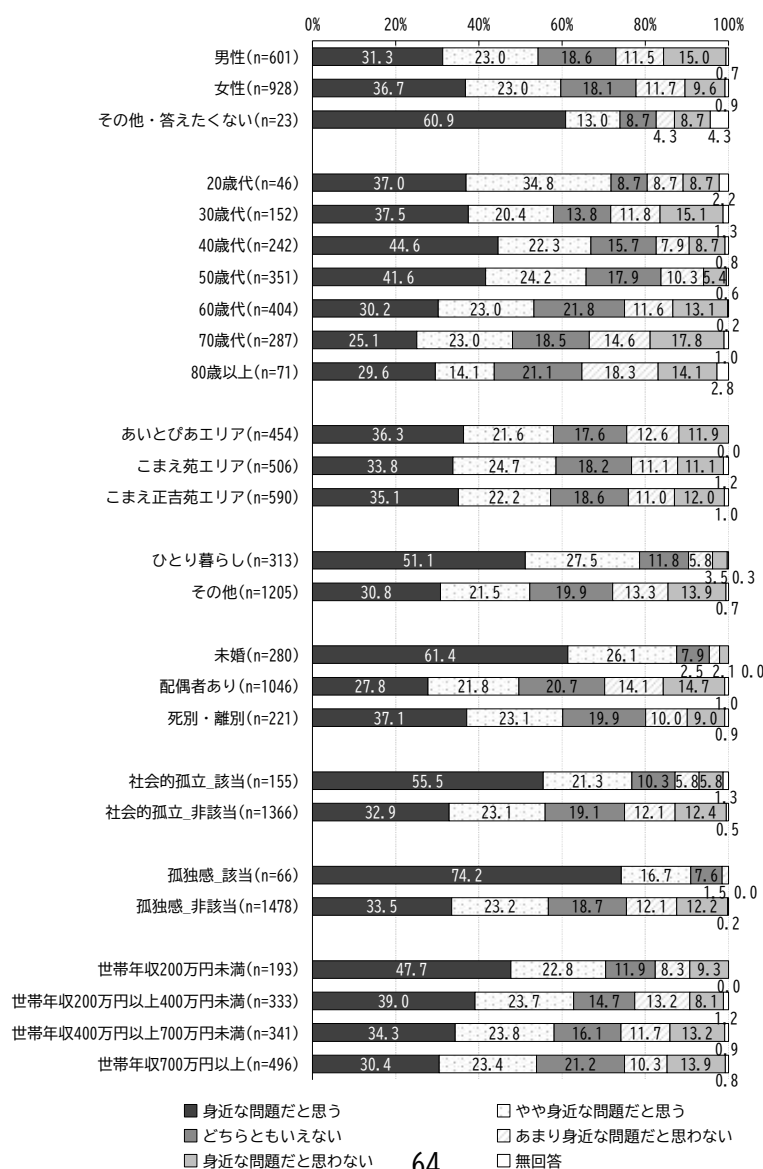
問 21 孤立死（誰にも看取られることなく、亡くなった後に発見される死）について、身近な問題だと感じますか。

「身近な問題だと思う」が 35.0%と最も多く、次いで「やや身近な問題だと思う」が 22.8%、「どちらともいえない」が 18.1%、「あまり身近な問題だと思わない」及び「身近な問題だと思わない」が 11.6%となっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別の 20 歳代、家族構成別のひとり暮らし、婚姻状況別の未婚、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当、世帯年収別の世帯年収 200 万円未満で「身近な問題だと思う」（「身近な問題だと思う」と「やや身近な問題だと思う」の合計）の割合が高くなっています。



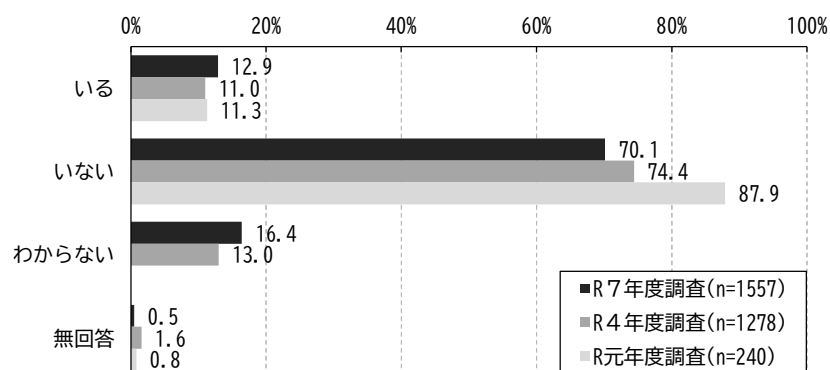
<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>



3 外出（ひきこもり）の状況について

問 22 あなたやあなたの周りの方に「ひきこもり」の状態にある方（仕事や学校等に行かず、家族以外の人との交流をほとんどしない方）はいますか。

「いない」が70.1%と最も多く、次いで「わからない」が16.4%、「いる」が12.9%となっています。前回調査（令和4年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。

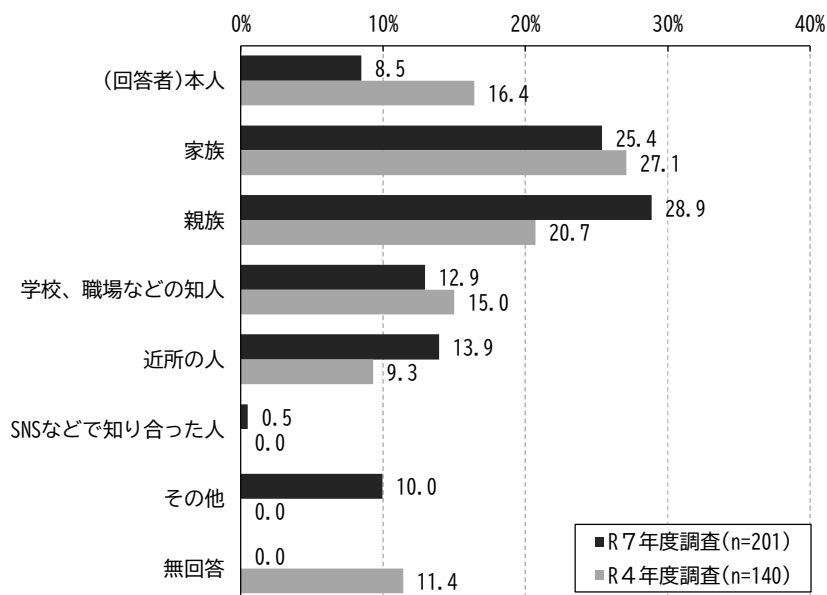


【問 22 で「1. いる」と回答した方】

問 23 その方とあなたの関係を教えてください。

「親族」が28.9%と最も多く、次いで「家族」が25.4%、「近所の人」が13.9%、「学校、職場などの知人」が12.9%、「その他」が10.0%となっています。

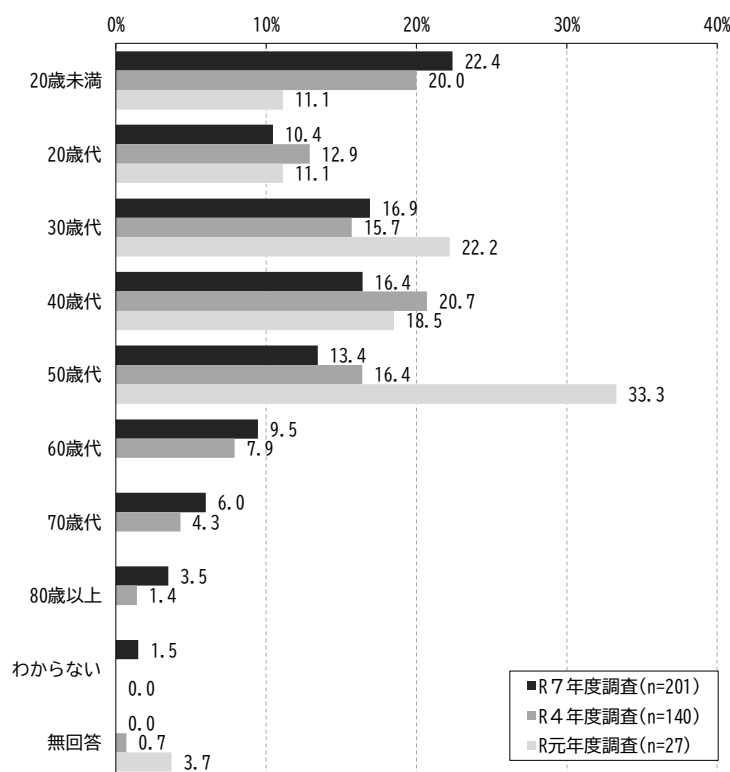
前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「(回答者)本人」が7.9ポイント少なく、「親族」が8.2ポイント、「近所の人」が4.6ポイント多くなっています。



問 24 その方の年齢を教えてください。

「20歳未満」が22.4%と最も多く、次いで「30歳代」が16.9%、「40歳代」が16.4%、「50歳代」が13.4%、「20歳代」が10.4%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「40歳代」が4.3ポイント少なくなっています。

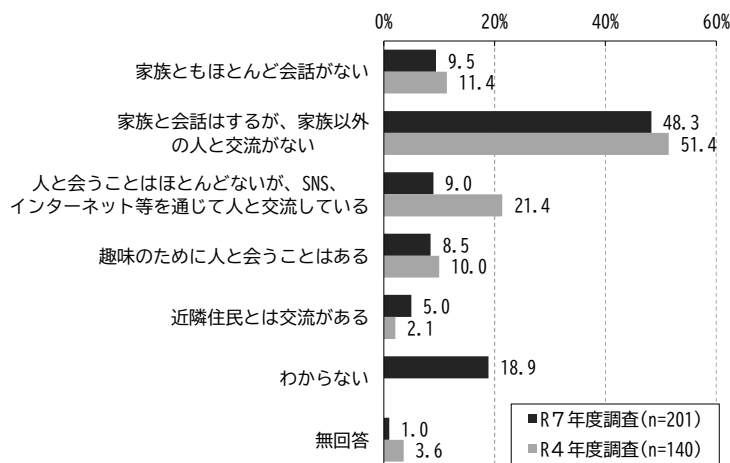


※令和元年は「50歳以上」

問 25 その方の交流の状況について、お答えください。

「家族と会話はするが、家族以外の人と交流がない」が48.3%と最も多く、次いで「わからない」が18.9%、「家族ともほとんど会話がなない」が9.5%、「人と会うことはほとんどないが、SNS、インターネット等を通じて人と交流している」が9.0%、「趣味のために人と会うことはある」が8.5%となっています。

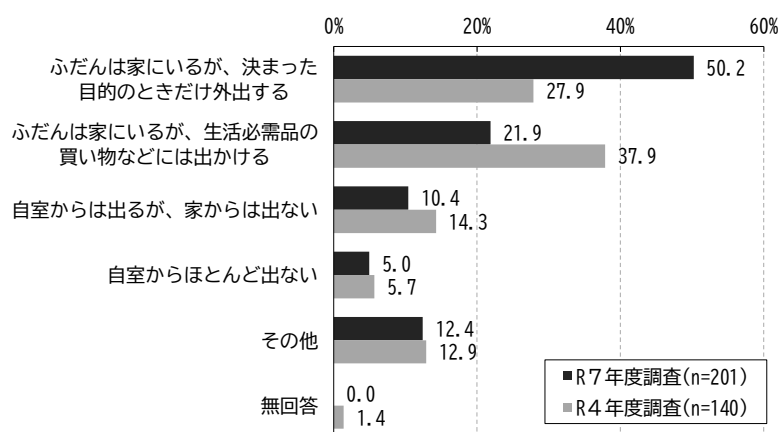
前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「人と会うことはほとんどないが、SNS、インターネット等を通じて人と交流している」が12.4ポイント少なくなっています。



問 26 その方はふだんどれくらい外出しますか。

「ふだんは家にいるが、決まった目的のときだけ外出する」が 50.2%と最も多く、次いで「ふだんは家にいるが、生活必需品の買い物などには出かける」が 21.9%、「その他」が 12.4%、「自室からは出るが、家からは出ない」が 10.4%、「自室からほとんど出ない」が 5.0%となっています。

前回調査（令和 4 年度調査）と比較すると、「ふだんは家にいるが、決まった目的のときだけ外出する」が 22.3 ポイント多く、「ふだんは家にいるが、生活必需品の買い物などには出かける」が 16.0 ポイント少なくなっています。

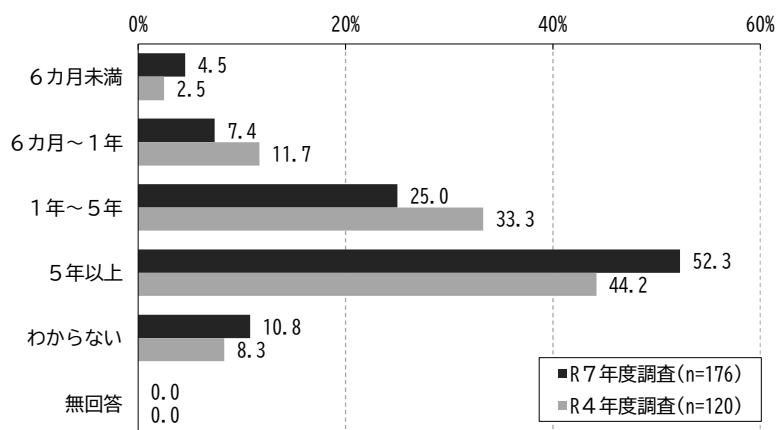


【問 26 で「1.」～「4.」と回答した方】

問 27 その方がその状態になってどのくらい続いていますか。

「5年以上」が 52.3%と最も多く、次いで「1年～5年」が 25.0%、「わからない」が 10.8%、「6カ月～1年」が 7.4%、「6カ月未満」が 4.5%となっています。

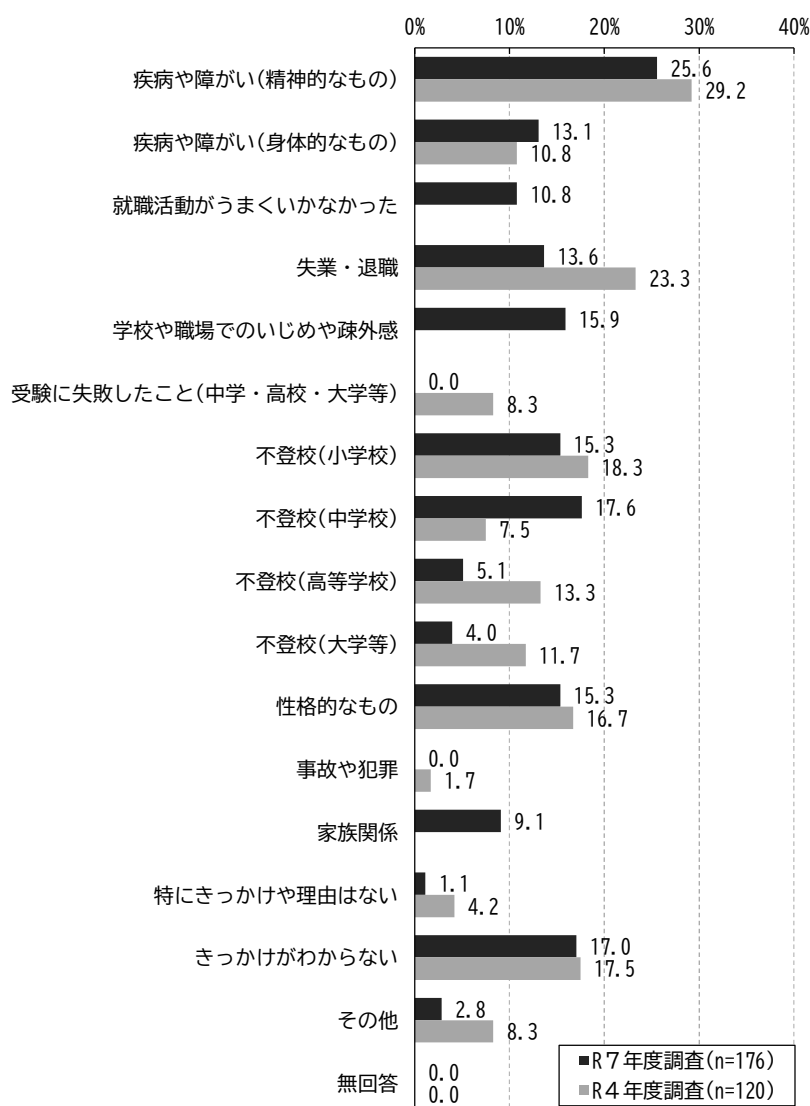
前回調査（令和 4 年度調査）と比較すると、「6カ月～1年」が 4.3 ポイント、「1年～5年」が 8.3 ポイント少なく、「5年以上」が 8.1 ポイント多くなっています。



問 28 その方がその状態になったきっかけは何ですか。(複数回答)

「疾病や障がい(精神的なもの)」が25.6%と最も多く、次いで「不登校(中学校)」が17.6%、「きっかけがわからない」が17.0%、「学校や職場でのいじめや疎外感」が15.9%、「不登校(小学校)」及び「性格的なもの」が15.3%となっています。

前回調査(令和4年度調査)と比較すると、「失業・退職」が9.7ポイント、「不登校(高等学校)」が8.2ポイント、「不登校(大学等)」が7.7ポイント少なく、「不登校(中学校)」が10.1ポイント多くなっています。



4 避難行動要支援者支援について

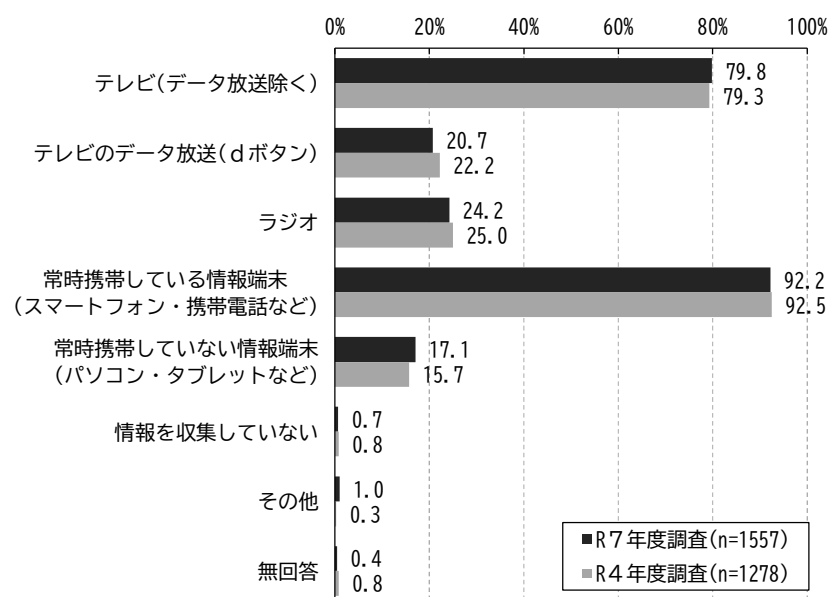
問 29 地震が発生したときや大雨が降っているときなど災害が発生するおそれがある場合、どのような手段で避難情報などを収集していますか。よく利用するツールをすべてお選びください。(複数回答)

「常時携帯している情報端末(スマートフォン・携帯電話など)」が92.2%と最も多く、次いで「テレビ(データ放送除く)」が79.8%、「ラジオ」が24.2%、「テレビのデータ放送(dボタン)」が20.7%、「常時携帯していない情報端末(パソコン・タブレットなど)」が17.1%となっています。

前回調査(令和4年度調査)と比較すると、傾向に大きな差はみられません。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「テレビ(データ放送除く)」の割合が高くなる傾向がみられます。また、家族構成別のひとり暮らし、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当で「テレビ(データ放送除く)」の割合が低くなっています。

世帯年収別では、世帯年収が高くなるほど「テレビ(データ放送除く)」、「常時携帯している情報端末(スマートフォン・携帯電話など)」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>

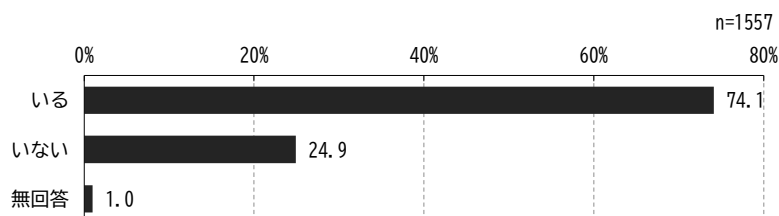
	テレビ (データ放 送除く)	テレビの データ放送 (dボタ ン)	ラジオ	常時携帯し ている情報 端末(スマ ートフォ ン・携帯電 話など)	常時携帯し ていない情 報端末(パ ソコン・タ ブレットな ど)	情報を収集 していない	その他	無回答
男性(n=601)	79.7	20.1	26.1	90.7	24.0	1.0	1.0	0.2
女性(n=928)	80.4	21.2	22.7	93.4	12.6	0.5	1.1	0.4
その他・答えたくない(n=23)	60.9	21.7	34.8	87.0	17.4	0.0	0.0	4.3
20歳代(n=46)	71.7	17.4	23.9	100.0	19.6	0.0	0.0	0.0
30歳代(n=152)	68.4	15.1	18.4	92.8	9.9	0.7	0.7	2.0
40歳代(n=242)	77.7	17.8	26.9	95.0	20.2	0.4	1.2	0.4
50歳代(n=351)	78.3	26.2	20.2	94.3	17.4	0.9	1.1	0.0
60歳代(n=404)	81.4	22.5	25.0	92.3	17.8	0.7	1.5	0.0
70歳代(n=287)	86.8	21.3	26.8	88.5	16.4	0.7	0.3	0.7
80歳以上(n=71)	88.7	7.0	33.8	81.7	16.9	1.4	1.4	0.0
あいとびエリア(n=454)	78.0	19.2	22.9	93.2	16.1	1.1	0.2	0.0
こまえ苑エリア(n=506)	79.4	22.7	24.1	93.5	18.4	0.6	0.8	0.6
こまえ正吉苑エリア(n=590)	82.0	20.5	25.6	90.8	16.6	0.5	1.9	0.3
ひとり暮らし(n=313)	68.7	18.5	23.6	88.5	18.2	2.2	0.6	0.3
その他(n=1205)	82.7	21.4	24.6	93.5	17.0	0.3	1.2	0.3
未婚(n=280)	70.0	22.5	24.6	90.4	20.0	1.1	1.1	0.4
配偶者あり(n=1046)	83.5	21.0	24.4	94.1	17.0	0.3	1.2	0.2
死別・離別(n=221)	76.0	18.1	23.5	87.3	14.0	2.3	0.0	0.5
社会的孤立 該当(n=155)	60.0	16.1	24.5	83.9	18.7	3.9	1.3	1.3
社会的孤立 非該当(n=1366)	82.3	21.4	24.2	93.8	16.8	0.4	1.0	0.2
孤独感 該当(n=66)	66.7	13.6	18.2	83.3	9.1	3.0	0.0	0.0
孤独感 非該当(n=1478)	80.7	21.2	24.6	93.0	17.5	0.6	1.1	0.1
世帯年収200万円未満(n=193)	74.1	15.5	24.4	88.1	17.1	1.6	0.5	0.0
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	78.4	18.3	29.4	87.1	18.0	0.9	1.2	0.6
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	79.2	19.4	25.8	94.4	16.4	0.6	0.9	0.6
世帯年収700万円以上(n=496)	83.3	24.4	21.6	96.0	16.5	0.4	1.2	0.0

問 30 あなたは、災害が発生又は発生する恐れがある時に、ご自身の安否確認や避難支援を行ってくれる人はいますか。

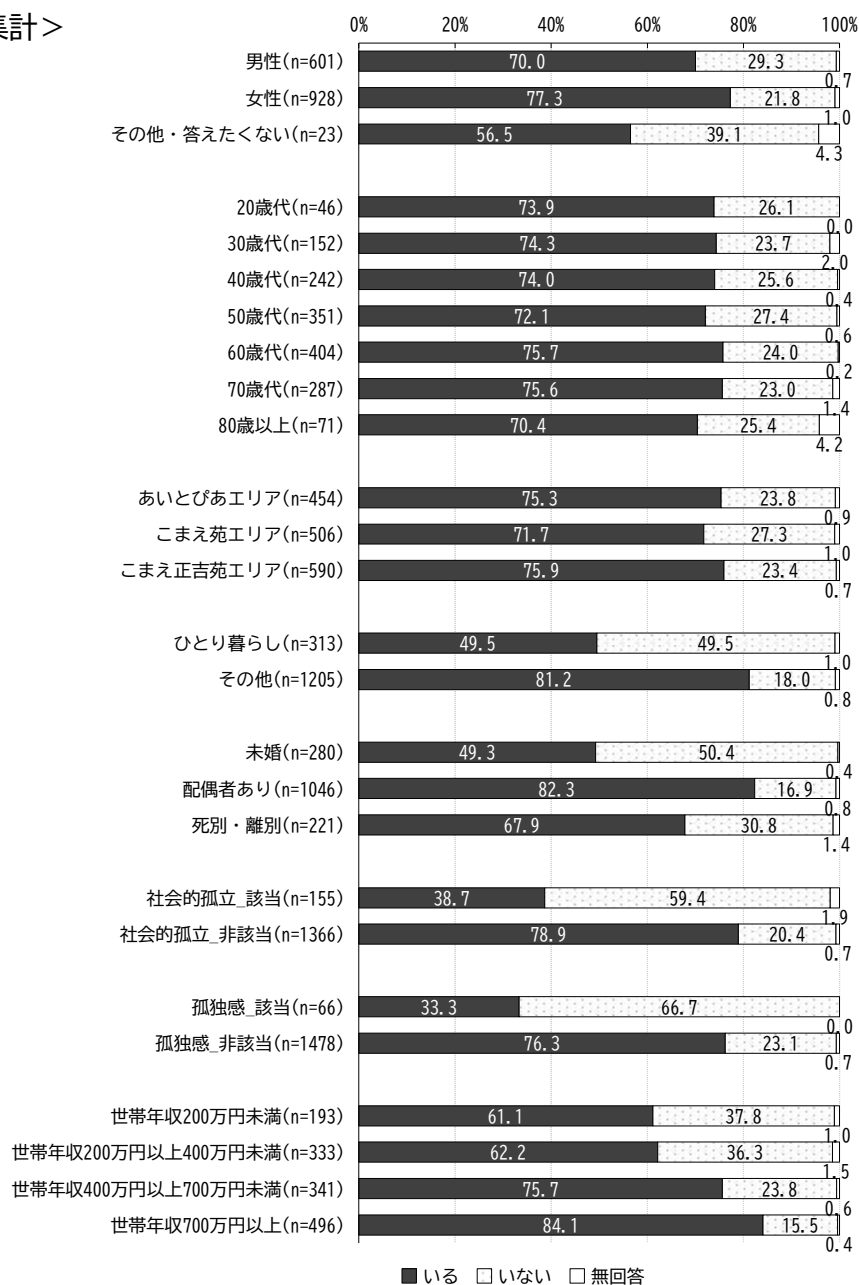
「いる」が74.1%、「いない」が24.9%となっています。

クロス集計の結果をみると、家族構成別のひとり暮らし、婚姻状況別の未婚、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当で「いる」の割合が低くなっています。

世帯年収別では、世帯年収が高くなるほど「いる」の割合が高くなっています



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>

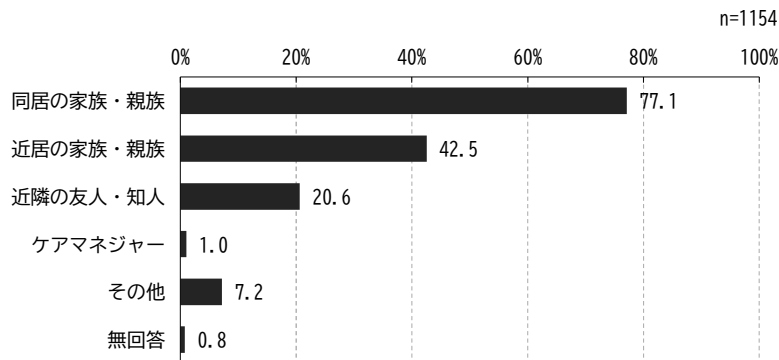


【問 30 で「1. いる」と回答した方】

問 30-1 それは、誰ですか。(複数回答)

「同居の家族・親族」が 77.1%と最も多く、次いで「近居の家族・親族」が 42.5%、「近隣の友人・知人」が 20.6%、「その他」が 7.2%、「ケアマネジャー」が 1.0%となっています。クロス集計の結果をみると、年齢別では、70 歳代、80 歳代で「同居の家族・親族」の割合が低くなっています。家族構成別では、ひとり暮らしで「同居の家族・親族」の割合が低く、「近隣の友人・知人」の割合が高くなっています。また、社会的孤立別の該当で「同居の家族・親族」の割合が低くなっています。

世帯年収別では、世帯年収が高くなるほど「同居の家族・親族」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

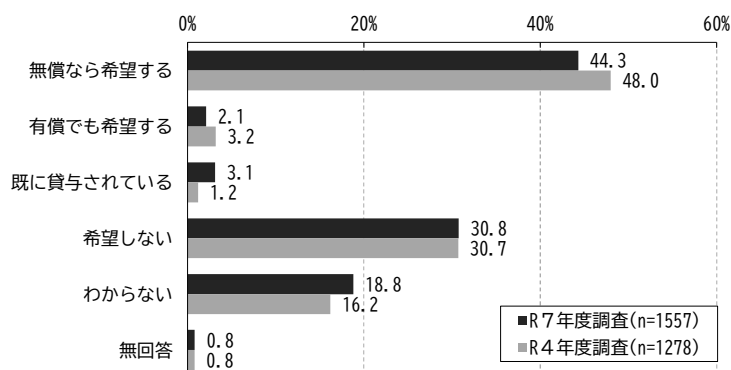
	同居の家族・親族	近居の家族・親族	近隣の友人・知人	ケアマネジャー	その他	無回答
男性(n=421)	78.9	37.8	18.3	0.7	6.7	0.5
女性(n=717)	76.4	44.9	22.3	1.0	7.7	1.0
その他・答えたくない(n=13)	53.8	61.5	7.7	15.4	0.0	0.0
20歳代(n=34)	76.5	41.2	26.5	0.0	2.9	0.0
30歳代(n=113)	82.3	46.0	18.6	0.0	12.4	0.9
40歳代(n=179)	88.3	41.9	22.3	1.1	5.0	0.6
50歳代(n=253)	82.2	30.4	16.2	1.6	11.9	1.2
60歳代(n=306)	77.1	41.2	16.7	0.0	6.5	0.7
70歳代(n=217)	65.4	54.4	29.0	1.4	3.7	0.5
80歳以上(n=50)	50.0	56.0	26.0	6.0	2.0	2.0
あいとびあエリア(n=342)	70.8	43.6	24.0	1.2	9.9	0.9
こまえ苑エリア(n=363)	80.2	42.1	19.3	0.6	6.1	0.8
こまえ正吉苑エリア(n=448)	79.5	42.0	19.2	1.3	6.0	0.7
ひとり暮らし(n=155)	7.7	62.6	37.4	3.2	18.7	0.0
その他(n=978)	88.7	39.0	18.0	0.7	5.4	0.9
未婚(n=138)	48.6	39.9	26.8	1.4	20.3	0.0
配偶者あり(n=861)	88.9	39.6	17.3	0.5	5.2	1.0
死別・離別(n=150)	36.0	62.0	34.7	4.0	6.7	0.0
社会的孤立 該当(n=60)	20.0	68.3	21.7	1.7	18.3	0.0
社会的孤立 非該当(n=1078)	80.5	41.3	20.7	1.0	6.6	0.6
孤独感 該当(n=22)	59.1	45.5	9.1	13.6	9.1	0.0
孤独感 非該当(n=1127)	77.6	42.4	20.9	0.8	7.2	0.7
世帯年収200万円未満(n=118)	47.5	53.4	28.0	4.2	6.8	0.8
世帯年収200万円以上400万円未満(n=207)	65.7	45.4	26.1	0.5	6.3	1.4
世帯年収400万円以上700万円未満(n=258)	79.5	47.3	18.6	1.2	7.4	0.4
世帯年収700万円以上(n=417)	87.5	35.0	18.2	0.5	8.4	1.0

問 31 市で自動起動機能付き防災ラジオを個別避難計画を策定された避難行動要支援者に無償貸与していますが、あなたは防災ラジオの貸与を希望しますか。

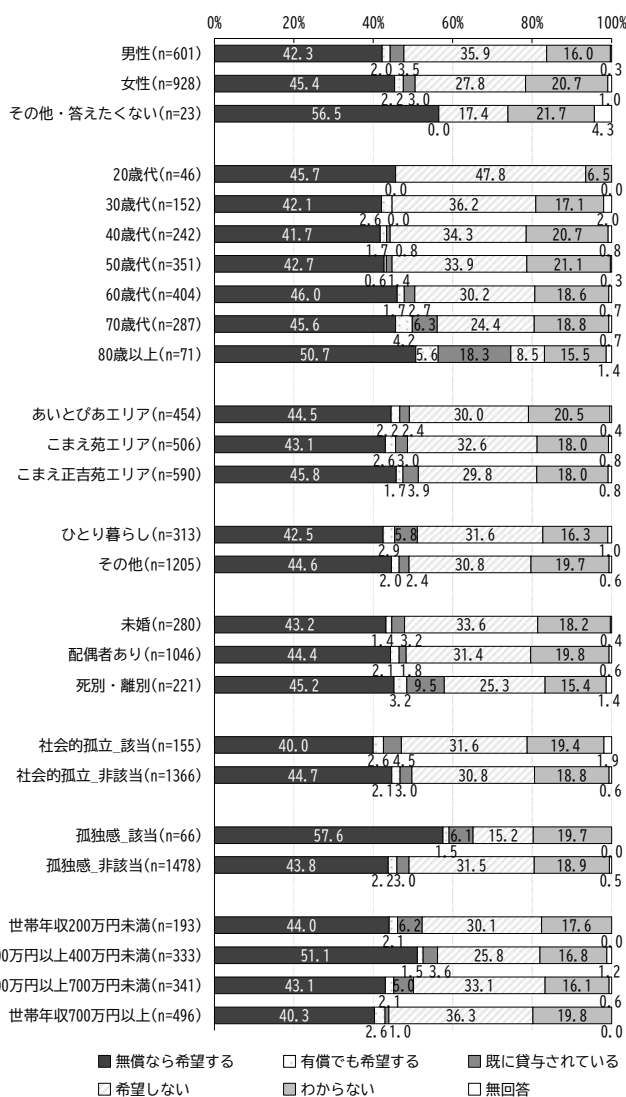
「無償なら希望する」が44.3%と最も多く、次いで「希望しない」が30.8%、「わからない」が18.8%、「既に貸与されている」が3.1%、「有償でも希望する」が2.1%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「無償なら希望する」の割合が高くなる傾向がみられます。また、孤独感別の該当、世帯年収別の世帯年収200万円以上400万円未満で「無償なら希望する」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

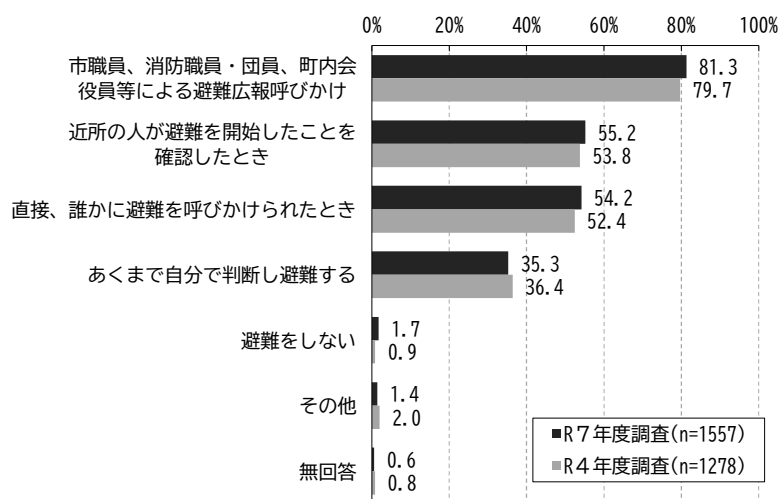


問 32 あなたは下記の呼びかけ等により、避難を開始しますか。(複数回答)

「市職員、消防職員・団員、町内会役員等による避難広報呼びかけ」が81.3%と最も多く、次いで「近所の人が避難を開始したことを確認したとき」が55.2%、「直接、誰かに避難を呼びかけられたとき」が54.2%、「あくまで自分で判断し避難する」が35.3%、「避難をしない」が1.7%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。

クロス集計の結果をみると、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当で「近所の人が避難を開始したことを確認したとき」の割合がやや低くなっています。

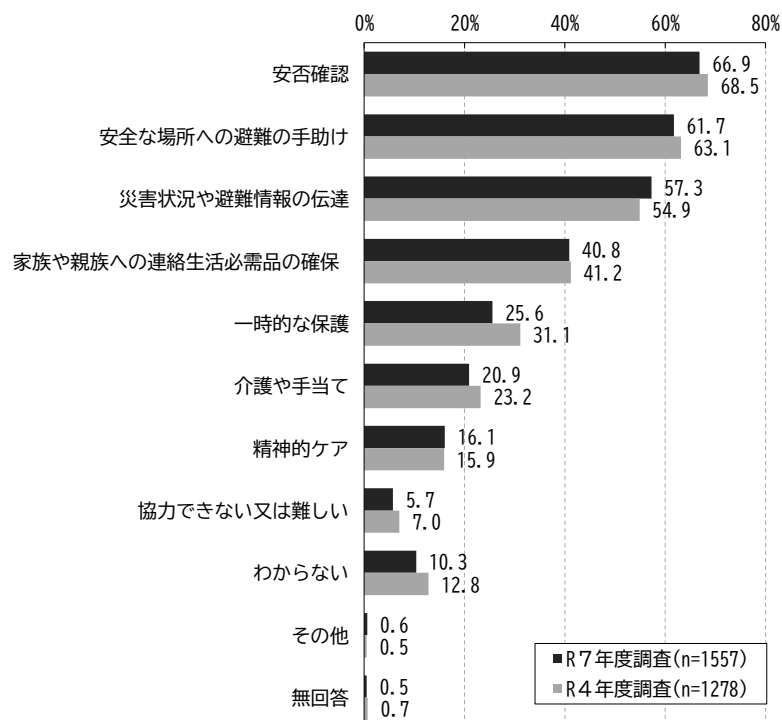


<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

	市職員、消防職員・団員、町内会役員等による避難広報呼びかけ	近所の人が避難を開始したことを確認したとき	直接、誰かに避難を呼びかけられたとき	あくまで自分で判断し避難する	避難をしない	その他	無回答
男性(n=601)	80.4	47.3	49.8	41.1	1.7	0.3	0.5
女性(n=928)	82.9	60.6	57.4	31.5	1.6	2.0	0.5
その他・答えたくない(n=23)	43.5	43.5	47.8	43.5	8.7	4.3	4.3
20歳代(n=46)	80.4	67.4	67.4	43.5	2.2	0.0	0.0
30歳代(n=152)	82.9	61.2	59.2	31.6	0.7	0.0	2.0
40歳代(n=242)	81.0	60.7	60.3	38.4	0.8	2.9	0.4
50歳代(n=351)	84.6	55.3	59.0	37.9	2.3	2.0	0.3
60歳代(n=404)	80.4	51.0	46.8	35.6	1.5	1.7	0.0
70歳代(n=287)	78.0	51.9	50.2	32.4	2.1	0.3	1.4
80歳以上(n=71)	83.1	53.5	52.1	25.4	2.8	0.0	0.0
あいとびあエリア(n=454)	80.2	54.2	55.7	35.9	1.3	1.3	0.2
こまえ苑エリア(n=506)	80.6	52.4	52.4	37.5	1.8	1.2	1.0
こまえ正吉苑エリア(n=590)	83.1	58.8	55.3	33.1	2.0	1.7	0.3
ひとり暮らし(n=313)	78.3	50.2	54.6	34.5	2.2	2.2	0.0
その他(n=1205)	82.2	56.5	54.1	35.9	1.5	1.2	0.7
未婚(n=280)	77.9	50.7	55.4	38.9	2.9	1.8	0.4
配偶者あり(n=1046)	83.1	58.6	55.3	35.2	1.1	1.3	0.5
死別・離別(n=221)	77.8	44.3	48.4	31.7	3.2	1.4	0.9
社会的孤立 該当(n=155)	74.8	40.6	47.7	36.1	1.3	2.6	0.6
社会的孤立 非該当(n=1366)	82.4	57.1	55.3	35.4	1.6	1.2	0.4
孤独感 該当(n=66)	80.3	45.5	48.5	30.3	3.0	1.5	0.0
孤独感 非該当(n=1478)	81.7	55.8	54.6	35.7	1.7	1.4	0.3
世帯年収200万円未満(n=193)	72.0	50.8	47.7	36.3	4.7	2.6	0.5
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	82.6	50.2	48.6	34.2	1.2	0.9	0.6
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	76.8	54.3	52.5	35.5	2.3	1.8	0.6
世帯年収700万円以上(n=496)	86.7	61.3	60.1	36.7	0.8	1.2	0.0

問 33 大地震などの災害が起こったときに、あなたは近隣に住む家族以外の避難行動要支援者のためにどのような助け合いや協力ができますか。(複数回答)

「安否確認」が 66.9%と最も多く、次いで「安全な場所への避難の手助け」が 61.7%、「災害状況や避難情報の伝達」が 57.3%、「家族や親族への連絡生活必需品の確保」が 40.8%、「一時的な保護」が 25.6%となっています。前回調査（令和 4 年度調査）と比較すると、「一時的な保護」が 5.5 ポイント少なくなっています。クロス集計の結果をみると、年齢別では、20 歳代で「精神的ケア」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

	安否確認	安全な場所への避難の手助け	災害状況や避難情報の伝達	家族や親族への連絡生活必需品の確保	一時的な保護	介護や手当て	精神的ケア	協力できない又は難しい	わからない	その他	無回答
男性(n=601)	68.2	64.6	56.9	41.9	27.5	20.6	13.5	5.8	10.0	0.7	0.3
女性(n=928)	66.6	60.5	58.1	40.6	24.8	21.2	17.9	5.6	10.2	0.5	0.4
その他・答えたくない(n=23)	52.2	47.8	43.5	26.1	8.7	17.4	8.7	8.7	17.4	0.0	4.3
20歳代(n=46)	58.7	60.9	54.3	41.3	30.4	21.7	32.6	4.3	10.9	0.0	0.0
30歳代(n=152)	61.8	59.2	55.3	38.8	28.3	15.1	17.1	11.8	11.2	0.7	2.0
40歳代(n=242)	67.4	62.8	55.8	38.8	25.2	19.4	14.5	7.0	11.2	0.8	0.4
50歳代(n=351)	67.5	67.5	61.0	41.9	29.1	24.2	16.5	5.7	9.7	0.3	0.6
60歳代(n=404)	68.6	65.1	59.9	37.4	23.3	21.5	16.8	3.5	8.9	0.5	0.0
70歳代(n=287)	69.0	57.8	55.7	43.2	24.7	23.0	14.3	4.2	10.5	0.3	0.3
80歳以上(n=71)	63.4	33.8	43.7	57.7	16.9	9.9	8.5	8.5	14.1	2.8	0.0
あいとびエリア(n=454)	66.7	62.8	55.1	45.2	29.3	23.3	19.8	7.3	8.4	0.7	0.0
こまえ苑エリア(n=506)	62.3	58.1	54.0	36.6	23.7	19.6	14.6	6.5	12.6	0.4	1.0
こまえ正吉苑エリア(n=590)	71.4	64.7	62.2	41.7	24.4	20.5	14.6	3.9	9.7	0.7	0.2
ひとり暮らし(n=313)	55.0	53.4	46.0	32.6	18.5	18.8	15.3	8.9	13.4	1.6	0.0
その他(n=1205)	70.7	64.5	60.7	43.5	27.6	21.7	16.3	4.6	9.3	0.3	0.5
未婚(n=280)	52.9	58.6	50.0	29.3	16.1	19.6	16.4	8.9	15.4	1.1	0.7
配偶者あり(n=1046)	72.2	65.0	62.0	44.5	28.9	21.3	15.8	4.5	8.6	0.4	0.3
死別・離別(n=221)	60.6	51.6	45.7	39.4	22.2	20.8	17.2	7.7	11.3	0.9	0.5
社会的孤立 該当(n=155)	47.7	52.3	43.2	24.5	17.4	19.4	9.0	10.3	17.4	1.9	0.6
社会的孤立 非該当(n=1366)	69.9	63.4	59.4	43.3	26.8	21.2	17.0	4.8	9.2	0.4	0.3
孤独感 該当(n=66)	57.6	50.0	47.0	30.3	19.7	24.2	13.6	13.6	9.1	0.0	0.0
孤独感 非該当(n=1478)	67.6	62.6	57.9	41.5	25.9	20.8	16.2	5.4	10.5	0.6	0.2
世帯年収200万円未満(n=193)	59.6	50.3	45.6	36.8	15.5	16.1	14.5	9.8	13.0	1.6	0.0
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	66.7	57.7	54.7	45.3	21.6	21.3	14.4	6.0	9.3	0.3	0.3
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	61.9	62.2	53.4	38.1	25.2	24.6	17.0	6.2	11.1	0.6	0.9
世帯年収700万円以上(n=496)	75.2	72.2	68.1	43.5	33.5	21.2	17.3	3.0	7.3	0.4	0.0

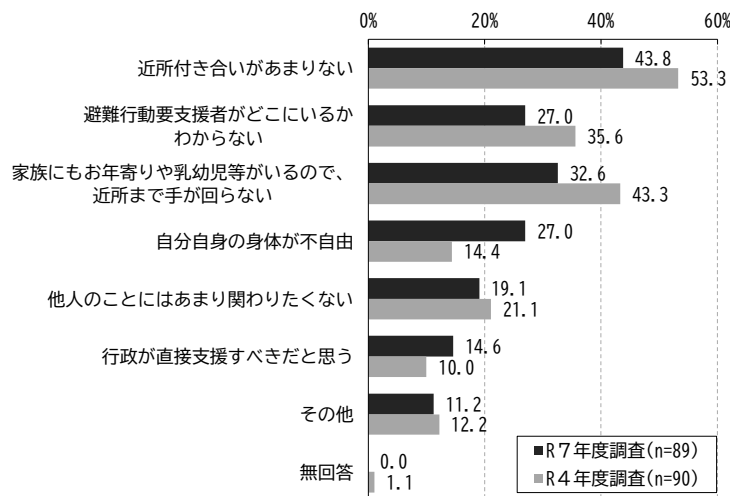
【問 33 で「8. 協力できない又は難しい」と回答した方】

問 33-1 協力できない理由について、次のどれに該当しますか。(複数回答)

「近所付き合いがあまりない」が 43.8%と最も多く、次いで「家族にもお年寄りや乳幼児等がいるので、近所まで手が回らない」が 32.6%、「避難行動要支援者がどこにいるかわからない」及び「自分自身の身体が不自由」が 27.0%、「他人のことにはあまり関わりたくない」が 19.1%となっています。

前回調査（令和 4 年度調査）と比較すると、「自分自身の身体が不自由」が 12.6 ポイント多く、「家族にもお年寄りや乳幼児等がいるので、近所まで手が回らない」が 10.7 ポイント、「近所付き合いがあまりない」が 9.5 ポイント少なくなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別の 50 歳代、居住エリア別のこまえ苑エリア、婚姻状況別の未婚、孤独感別の該当で、「近所付き合いがあまりない」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>

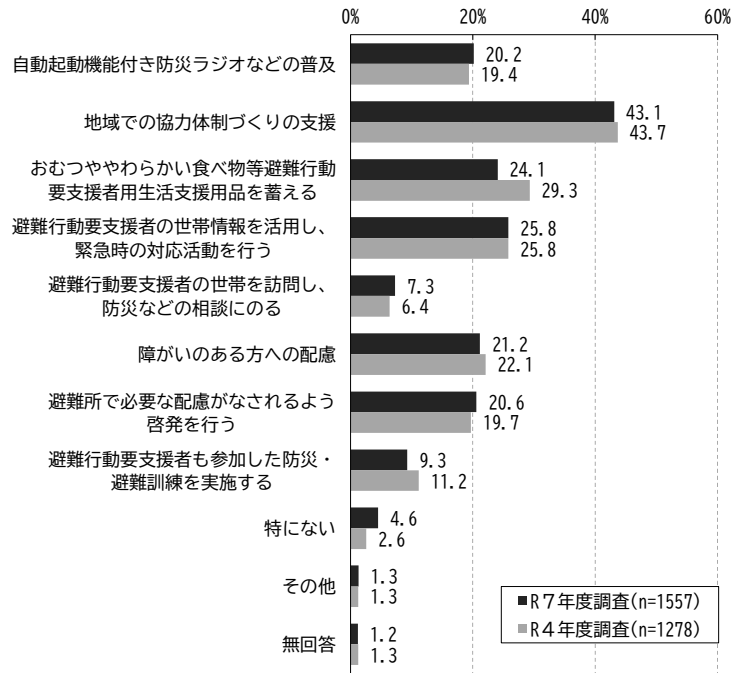
	近所付き合いがあまりない	避難行動要支援者がどこにいるかわからない	家族にもお年寄りや乳幼児等がいるので、近所まで手が回らない	自分自身の身体が不自由	他人のことにはあまり関わりたくない	行政が直接支援すべきだと思う	その他	無回答
男性 (n=35)	45.7	42.9	25.7	22.9	28.6	25.7	2.9	0.0
女性 (n=52)	42.3	15.4	38.5	28.8	11.5	7.7	17.3	0.0
その他・答えたくない (n=2)	50.0	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
20歳代 (n=2)	100.0	50.0	0.0	0.0	50.0	100.0	0.0	0.0
30歳代 (n=18)	50.0	22.2	61.1	16.7	16.7	11.1	0.0	0.0
40歳代 (n=17)	35.3	29.4	47.1	11.8	17.6	5.9	11.8	0.0
50歳代 (n=20)	55.0	40.0	20.0	30.0	20.0	15.0	15.0	0.0
60歳代 (n=14)	42.9	21.4	28.6	21.4	14.3	7.1	28.6	0.0
70歳代 (n=12)	41.7	25.0	16.7	41.7	25.0	33.3	0.0	0.0
80歳以上 (n=6)	0.0	0.0	0.0	83.3	16.7	0.0	16.7	0.0
あいとびエリア (n=33)	42.4	27.3	27.3	24.2	12.1	18.2	15.2	0.0
こまえ苑エリア (n=33)	51.5	27.3	36.4	24.2	21.2	15.2	6.1	0.0
こまえ正吉苑エリア (n=23)	34.8	26.1	34.8	34.8	26.1	8.7	13.0	0.0
ひとり暮らし (n=28)	53.6	32.1	0.0	42.9	17.9	14.3	17.9	0.0
その他 (n=56)	39.3	25.0	48.2	19.6	21.4	12.5	8.9	0.0
未婚 (n=25)	64.0	44.0	4.0	36.0	12.0	20.0	12.0	0.0
配偶者あり (n=47)	38.3	21.3	51.1	14.9	21.3	12.8	10.6	0.0
死別・離別 (n=17)	29.4	17.6	23.5	47.1	23.5	11.8	11.8	0.0
社会的孤立 該当 (n=16)	43.8	18.8	6.3	37.5	0.0	18.8	25.0	0.0
社会的孤立 非該当 (n=66)	43.9	30.3	39.4	25.8	24.2	10.6	7.6	0.0
孤独感 該当 (n=9)	66.7	33.3	22.2	33.3	11.1	33.3	0.0	0.0
孤独感 非該当 (n=80)	41.3	26.3	33.8	26.3	20.0	12.5	12.5	0.0
世帯年収200万円未満 (n=19)	42.1	21.1	31.6	47.4	15.8	10.5	21.1	0.0
世帯年収200万円以上400万円未満 (n=20)	35.0	30.0	5.0	40.0	10.0	20.0	10.0	0.0
世帯年収400万円以上700万円未満 (n=21)	57.1	28.6	47.6	14.3	28.6	14.3	0.0	0.0
世帯年収700万円以上 (n=15)	40.0	33.3	40.0	0.0	26.7	0.0	20.0	0.0

問 34 避難行動要支援者の対策として、あなたは行政に何を期待しますか。(複数回答)

「地域での協力体制づくりの支援」が43.1%と最も多く、次いで「避難行動要支援者の世帯情報を活用し、緊急時の対応活動を行う」が25.8%、「おむつややわらかい食べ物等避難行動要支援者用生活支援用品を蓄える」が24.1%、「障がいのある方への配慮」が21.2%、「避難所で必要な配慮がなされるよう啓発を行う」が20.6%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。

クロス集計の結果をみると、年齢別の20歳代、30歳代で「おむつややわらかい食べ物等避難行動要支援者用生活支援用品を蓄える」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

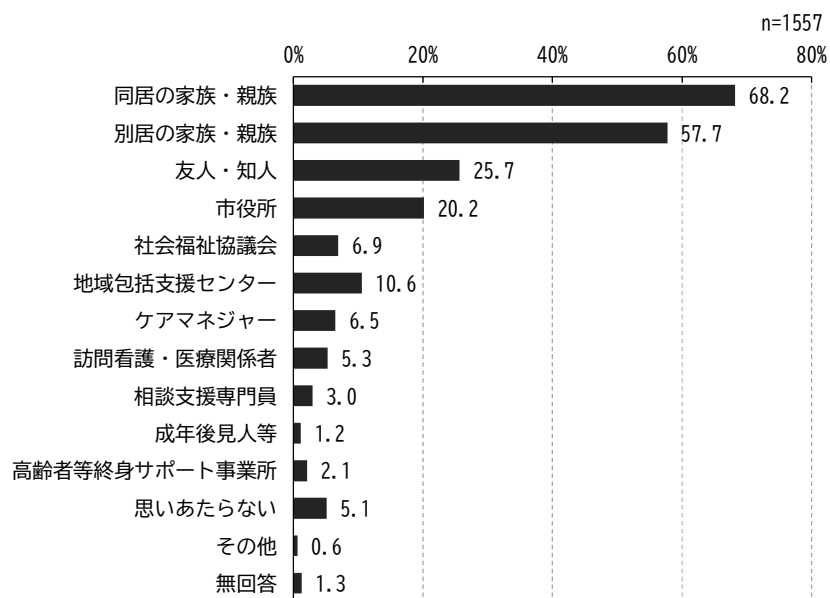
	自動起動機能付き防災ラジオなどの普及	地域での協力体制づくりの支援	おむつややわらかい食べ物等避難行動要支援者用生活支援用品を蓄える	避難行動要支援者の世帯情報を活用し、緊急時の対応活動を行う	避難行動要支援者の世帯を訪問し、防災などの相談にのる	障がいのある方への配慮	避難所で必要な配慮がなされるよう啓発を行う	避難行動要支援者も参加した防災・避難訓練を実施する	特にない	その他	無回答
男性(n=601)	20.6	44.4	23.5	24.5	9.0	20.0	18.0	7.5	6.3	0.3	1.3
女性(n=928)	19.7	42.7	24.2	26.5	6.3	22.3	22.4	10.7	3.2	1.8	1.0
その他・答えたくない(n=23)	21.7	26.1	34.8	34.8	4.3	13.0	17.4	4.3	13.0	8.7	4.3
20歳代(n=46)	4.3	32.6	34.8	23.9	15.2	17.4	21.7	19.6	6.5	0.0	4.3
30歳代(n=152)	12.5	34.9	46.1	19.1	4.6	13.8	29.6	13.8	5.9	0.0	2.0
40歳代(n=242)	18.6	43.4	22.3	28.9	8.3	19.4	24.0	9.5	3.3	1.7	0.4
50歳代(n=351)	17.7	45.0	23.6	27.4	8.0	23.9	19.9	9.1	2.8	3.1	0.9
60歳代(n=404)	21.5	42.8	20.8	27.2	6.4	24.3	21.8	8.2	3.7	1.2	0.2
70歳代(n=287)	27.9	45.3	19.5	23.7	7.3	21.6	12.5	8.7	7.0	0.3	2.1
80歳以上(n=71)	25.4	49.3	16.9	23.9	7.0	14.1	19.7	2.8	7.0	0.0	2.8
あいとびエリア(n=454)	18.9	45.2	25.8	21.8	6.4	21.6	24.2	9.3	5.7	1.1	0.9
こまえ苑エリア(n=506)	20.8	38.5	22.5	27.5	8.1	20.8	21.5	10.1	3.6	2.2	1.4
こまえ正吉苑エリア(n=590)	20.8	45.6	24.2	27.5	7.5	21.5	17.1	8.6	4.6	0.7	1.0
ひとり暮らし(n=313)	19.2	40.3	20.1	23.0	5.8	21.4	24.6	10.2	7.7	2.6	0.6
その他(n=1205)	20.7	44.1	25.2	26.2	7.7	21.5	19.3	9.3	3.6	1.1	1.2
未婚(n=280)	15.4	37.5	22.9	26.4	9.3	21.4	25.7	8.6	7.9	2.1	1.1
配偶者あり(n=1046)	21.3	46.3	24.6	26.1	7.9	20.5	18.9	9.7	3.3	1.1	1.1
死別・離別(n=221)	21.3	36.2	24.4	23.1	1.8	23.5	23.1	8.6	6.3	1.8	0.9
社会的孤立 該当(n=155)	17.4	32.9	17.4	24.5	2.6	23.9	20.6	12.3	12.3	3.2	1.3
社会的孤立 非該当(n=1366)	20.4	44.9	24.9	25.8	7.7	21.0	20.7	9.0	3.6	1.2	1.0
孤独感 該当(n=66)	19.7	34.8	28.8	19.7	7.6	30.3	27.3	7.6	3.0	4.5	1.5
孤独感 非該当(n=1478)	20.3	43.7	24.0	26.3	7.3	20.8	20.4	9.5	4.7	1.2	0.8
世帯年収200万円未満(n=193)	18.1	33.7	20.2	24.9	7.8	28.0	18.7	8.3	8.3	2.6	2.6
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	24.9	41.1	21.3	22.8	9.6	21.0	21.0	6.9	4.8	0.9	0.6
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	20.2	42.8	28.2	23.2	5.6	23.2	19.1	10.9	5.3	0.3	0.9
世帯年収700万円以上(n=496)	16.9	49.6	23.2	29.2	7.5	18.1	20.4	10.3	3.0	2.2	0.6

5 単身高齢者等支援について

問 35 あなたに万一のことがあった場合に「頼れる」と思う人・事業所はどちらですか。
(複数回答)

「同居の家族・親族」が 68.2%と最も多く、次いで「別居の家族・親族」が 57.7%、「友人・知人」が 25.7%、「市役所」が 20.2%、「地域包括支援センター」が 10.6%となっています。

クロス集計の結果をみると、家族構成別のひとり暮らし、婚姻状況別の未婚、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当で「思いあたらぬ」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>

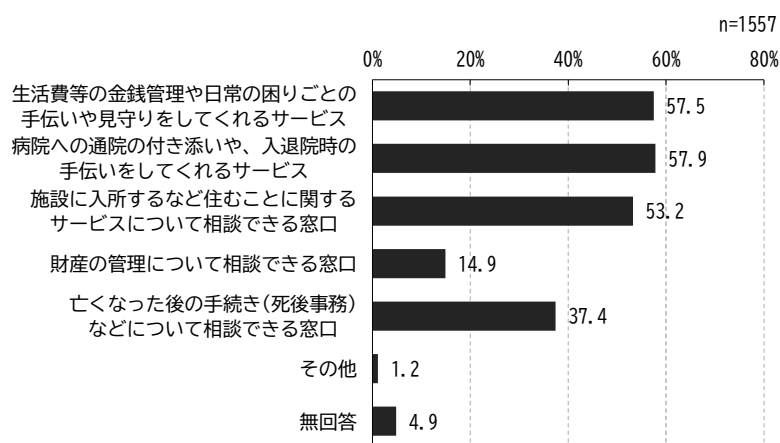
	同居の家 族・親族	別居の家 族・親族	友人・知人	市役所	社会福祉協 議会	地域包括支 援センター	ケアマネ ジャー
男性(n=601)	71.4	51.4	25.1	24.0	6.7	8.5	6.8
女性(n=928)	66.8	61.9	26.1	18.0	7.2	12.0	6.3
その他・答えたくない(n=23)	43.5	60.9	30.4	13.0	4.3	4.3	8.7
20歳代(n=46)	60.9	65.2	32.6	28.3	10.9	13.0	2.2
30歳代(n=152)	68.4	63.2	28.9	24.3	9.2	7.9	3.9
40歳代(n=242)	76.4	57.4	27.3	22.3	6.6	9.1	6.6
50歳代(n=351)	72.9	49.0	24.2	23.1	7.7	10.5	9.4
60歳代(n=404)	67.6	59.2	23.0	15.3	6.2	9.2	5.9
70歳代(n=287)	63.4	61.3	29.3	18.5	6.6	15.0	5.2
80歳以上(n=71)	45.1	64.8	18.3	19.7	1.4	9.9	8.5
あいとびあエリア(n=454)	64.1	58.6	26.2	20.7	7.9	10.8	6.4
こまえ苑エリア(n=506)	69.8	58.7	26.1	17.0	5.7	9.3	6.3
こまえ正吉苑エリア(n=590)	70.5	56.4	25.3	22.5	7.3	11.5	6.8
ひとり暮らし(n=313)	3.5	67.4	32.3	24.3	8.0	12.8	7.0
その他(n=1205)	85.6	55.5	24.1	19.1	6.8	10.2	6.5
未婚(n=280)	26.1	56.1	30.7	25.4	11.1	10.4	7.1
配偶者あり(n=1046)	88.8	56.6	23.5	19.3	6.4	10.8	6.3
死別・離別(n=221)	25.8	66.1	30.8	18.6	4.5	10.0	6.3
社会的孤立 該当(n=155)	12.9	51.6	20.6	23.9	6.5	13.5	6.5
社会的孤立 非該当(n=1366)	74.9	58.9	26.3	20.1	7.0	10.4	6.6
孤独感 該当(n=66)	31.8	37.9	18.2	22.7	12.1	12.1	10.6
孤独感 非該当(n=1478)	70.2	59.0	26.2	20.1	6.8	10.6	6.4
世帯年収200万円未満(n=193)	36.3	53.4	27.5	21.2	10.4	11.9	6.7
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	50.8	58.0	26.7	15.6	7.2	9.6	6.9
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	71.3	61.6	24.0	21.4	5.0	11.4	4.4
世帯年収700万円以上(n=496)	86.9	57.5	26.6	23.2	6.7	9.3	6.9

	訪問看護・ 医療関係者	相談支援専 門員	成年後見人 等	高齢者等終 身サポート 事業所	思いあたら ない	その他	無回答
男性(n=601)	4.3	2.3	1.2	1.8	5.8	0.3	0.7
女性(n=928)	5.9	3.2	1.2	2.2	4.5	0.9	1.5
その他・答えたくない(n=23)	0.0	4.3	0.0	0.0	13.0	0.0	4.3
20歳代(n=46)	10.9	2.2	0.0	4.3	6.5	2.2	0.0
30歳代(n=152)	5.3	2.6	1.3	1.3	6.6	0.7	2.6
40歳代(n=242)	4.5	2.5	2.5	1.2	5.4	0.4	1.2
50歳代(n=351)	7.1	4.8	1.1	1.1	6.6	0.3	0.3
60歳代(n=404)	5.0	2.2	0.5	2.5	5.7	1.0	1.0
70歳代(n=287)	2.4	2.1	1.0	2.1	2.1	0.3	1.7
80歳以上(n=71)	7.0	2.8	1.4	7.0	2.8	1.4	2.8
あいとびあエリア(n=454)	5.9	3.3	1.5	2.2	6.6	0.2	1.5
こまえ苑エリア(n=506)	4.9	1.8	0.8	2.0	5.5	0.6	1.0
こまえ正吉苑エリア(n=590)	4.9	3.6	1.2	2.0	3.4	1.0	1.0
ひとり暮らし(n=313)	5.1	5.4	1.9	5.1	13.4	1.3	0.3
その他(n=1205)	5.3	2.3	1.0	1.2	3.1	0.5	1.3
未婚(n=280)	6.1	4.6	2.1	2.5	13.6	1.8	1.1
配偶者あり(n=1046)	5.2	2.2	1.1	1.5	2.2	0.3	1.2
死別・離別(n=221)	4.5	4.1	0.5	4.1	7.7	0.9	0.5
社会的孤立 該当(n=155)	5.8	6.5	2.6	6.5	20.6	1.3	0.6
社会的孤立 非該当(n=1366)	5.2	2.5	1.0	1.5	3.3	0.6	1.2
孤独感 該当(n=66)	6.1	9.1	1.5	1.5	24.2	1.5	0.0
孤独感 非該当(n=1478)	5.3	2.7	1.2	2.2	4.3	0.6	1.0
世帯年収200万円未満(n=193)	4.1	3.6	1.0	4.1	11.9	1.6	1.6
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	4.5	3.3	1.2	3.0	6.6	0.3	1.5
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	5.9	2.9	0.6	1.2	4.1	0.9	1.2
世帯年収700万円以上(n=496)	4.8	2.0	1.0	1.0	2.6	0.4	0.4

問 36 同居の家族・親族等で頼れる人がいない場合や、仮に今後、そうなられた場合に生活を続けていく上で、特にどのような支援があれば安心だと思いますか。(複数回答)

「病院への通院の付き添いや、入退院時の手伝いをしてくれるサービス」が 57.9%と最も多く、次いで「生活費等の金銭管理や日常の困りごとの手伝いや見守りをしてくれるサービス」が 57.5%、「施設に入所するなど住むことに関するサービスについて相談できる窓口」が 53.2%、「亡くなった後の手続き（死後事務）などについて相談できる窓口」が 37.4%、「財産の管理について相談できる窓口」が 14.9%となっています。

クロス集計の結果をみると、家族構成別のひとり暮らし、婚姻状況別の未婚、社会的孤立別の該当で「亡くなった後の手続き（死後事務）などについて相談できる窓口」の割合が高くなっています。

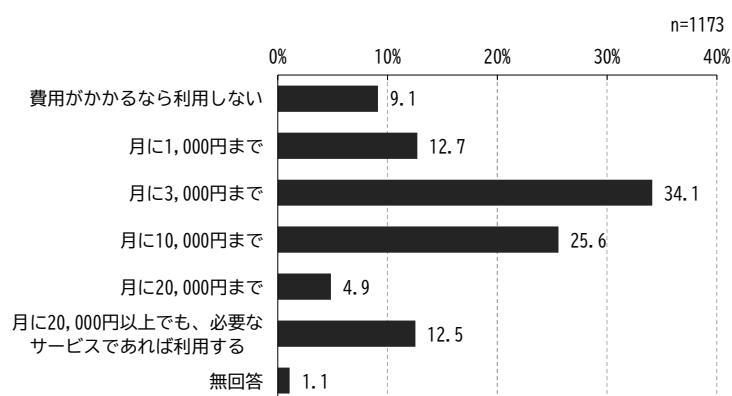


<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

	生活費等の金銭管理や日常の困りごとを手伝いや見守りをしてくれるサービス	病院への通院の付き添いや、入退院時の手伝いをしてくれるサービス	施設に入所するなど住むことに関するサービスについて相談できる窓口	財産の管理について相談できる窓口	亡くなった後の手続き(死後事務)などについて相談できる窓口	その他	無回答
男性(n=601)	50.4	52.6	54.9	13.0	34.1	0.8	5.7
女性(n=928)	62.6	61.3	52.3	16.2	39.5	1.1	4.2
その他・答えたくない(n=23)	43.5	60.9	52.2	8.7	39.1	13.0	8.7
20歳代(n=46)	63.0	52.2	37.0	23.9	34.8	0.0	6.5
30歳代(n=152)	53.3	57.2	50.7	18.4	41.4	2.6	5.3
40歳代(n=242)	57.4	58.7	55.0	20.2	39.3	1.7	4.1
50歳代(n=351)	56.7	63.5	56.1	14.0	41.0	1.1	3.4
60歳代(n=404)	59.9	61.1	51.5	15.3	39.4	0.5	2.7
70歳代(n=287)	57.5	50.5	55.1	9.1	30.0	1.4	8.4
80歳以上(n=71)	54.9	45.1	53.5	9.9	25.4	0.0	9.9
あいとびあエリア(n=454)	57.3	59.0	50.4	16.7	38.1	0.9	4.6
こまえ苑エリア(n=506)	58.1	61.1	54.9	13.2	38.7	1.0	4.9
こまえ正吉苑エリア(n=590)	57.8	54.7	54.1	14.9	35.9	1.4	4.7
ひとり暮らし(n=313)	48.6	50.2	49.2	12.8	43.1	2.6	6.1
その他(n=1205)	59.8	60.2	54.7	15.5	36.4	0.7	4.4
未婚(n=280)	51.4	54.6	49.3	14.6	47.1	1.1	5.4
配偶者あり(n=1046)	61.2	60.1	55.4	15.3	35.6	0.9	4.1
死別・離別(n=221)	48.0	51.6	48.0	13.6	35.3	2.7	7.2
社会的孤立 該当(n=155)	45.2	44.5	53.5	12.3	47.1	3.9	2.6
社会的孤立 非該当(n=1366)	58.8	59.7	53.4	15.4	36.4	0.9	4.9
孤独感 該当(n=66)	51.5	59.1	51.5	10.6	39.4	1.5	3.0
孤独感 非該当(n=1478)	58.0	58.2	53.5	15.2	37.6	1.1	4.6
世帯年収200万円未満(n=193)	52.8	54.9	48.7	14.5	33.2	2.1	7.8
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	60.1	53.8	50.8	13.8	39.6	0.6	4.5
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	60.1	57.5	56.3	14.7	38.7	0.6	3.2
世帯年収700万円以上(n=496)	56.0	62.5	55.6	16.3	38.9	1.4	3.6

問 37 問 36 で選択した1から2までの支援（見守り、家事支援、病院の入退院時の支援など）について、費用が自己負担の場合、あなたは月々いくらくらいまでなら利用したいと思いますか。

「月に 3,000 円まで」が 34.1%と最も多く、次いで「月に 10,000 円まで」が 25.6%、「月に 1,000 円まで」が 12.7%、「月に 20,000 円以上でも、必要なサービスであれば利用する」が 12.5%、「費用がかかるなら利用しない」が 9.1%となっています。クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「月に 20,000 円以上でも、必要なサービスであれば利用する」の割合が高くなる傾向がみられます。また、婚姻状況別の未婚、孤独感別の該当、世帯年収別の世帯年収 200 万円未満で「費用がかかるなら利用しない」の割合が高くなっています。



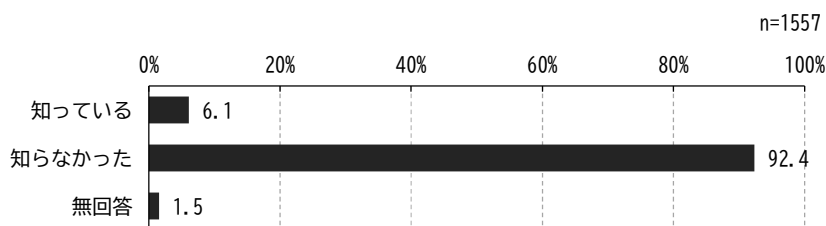
<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>

	費用がかかるなら利用しない	月に1,000円まで	月に3,000円まで	月に10,000円まで	月に20,000円まで	月に20,000円以上でも、必要なサービスであれば利用する	無回答
男性(n=423)	11.1	10.9	27.9	26.5	5.0	17.7	0.9
女性(n=732)	7.9	13.7	37.7	24.9	4.8	9.8	1.2
その他・答えたくない(n=16)	12.5	18.8	31.3	31.3	6.3	0.0	0.0
20歳代(n=36)	11.1	16.7	33.3	25.0	5.6	8.3	0.0
30歳代(n=116)	10.3	17.2	32.8	27.6	4.3	7.8	0.0
40歳代(n=192)	11.5	18.8	39.1	17.2	4.7	8.3	0.5
50歳代(n=266)	8.6	15.4	37.2	24.8	3.0	10.2	0.8
60歳代(n=313)	10.5	10.5	31.0	26.5	5.1	15.0	1.3
70歳代(n=200)	6.0	5.5	32.0	30.0	7.0	18.0	1.5
80歳以上(n=49)	2.0	4.1	30.6	32.7	6.1	18.4	6.1
あいとびあエリア(n=336)	9.5	11.6	34.8	27.1	3.9	11.9	1.2
こまえ苑エリア(n=393)	9.2	11.5	36.4	23.2	4.8	14.0	1.0
こまえ正吉苑エリア(n=443)	8.8	14.4	31.6	26.6	5.6	11.7	1.1
ひとり暮らし(n=213)	9.4	15.5	30.5	26.8	4.2	11.3	2.3
その他(n=933)	8.5	12.1	34.9	25.7	5.1	12.8	0.9
未婚(n=203)	14.3	16.7	35.5	16.7	4.4	11.3	1.0
配偶者あり(n=817)	8.0	11.9	33.9	27.2	5.4	12.7	1.0
死別・離別(n=147)	7.5	11.6	33.3	29.3	2.7	13.6	2.0
社会的孤立 該当(n=102)	10.8	17.6	29.4	24.5	3.9	10.8	2.9
社会的孤立 非該当(n=1047)	8.4	12.2	34.8	25.8	5.1	12.8	1.0
孤独感 該当(n=53)	22.6	15.1	37.7	15.1	5.7	3.8	0.0
孤独感 非該当(n=1116)	8.4	12.6	34.1	26.1	4.8	12.8	1.2
世帯年収200万円未満(n=137)	16.1	11.7	38.7	21.2	5.1	5.8	1.5
世帯年収200万円以上400万円未満(n=251)	8.0	16.7	34.3	24.7	4.0	11.6	0.8
世帯年収400万円以上700万円未満(n=261)	8.8	13.0	30.3	26.8	6.1	13.8	1.1
世帯年収700万円以上(n=381)	6.0	10.2	34.4	28.1	5.8	15.0	0.5

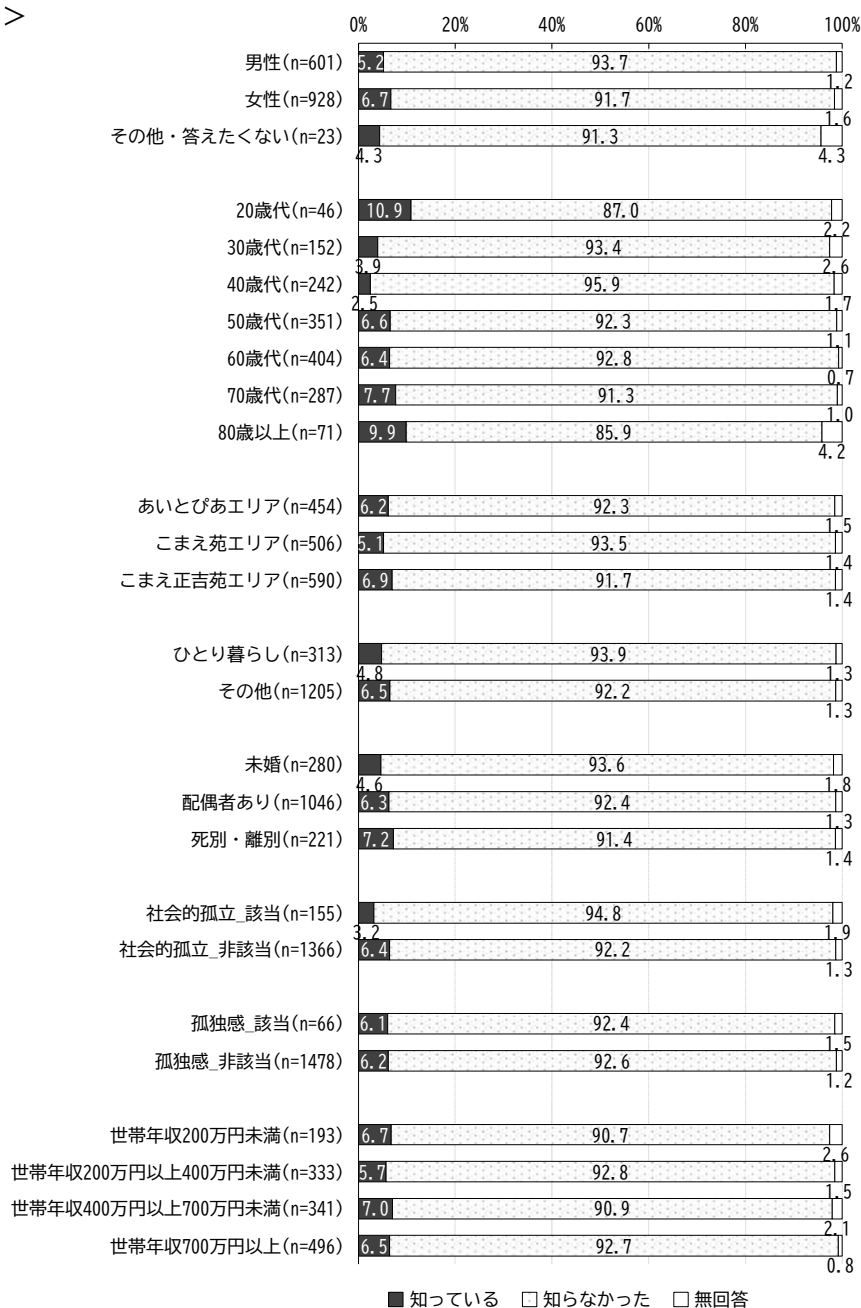
問 38 あなたは、「あんしん未来事業（単身高齢者等支援事業）」をご存じですか。

「知っている」が6.1%、「知らなかった」が92.4%となっています。

クロス集計の結果をみても、「知らなかった」割合が9割前後となっており、傾向に大きな差はみられません。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>

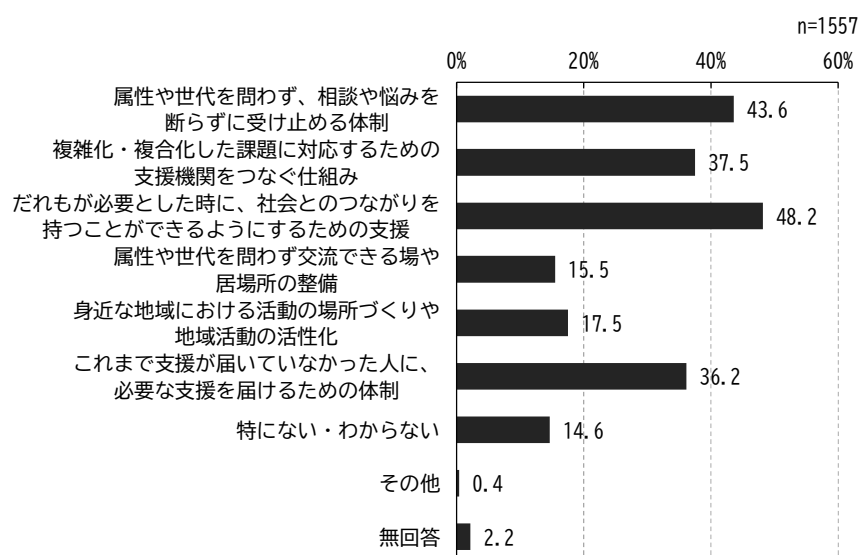


6 重層的支援体制整備について

問 39 重層的支援体制整備事業の推進に向けて、特に力を入れるべきと思う取り組みは何ですか。(複数回答)

「だれもが必要とした時に、社会とのつながりを持つことができるようにするための支援」が48.2%と最も多く、次いで「属性や世代を問わず、相談や悩みを断らずに受け止める体制」が43.6%、「複雑化・複合化した課題に対応するための支援機関をつなぐ仕組み」が37.5%、「これまで支援が届いていなかった人に、必要な支援を届けるための体制」が36.2%、「身近な地域における活動の場所づくりや地域活動の活性化」が17.5%となっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、20歳代で「属性や世代を問わず、相談や悩みを断らずに受け止める体制」、「複雑化・複合化した課題に対応するための支援機関をつなぐ仕組み」、「これまで支援が届いていなかった人に、必要な支援を届けるための体制」の割合が高くなっています。また、婚姻状況別の未婚で「これまで支援が届いていなかった人に、必要な支援を届けるための体制」、孤独感別の該当で「属性や世代を問わず、相談や悩みを断らずに受け止める体制」、「これまで支援が届いていなかった人に、必要な支援を届けるための体制」の割合が高くなっています。



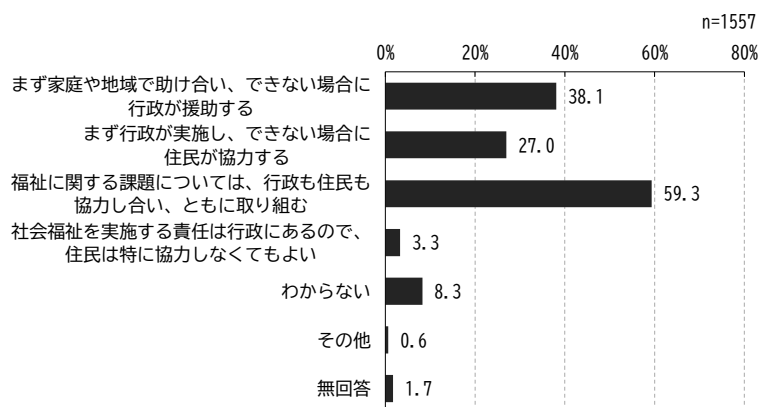
<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>

	属性や世代を問わず、相談や悩みを断らずに受け止める体制	複雑化・複合化した課題に対応するための支援機関をつなく仕組み	だれもが必要とした時に、社会とのつながりを持つことができるようするための支援	属性や世代を問わず交流できる場や居場所の整備	身近な地域における活動の場所づくりや地域活動の活性化	これまで支援が届いていなかった人に、必要な支援を届けるための体制	特にない・わからない	その他	無回答
男性(n=601)	41.1	35.1	44.8	13.1	18.6	31.8	19.0	0.3	2.5
女性(n=928)	45.4	39.1	50.5	17.1	17.1	38.8	11.6	0.4	1.8
その他・答えたくない(n=23)	39.1	39.1	43.5	8.7	0.0	47.8	21.7	0.0	4.3
20歳代(n=46)	60.9	52.2	43.5	8.7	13.0	47.8	8.7	0.0	0.0
30歳代(n=152)	50.0	38.8	44.7	14.5	15.8	41.4	13.2	1.3	3.9
40歳代(n=242)	39.3	39.7	42.6	14.0	13.2	38.0	20.2	0.4	1.7
50歳代(n=351)	41.3	41.6	43.9	16.0	18.5	36.5	15.4	0.9	1.4
60歳代(n=404)	46.0	34.7	51.0	16.6	18.6	37.4	12.1	0.0	2.0
70歳代(n=287)	41.5	35.9	55.4	17.1	21.6	32.1	12.5	0.0	2.1
80歳以上(n=71)	40.8	21.1	54.9	11.3	11.3	19.7	22.5	0.0	4.2
あいとびエリア(n=454)	43.4	37.2	49.6	15.9	17.8	33.9	16.5	0.4	2.0
こまえ苑エリア(n=506)	43.5	39.3	49.6	14.0	17.8	36.8	12.6	0.4	2.6
こまえ正吉苑エリア(n=590)	44.1	36.4	46.1	16.6	17.3	37.5	15.1	0.3	1.5
ひとり暮らし(n=313)	41.5	31.3	44.1	16.6	16.9	36.4	17.3	0.6	1.6
その他(n=1205)	44.2	39.2	49.4	15.4	17.8	36.1	13.9	0.3	2.1
未婚(n=280)	45.4	36.4	38.9	12.9	14.3	43.9	18.2	0.4	1.8
配偶者あり(n=1046)	43.5	40.0	50.0	14.7	18.8	34.7	13.7	0.5	2.2
死別・離別(n=221)	42.1	28.1	51.6	22.6	16.3	32.6	14.9	0.0	1.8
社会的孤立 該当(n=155)	42.6	24.5	44.5	14.8	15.5	34.8	19.4	1.3	2.6
社会的孤立 非該当(n=1366)	44.0	39.2	48.8	15.9	17.9	36.2	13.9	0.3	1.9
孤独感 該当(n=66)	54.5	37.9	45.5	15.2	19.7	48.5	10.6	0.0	0.0
孤独感 非該当(n=1478)	43.2	37.8	48.4	15.6	17.5	35.7	14.9	0.3	2.0
世帯年収200万円未満(n=193)	42.5	31.6	45.1	17.1	16.6	44.6	13.5	0.0	3.6
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	43.8	30.9	47.7	14.4	16.5	39.0	15.9	0.3	1.8
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	49.6	39.0	50.4	14.7	18.2	35.5	12.6	0.3	1.2
世帯年収700万円以上(n=496)	41.1	42.1	47.6	16.9	19.8	32.9	14.9	0.6	1.4

問 40 社会福祉サービスを充実させていくうえで、行政と地域住民はどのような関係であればいいと思いますか。(複数回答)

「福祉に関する課題については、行政も住民も協力し合い、ともに取り組む」が 59.3%と最も多く、次いで「まず家庭や地域で助け合い、できない場合に行政が援助する」が 38.1%、「まず行政が実施し、できない場合に住民が協力する」が 27.0%、「わからない」が 8.3%、「社会福祉を実施する責任は行政にあるので、住民は特に協力しなくてもよい」が 3.3%となっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、20 歳代、80 歳代で「まず家庭や地域で助け合い、できない場合に行政が援助する」、60 歳代、70 歳代で「福祉に関する課題については、行政も住民も協力し合い、ともに取り組む」の割合が高くなっています。また、孤独感別の該当で「まず行政が実施し、できない場合に住民が協力する」の割合が高くなっています。



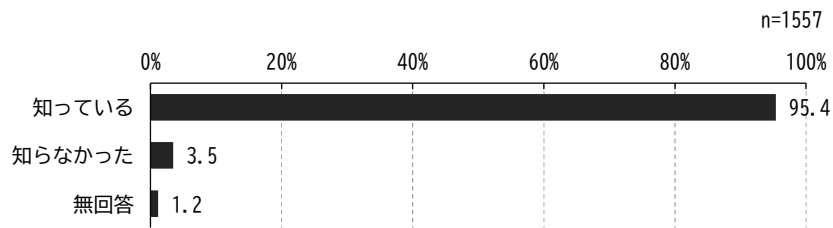
<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別クロス集計>

	まず家庭や地域で助け合い、できない場合に行政が援助する	まず行政が実施し、できない場合に住民が協力する	福祉に関する課題については、行政も住民も協力し合い、ともに取り組む	社会福祉を実施する責任は行政にあるので、住民は特に協力しなくてもよい	わからない	その他	無回答
男性(n=601)	43.9	26.1	54.9	3.8	10.8	0.3	1.7
女性(n=928)	35.0	27.4	62.9	2.9	6.4	0.8	1.6
その他・答えたくない(n=23)	8.7	34.8	39.1	4.3	21.7	4.3	4.3
20歳代(n=46)	47.8	28.3	47.8	6.5	4.3	2.2	0.0
30歳代(n=152)	34.2	28.9	43.4	7.2	6.6	1.3	4.6
40歳代(n=242)	32.2	24.4	56.2	2.9	11.2	2.1	1.7
50歳代(n=351)	38.7	29.3	58.4	2.3	8.8	0.6	0.9
60歳代(n=404)	35.4	24.8	64.4	3.0	8.9	0.0	0.7
70歳代(n=287)	44.6	28.6	67.9	3.1	4.9	0.0	1.7
80歳以上(n=71)	47.9	26.8	54.9	1.4	11.3	0.0	5.6
あいとびあエリア(n=454)	41.0	28.4	59.3	3.3	7.7	0.2	1.8
こまえ苑エリア(n=506)	34.8	25.5	59.5	4.3	8.9	1.0	2.2
こまえ正吉苑エリア(n=590)	39.2	27.5	59.7	2.4	8.1	0.7	0.8
ひとり暮らし(n=313)	35.8	26.8	59.1	2.6	11.8	0.6	1.6
その他(n=1205)	38.8	27.1	60.2	3.3	7.0	0.7	1.6
未婚(n=280)	30.0	27.5	54.3	5.4	12.5	1.1	1.4
配偶者あり(n=1046)	40.2	27.0	60.2	3.0	6.9	0.7	1.5
死別・離別(n=221)	38.5	26.2	62.4	2.3	9.5	0.0	2.3
社会的孤立 該当(n=155)	33.5	27.7	54.8	1.9	18.1	0.6	1.9
社会的孤立 非該当(n=1366)	39.0	27.1	60.2	3.1	6.6	0.7	1.6
孤独感 該当(n=66)	30.3	42.4	54.5	9.1	7.6	0.0	1.5
孤独感 非該当(n=1478)	38.6	26.2	59.9	3.0	8.3	0.7	1.4
世帯年収200万円未満(n=193)	37.3	29.0	56.5	4.1	14.0	0.0	2.1
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	41.1	28.5	60.1	2.4	8.4	0.3	1.8
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	37.0	28.4	61.9	4.7	6.7	0.6	1.2
世帯年収700万円以上(n=496)	38.9	23.4	59.9	2.8	6.0	1.0	1.4

7 手話について

問 41 あなたは手話というコミュニケーションを知っていますか。

「知っている」が95.4%、「知らなかった」が3.5%となっています。



問 42 あなたは手話が言語であることを知っていますか。

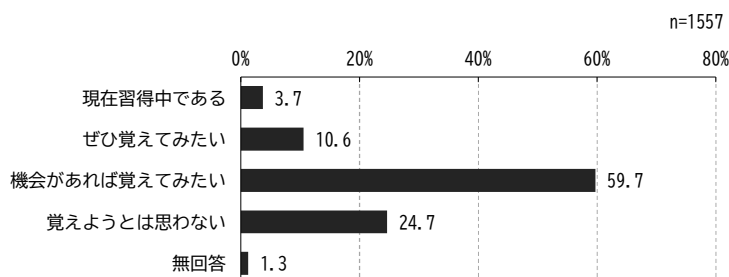
「知っている」が92.1%、「知らなかった」が6.6%となっています。



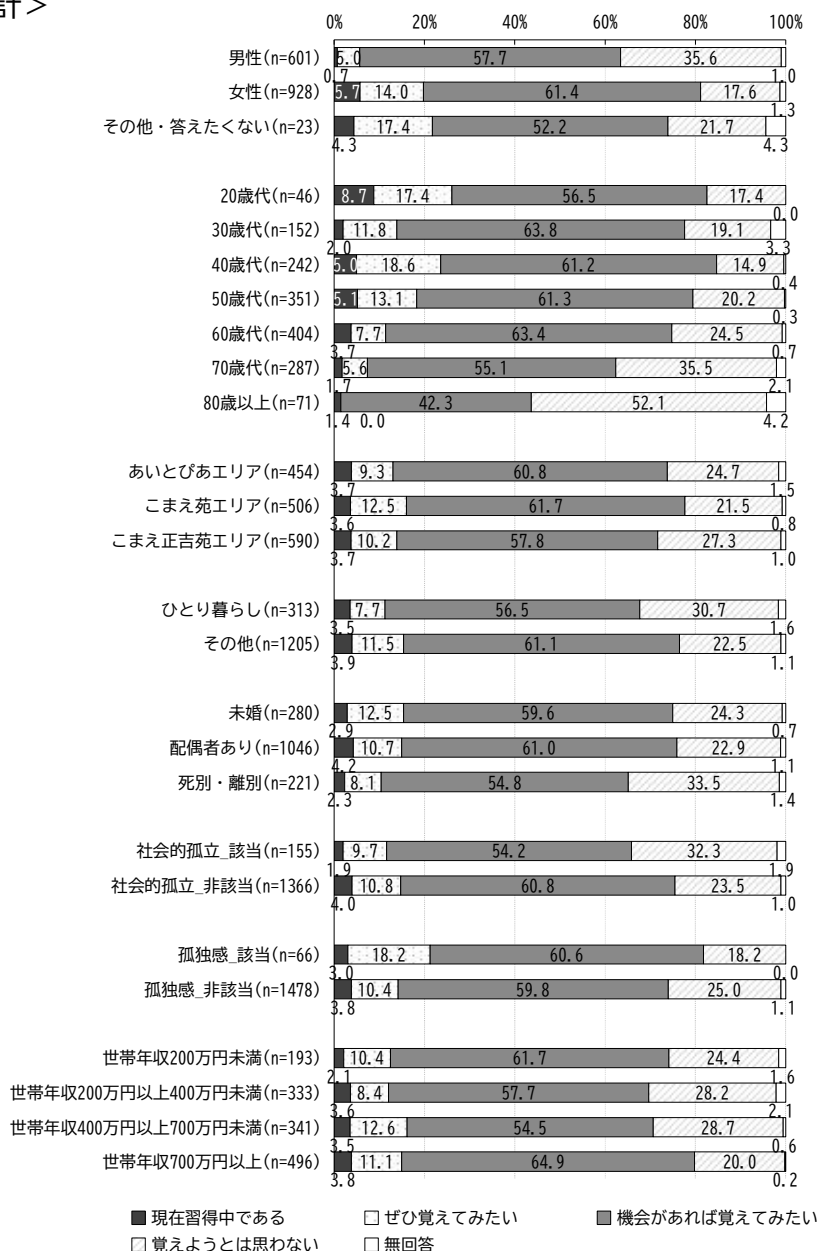
問 43 あなたは機会があれば手話を覚えたいと思いますか。

「機会があれば覚えてみたい」が 59.7%と最も多く、次いで「覚えようとは思わない」が 24.7%、「ぜひ覚えてみたい」が 10.6%、「現在習得中である」が 3.7%となっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、40歳代以降で年齢が上がるにつれ「覚えようとは思わない」の割合が高くなっています。また、家族構成別のひとり暮らし、婚姻状況別の死別・離別、社会的孤立別の該当で「覚えようとは思わない」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別 クロス集計>



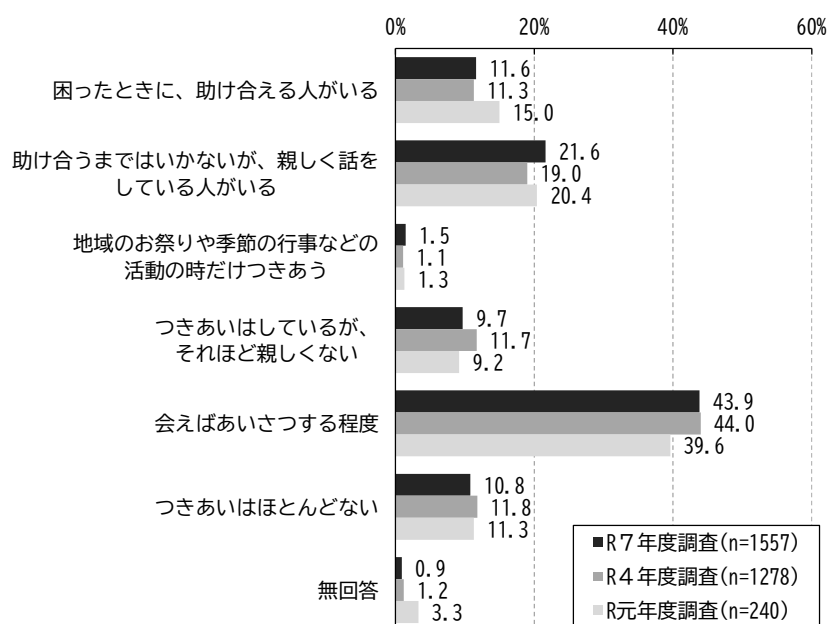
8 地域の支え合いについて

問 44 あなたは普段どの程度、ご近所づきあいをしていますか。

「会えばあいさつする程度」が43.9%と最も多く、次いで「助け合うまではいかないが、親しく話をしている人がいる」が21.6%、「困ったときに、助け合える人がいる」が11.6%、「つきあいはほとんどない」が10.8%、「つきあいはしているが、それほど親しくない」が9.7%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。

クロス集計の結果をみると、年齢別の20歳代、家族構成別のひとり暮らし、婚姻状況別の未婚、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当で「つきあいはほとんどない」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>

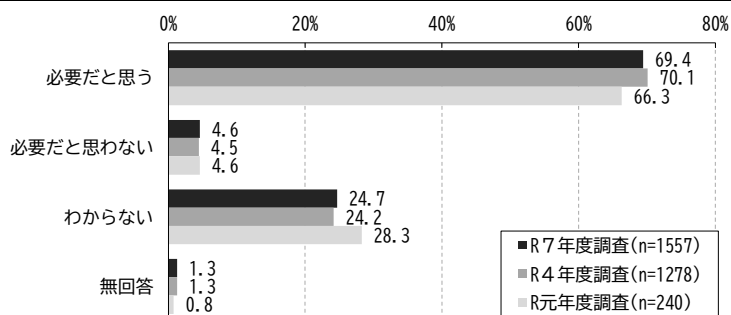
	困ったときに、助け合える人がいる	助け合うまではいかないが、親しく話している人がいる	地域のお祭りや季節の行事などの活動の時だけつきあう	つきあいはしているが、それほど親しくない	会えばあいさつする程度	つきあいはほとんどない	無回答
男性(n=601)	9.0	19.3	2.5	9.8	47.4	11.0	1.0
女性(n=928)	13.5	23.6	0.9	9.4	41.4	10.7	0.6
その他・答えたくない(n=23)	8.7	4.3	0.0	17.4	56.5	8.7	4.3
20歳代(n=46)	6.5	6.5	0.0	6.5	50.0	30.4	0.0
30歳代(n=152)	5.9	15.8	2.0	7.9	47.4	18.4	2.6
40歳代(n=242)	13.6	18.2	0.8	9.1	45.5	12.4	0.4
50歳代(n=351)	11.1	19.4	1.1	8.8	47.6	11.7	0.3
60歳代(n=404)	10.6	21.5	2.0	10.4	46.5	8.4	0.5
70歳代(n=287)	14.3	30.3	1.7	11.1	36.2	4.5	1.7
80歳以上(n=71)	18.3	33.8	1.4	11.3	25.4	9.9	0.0
あいとぴあエリア(n=454)	11.5	21.4	1.5	5.9	44.7	14.3	0.7
こまえ苑エリア(n=506)	10.7	20.9	1.4	11.5	44.7	10.1	0.8
こまえ正吉苑エリア(n=590)	12.7	22.7	1.5	11.2	42.5	8.6	0.7
ひとり暮らし(n=313)	8.0	19.8	1.3	8.0	36.7	25.2	1.0
その他(n=1205)	12.4	22.2	1.6	10.0	46.2	6.7	0.7
未婚(n=280)	5.0	13.6	0.7	7.1	46.8	26.1	0.7
配偶者あり(n=1046)	13.0	23.4	1.4	10.4	44.9	6.0	0.8
死別・離別(n=221)	14.0	24.0	2.7	10.0	35.3	13.6	0.5
社会的孤立 該当(n=155)	2.6	12.9	1.3	8.4	42.6	29.7	2.6
社会的孤立 非該当(n=1366)	12.8	22.7	1.5	9.8	44.0	8.6	0.6
孤独感 該当(n=66)	6.1	9.1	0.0	6.1	51.5	25.8	1.5
孤独感 非該当(n=1478)	12.0	22.3	1.6	9.8	43.7	10.1	0.6
世帯年収200万円未満(n=193)	11.4	21.2	1.6	10.4	38.9	16.6	0.0
世帯年収200万円以上400万円未満(n=333)	11.7	23.7	1.2	9.0	41.4	11.1	1.8
世帯年収400万円以上700万円未満(n=341)	9.1	19.4	2.3	10.9	45.2	12.3	0.9
世帯年収700万円以上(n=496)	13.1	20.4	1.0	9.7	48.0	7.5	0.4

問 45 あなたは、地域における問題や課題解決に向けた住民同士の自主的なささえあい、たすけあいの関係が必要だと思いますか。

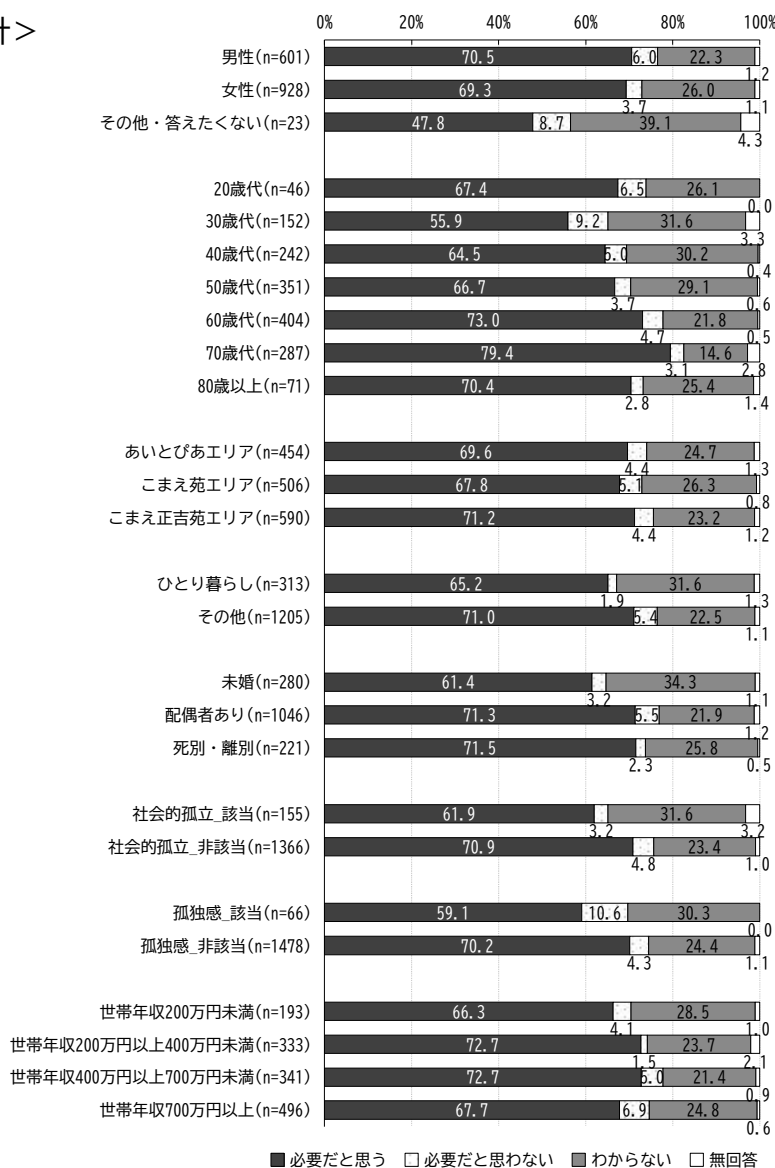
「必要だと思う」が69.4%と最も多く、次いで「わからない」が24.7%、「必要だと思わない」が4.6%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、傾向に大きな差はみられません。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「必要だと思う」の割合が高くなる傾向がみられます。また、家族構成別のひとり暮らし、婚姻状況の未婚、社会的孤立別の該当、孤独感別の該当で「必要だと思う」の割合が低くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>

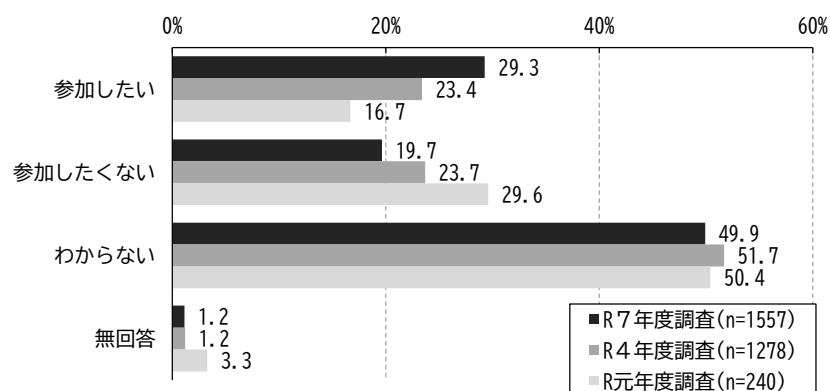


問 46 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動、地域住民の居場所作り、イベントの企画を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、その活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。

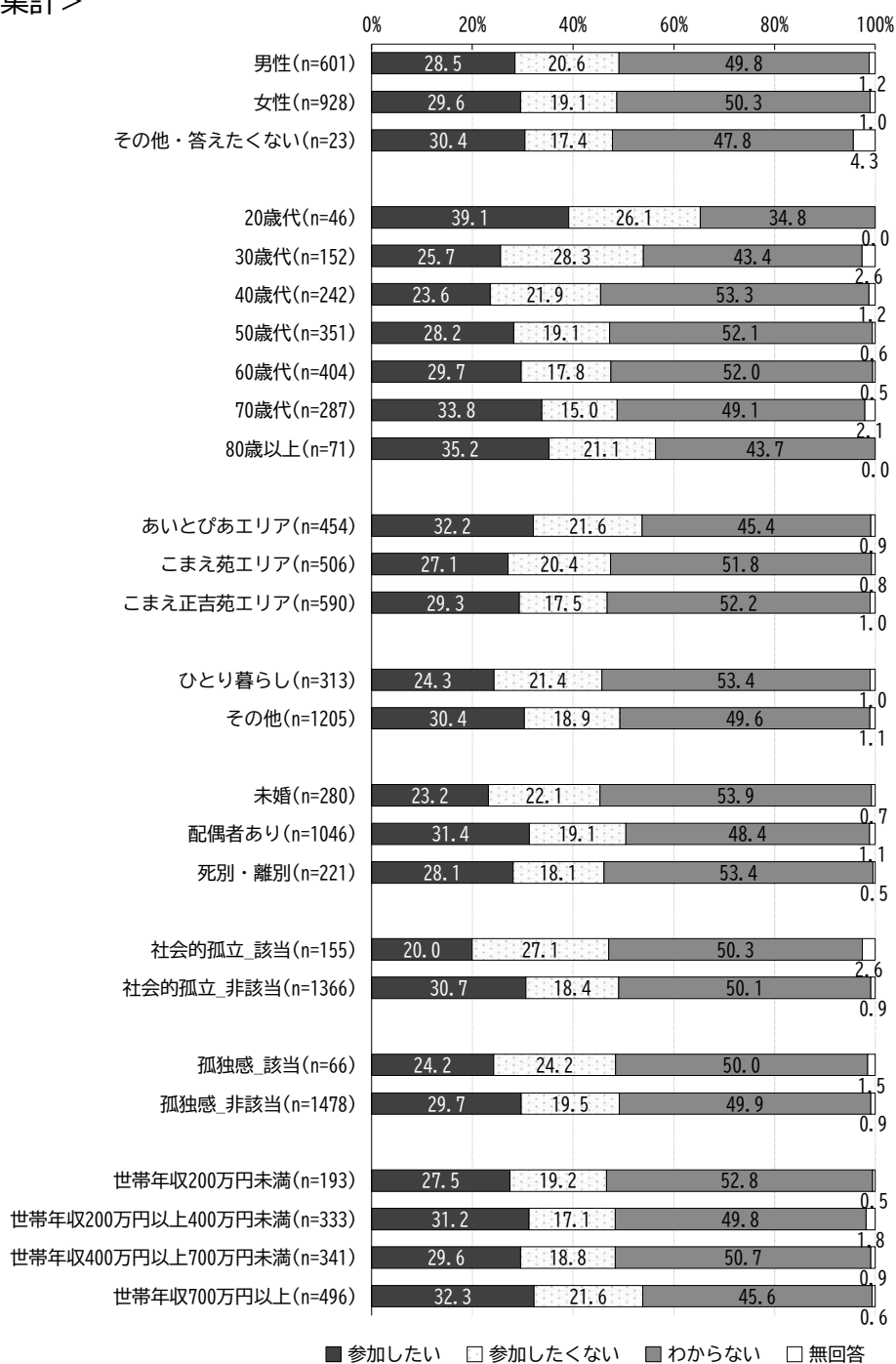
「わからない」が49.9%と最も多く、次いで「参加したい」が29.3%、「参加したくない」が19.7%となっています。

前回調査（令和4年度調査）と比較すると、「参加したい」が5.9ポイント多く、「参加したくない」が4.0ポイント少なくなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、20歳代で「参加したい」の割合が高く、40歳代以降は年齢が高くなるにつれ「参加したい」の割合が高くなっています。また、社会的孤立別の該当で「参加したい」の割合が低くなっています。



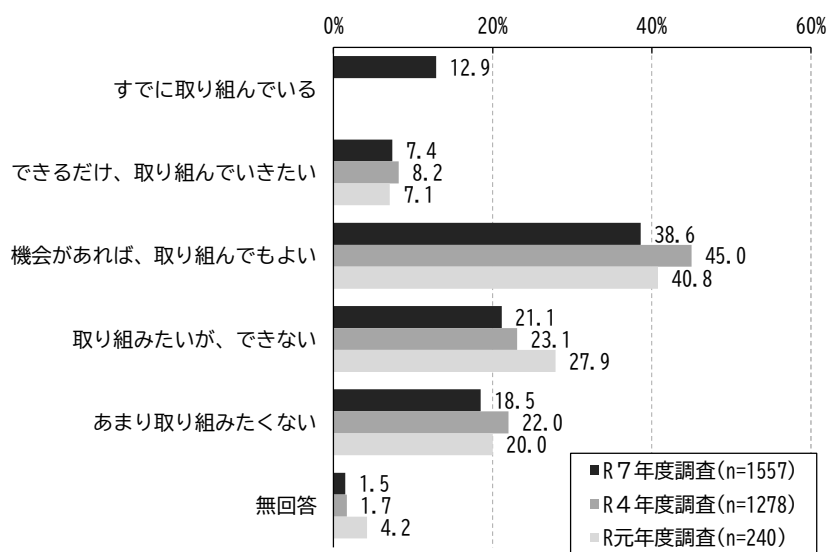
<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>



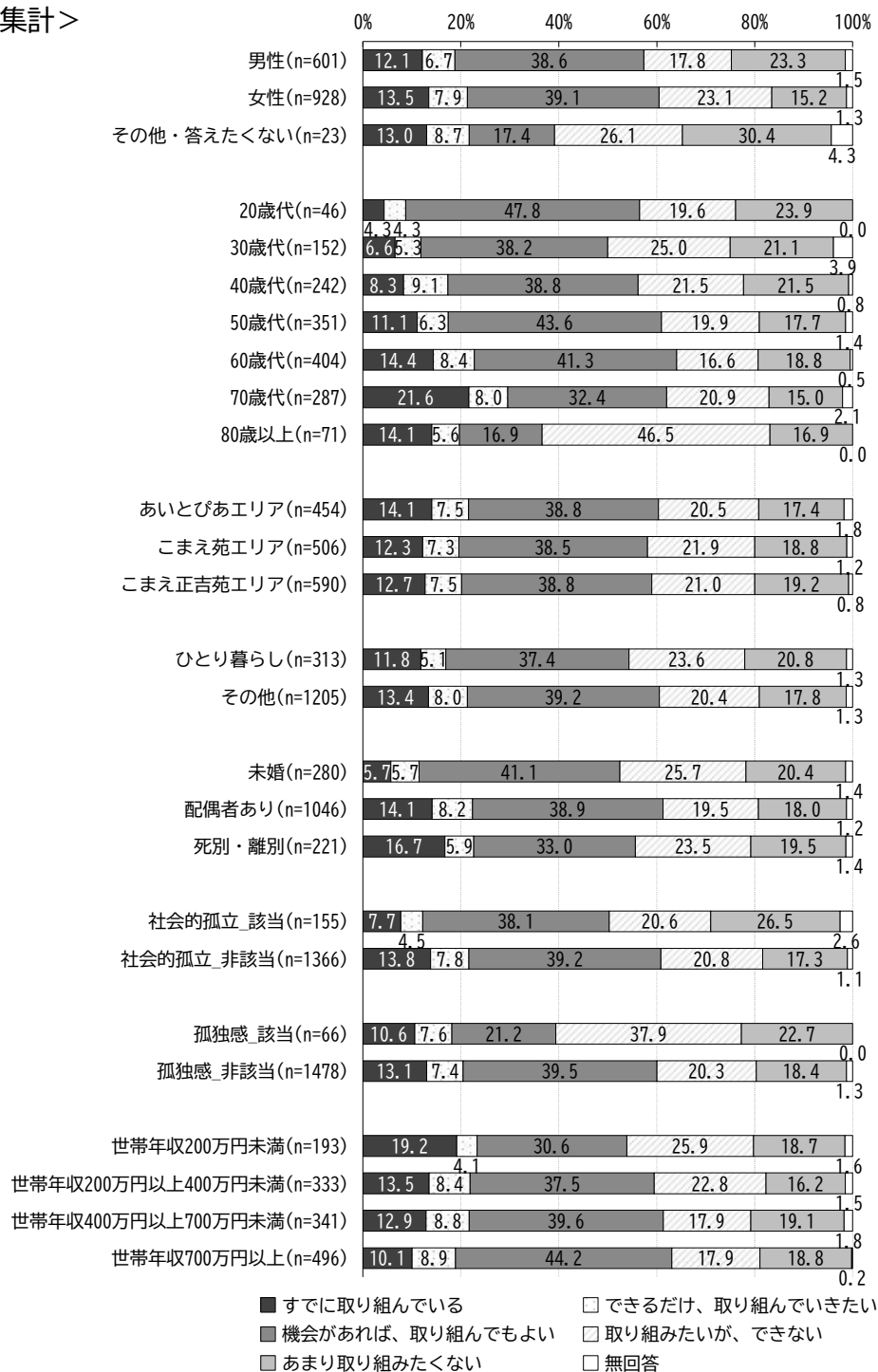
問 47 あなたは、今後、地域活動・ボランティア活動等に取り組んでいきたいと考えていますか。

「機会があれば、取り組んでもよい」が 38.6%と最も多く、次いで「取り組みたいが、できない」が 21.1%、「あまり取り組みたくない」が 18.5%、「すでに取り組んでいる」が 12.9%、「できるだけ、取り組んでいきたい」が 7.4%となっています。前回調査（令和 4 年度調査）と比較すると、「機会があれば、取り組んでもよい」が 6.4 ポイント少なくなっています。

クロス集計の結果をみると、年齢別では、年齢が上がるにつれ「すでに取り組んでいる」の割合が高くなる傾向がみられますが、80 歳以上では「取り組みたいが、できない」の割合が高くなっています。また、婚姻状況別の未婚、社会的孤立別の該当で「すでに取り組んでいる」の割合が低く、孤独感別の該当で「取り組みたいが、できない」の割合が高くなっています。



<性別・年齢・居住エリア・家族構成・婚姻状況・社会的孤立・孤独感・世帯年収別
クロス集計>



問 48 地域活動・ボランティア等で取り組みたいことなどがありましたら、ご自由にお書きください。

■環境・美化活動など

- 交流を目的とした交流が苦手なので清掃や街路樹のせん定など黙々と手を動かす活動だったら参加したい。
- 神社、お寺の掃除の手伝い。
- 地域の清掃。
- 洋服のリメイクで、廃棄率を下げる。
- 公園等の清掃、整備。
- 犬の散歩を通じて知らない方と挨拶を交わす機会が増え、地域でのつながりが広がりました。犬の飼い主にはコミュニケーションしやすい方が多く、防犯面でも一定の効果があると感じています。こうした交流を通じて、飼い主マナーの周知や、地域課題への意識向上にもつながると思います。また、散歩の際にゴミ拾いも始めましたが、タバコや包装紙のポイ捨てがまだ多いことを残念に感じています。一方で、近隣の道路や土手のゴミが減ったことにはやりがいを感じています。ゴミ拾いをする人の姿やきれいな道路環境は、地域の美化意識向上にも繋がるのではないのでしょうか。
- 五本松周辺ではホームレスによる長期滞在や危険な自転車走行なども見られますが、環境整備を進めることで、多摩川利用者や市民が安心して使いやすい場所に改善できると感じています。市にも、より良い地域環境づくりに向けて積極的に取り組んでほしいと思います。
- 河川敷の清掃、農作業の手伝い。
- ゴミ拾いなど、気がついたときにさっとできて環境が整うこと。
- 多摩川土手道のゴミ拾い。
- 公共の場の清掃や児童通学の見守り。街の美化活動などにできる範囲で参加してみたい。
- 草花や植栽の手入れ、世話や軽荷物の運搬など。

■高齢者支援など

- 年寄りでも筋トレや水泳などの運動をしたい。他市ではシルバーパスなどで低料金で利用できる施設があり、医療費の削減にも繋がっていると聞いています。
- 高齢者の困りごとをできる範囲で手伝いたい。
- 健康増進、転倒予防など保健関係の活動に興味があります。
- 仕事を引退した後も有償ボランティアで多くの人が活動を継続して、生き生きと暮らす環境をつくりたい。
- 現役を引退されたシニアの健康に寄与できる活動。
- 自身や自身の家族を優先して、余裕があるならばなんでもやっていきたいが、こちらも人間なので、赤ちゃんより先に逃げようとするような高齢者を支援したいとは思えない。
- 西河原体育施設、特に天候に左右されず年間利用可能な25メートル室内プールの早期建設。
- 地域の高齢者に対し、孤立をなくし、生きがいの場を提供するため、月1回サロンを行っている。サロンはスタッフが考えた手工芸、軽い運動のほか、外部から、ボランティアの方を招き、マジック、押し花等を行っていますが、限られた予算で開催する内容等を考え

ていくのが大変です。

- お年寄りのサポート。
- 一人暮らしの高齢者の話し相手のボランティア。
- 母の介護があるのでできないが、ボランティア自体は今までしてきたので機会があればしたいが、私自身来月には後期高齢者になるのでできるものはないかも知れない。
- 単身高齢世帯のお手伝い等。話し相手など。
- 今の高齢者は、デジタル化に追いつけない人が多いと思いますので、そういった人を支援するためのボランティアや地域活動が必要かと思います。
- 単身者の見守り活動。
- ボランティア活動を熱心になさる方に頭が下がります。色々なことを広く浅く学んできたため、一つの活動にとどまらず、自身の体調のこともあり悩むことがあります。ですが、人のための活動は、いつかの自分のためにもなると考え、様々なことを知り、専門職との橋渡しができる存在も必要ではないかと思っています。憩いの場、認知症カフェ、体操教室、習い事など、どれも大切な活動であり、一つでも継続することで他者とのつながりが生まれると感じています。そのため不足している活動を勧める民間協力も必要ですが、市が形を整えないと、今は必要性を感じていない方の協力を得るのは難しい面もあります。手助けが必要になる前に行動する意識づくりや啓発も必要だと感じています。
- 高齢者向けIT教育。
- 一人暮らし高齢者への声かけ。

■子ども・子育て支援など

- 子ども食堂。
- 学童支援、高齢者支援などのサポート。
- 子ども食堂のお手伝い。
- 不登校の子ども支援。
- 子どもの登下校の見守り。
- 不登校の子どもや、孤独を感じている方たちのための居場所づくり。
- 学習指導。
- いじめや児童虐待の防止、子育ての援助や相談に関われたらいいと思います。
- 子どもに勉強を教えるなど。
- 老後は紛争地域の子どもたちへ、絵本を届けるなどの支援活動をやりたいと昔から思っている。
- 地域の子育て支援、公園清掃。
- 図書館や児童館などでの本の読み聞かせや朗読。地域や河川のゴミを回収するボランティア。地域の放送局のお手伝いなど。子ども食堂やカフェなどのお手伝い。
- 子ども食堂。
- 不登校、ひきこもりの人が集まる会を開催したい。
- 子育てで悩んでいる若いママさんの話を聞いたり、子どもに絵本の読み聞かせなどをするボランティア。
- 子どものスポーツ指導、アテンド。

■福祉・障がい者支援など

- キャラバンメイトの養成研修や若年性認知症の方へのサポート。
- 障害者施設の充実を望みます。
- 手話を生かしたい。
- 相談活動。
- 現在はなんとか働けているが、以前ひきこもりだった息子がおり、その経験を生かせたらいいと思ったことがあり、少し動いてみたが、この問題になると私自身がまだ生々しい感覚が大きすぎるのと、一口に引きこもりといっても症状原因がいろいろで、今はそのことでの活動は難しいと判断しています。
- 支援、援助が必要な近隣の人たちに対して、お互い経済的にも労力的にも負担のない形で、自分はどうか協力できるのか、知りたいと思う。
- 福祉の仕事をしていたので、地域活動には参加したいと思う。
- 20代、30代の時は地域ではないが、職場や障害者施設のボランティア活動に少し参加させていただく機会もありましたが、自分自身、家族、親族で助け合いが必要な年齢となりなかなか参加できなくなりました。身近で、短時間でも何かできることがあれば参加はしたいです。
- 聞くこと、話すことができない子どもたちに書道をボランティアで教えたいと思っています。
- 福祉の内容や手続きを知らずに困っている人への援助。
- 現在は、自身が在宅介護しているので、難しいが、時間ができたら、在宅介護のお手伝いをしたいと思っている。
- 近所同士の支え合い、外国人家族のサポート等できることあればぜひお手伝いしたい。
- 子どもが大きくなったら前職の経験を活かして障がい児者支援のボランティアをしたい。
- 外出支援。
- 自分の得意分野での手助け。キャリアカウンセリング。
- 傾聴ボランティア。
- 介護。
- セラピードッグ、ペットとの避難所、ペットとの共生、農園、掃除、傾聴。
- 野良猫さんを保護して里親さんにつないでほしい。
- 保護猫活動。

■地域交流・居場所づくりなど

- まずは、居住地（集合住宅）での、ささやかな集まりをして、どれ位の住民がいるか把握したい。
- ご近所とのコミュニケーションは大事です。お互いに助け合って生活していくことで毎日の生活の質が高まります。
- 住民同士の絆が深まるような親睦活動に力を入れたいと思います。
- 世代を超えた居場所づくりをぜひ実現したいと思います。
- 空き家などを利用して地域の居場所ができたらいい。
- 町会活動。
- 狛江でお店をやっているひとたちのイベント(コーヒーブルームなど)には積極的に客としてお金を落としたり宣伝したい。

- 世代交流できる取り組み。
- 地域誌、ミニコミ誌、会報・広報誌などの制作（取材、執筆、編集）。
- いまは仕事が忙しく余裕がないが、地域のつながりは大切だと思っている。ここ数年、狛江駅などでイベントが増えているように感じるがいいと思う。いろいろなことを試してみ、気軽に参加したくなる機会が増えれば自然とつながりもできるかもしれないと思う。
- スポーツや趣味などを通じた地域の活性化をサポートしたい。
- 場づくり、機会づくり。
- 社会教育での活動を中学から大学の頃まで行っていたので、とても関心があります。パラスポーツである「ボッチャ」に出会い、ハマっているスポーツ。老若男女楽しくできるので、地域活性のため、月一活動として、取り組みたいと思っている。
- 子ども、子育て中の親、お年寄り、誰でも寂しくなったら立ち寄って、お茶を飲みながらおしゃべりできるようなスペースをマンション内につくりたい。
- 子どもを中心とした居場所に、大人も参加できる取り組み。
- 今やっているボランティアを広めて参加する人を増やしたいです。
- ご近所の知り合いを増やし、地域の安心安全を図る。
- 近隣住民との助け合い。
- 狛江市の歴史の編さん事業に参加したい。

■防災・地域安全など

- 商店街自警団。
- 消防団員として活動。
- 土のう作りは協力したい。
- 防災対策。
- 防災訓練など。
- 防災に関する講演。
- 子どもが学齢児童になったら消防訓練などに参加したい。
- 災害ボランティアには何度も出かけました。都合がついたときだけ。今後もしばらくはその程度かなと思います。

■個人スキルの活用など

- 自分の職業が活かせる活動があったら、狛江の人たちの役に立ちたい。
- 子どもや高齢者の方に英会話を教えたい。
- 音楽教育に携わっているので、音楽活動を通じてできる機会があればやってみたいです。
- スマホやパソコンの使い方の相談にのる。

■参加条件・参加障壁など

- すごい簡単にハードルが低いものであれば参加してみたい。
- 家にいて重病人の介護があるので、なかなか参加できないと思う。安定したらできることがあれば、参加したいと思う。
- 年齢や家族構成問わず、単発で気軽に参加できるようなものがあれば参加したいと思う。
- 何をやるにしても車イスではしたくても何もできない。

- 朝が弱いので午後から活動できるボランティアがあればいい。
- 自分のことがやっとなので支援はしたいが多分できないと思う。
- 家族の世話でほかはできない。
- 時間が合う活動、体力的に無理のない活動。
- 現役世代や若者は、平日に働いていたり通学しているので、地域活動に参加しましょう、と言われても難しい。
- ボランティア活動は、未経験だとハードルが高い気がする。
- 地域活動をしているのかわからないから。
- 仮に定年して取り組むことができる時間があっても、納税していない外国人がいるならば何もしたくないし不公平さを感じる。
- 物価高の影響もあり、生活のために働く時間を確保する必要がある一方、可能な範囲で地域との関わりを大切にしたいと考えている。子どもたちと一緒に、狛江市内でのゴミ拾いや住民との交流など、無理のない形で地域活動を行っています。私は会社員として働きながら、都営狛江営業所団地に関わる引越し相談や作業支援を無償で手伝っています。その中で、高齢者が悪質業者との契約トラブルに気づけず困っている現状を多く見てきました。
- 消防団にも関心はありますが、長期の任期や家庭・仕事との両立に負担を感じています。今後の地域活性化には、一部の人に負担を集中させるのではなく、市民一人ひとりが無理なく参加できる「緩やかな協力体制」が重要だと考えます。資格取得や見守り活動などに対して、報酬や評価制度を設けることで参加しやすくなるのではないのでしょうか。また、首都直下地震などの災害時には行政だけでは限界があり、市民同士の支え合いが不可欠です。立場を問わず参加できる柔軟な仕組みと、協力に対する適切な支援や評価が必要だと感じています。
- 取り組みたいと思っても、個人の出費が多少必要なので経済的に無理です。
- 仕事の合間に参加したい。
- 地域活動やボランティア等には興味があっても、昔と比べて人との関わり方が難しくなっているのが現状だと思っています。引越して来た当初は、住民と仲良くしたいと思っていましたが、そうではない人も多く、難しいと思っていました。色々な考え方があるので、何が正解かはわかりませんが、ますます高齢者社会になっていることを行政側として強く配信していってもらえれば、孤立化問題等や地域活動も円滑になるように思えます。
- ボランティア活動は、行っています。しかし、地域活動となると高齢者が多い地域なので、五歳、十歳若いだけで、体力的にキツイ役割分担を任せられたりすることが多分にあります。地域活動の変革システムが必要だと思われます。
- フルタイムで働いています。地域に滞在する時間が少ない現状です。マイルドにつながることをのけるものを。
- ボランティア活動でどんな取り組みがあるのか、まず知りたいと思います。
- どこに相談すれば参加できるのかわからない。
- 就業や特性などがあるため、なんでもというわけにはいかないが、自分に合うものがあれば地域活動に参加したいと考えています。活動目的や成果、頻度や規模などがわかりやすく幅広い参加につながるようなweb窓口があると、市役所や団体窓口に尋ねる前に自分で調べられるため参加のハードルが下がると思います。どのような層にアピールしたいかにもよりますが、案内を駅や病院、遅い時間までやっているスーパー・コンビニなどにポ

スターや電子掲示で告知などすると、子どものいる保護者や専業主婦層以外も目にする機会も増えると思います。

- 他人と何かしようとすれば、本来の目的のためではなく個々の意見や意識の違いを調整することのためにエネルギーを使ってしまい、本来の活動へのモチベーションが下がる。まずは自分個人の手の回る範囲で小さく物事を始めることをしたいと思う。
- 自分の現状のみを考えてきておりました。この街に長くお世話になっているので、やはりこのアンケートに書かれたような、ボランティアや活動は必要なのかと思うが、もう少し模索をして、自分は何ができるのかから考えていくことが必要と思いました。
- どんな活動があるのか知りたい。

■制度・行政への意見など

- マンションによるのですが、個人情報保護の理由で、住人の方の高齢者1人暮らしの人が自分のほかにいるのかも教えてもらえないです。管理会社か、管理人さんによるのかわかりません。防災訓練もないです。懸念しています。
- 一つのボランティアを引き受けると、芋づる式にあれやこれやと頼まれとても大変です。あまりボランティアに頼らず、行政がしっかりと行き届いたサービスができるようにしてほしい。
- すべてを無償のボランティアでまかなうことには限界があると考えます。一方で、有事の際に避難やその判断に支援を必要とする方々を、一定の対価を伴う形で支援する人材を地域で確保することは可能ではないでしょうか。無償でラジオなどの物資を配布しても、受け取った方が自力で行動や判断ができなければ、十分な支援にはつながりません。また、「無償だから受け取る」という状況が生まれ、結果として税金の有効活用にならないことも懸念されます。有事の際、自由に動ける行政職員の数には限りがあります。そのため、地域で支え合う仕組みが理想ですが、完全なボランティアでは支援を受ける側も遠慮してしまい、利用しづらい面もあると感じます。支援内容や範囲を明確に定めた上で、研修を受けた人材が、支援を必要とする方を有償で支える仕組みを構築することが望ましいのではないのでしょうか。一度で終わるラジオの無償配布よりも、恒久的なつながりや取り組みとなり意味のある仕組みになるかと思います。行政だからこそできる取り組みを、ぜひご検討いただきたいと思います。
- 現在、民生委員・町会役員・避難所協議会役員などを兼務しているため行政機関の横の連携が必須です。
- 集合住宅で問題行動をする住民に関しての相談窓口があるといいと思います。
- ボランティアは無料なのに同じようなことを有料で、高齢者事業団に申請すると有料で人が配置されているのは統一性がなく、不公平感がある。ボランティアも古い項目は見直してみたらいかがでしょうか。
- 居住者健康管理体制づくり、安心連絡網、災害発生時救難システム、金銭相談などが身近に感じられないので環境管理などが望ましい。
- ボランティア活動も昔からの体制をそのまま引き継いでいるようですが、現代はインターネットやパソコンなどの発達している分野を利用して、ひと昔まえより効率化できる事柄も多く、一度すべてのボランティア活動について見直す時期にきているのではと感じます。狛江市のボランティアもすべて洗い出して、必要なものと次のステージに切り替えるものを洗い出す時期にきているように感じます。ボランティア活動だから、無料で

手伝ってくれるから、そんな理由で昔のままの体制を続けているのは、今の時代に逆行しているように感じます。高齢者事業団にお願いできるような事柄は、有料でもよいのでそちらにお願いしても、よいのではないのでしょうか。

- 気軽にボランティア活動ができるとよいと思います。そのために、必要としている方の情報をもっと発信し、やれる方は参加することができるようにする体制ができるといいと思います。社会福祉協議会の活動に期待しています。また、小学生への情報提供が大事だと思います。子ども食堂、老人食堂、ボランティア活動等の福祉活動は、当たり前のことと認識するための啓蒙活動は、小学生の頃の学びが重要だと思いますので、昼休みにこまラジを流すような取り組みをして、自然と認識するような環境があるとよいと思います。こまラジが、災害時、貧困時等、様々な情報発信していることを、粕江市に住む人であれば当たり前で認識できれば、課題は解消していくと思います。

狛江市の福祉に関する調査 集計結果報告書

令和8年●月発行

発 行 狛江市

編 集 狛江市福祉保健部 福祉政策課
狛江市和泉本町一丁目1番5号

電 話 03 (3430) 1111

孤独・孤立対策に関する施策の推進を図るための重点計画 令和7年改定のポイント

- 令和6年4月に孤独・孤立対策推進法（令和5年法律第45号）施行、同年6月に法に基づく重点計画を策定。
- 法施行後1年間、内閣府において孤独・孤立対策担当大臣を中心に、地方公共団体・NPO等の支援や孤独・孤立の予防を目指した取組等を重点的に推進。また、有識者会議や官民連携プラットフォームにおいても議論を重ねてきた。
- 本部的下の孤独・孤立対策推進会議において、関係府省庁の取組状況を確認し、地方公共団体、地域協議会、関係機関等（NPO等）の意見を聴取した上で、重点計画の改定案を推進本部において審議。

①現行計画の重点取組事項を着実に推進しつつ、②現在直面している課題・中長期的な課題等に的確に対応するため、**重点計画を改定**（孤独・孤立対策推進本部決定）

①令和6年計画の「特に重点を置いて取り組むべき事項」→ 取組を強化し、引き続き重点的に推進。

- 地方公共団体への伴走支援やNPO等の取組支援等について、交付金等も活用しつつ、現場の工夫や課題も含めた横展開の取組を推進。
- 「つながりサポーター」の更なる普及を始め、孤独・孤立状態の予防を目指した取組を強化。
- 目標設定の好事例横展開などを通じ、重点計画に定める施策のエビデンスに基づく評価・検証を通じた取組など



②現在直面している課題・中長期的な課題等→新たに重点取組事項に盛り込み、関係府省連携して対策を推進。

【現在直面している課題】

✓ **小中高生の自殺者数が過去最多**

- －令和6年は529人と過去最多。
- －女子中高生についてみると、女子中学生・女子高校生ともに増加している現状



- 児童館やフリースペース、こども食堂といった家庭でも学校でもない多様な居場所づくり、子ども・若者の悩みを地域で受け止め、伴走支援を行う体制の構築、地域で教育や福祉等に携わる方の「顔の見える関係」づくりなど、こども・若者の孤独・孤立状態の予防に向けた取組の推進。

【中長期的な課題】

✓ **将来の単身世帯・単身高齢世帯の増加見込み**

- ＝孤独・孤立リスクを抱える方も増加見込み
- －単身世帯数が今後増加し、2050年度44.3%（推計）

✓ **孤立死者数の推計：約2万2千人**

- －孤立死WGが令和6年の推計を公表。
- －「警察取扱死体のうち、自宅において死亡した一人暮らしの者」のうち、生前に社会的に孤立していたことが強く推認される「死後8日以上」を経過していたもの。



- 関係府省庁・地方公共団体との密接な連携の下、現役世代を含めた単身者等の孤独・孤立状態の予防や社会とのつながりを失い孤立死に至ることを予防する観点からの「居場所・つながりづくり」等、中長期的視野に立った孤独・孤立状態の予防のための取組の推進。

このほか、就職氷河期世代を含む中高年層の支援や、身寄りのない高齢者の支援についての関係府省庁が連携した取組の推進 など

孤独・孤立対策に関する施策の推進を図るための重点計画（R6.6.11決定（R7.5.27一部改定））のポイント

重点計画の意義

- 令和6年4月1日に施行された孤独・孤立対策推進法（令和5年法律第45号）に基づき、孤独・孤立対策推進本部において決定。
- 孤独・孤立対策に関する施策についての基本的な方針、孤独・孤立対策に関し、政府が総合的かつ計画的に講ずべき施策等を定め、重点計画に定める施策については、原則として、具体的な目標及びその達成の期間を定めることとされている（推進法第8条）。

現状認識等

- ◆ コロナ禍後も、社会問題の背景に孤独・孤立問題の存在が指摘される。足元では小中高生の自殺者数が過去最多。今後我が国では単身世帯や単身高齢世帯の増加、孤立死の増加が見込まれ、問題の深刻化が懸念。
- ◆ 関係府省庁、地方公共団体及びNPO等が有機的に連携し、社会のあらゆる分野に孤独・孤立対策の視点を入れることを徹底。
- ◆ 推進法に基づき、総理・担当大臣のリーダーシップの下、推進本部を中心に総合的な取組を強化・深化していく。

基本理念（推進法第2条）

- (1) 孤独・孤立双方への社会全体での対応、(2) 当事者等の立場に立った施策の推進
(3) 社会との関わり及び人と人との「つながり」を実感できるための施策の推進

孤独・孤立対策の基本方針

(1) 孤独・孤立に至っても支援を求める声を上げやすい社会とする

- ①孤独・孤立の実態把握 ②支援情報が網羅されたポータルサイトの構築・タイムリーな情報発信 ③声を上げやすい・かけやすい環境整備

(2) 状況に合わせた切れ目のない相談支援につなげる

- ①相談支援体制の整備（電話・SNS相談の24時間対応の推進等）
②人材育成等の支援

(3) 見守り・交流の場や居場所を確保し、人と人との「つながり」を実感できる地域づくりを行う

- ①つながり・居場所づくり ②アウトリーチ型支援体制の構築 ③施策の相乗効果をもつ分野横断的な連携の促進 ④地域における包括的支援体制等の推進

(4) 孤独・孤立対策に取り組むNPO等の活動をきめ細かく支援し、官・民・NPO等の連携を強化する

- ①NPO等の活動の支援 ②NPO等との対話の推進 ③連携の基盤となるプラットフォームの形成 ④行政における孤独・孤立対策の推進体制の整備

★ 特に重点を置いて取り組むべき事項

① 地方公共団体及びNPO等への支援

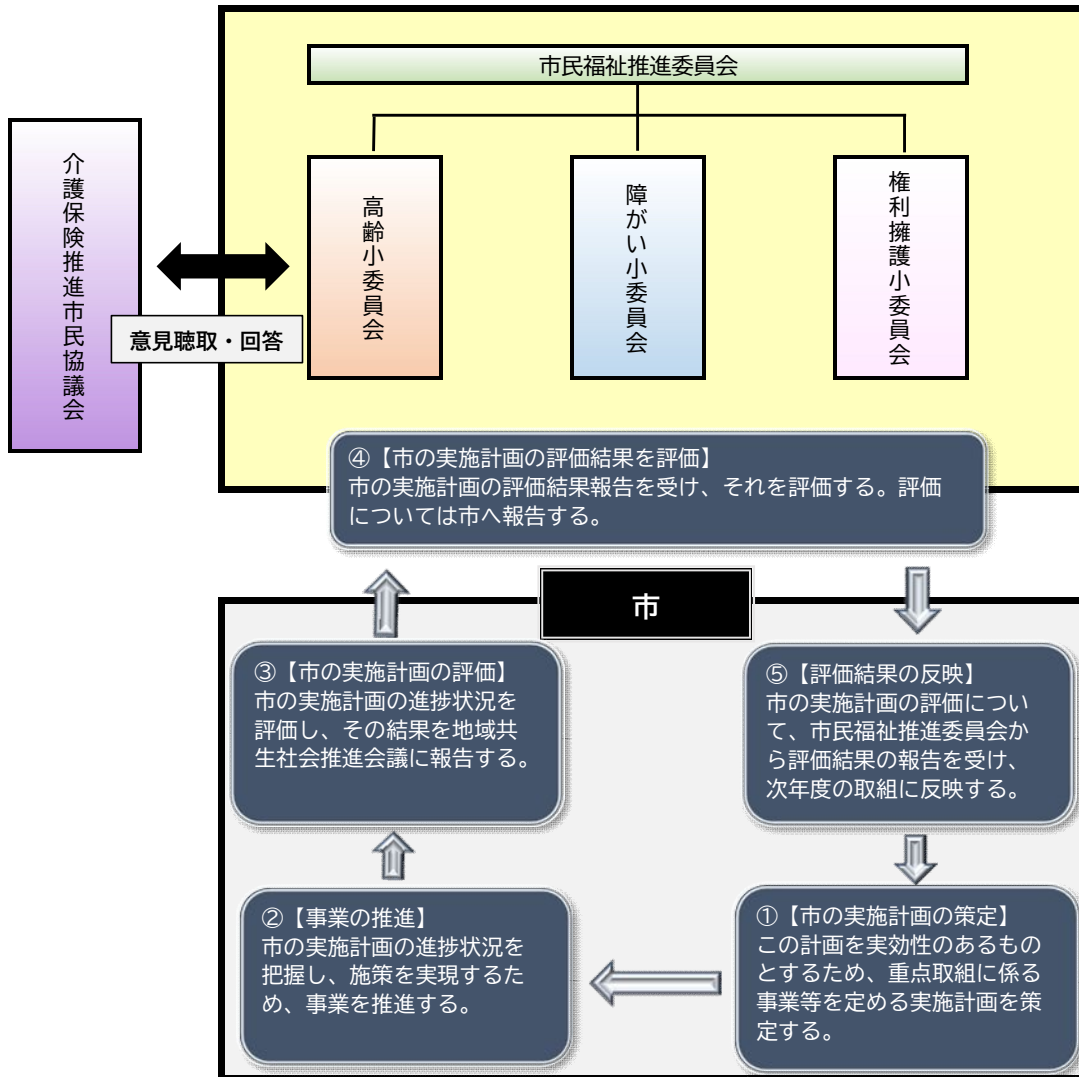
- ・ 連携の基盤となる地方版官民連携プラットフォームや孤独・孤立対策地域協議会の立ち上げ段階や設置後の伴走支援、設置の促進。
- ・ 交付金等を活用した支援に加え、活動事例の周知・横展開や、地方公共団体における取組の工夫や課題の把握・整理を行い、地域の実情に応じた対策が実施されるよう支援。

② 孤独・孤立状態の予防を目指した取組強化

- ・ 悩みや困りごとが深刻化・複雑化する前に対応する、孤独・孤立状態の予防の観点が重要。
- ・ 「孤独・孤立に至っても支援を求める声を上げやすい・声をかけやすい社会」の実現に向けた普及・啓発活動の実施。
- ・ 身の回りの人に関心をもち、できる範囲で困っている人をサポートする一般市民「つながりサポーター」の普及。
- ・ 家庭でも学校でもない多様な居場所づくり、こども・若者への伴走支援、教育や福祉等に携わる方の顔の見える関係づくり等の推進。
- ・ 単身者等の孤独・孤立状態の予防や社会とのつながりを失い孤立死に至ることを予防する観点からの居場所・つながりづくり等の実施。

③ 重点計画に定める施策のエビデンスに基づく評価・検証を通じた取組の推進

【評価体制図】



狛江市市民福祉推進委員会委員の任期満了に伴う次期委員の募集及び推薦等について

令和8年8月17日をもって、現在の任期が満了となります。委員の皆様におかれましては、3年間にわたり市の福祉行政にご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございました。

任期満了に伴う、次期委員の募集及び推薦等の手続きは、下記のとおり行います。引き続き、ご協力よろしくお願いいたします。

<公募市民委員>

募集期間：令和8年6月15日（月）から30日（火）まで

対 象：1. 市内在住・在学・在勤で18歳以上の方
2. 市民福祉推進委員会の会議すべてに参加できる方

なお、その他関連の会議等への出席をお願いする場合があります。

定 員：5名

任 期：令和8年8月18日から3年間

申込方法：住所・氏名・年齢・性別・職業、在学・在勤の方はその名称、連絡先および応募動機を800字程度にまとめ、郵送、持参又はメールで福祉政策課へご提出ください。

<高齢・障がい者等の団体関係者、保健・医療関係者>

令和8年7月上旬に、各団体の代表者様宛てに推薦依頼書を送付いたしますので、各団体において、委員の選出をお願いいたします。

<その他>

その他選出区分の委員の皆様におかれましては、事務局より個別にご連絡差し上げます。

令和8年度狛江市市民福祉推進委員会 全体工程表

資料9

回数	開催日時	開催方法	開催時間	開催場所	内容(案)
第1回	令和8年 6月5日(金)	通常開催 (Web参加も可)	午後6時30分～	防災センター4階 会議室(402・403)	<ul style="list-style-type: none"> ・新任委員の紹介について ・審議会議録の記録方法等について ・報告各小委員会への付議について ・審議実施計画及び確認表の進捗状況の地域共生社会推進会議における評価結果に対する評価について ・報告市民意識調査報告書(案)～クロス集計結果～について ・審議地域共生社会推進基本計画の見直し範囲について
第2回	令和8年 7月3日(金)	通常開催 (Web参加も可)	午後6時30分～	防災センター4階 会議室(402・403)	<ul style="list-style-type: none"> ・審議実施計画及び確認表の市民福祉推進委員会における評価について ・審議地域共生社会推進基本計画の見直し範囲について
第3回	令和8年 8月18日(火)	書面開催 もしくは 通常開催 (Web参加も可)	午後6時30分～	防災センター4階 会議室(402・403)	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の委嘱等について ・審議委員長及び副委員長の選任について ・審議小委員会委員の選任について
第4回	令和8年 10月20日(火) ※予備 11月20日(金)	通常開催 (Web参加も可)	午後6時30分～	市役所4階 特別会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・報告実施計画(令和7年度)及び確認表(令和7年度)の進捗管理報告書の作成について ・報告実施計画(令和8年度)及び確認表(令和8年度)の作成について ・審議地域共生社会推進基本計画(中間答申案)について

回数	開催日時	開催方法	開催時間	開催場所	内容(案)
第5回	令和9年 2月12日(金) ※予備 2月19日(金)	通常開催 (Web参加も可)	午後6時30分～	市役所4階 特別会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・報告 地域共生社会推進基本計画に対するパブリックコメント及び市民説明会の実施結果について ・審議 地域共生社会推進基本計画(最終答申案)について ・審議 各小委員会への付議について

※予備会を開催する可能性がございます。開催が決まった際は改めてご連絡いたします。

※会議の内容については調整の上、変更の可能性がございますのでご了承ください